津市立西が丘小学校増築工事

図面リスト

建築工事				電気設備工事	
図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
（共通）		D － 24	2階平面詳細図（改修前）	E － 01	機械設備工事　特記仕様書
T － 01	図面リスト	D － 25	2階平面詳細図（改修後）	E － 02	配置図
T － 02	建築工事　特記仕様書（１）	D － 26	1階 展開図	E － 03	受変電設備改修図・分電盤結線図・照明器具姿図
T － 03	建築工事　特記仕様書（２）	D － 27	2階 展開図	E － 04	電灯設備　１・２階平面図（改修後）
T － 04	建築工事　特記仕様書（３）	D － 28	天井伏図（改修前・後）	E － 05	コンセント設備　１・２階平面図（改修後）
T － 05	建築工事　特記仕様書（４）	D － 29	建具伏図（改修前・後）	E － 06	時計・ｲﾝﾀｰﾎﾝ設備 系統図
T － 06	建築工事　特記仕様書（５）	D － 30	建具表（改修前・後）	E － 07	テレビ共同受信設備・構内情報通信網設備系統図
T － 07	建築工事　特記仕様書（６）	D － 31	ｽﾁｰﾙﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ詳細図	E － 08	拡声設備 系統図
T － 08	建築工事　特記仕様書（７）	D － 32	部分詳細図（１）	E － 09	弱電設備　１階平面図（改修後）
T － 09	建築工事　特記仕様書（８）	D － 33	部分詳細図（２）	E － 10	弱電設備　２階平面図（改修後）
T － 10	工事区分表	D － 34	ｻｲﾝ配置図・詳細図(改修後)	E － 11	自動火災報知設備　系統図
		D － 35	ＥＸＰ．Ｊ詳細図（１）（参考図）	E － 12	自動火災報知設備　１階平面図（改修後）
（意匠図）		D － 36	ＥＸＰ．Ｊ詳細図（２）（参考図）	E － 13	自動火災報知設備　２階平面図（改修後）
D － 01	建築概要・案内図・配置図	D － 37	笠木詳細図（参考図）		
D － 02	敷地求積図・求積表	D － 38	外構平面図（改修前）		
D － 03	建築面積求積図・求積表	D － 39	外構平面図（改修後）		
D － 04	１階求積図・求積表	D － 40	植栽平面図（改修前）		
D － 05	２階求積図・求積表	D － 41	植栽平面図（改修後）		
D － 06	３階求積図・求積表	D － 42	仮設計画図（1）		
D － 07	平均地盤算定図、算定表	D － 43	仮設計画図（2）		
D － 08	建物高さ・位置検討図				
D － 09	外部・内部仕上表	（構造図）			
D － 10	１階平面図（改修前）	S － 01	構造関係共通図１		
D － 11	１階平面図（改修後）	S － 02	構造関係共通図２		
D － 12	２階平面図（改修前）	S － 03	構造関係共通図３		
D － 13	２階平面図（改修後）	S － 04	構造関係共通図４		
D － 14	３階平面図（改修前）	S － 05	ボーリング柱状図		
D － 15	３階平面図（改修後）	S － 06	杭伏図･基礎伏図･基礎リスト･地中梁リスト		
D － 16	立面図 1（改修前・後）	S － 07	浅層混合処理工法 特記仕様書		
D － 17	立面図 2（改修前・後）	S － 08	梁床伏図		
D － 18	断面図（改修後）	S － 09	軸組図		
D － 19	矩計図 1（改修前）	S － 10	部材リスト		
D － 20	矩計図 2（改修後）	S － 11	雑配筋図･架構詳細図		
D － 21	矩計図 3（改修後）				
D － 22	1階平面詳細図（改修前）				
D － 23	1階平面詳細図（改修後）				

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

年　月　日
H28.1.12

縮　尺
NS

原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

図面リスト

NO.
T — 01
77

建築工事特記仕様書

Ⅰ　工事概要

1. 工事名称　　津市立西が丘小学校増築工事
2. 工事場所　　三重県津市長岡町地内
3. 敷地概要　　敷地面積　：　26,130.33　㎡
4. 敷地概要　　建物用途　：　小学校
　　工事の種別　：　増築
　　構　　造　：　RC造 3階建(既設含む)　RC造 2階建(増築棟)
　　建築面積　：　4,072.85　㎡(既設共)　152.163　㎡(増築棟)
　　床面積　　：　8,030.54　㎡(既設共)　304.326　㎡(増築棟)

Ⅱ　建築工事仕様

1．本特記仕様書は、本工事における建築関連工事に適用する。
2．本特記仕様書における採用事項
①．項目欄は番号等に○　印を附したものを適用する。
②．項目欄に ○　印を附し特記事項欄に　○ 印を附していない場合は標準仕様書による。
③．特記事項は ○　印を附したものを適用する。但し ○ 印の付かない場合は※印の附した事項を採用する。
○　印と ※ 印を附した場合は共に適用する。
特記事項に記載される内容が複数ある事項については○印の付いたものを適用し※印の付いたものは適用しない。
使用材料等で、複数の材料に○印が付いたものは図面による。
3．本特記仕様書に記載なき事項については下記による。
・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　公共建築工事標準仕様書　最新版
・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　公共建築改修工事標準仕様書　最新版
・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　建築解体工事共通仕様書　最新版
・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　公共建築木造工事標準仕様書　最新版
・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　建築工事標準詳細図　最新版
・「改正建築基準法に対応した建築物のシックハウス対策マニュアル」(編集：国土交通省住宅局建築指導課他)
・津市公共建築物等木材利用方針
4．その他事項
・特記事項に記載の（．．）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
・特記事項に記載の［．．］内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	①適用基準	・本設計図書における「標準詳細図」とは、次の基準を指す。 建築工事標準詳細図（最新版）国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課
	②施工条件	施工方法及び検査に関する事項 ※　工事契約後、速やかに調査及び施工計画書等を作成し、現場着手までに市監督員の承諾を得ること。 ※　作業着手までの校内調査は、事前に学校及び市監督員の承諾を得るものとし、学校の授業終了後、休日等の行事に影響を与えない範囲とする。 ※　工事車両の出入りについては、登下校時間を避け、安全確保に十分配慮すること。 ※　工事作業については、学校運営に支障をきたさないよう工事の遂行に必要な施工体制を確保すること。 ※　工事中の安全計画・消防計画等は、市監督員と十分協議し災害防止に努めること。 ※　本工事における諸官庁への届出、手続き及び書類等は、速やかに提出し工事の遂行に影響の無いよう努めること。（足場設置届等） ※　騒音のする撤去工事等の現場への本格着手は７月２１日からとする。 ※　１０月１５日は運動会のため工事は休工とする。 ※　撤去時期等　工程調整については、市監督員と十分に協議を行うこと。 ※　工事期間中給食の配送車が工事車両出入り口付近を通る必要がある為協力すること。 ※　特定作業に伴って発生する騒音は、低振動・低騒音に努め騒音規制法に基づき関係機関への届出・打合せの上、作業に着手する事とし、周辺住民からの苦情があった時は、工事を一時中断し、誠意をもって地元調整を行い、工事の再開は市監督員の承認を得てから行うこと。 ※　工事期間中、現場内入場者、近隣関係者へ危害を与えないよう注意し、かつ周辺道路等に資材を落下させたり、ほこり等を飛散させないよう万全の注意を払うこと。又、夏季休業等学校休校日であっても生徒等が利用している場合があるので注意を払うこと。 ※　工事作業日には誘導員を配置し、通行人及び敷地周辺の安全確保に配慮すること。 ※　側溝、桝、ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ等は車両通行時に破損しないよう、鉄板敷き等で養生すること。 ※　大型車両進入時には誘導員を配置し、通行人及び敷地周辺の安全確保に配慮すること。 ※　工事車両及び工事関係車両は、周辺道路に駐車しないこと。 ※　学校敷地内は狭小のため工事関係車両駐車スペースは請負業者にて確保すること。 ※　工事期間中、工事に起因し既存施設破損等を与えた場合は、工事請負者の責任において速やかに現状復旧するとともに市監督員に報告書を提出すること。 ※　本工事は、分離発注（本工事のほか、機械設備工事）形式となるため、施工にあたっては、工事の円滑な運営を図り、受注者間相互協力のもとに本施設の完成を目指すこと。 ※　設計書に明記なくとも、機能上及び構造上当然必要と認められるものは本工事に含む。なお、内訳書の数量は参考とし、当図面を優先する。 ※　夏季休業期間以外での斫り等騒音を伴う作業は土曜日に行うことを原則とする。 （9月3日、11月19日、12月3日、1月21日は土曜授業のため、騒音作業は行わないこと） 但し、学校及び市監督員の承諾を得た場合は施工可能とする。 ※　解体工事期間中は、防音シートにて養生すること。
	③工事実績情報の登録等 (1.1.4)	⊙　受注者は受注時において工事請負代金額が500万円以上の工事について、(財)日本建設情報総合センター（以下「JACIC」という。）が運営する工事実績情報サービス（CORINS）に、「CIRINS入力システム」により当該工事に係るデータ登録を行わなければならない。 ⊙　受注者は、下請負に付する場合は、部分下請通知書を監督員に提出しなければならない。 ⊙　受注者は、工事を施工する為に締結した下請契約の請負代金額（当該下請契約が二以上ある時は、それらの請負代金額の総額）が4,500万円以上になるとき施工体制台帳を作成し、工事現場に備えると共に、別に定める様式により監督員に提出しなければならない。 ⊙　受注者は、各下請者の施工の分担関係を表示した施工体系図を作成し、工事現場の見やすい場所に掲げなければならない。また、受注者は施工体系図を別に定める様式により提出しなければならない。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	④化学物質の濃度判定	測定物質（○で示したものとする。）

適用	施設用途	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	パラジクロロベンゼン
○	学校，教育施設	○	○	○	○	○	○
	住宅	○	○	○	○	○	
	その他	○	○	○	○	○	

対象箇所（　※　図示　　）
測定方法（　※　パッシブ法　　・　アクティブ法　　）
報告書提出部数　２部

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	⑤環境への配慮 (1.4.1)[1.4.1]	１）建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクル、ボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセドアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑性（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシ等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 ２）設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ①建築基準法施行令第20 条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第20 条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第20 条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④建築基準法施行令第20 条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
	⑥発生材の処理等 (1.3.8)	⊙　本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。)施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。 工事契約後に明らかにならたやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。 分別解体等の方法

工　程	作業の有無	分別解体の方法
造成等	・有　・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
基礎・基礎ぐい	⊙有　・無	・手作業 ⊙手作業と機械作業の併用
上部構造部分・外装	⊙有　・無	・手作業 ⊙手作業と機械作業の併用
屋根	⊙有　・無	・手作業 ⊙手作業と機械作業の併用
建築設備・内装等	⊙有　・無	・手作業 ⊙手作業と機械作業の併用
その他（　）	・有　・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項		⊙　引き渡しを要するもの　　※なし ⊙　石綿含有産業廃棄物　※　有（ 塩ﾋﾞ系ﾀｲﾙ） ⊙　アスベスト成形板等解体時の留意点 1.手ばらし等、出来るだけ粉塵の発生しない方法で行うこと。 2.可能であれば湿潤状態（散水）として作業を進めること。 3.飛散されない様にすること。 4.保護具及び作業着を着用すること。 5.解体された板等は、蓋のある容器に入れること。 6.事前に使用箇所や状況の調査を行い記録すること。 ⊙　再資源化を図るもの ⊙　アスファルトコンクリート塊　⊙　セメントコンクリート塊　⊙　建設発生木材 ・　引渡を要するもの、再資源化を図るものについては調書作成し、監督員へ提出すること。 ⊙　引渡を要するもの以外のものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理し、監督員に報告すること。（マニフェストA、B2、D、E票の各写しを提出すること。）
	⑦建設副産物情報交換システムの利用	⊙　受注者は受注時において工事着手前に「再生資源利用計画書」、「再生資源利用促進計画書」を監督員に提出すること。 また、工事完了後にJACICが運営する「建設副産物情報交換システム」へ実績報告を行い、「再生資源利用実施書」、「再生資源利用促進実施書」を監督員に提出すること。
	⑧三重県産業廃棄物税	※　本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、請負者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の４月１日から８月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。 なお、この期間を超えて請求することはできない。 また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	⑨材料の品質等 (1.4.2)[1.4.2]	１）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 ２）備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 ３）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。 ４）本工事に使用する材料のうち、５）に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥の事項を満たすものとし、この証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し）を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。 ①品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。 ５）製造業者等に関する資料等の提出を求める材料 ・鉄骨柱下無収縮モルタル　・無収縮グラウト材　・乾式保護材（防水立上部）　・既成調合モルタル（ﾀｲﾙ工事用）　・既成調合目地材　・ルーフドレイン　・吸水調整材（ﾓﾙﾀﾙ用）　・錠前類　・クローザー類　・自動扉機構　・自閉式上吊り引戸機構（手動開き式）　・重量シャッター ・軽量シャッター　・オーバーヘッドドア　・防水剤　・現場発泡断熱材 ・フリーアクセスフロア　・可動間仕切　・移動間仕切（ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞﾄﾞｱ） ・トイレブース　・煙突用成形ライニング材　・天井点検口　・床点検口 ・グレーチング　・屋上緑化システム　・トップライト　・エポキシ樹脂 ・ポリマーセメントモルタル　・錆鉄製ふた
	⑩建築材料等	※　本工事に使用する建築材料等は別記記載規格によるほか国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿及び別記記載の資材及び見積りメーカー(参考)又はこれらと同等とする。品質が求められる水準以上であれば県内生産品の優先使用に努めること。 また、建設工事で得られた再資源の活用はもちろんのこと、他産業の廃棄物で得られた再生資源についても利用促進を図るものとし「みえ・グリーン購入基本指針」に基づく環境配慮を行うこと。 ※　合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂及び仕上げ塗材は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散の少ないものとする。 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散の少ないものとする。 接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-n-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が少ないものとする。 塗料は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が少ないものとする。 これらの建築材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他什器等は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散の少ないものとする。
	⑪施工調査	※施工計画調査 本工事該当部位及び関連部位について既存施設（埋設配管を含む）について事前調査、情報収集を行う。 報告書　監督職員に２部提出 立面図、平面図等に記載、必要に応じ写真を添付 調査業者　外壁及び防水改修施工数量調査は、使用予定材料メーカーの指定する施工業者とする ・埋設配管の試掘 範囲、復旧方法　※図示
	⑫特別な材料の工法	※　公共建築改修工事標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。
	⑬騒音・振動の防止	※　低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程に基づき指定された建設機械の使用に努めること。
	⑭工事写真	※　工事写真の撮り方／建築、及び同／建築設備に従い撮影する。 提出部数　１部　用紙は上質紙とする。
	⑮完成図 (1.8.2)	※　作成する（※　完成図　Ａ２（２部）　・　保全に関する資料） ※　完成図作図範囲（設計図を修正） 完成図はＣＡＤにより作成し、著作権にかかる使用権は発注者に移譲するものとする。
	⑯完成写真	※　デジタルカメラで撮影し、全て1版相当サイズで印刷する。 (A4版用紙に１ページあたり3枚)　１部 箇所数は外観３面各室２面程度とし、規定の箇所数が確保できない場合や枚数が多大になる場合には、監督員と協議すること。 写真は、着工前・着工中・完成を同一場所から、黒板なしで撮影すること。 ・　アルバム１部 （大きさ335mm×290mm程度、カラー）
	⑰既存部分への処置 (1.3.12)	工事施工に際し、在来部分を汚損した場合又は損傷した場合は、構造・仕上げ共在来にならい補修する。
	⑱事故報告	工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事故発生報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出すること。 また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。
	⑲不当介入を受けた場合の措置	※暴力団員等による不当介入を受けた場合の措置について (1)受注者は暴力団員等による不当介入を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行うこと。 (2)(1)により警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行った場合には、速やかに発注者に報告すること。 発注者への報告は文書で行うこと。 (3)受注者は暴力団員等により不当介入を受けたことから工程に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、発注者と協議を行うこと。
	⑳消防提出書類	消火器の設置届については、電気及び機械設備にて設置届が不要な場合は、建築にて設置届を提出するものとする。 防火対象物使用開始届については書類の作成（建築図面の用意及び建築に関する部分の記述）を行うこと。

章	項　目	特　記　事　項
2 仮設工事	①足場その他 (2.2.4)	内部足場の種別：　⊗脚立　・足場板　・ﾛｰﾘﾝｸﾞﾀﾜｰ　※枠組棚足場(手摺先行工法)、階段足場 外部足場の種別：　※A種（手摺先行据置型）　・B種（手摺先行据置型）　・C種　・D種　・E種 保護シート等の設置：　⊗設置する　⊙防音ｼｰﾄ　※ﾒｯｼｭｼｰﾄ　・防音ﾊﾞﾈﾙ　・設置しない 材料等の運搬方法：　・A種　※B種　・C種　・D種　・E種 ⊙「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式により行う。
	②既存部分の養生 (3.1)	既存部分養生材料：　・ﾋﾞﾆｰﾙｼｰﾄ　※その他：施工者にて適材適所を選択する 既存家具養生材料：　・ﾋﾞﾆｰﾙｼｰﾄ　・その他：施工者にて適材適所を選択する 既存ブラインド、カーテンの養生方法： ・指定場所に保管し再設置　・指定場所に保管し清掃の上再設置　・
	③仮設間仕切り (3.2)	仮設間仕切り：　・無し　※有り 設置箇所：　※図示　・ 種　別：　⊗A種　・B種　・C種 仮設扉：　・不要　※必要【設置箇所：　⊗図示　⊙任意の場所　・　】 仮設扉の種別：　・鋼製　・木製　・図示　※ｱﾙﾐ製
	④仮設物 (2.3.1)	監督員事務所の設置：　⊗不要　※必要 構造：　※ﾌﾟﾚﾊﾌﾞ造　・その他： 規模：　・30㎡内外　・20㎡内外　※10㎡内外　・その他： 備品：　※机、椅子 ・その他：・書棚・図版・定規・黒板又は白板・温湿度計・ﾃｽﾄﾊﾝﾏｰ・ﾊﾞｷﾞｽ ・安全帽（来客用共）・水平・垂直器・ﾛｯｶｰ 設備：　※電灯　・給排水　※空調換気　・給湯　・通信　・消化器　・冷蔵庫 ・その他：
	⑤工事用水及び電力 (2.3.4)	構内既存の用水施設：　※利用できない　・利用できる（・有償　・無償） 構内既存の電力施設：　※利用できない　・利用できる（・有償　・無償） ・動力以外利用できる（・有償　・無償）
	⑥仮設便所	構内既存の施設 ・　利用できる　※　利用できない
	⑦交通誘導員	配置　※　大型車両進入時
3 土工事	①埋戻し及び盛土	種別　・A種　※ B種　・ C種　・ D種
	②建設発生土の処理	⊙場外自由処分 ・搬入まさ土（砂礫等の混入のない良質なものとし、水締め、機器による締固めとする） ・現場説明書による　・構外搬出適切処理　・構内指定場所堆積　・構内指定場所敷均し ・他現場に搬入（　　）　・　指定処分地（　　）
4 地業工事	①支持地盤	(3.2.1)(4.2.4)(4.3.4～4.3.5)(4.5.4～4.5.5) ・杭基礎　(4.3.4～4.3.5)(4.5.4～4.5.5) 支持地盤の位置及び種類（基礎ぐいの先端位置含む） ・図示による（　　）　・・直接基礎 支持地盤の位置及び種類（基礎底盤の位置含む） ⊙図示による（ ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ柱状図　） 試験掘り（根切り底の状態の確認等）　(3.2.1) ・行わない　・行う 位置等　・図示による（　　） ・地盤の載荷試験　(4.2.4) 試験の位置、方法等 ・図示による（　　）
	2 既製コンクリート杭地業	種類等　(4.3.2)　(4.2.2)(4.3.1～4.3.7)(7.2.5) ・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭) ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭(PRC杭) ・外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭) SC杭の鋼管材料　・SKK400　・SKK490 寸法、継手、性能等（種別：種類、性能及び曲げ強度区分）　(4.2.2)(4.3.2～4.3.3)

		種類	コンクリート強度(N/mm)	杭径(mm)	厚さ(mm)	杭長(m)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭 中杭 下杭									
本杭	上杭 中杭 下杭									

杭先端部形状　(4.3.2)
・開放形　・半閉放形　・閉そく形
施工方法　(4.3.1)
・打込み工法　（・油圧ハンマー　・ディーゼルハンマー　・　）　(4.2.2.)(4.3.3)
プレボーリングの併用
・行わない
・行う
掘削深さ及び径　・図示による（　　）
杭の精度
水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下
杭の傾斜　・1/100以内
試験杭　(4.2.2)(4.3.3)
試験杭の位置　・図示による（　　）
打込杭の推定支持力の算定方法
・図示による（　　）
・セメントミルク工法　(4.2.2)(4.3.4)
アースオーガーの支持地盤への掘削深さ　・1.5m程度
杭の支持地盤への値入深さ　・1.0m以上
杭の精度
水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下
杭の傾斜　・1/100以内

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社　市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計	整理番号	縮　尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
一級建築士　第　93977号　市川　司	年　月　日 H28.1.12	NS 原図 A2	建築工事　特記仕様書（１）	T — 02 77

4 地業工事

試験杭
試験杭の位置　・図示による（　　）
・特定埋込杭工法　(4.2.2)(4.3.5)
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内α、β、γが以下の値を採用できる工法
α=(　　)、β=(　　)、γ=(　　)
工法
・プレボーリング拡大根固め工法
・中堀り拡大根固め工法

杭周固定液　・使用する　・使用しない
杭の精度
水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下
杭の傾斜　・1/100以内
試験杭
試験杭の位置　・図示による（　　）
杭継手工法　(4.3.2)(4.3.6)(7.2.5)
・アーク溶接継手
溶接材料
・標準仕様書7.2.5(a)(b)による
・図示による（　　）

・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
工法　※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法
検査　※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目
施工　※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による
杭頭の処理　(4.3.7)
・処理しない
・処理する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
・図示による（　　）
杭頭の中詰め材料
・基礎のコンクリートと同調合のもの　・

3 鋼杭地業

(4.2.2)(4.3.3.)(4.3.5)(4.3.7)(4.4.1～4.4.6)(7.2.5)
種類の記号　(4.4.2)　・SKK400　・SKK490
寸法、継手等　(4.2.2.)(4.4.2)

		種類	杭径(mm)	板厚(mm)	杭長(m)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭								
	中杭								
	下杭								
本杭	上杭								
	中杭								
	下杭								

杭先端部形状　(4.4.2)
・開放形　・半開放形　・閉そく形
先端部の補強　(4.4.2)
・標準仕様書4.4.1、表4.4.2による
先端部の補強（補強バンド等）及びその他附属品の材質
・SS400と同等又はそれ以上
施工方法　(4.4.1)
・打込み工法　(・油圧ハンマー　・ディーゼルハンマー　・　)　(4.2.2)(4.4.3)
プレボーリングの併用
・行わない
・行う
掘削深さ及び径　・図示による（　　）
杭の精度
水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下
杭の傾斜　・1/100以内

試験杭
試験杭の位置　・図示による（　　）
打込杭の推定支持力の算定方法　・図示による（　　）
・図示による（　　）

・特定埋込杭工法　(4.4.4)
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内α、β、γが以下の値を採用できる工法
α=(　　)、β=(　　)、γ=(　　)
工法
・中堀り拡大根固め工法

杭の精度
水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下
杭の傾斜　・1/100以内
試験杭
試験杭の位置　・図示による（　　）
杭の現場継手　(4.4.5)
・溶接継手
形状　・JIS A 5525による
・標準仕様書7.2.5(a)(b)による
・図示による（　　）

・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
工法　※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法
検査　※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目
施工　※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による
杭頭の処理　(4.3.7)(4.4.6)
・処理しない
・処理する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
・図示による（　　）
杭頭の中詰め材料　・基礎のコンクリートと同調合のもの　・

④ 砂利地業

(4.6.2～4.6.3)
材料　(4.6.2)　⊙再生クラッシャラン　・切込砂利及び切込採石
砂利厚さ　(4.6.3)　※60mm　・図示
適用場所
⊙基礎下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下
・図示

4 地業工事

⑤ 捨コンクリート地業

(4.6.4)(6.14.1)
捨コンクリートの厚さ　(4.6.4)　※50mm　・図示
施工範囲　(4.6.4)(6.14.1)
⊙基礎梁下、土に接するスラブ下
・図示
設計基準強度　(4.6.4)(6.14.1)　※18N/㎟
スランプ　(4.6/4)(6.14.1)　※15cm又は18cm

⑥ 床下防湿層

(4.6.2)(4.6.5)
材料　(4.6.2)　⊙ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm2枚重ね以上
施工範囲　(4.6.5)
⊙建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）

⑦ 地盤改良工法

（ － ）
種類及び施工方法等
・⊙図示による（　　）

5 鉄筋工事

① 鉄筋の種類

(5.2.1)
鉄筋の種類　(5.2.1)

種類の記号	呼び径(mm)	備考
⊙ SD295A	D16以下	
⊙ SD345	D19～D25	

2 溶接金網

(5.2.2)
形状等　(5.2.2)

種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	適用箇所
・ 溶接金網		φ6×100×100	
・ 鉄筋格子			

③ 鉄筋の継手

(5.3.4)(5.5.2～5.5.3)
継手方法等　(5.3.4)(5.5.2～5.5.3)

部位	継手方法	呼び径 (mm)
柱、梁の主筋	⊙ガス圧接　・機械室継手　・溶接継手	D19以上
耐力壁の鉄筋	⊙重ね継手	D10・D13
その他の鉄筋（小梁）	⊙重ね継手	D16

耐力壁の重ね継手の長さ　(5.3.4)
⊙図示による（構造関係共通図）

継手位置図　(5.3.4.)
⊙図示による（構造関係共通図）

④ 鉄筋の定着の方法及び長さ

(5.3.4)
鉄筋の定着方法　(5.3.4)
⊙図示による（構造関係共通図）

鉄筋の定着長さ　(5.3.4)
⊙図示による（構造関係共通図）

⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網を含む）

(5.3.5)
最小かぶり厚さ　(5.3.5)
⊙図示による（構造関係共通図）

柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無
⊙なし
・有り　適用箇所(　　)
主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する
軽量コンクリートで土に接する部分
⊙なし
・有り　適用箇所(　　)
最少かぶり厚さに加える暑さ（　　）mm

耐久性不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等）
⊙なし
・有り　適用箇所(　　)
最少かぶり厚さのくわえる暑さ（　　）mm

鉄筋相互のあき（機械式継手及び溶接継ぎ手を除く）　(5.3.5)
⊙図示による（構造関係共通図）

6 機械式継手

(5.3.5)(5.5.2)
適用箇所　・図示による（　　）
H12建告第1463号に適合する性能　(5.5.2)
・Ａ級
機械式継手の種類及び工法　(5.5.2)　（　　）
鉄筋相互のあき　(5.3.5)
・図示による（　　）

品質の確認方法　(5.5.2)
・図示による（　　）
不良となった継手の修正方法等　(5.5.2)
・図示による（　　）

7 溶接継手

(5.3.5)(5.5.3)
適用箇所　・図示による（　　）
H12建告第1463号に適合する性能　(5.5.3)
・Ａ級
鉄筋相互のあき　(5.3.5)
・図示による（　　）

継手の工法　(5.5.3)
・図示による（　　）
品質の確認方法　(5.5.3)
・図示による（　　）
不良となった継手の修正方法等　(5.5.3)
・図示による（　　）

⑧ 各部配筋

(5.3.7)
各部配筋　(5.3.7)
⊙図示による（構造関係共通図）

⑨ 圧接完了後の試験

外観試験　(5.4.9～5.4.10)　※行う（全数）　(5.4.9～5.4.10)
抜取試験　(5.4.9～5.4.10)
※超音波探傷試験
・引張試験
試験ロット：１組の作業班が１日に行った圧接箇所とする。なお、200箇所を超えるときは200箇所ごととする

6 コンクリート工事

① コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度

(6.1.3～4)(6.2.1～3)
⊙普通コンクリート　(6.2.1～6.2.4)

設計基準強度Fc (N/mm²)	スランプ(cm)	適用箇所
21+S	18	基礎・躯体
18	18	土間コン
18	18	捨てコン
18	18	ラップルコンクリート

・軽量コンクリート　(6.2.1～6.2.3)(6.10.1～6.10.2)

設計基準強度Fc (N/mm²)	スランプ(cm)	適用箇所
21	18	嵩上げ
・		

② コンクリートの種別

(6.2.1)
類別　(6.2.1)
※ Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
・ Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

③ セメント

(6.3.1)
種類　(6.3.1)
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種（普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が７日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする）　使用部位（　　）
・高炉セメントＢ種　使用部位（　　）
・フライアッシュセメントＢ種　使用部位（　　）

④ 骨材

(6.3.1)
アルカリシリカ反応による区分　(6.3.1)
※Ａ　・Ｂ

⑤ 混和材料

(6.3.1)
⊙混和剤　(6.3.1)
混和剤の種類　※標準仕様書6.3.1(d)(i)による
⊙混和材　(6.3.1)
混和材の種類　※標準仕様書6.3.1(d)(ii)による

6 気乾単位容積質量

(6.2.3)(6.10.1)
・普通コンクリート　(6.2.3)
・軽量コンクリート　(6.10.1)

7 軽量コンクリート

(6.10.1)
種類　(6.10.1)　・１種　・２種
適用箇所　・図示による（　　）

⑧ 寒中コンクリート

(6.11.1)
適用期間　・図示による（　　）
⊙積算温度を基に定める場合（参考：平成25年度版 建築工事監理指針）

⑨ 暑中コンクリート

(6.12.2)
構造体強度補正値　※6N/mm²

10 マスコンクリート

(6.2.1)(6.13.1～6.13.2)
適用箇所　(6.2.1)(6.13.1)　・図示による（　　）
セメン世の種類　(6.13.2)
・中庸熱ポルトランドセメント
・低熱ポルトランドセメント
・高炉ポルトランドセメントＢ種
・フライアッシュポルトランドセメントＢ種
・普通ポルトランドセメントに標準仕様書6.13.2(b)(2)の混和材を混合したもの

混和剤　(6.13.2)
・混和剤
混和剤の種類
※JIS A 6204に適合するＡＥ減水剤又は高性能ＡＥ減水剤

スランプ　(6.13.2)　※15cm

11 無筋コンクリート

(6.2.1)(6.14.1)
設計基準強度　(6.14.1)　※18(N/mm²)
スランプ　(6.14.2)　※18cm
適用箇所　(6.2.1)(6.14.1)
※標準仕様書6.14.1(e)による箇所
・図示による（ラップルコンクリート）

12 流動化コンクリート

(6.2.19(6.15.1)
適用箇所　(6.2.1)(6.15.1)　・図示による（　　）

⑬ ひび割れ誘発目地、打継目地

(6.6.3)(6.8.2)(9.7.3)
目地寸法　(6.6.3)(6.8.2)(9.7.3)
⊙標準仕様書9.7.3による
間隔・位置・形状　(6.8.2)
⊙図示による（部分詳細図(1)）

⑭ コンクリートの仕上り

(6.2.5)(6.8.3)
部位の位置及び断面寸法の許容差の標準値　(6.2.5)
⊙標準仕様書表6.2.3による
合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ　(6.2.5)(6.8.3)

種別	適用箇所
・ A種	打放し部
⊙ B種	打放し部・基礎以外
⊙ C種	基礎

6 コンクリート工事

⑮ 打増し厚さ（打ち放し仕上げ部

(6.8.2)
・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)　(6.8.2)
・20mm　⊙図示
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・10mm　・20mm　⊙図示

⑯ 型枠

(6.8.3)
せき板の材料及び厚さ　(6.8.3)　⊙合板（※12mm　・　）
断熱材の兼用　(6.8.3)　⊙行わない　・行う
MCR工法用シート　(6.8.3)
・用いる
打増し厚さ　・20mm
打増し範囲　・図示による（　　）
・用いない
スリーブの材種　(6.8.3)
※標準仕様書6.8.3(i)(2)(ｉ)から(ⅳ)による

⑰ コンクリートの単位水量測定

(—)
実施要領
⊙図示による（ 構造関係共通図 ）

7 鉄骨工事

1 鉄骨の製作工場

(7.1.1)(7.1.3)
製作工場の加工能力　(7.1.1)(7.1.3)
・建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める（ Ｊ ）グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
・監督職員の承諾する工場（標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る）

2 施工管理技術者

(7.1.3)
※適用する　・適用しない

3 鋼材

(7.2.1)
材質等　(7.2.1)　・　図示

種類の記号	適用箇所(主要に部分)	規格等

有効細長比(圧縮率に限る)
・図示による（　　）

4 高力ボルト

(7.2.2)(7.3.2)(7.4.2)
ボルトの区分　(7.2.2)
・トルシア形高力ボルト
セットの種類　・2種(S10T)
・ JIS形高力ボルト
セットの種類　・2種(F10T)
高力ボルトの径　(7.2.2)　・図示
ボルトの縁端距離、ボルトの間隔、ゲージ等　(7.3.2)
・図示

すべり係数試験　(7.4.2)
※実施しない
試験方法

5 普通ボルト

(7.2.3)(7.3.2)
ボルト及びナットの材料　(7.2.3)
・標準仕様書 7.2.3 による
座金　(7.2.3)　・標準仕様書 7.2.3 (d)による
ボルトの径　(7.2.3)　・図示
ボルトの縁端距離、ボルトの間隔、ゲージ等　(7.3.2)
・図示

6 溶融亜鉛めっき高力ボルト

(7.2.2)(7.3.2)(7.3.8)(7.12.4)
ボルトの縁端距離、ボルトの間隔、ゲージ等　(7.3.2)
セットの種類　(7.2.2)　・ 1種(F8T相当)
溶融亜鉛めっき高力ボルトの径　(7.2.2)
・図示による（ 構造図 ）
溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径　(7.3.8)
・審査（評定又は大臣認定）を受けた内容による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等　(7.3.2)
・図示による（ 構造図 ）

摩擦面の処理　(7.12.4)
・ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
・ブラスト処理以外の特別な処理方法（りん酸亜鉛処理法）
・図示による（　）
すべり耐力等の確認方法　※すべり係数試験
試験方法　・図示による（　　）

7 アンカーボルト

(7.2.4)(7.10.3)
適用　(7.2.4)(7.10.3)
・ 構造用アンカーボルト
セットの種類（JIS B 1220 又は JSS Ⅱ 13-2004）
・ABR400　・ABR490　・SS400
形状、寸法
・図示による（ 構造図 ）
・建方用アンカーボルト
種類　・SS400
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級の規格並びに仕上げの程度
※標準仕様書7.2.3による
形状、寸法　・図示による（　　）

8 溶接材料

(7.2.5)
溶接材料　(7.2.5)
・ 標準仕様書7.2.5(a)(b)による
・図示による（　　）

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号
年　月　日　H28.1.12

縮　尺　NS
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事
建築工事　特記仕様書（２）

NO.　T — 03

7 鉄骨工事

9 ターンバックル (7.2.6)

種類 (7.2.6)
建築用ターンバックル胴 ※割枠式 ・ パイプ式
建築用ターンバックルボルト ※羽子板ボルト
ねじの呼び (7.2.6) ・図示による（ 構造図 ）

10 デッキプレート

材料、形状及び寸法 (6.8.3)(7.2.7) (6.8.3)(7.2.7)(7.7.8)

	適用場所	材質・形状・寸法	備考
・デッキプレート単独の構法			
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法			
・床型枠用			

開口部補強要領（補強筋の定着長さ等を含む）
・図示による（ ）
鉄骨部材への溶接方法 (7.7.8) ・図示による（ ）
耐火認定
・有り
耐火時間 ・図示による（ ）
・無し

11 レール及びその付属品 (7.2.8)

形状及び寸法等 (7.2.8)
・図示による（ ）

12 スタッド (—)

材質、形状及び寸法 ※頭付きスタッド JIS B 1198
種類等

径(呼び名)	長さ(呼び長さ) mm	適用箇所
・16		
・19		
・22		

13 柱底均しモルタル (7.2.9)

モルタルの種別 (7.2.9)
・無収縮モルタル
無収縮モルタルの材料及び調合
材料、調合等 ※標準仕様書7.2.9による
・標準仕様書7.2.9(a)によるモルタル

14 工作図 (7.3.2)

監督職員による原寸検査 (7.3.2) ・行わない ・行う
増築工事等を含め、既存建物との取り合う箇所がある場合は現場実測の上、作成を行う

15 製作精度 (7.3.3)

※標準仕様書7.3.3による (7.3.3)
通しダイアフラムの許容誤差
・ダイアフラムをH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り
補強方法
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による

・すべてのダイヤフラムはH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定する使用を満足すること

16 鉄骨の仮組 (7.3.10)

・行わない
・行う
仮組を行う範囲 ・図示による（ ）
確認方法、確認項目 ・図示による（ ）

17 溶接作業者の技量付加試験 (7.6.3)

試験の要領 ・図示による（ ）

18 溶接接合 (7.6.4)(7.6.7)

開先の形状 (7.6.4)
・図示による（ 構造関係共通図 ）

スカラップの形状 (7.6.7)
・図示による（ ）

エンドタブの切除する部分 (7.6.7)
・見え掛り部となる部分
・図示による（ ）
・見え隠れ部となる部分
・図示による（ ）
溶接部の余盛り高さ (7.6.7)
・JASS 付則 6「鉄骨精度検査基準」付表 3 [溶接]による

19 入熱、パス間温度の溶接条件 (—)

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
・図示による（ ）

適用箇所
・図示による（ ）
・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部

20 溶接部の試験 (7.6.11)

・完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 (7.6.11)
・工場溶接の場合
AOQL(%) ※4.0 ・2.5

節	・全て			
検査水準	※第６水準			

・工事現場溶接の場合
AOQL(%) ※4.0 ・2.5
突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査
「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。
・ 抜き取り検査① ※ 抜き取り検査②

7 鉄骨工事

21 錆止め塗装 (7.8.3)

塗料の種別 (7.8.3)
・鉄鋼面の錆止め塗料
屋外 ※標準仕様書18.3.2表18.3.1 A種
屋内 ・標準仕様書18.3.2表18.3.1 ( ) 種
・亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料
・標準仕様書18.3.2表18.3.2 (A) 種

鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内側(鉄骨に溶接されたものに限る)
(7.8.3)
※標準仕様書18.3.2表18.3.1 A種
耐火被覆材の接着する面への塗装 (7.8.3)
・行わない
・行う
適用範囲 ・図示による（ ）
塗料の種別
・標準仕様書18.3.2表18.3.1 ( ) 種
・標準仕様書18.3.2表18.3.2 ( ) 種

22 耐火被覆 (7.9.2~7.9.7)

種別 (7.9.2~7.9.7)

種 別	材料・工法	適用箇所(部位・部分)
・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付けロックウール	
	・ 半乾式吹付けロックウール	
	・ 湿式ロックウール	
・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸カルシウム板	
・ 耐火材巻付け	・ 高耐熱ロックウール	
・ ラス張りモルタル塗り	―	

材料及び工法は、建築基準法に基づき定められたもの又は認定を受けたものとする
性能 (7.9.2~7.9.)

性 能	適用箇所(部位・部分)
・ 30分耐火	
・ 1時間耐火	
・ 2時間耐火	
・ 3時間耐火	

23 建方精度 (7.10.2)

※JASS6付則 6「鉄骨精度基準」付表［工事現場］による (7.10.2)

24 アンカーボルト等の設置 (7.10.3)

構造用アンカーフレームの形状及び寸法 (7.10.3)
・図示による（ ）
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.10.3)
種別 ・A種 ・B種 ・C種
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 (7.10.3)
※標準仕様書7.10.2（※A種［厚さ50］ ・B種［厚さ30］）による

25 軽量形鋼構造 (7.11.2)

接合部（ボルト接合の場合） (7.11.2)
・普通ボルト接合

26 溶融亜鉛めっき（基礎、主要構造部、及びその他構造上主要な部分に限る） (7.12.3)

種別等 (7.12.3)

亜鉛めっきの種別	材 料	適用箇所
A種	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板	
B種	最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板	
C種	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚3.2mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板	

27 梁貫通孔の補強 (—)

補強方法 ・補強プレート法 ・補強トラス法
適用場所 ・図示による（ ）

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造

ブロックの種類 (8.2.2、5)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モデュール呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
※ 空洞ブロック-16				・無 ・有		
・ 型枠状ブロック-20				・無 ・有		
・				・無 ・有		

各部の配筋 ※図示

2 コンクリートブロック帳壁及び塀

ブロックの種類 (8.3.2、3)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モデュール呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
・ 空洞ブロック-08	100	400	200	・無 ・有	流し台	
・ 空洞ブロック-16	100	400	200	・無 ・有	便所	
・				・無 ・有		
・				・無 ・有		

各部の配筋 ※図示

3 ALCパネル (8.4.2~5)

パネルの種類	単位荷重(N/m²)	厚さ(mm)	長さ(mm)	耐火性能	表面加工	構法の種別
・外壁パネル		・100 ・		有（1）時間	・平 ・意匠	・ A種 ・ B種
・間仕切壁パネル		・100 ・		有（1）時間 ・無	・平 ・意匠	・ C種 ・ D種 ・ E種
・屋根パネル		・100 ・		有 (0.5) 時間	平	F種
・床パネル		・100 ・		有（ ）時間		

外壁パネルの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
・適用しない
外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部、並びにパネルと他部材との取り合い部の目地幅 (mm) ・ 20
伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する ・適用しない

4 押出成形セメント板 (8.5.2~5)

パネルの種類	表面形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
・外壁パネル	・F	・50 ・60		・A 種 ・B 種	
	・D	・50 ・60	600		
	・T	60			
・間仕切壁パネル	・F	・50 ・60		・B 種 ・C 種	
	・D	・50 ・60			
	・T	60			

外壁パネルの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
・適用しない
パネルの相互の目地幅(mm) ・図示
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm) ※15 ・
やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認のうえ、施工計画書を提出する。

		開口の大きさ		切断後のパネルの残り部分の幅	
パネルに開口を設ける場合	短辺	・	・図示	・	・図示
	長辺	・	・図示	・	・図示
パネルを切り欠く場合	短辺	・	・図示	・	・図示
	長辺	・	・図示	・	・図示

9 防水工事

1 摘要範囲

・ 防水工事の保証書の提出及び保証年限
・ 保証年限10年：アスファルト防水、塗膜防水
＜保証書（請負人、材料製造所、防水施工者の連帯保証）は各２部提出する。
防水施工者は、防水材料製造所の施工者とし、監督員の承諾を受ける＞

2 アスファルト防水 (9.2.2~5)(表 9.2.3~9)

屋根保護防水
防水層の種別

種 別	施工箇所	断熱材 G	絶縁用シート	立上り部の保護
・ A−1			※ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ 厚さ0.15mm以上	・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え
・ A−2				
・ A−3				
・ B−1				
・ B−2				
・ B−3				
・ AI−1		（材質）※JIS A 9511によるA種押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板３種ｂ（ｽｷﾝあり） ・ （厚さ）・25mm ・50mm ・	※ﾌﾗｯﾄﾄｰﾝｺﾞｳｽ 70g/m²程度	
・ AI−2				
・ AI−3				
・ BI−1				
・ BI−2				
・ BI−3				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.3から標準仕様書表9.2.8による
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.5から標準仕様書表9.2.8による

平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ ※水下 80mm以上
床タイル張り ※水下 60mm以上

・乾式保護材
窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。
金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。
（品質・性能）
建築材料等品質性能表による
（試験方法）
建築材料等品質性能表による

屋根露出防水
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用 G
・D-1			・	・	・
・D-2					・
・D-3			・製造所の指定による	・製造所の指定による	・
・D-4					・
・DI-1		（材質）※JISA9511によるA種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの （厚さ）・ ２５mm			・
・DI-2					

屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ・図示 ・

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	種 別	施工箇所
・Ｅ－１		・Ｅ－２	

保護層 ・設ける（※図示 ・ ） ・設けない

防水層の下地、立上りコンクリート打放し仕上げ
※標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げ種別]のB種 ・
押え金物の材質及び形状
※アルミニウム製 L−30×15×2.0mm程度
防水層の下地のモルタル塗り ・適用する（施工範囲 ・図示 ・ ）
・適用しない
屋根排水溝 ※図示

9 防水工事

3 改質アスファルトシート防水 (9.3.2、3)(表 9.3.1~3)

防水層の種別

種 別	施工箇所	断熱材	防湿層	高日射反射率防水の適用
・ＡＳ−Ｔ１	屋根			・
・ＡＳ−Ｔ２				・
・ＡＳ−Ｊ１				・
・ＡＳ−Ｔ３	屋根			・
・ＡＳ−Ｔ４				・
・ＡＳ−Ｊ２				・
・ＡＳＩ−Ｔ１		（材質）※JISA9511によるＡ種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの （厚さ）・ 30mm	・設ける（改質アスファルト製造所の仕様による） ・設けない	・
・ＡＳＩ−Ｊ１				・

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
押え金物
※改質アスファルト製造所の仕様による

4 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9.4.2~4)(表 9.4.1、2)

種 別	施工箇所	絶縁用シートの材質	断熱材	仕上塗料	高日射反射率防水の適用
・Ｓ−Ｆ１				・ｶﾗｰ・ｼﾙﾊﾞｰ	
・Ｓ−Ｆ２					
・Ｓ−Ｍ１				・ｶﾗｰ・ｼﾙﾊﾞｰ	
・Ｓ−Ｍ２					
・Ｓ−Ｍ３					
・ＳＩ−Ｆ１			（材質）※A種ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの （厚さ）・25mm	・ｶﾗｰ・ｼﾙﾊﾞｰ	
・ＳＩ−Ｆ２					
・ＳＩ−Ｍ１			（材質）※Ａ種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板２種１号又は２号で透湿係数を除く規定に適合するもの又はＡ種押出し法	・ｼﾙﾊﾞｰ・ｶﾗｰ	
・ＳＩ−Ｍ２		※発泡ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰﾄ	※ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板 （厚さ）・25mm ・		

ルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.4.1から表9.4.2による ・
防水下地かＰＣコンクリート部材下地の場合の処理
目地処理 ※図示 ・
入隅部の増張り（S-F1、SI-F1の場合） ※図示 ・

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
・適用しない

5 塗膜防水 (9.5.3)(表 9.5.1、2)

防水層の種別

種別	施工個所	仕上塗料	保護層	高日射反射率防水の適用
・Ｘ−１	屋根(平場)	・ｶﾗｰ ・ｼﾙﾊﾞｰ		
・Ｘ−２	屋根(立上り)、庇	・ｶﾗｰ ・ｼﾙﾊﾞｰ		
・Ｙ−１	※地下外壁防水			
・Ｙ−２	※屋内防水		・ 適用する ・ 適用しない	

6 自閉樹脂塗膜防水

材料・工法は製造所の仕様による

7 ケイ酸質系塗布防水 (9.6.1、3)(表9.6.1、2)

防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※ Ｃ−ＵＩ		・ Ｃ−ＵＰ	

8 脱気装置 (9.2.3)(9.3.3)(9.5.3)

種別	種類	設置数量
D-1 (D-2) D-3 D-4 DI-1 DI-2 AS-T3 AS-T4 AS-J2 ASI-T1 ASI-J1	※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類製造所の仕様による	※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類製造所の仕様による
X-1	・防水層の主材料の製造所の仕様による	・防水層の主材料の製造所の仕様による

9 シーリング (9.7.2)(表 9.7.1)

下表以外は、標準仕様書表 9.7.1による
ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは１７章による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
建具、金属、笠木、内外取合い部	MS-2
ガラス	SR-1
ｺﾝｸﾘｰﾄ打継ぎ目地 ひび割誘発目地	PU-2

シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a)(1)～(3)による ・

月・ 日		月・ 日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設 計
一級建築士 第 93977号 市川 司

整理番号
年 月 日 H28.1.12

縮 尺 NS
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事
建築工事 特記仕様書（３）

NO. T — 04

10 石工事

1 施工

(10.1.3、5)

石材の割付け　※標仕10.1.3(a)(1)、(2)による　・図示
粗面仕上げの場合ののみ込み部分の仕上げ　・図示
屋内の床を本磨きとする場合のワックスがけ　⊙行う（適用場所　・すべて　・　　　　）
・行わない

2 石材等

天然石　(10.2.1、3)(表 10.2.1、2)

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げ	備考
玄関床	⊙1等品 ・2等品	花こう岩 (御影石)	※正方形に近い矩形	W100	t40	本磨き	滑り止め溝付
	・1等品 ・2等品		※正方形に近い矩形				

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状	仕上げ面	寸法(mm)	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・300型 ・400型		

取り付用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材
※石材施工業者の指定する製品　・

3 外壁湿式工法

(10.2.2、3)(10.3.2、3)

石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
下地ごしらえ　※流し筋工法　・あと施工アンカー工法　・あと施工アンカー,横筋横流し工法
受金物　材質　※SS400
形状及び寸法　・L-75×75×6(mm)の加工　L=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工　L=150mm

ドレインパイプの材質　・樹脂ネット製パイプ　クロスメッシュ巻き　25～35φ

アンカーの材質及び径　※SS400　M12
あと施工アンカーの材質及び寸法（　　　　　　　　）
目地　一般目地　目地幅(mm)　※6以上
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮調整目地　位置　※標準仕様書11.1.1による　・図示
シーリング材の目地寸法　※標準仕様書9.7.3(a)(3)による
・図示

4 内壁空積工法

(10.2.2)(10.4.2、3)

受金物　材質　※SS400
形状及び寸法　・L-75×75×6(mm)の加工　L=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工　L=150mm

石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
下地ごしらえ　※ あと施工アンカー,横筋横流し工法　・あと施工アンカー工法
アンカーの材質及び径　※SS400　M12
あと施工アンカーの材質及び寸法　（　　　　　　　　）
目地　一般目地　目地幅(mm)　※6以上
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮調整目地　位置　※6mごと　・図示
シーリング材の目地寸法　※標準仕様書9.7.3(a)(3)による
・図示

5 乾式工法

(10.2.2)(10.5.2、3)(表10.2.4)

取付け方式　・スライド方式　・ロッキング方式
石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
だぼ用の穴の位置　※標準仕様書10.5.2(b)(1)による　・図示
外壁の工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
・適用しない
アンカーの材質及び形状　※ステンレス（SUS304）　M10
あと施工アンカーの材質及び寸法　（　　　　　　　　）
目地　目地幅(mm)　※8以上　・
シーリング材　・適用する（※標準仕様書9章7節による　・図示）　・適用しない

6 床及び階段の石張り

(10.6.2、3)

床石張りの裏面処理　・適用する　・適用しない
階段張りの裏面処理　・適用する　・適用しない
目地　一般目地　目地幅(mm)　・図示
シーリング材◯適用する　・適用しない
伸縮調整目地　位置　※床面積30m²程度ごと、細長い通路の場合6m程度ごと及び他部材との取り合い部
・図示

10 石工事

7 アーチ、上げ裏等の石張り

(10.2.2)(10.7.1、2)

取付け工法　・内壁空積工法　・乾式工法
取付け金物　※標準仕様書10.2.2(c)による　・
引金物、だぼ、かすがい及び受金物　※標準仕様書10.2.2(a)による　・
吊金物及び化粧吊りボルト
・設ける　吊金物　※ステンレス(SUS304)径6mm長さ80mm（加工物）
吊りボルト　※ステンレス(SUS304)M10化粧ナット付き
・設けない
石裏面処理　・適用する　・適用しない
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
アンカーの材質及び径　・SS400 M12　・ステンレス(SUS304) M10
あと施工アンカーの材質及び寸法　（　　　　　　　　）
目地　一般目地　目地幅(mm)　※6以上
伸縮調整目地　位置　※他の部位との取合い部　・図示

8 笠木、甲板等の石張り

(10.2.2)(10.7.1、3)

取付け工法　・外壁湿式工法　・乾式工法
取付け金物　※標準仕様書10.2.2(c)による　・
引金物、だぼ、かすがい及び受金物　※標準仕様書10.2.2(a)による　・
石裏面処理　・適用する　・適用しない
乾式工法の場合の取付け代　※標準仕様書10.5.3(b)による　・
石裏の補強用モルタル　・適用する　・適用しない
アンカーの材質及び径　・ステンレス(SUS304) M10　・
あと施工アンカーの材質及び寸法（　　　　　　）

11 タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

(11.1.3)(表11.1.1)

位置　※標準仕様書表11.1.1による　・図示

2 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り

タイルの形状、寸法等　(11.2.2、3、7)

施工箇所	主な用途による区分	形状/寸法(mm)	吸水率による区分 I類	II類	III類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	滑り抵抗性	備考
外壁	外装壁ﾀｲﾙ		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
外壁	外装壁ﾀｲﾙ		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
ｱﾌﾟﾛｰﾁ 玄関 渡り廊下	外部用床ﾀｲﾙ	100角	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　・行わない（外装壁ﾀｲﾙ）
見本焼き　・行う　・行わない（外装壁ﾀｲﾙ）
モルタル塗りのコンクリート素地面の処理　・MCR工法　・目荒し工法（高圧洗浄）
壁タイル張りの工法
外装タイル　・密着張り　・改良積上げ張り　・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル　・マスク張り　・モザイクタイル張り

既製調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
（品質・性能）
建築材料等品質性能表による
（試験方法）
建築材料等品質性能表による

・既製調合目地材
（品質・性能）
建築材料等品質性能表による
（試験方法）
建築材料等品質性能表による

3 接着剤による陶磁器質タイル張り

タイルの形状、寸法等　(11.3.2～4、7)

主な用途による区分 施工箇所	形状 寸法(mm)	吸水率による区分 I類	II類	III類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の適用	耐凍害性 有	無	備考
内装壁用ﾀｲﾙ	100角	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　・行わない
見本焼き　・行う　・行わない
接着剤のホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外
外装タイル接着剤張りにおける目地のシーリング材
打継ぎ目地　※ポリウレタン系シーリング材
ひび割れ誘発目地　※ポリウレタン系シーリング材
伸縮調整目地　※変成シリコーン系シーリング材
その他の目地　※変成シリコーン系シーリング材
モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理　・MCR工法　・目荒し工法（高圧洗浄）

4 陶磁器質タイル型枠先付け

(11.4.2、3)(表11.4.1)

タイルの形状、寸法等

主な用途による区分 施工箇所	形状 寸法(mm)	吸水率による区分 I類	II類	III類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の適用	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　・行わない
見本焼き　・行う　・行わない

タイル型枠先付けの種類

種類	適用タイル	タイル型枠先付け面のせき板の種別
・タイルシート法	・小口タイル	※ 標準仕様書6.8.3(b)(2)
・目地桝法	・二丁掛けタイル	・金属製タイル先付け用パネル
・桟木法	大形タイル	

12 木工事

① 表面仕上げ

(12.1.4)

表面仕上げの種別	適用箇所
・A種	
※B種	見えがかり全て
・C種	
・D種	

② 製材

⊙図示（木構造特記仕様書・木構造部材リスト）(12.2.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※ 2 級		※A種・B種	
			※ 2 級		※A種・B種	
			※ 2 級		※A種・B種	

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
					※A種・B種	
					※A種・B種	
					※A種・B種	

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※ 1等		※A種・B種	
			※ 1等		※A種・B種	
			※ 1等		※A種・B種	

「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	造作材の材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	間伐材等の適用
			(　　　) 造作材の場合 (※A種・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種・B種	
			(　　　) 造作材の場合 (※A種・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種・B種	
			(　　　) 造作材の場合 (※A種・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種・B種	

③ 造作用集成材

⊙図示（木構造特記仕様書・木構造部材リスト）　(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の等級	間伐材等の適用
			※1等　・2等	・
				・
				・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：			※1等　・2等	・
	化粧薄板： 芯材：				・
	化粧薄板： 芯材：				・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：			・
	化粧薄板： 芯材：			・
	化粧薄板： 芯材：			・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※A種　・B種	・
				※A種　・B種	・
				※A種　・B種	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				※A種 ・B種	・
	化粧薄板： 芯材：				※A種 ・B種	
	化粧薄板： 芯材：				※A種 ・B種	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				※A種 ・B種	・
	化粧薄板： 芯材：				※A種 ・B種	・
	化粧薄板： 芯材：				※A種 ・B種	・

4 造作用単板積層材

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・
「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り (加工・天然木加工・塗装加工) ・無し（　　　　）		・
		・有り (加工・天然木加工・塗装加工) ・無し（　　　　）		

12 木工事

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の品質	含水率	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り (加工・天然木加工・塗装加工) ・無し（　　　　）	※14%以下	・適用する ・適用しない	・
		・有り (加工・天然木加工・塗装加工) ・無し（　　　　）	※14%以下	・適用する ・適用しない	・

5 床張り用合板等

(12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・
・普通合板

施工箇所	厚さ(mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	難燃処理	防炎処理	間伐材等の適用
普通教室	※5.5	ラワン	※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上　・1等 針葉樹 ※C-D以上	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・
	※6.0		※1類 ・2類		・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・
	※5.5		※1類 ・2類		・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・

・構造用合板

施工箇所	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ(mm)	有効断面係数比	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-D以上	※12		・適用する ・適用しない	・適用する (　　　) ・適用しない	・
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類		※12		・適用する ・適用しない	・適用する (　　　) ・適用しない	・
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類		※12		・適用する ・適用しない	・適用する (　　　) ・適用しない	・

⑥ 接着剤

(12.2.2、3)

接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

7 防腐・防蟻処理

(12.3.1、2)

・防腐、防蟻処理が不要な樹種による製材及び集成材
適用部位：（　　　　　　　　）
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	・K2　・K3　・K4
	・K2　・K3　・K4
	・K2　・K3　・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部位	処理の方法
	※標準仕様書12.3.1(3)(ⅱ)①～④による

・ボード原料接着材への薬剤混入による防腐、防蟻処理
適用部位（　　　　　　　　）

8 防虫処理

(12.3.2)

・「製材の日本農林規格」第8条「広葉樹林製材の規格」による防虫処理

適用部位	保存処理性能区分
巾木：米栂	⊙K1　・K2　・K3

13 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺

(13.2.2、3)

施工箇所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322の屋根用ｺｲﾙ ・			・心木なし瓦棒葺 ・立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺　・	

工法（　　　　　　）
材料

下葺材料　・アスファルトルーフィング 940
・ 改質アスファルトルーフィング下葺材
（・一般ﾀｲﾌﾟ・複層材ﾀｲﾌﾟ・粘着層付ﾀｲﾌﾟ）
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない
雪止め　・設置する（図示）

2 折板葺

(13.2.2)(13.3.2、3)(表 13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分 山高	山ﾋﾟｯﾁ	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形	165mm	333mm	－	※鋼板製	1.0	・有り ・無し	・30分 ・無し
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形	150mm	250mm	－	※鋼板製	1.0	・有り ・無し	・30分 ・無し

月・日		月・日	
。		。	
。		。	
。		。	

株式会社　市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号
年　月　日　H28.1.12
縮　尺　NS　原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事
建築工事　特記仕様書（４）

NO. T — 05

13 屋根及びとい工事

材料　板及びコイルの種類（　　）
　　塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号（　　）
断熱材　・　有り（　　防火性能：　時間）
断熱材　・　無し（　　防火性能：　時間）
工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
　※　適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び
　　積雪荷重に対応した工法）
　・適用しない

③ とい

(13.5.2、3)(表 13.5.5)

といの材種　⊙配管用鋼管（白管）　・硬質ポリ塩化ビニル管（ｶﾗｰ）　・ｱﾙﾐ製（ﾊﾟﾝﾄﾞﾚｽ）
ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外
銅管製といの防露巻き　・適用する（工法：※標準仕様書表13.5.5による　・　　）
　　・適用しない

といの受金物
　※ 適用する（材質：※標準仕様書 13.5.2による。）
　　（工法：※標準仕様書 13.5.3による。）
　・適用しない

ルーフドレン

種別	施工箇所
⊙ろく屋根用　⊙縦型　・横型）	屋根
・バルコニー用	
・バルコニー中継用	

14 金属工事

① ステンレスの表面仕上げ

(14.2.1)

種類	施工箇所（手すり、タラップ、建具以外）
※ ＨＬ程度	見えがかり全て
・ 鏡面仕上程度	
・ №2B 程度	

② アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.2)(表 14.2.1)

種別	皮膜又は複合皮膜の種類	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）
⊙A-1種	※ AA15	水切り金物
・A-2種（・ｱﾉﾊﾞｰ　・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ　・ﾌﾞﾗｯｸ系　・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	※ AA15	
⊙B-1種	※ B	笠木
・B-2種（・ｱﾉﾊﾞｰ　・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ　・ﾌﾞﾗｯｸ系　・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	※ B	
・C-1種	※ AA6	
・C-2種（・ｱﾉﾊﾞｰ　・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ　・ﾌﾞﾗｯｸ系　・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	※ AA6	
・D種		

陽極酸化皮膜の着色方法　※二次電解着色　・三次電解着色

3 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.3)

表面処理方法	種　別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

④ 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類　(14.4.2～4)(表14.4.1)
　屋外　※ 25 形　・ 19 形　　屋内　※ 19 形　・ 25 形
・屋外の軒天井、ピロティ天井等
工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
　※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の（・1　・1.15　・1.3）倍の
　　風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
　・適用しない
　　野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔　・図示　・
　　周辺部の端からの間隔　・図示　・
　　野縁の間隔　・図示　・

・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
　補強方法　※図示　・

・天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合
　補強方法　※標準仕様書14.4.4(h)(1)～(2)による　・図示

・天井のふところが3.0mを超える場合
　補強方法　※図示　・

・天井下地材における耐震性を考慮した補強
　補強箇所　・図示　・
　補強方法　※図示　・

⑤ 軽量鉄骨壁下地

(14.5.3)(表 14.5.1)

スタッド、ランナーの種類
　※標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類　・図示
スタッドの高さが５．０ｍを超える場合　※図示

14 金属工事

6 金属成形板張り

(14.6.2、3)(表 14.2.1)

種別	製法	形状	板幅(mm)	板厚(mm)	表面処理 種別	表面処理 皮膜等の種類
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ	・押出し	ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形			・B-1種	※ B
	・ロール				・B-2種（・ｱﾉﾊﾞｰ・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ・ﾌﾞﾗｯｸ系・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	※ B
	・プレス	パネル形			・C-1種	※ AA6
					・C-2種（・ｱﾉﾊﾞｰ・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ・ﾌﾞﾗｯｸ系・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	※ AA6
					・D種	

取付け用下地　※標準仕様書14.4による　・図示
伸縮調整継手　・設ける（施工箇所　・　　）　・設けない

⑦ アルミニウム製笠木

(14.7.2、3)(表 14.2.1)(表 14.7.1)

種類　⊙図示・250形　・300形　・350形　・100形
表面処理　種別（B-2）種　皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による　・　　）
　　着色（・アンバー　・ブロンズ　・ブラック系　・ステンカラー）
笠木の固定金具の工法等
　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
　※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び
　　積雪荷重に対応した工法）
　・適用しない

⑧ 手すり及びタラップ

(14.8.2、3)

手すり　⊙アルミ製　表面処理　種別（B-2）種　皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による）
　　着色（・アンバー　・ブロンズ　・ブラック系　・ステンカラー）
　・ステンレス製　SUS304（表面処理　※HL程度　・No.2B程度　・　　）
　・鋼製　（表面処理　・溶融亜鉛めっきC種　・　　）
タラップ　・ステンレス製　SUS304（表面処理　※研磨なし　・　　）
　・鋼製　（表面処理　※溶融亜鉛めっきC種　・　　）

15 左官工事

1 モルタル塗り

(15.2.2、5)

既製目地材　・設ける　施工箇所（　　）　形状（※図示　・　　）
　　・設けない
床目地　・設ける（工法※押し目地　・　　）
　　・設けない
外壁タイル張り下地の均しモルタルの接着力試験　・適用する
　　・適用しない

・防水剤
（品質・性能）
　建築材料等品質性能表による
（試験方法）
　建築材料等品質性能表による

② 床コンクリートの直均し仕上げ

(6.2.5)(15.3.2)

下表以外は標準仕様書15.3.2 による

施工箇所	平たんさ(mm)	備　考
	1m につき 10 以下	
内部床・犬走り	3m につき 7 以下	

③ セルフレベリング材塗り

(15.4.2)(表15.4.1)

・せっこう系　⊙セメント系

④ 仕上塗材仕上げ

(15.5.2)

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外（Ｆ☆☆☆☆）　・
仕上塗材の種類

種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状等
⊙薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ		・砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Ｓｉ		⊙ゆず肌状（・吹付け　・ローラー塗り）
	⊙外装薄塗材Ｅ		・さざ波状
	・可とう形外装薄塗材Ｅ		・平たん状
	・防水形外装薄塗材Ｅ		・凹凸状（・吹付け　・こて塗り）
	・外装薄塗材Ｓ		・着色骨材砂壁状（・吹付け　・こて塗り）
	・内装薄塗材Ｃ		・砂壁状じゃらく
	・内装薄塗材Ｌ		・京壁状じゃらく
	・内装薄塗材Ｓｉ		吸放湿性　・適用する　・適用しない
	・内装薄塗材Ｅ		耐湿性　・適用する　・適用しない
	・内装薄塗材Ｗ		
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材Ｃ		・吹放し　・凸部処理　・平たん状
	・外装厚塗材Ｓｉ		・凹凸状　・ひき起こし　・かき落とし
	・外装厚塗材Ｅ		吸放湿性　・適用する　・適用しない
	・内装厚塗材Ｃ		上塗材　・適用する　・適用しない
	・内装厚塗材Ｌ		
	・内装厚塗材Ｇ		
	・内装厚塗材Ｓｉ		
	・内装厚塗材Ｅ		
⊙複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ		・ゆず肌状　・凸部処理　⊙凹凸模様
	・可とう形複層塗材ＣＥ		
	・複層塗材Ｓｉ		上塗材
	・複層塗材Ｅ		耐候性　※耐侯形２種　・
	⊙複層塗材ＲＥ		溶　媒　※水系　・溶剤系
	・防水形複層塗材ＣＥ		樹　脂　・アクリル系　※フッ素
	・防水形複層塗材Ｅ		外　観　※つやあり・つやなし・ﾒﾀﾘｯｸ
	・防水形複層塗材ＲＥ		
	・防水形複層塗材ＲＳ		増塗材　・適用する　・適用しない
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材		
	・こて塗用軽量塗材		

15 左官工事

5 ＡＬＣパネルの場合の下地処理

(15.5.4)

内壁目地部の形状　※Ｖ形目地付き

6 マスチック塗料塗り

(15.6.2)

種別　・Ａ種　・Ｂ種（仕上材塗り：EP-G　※B種　・A種）

7 ロックウール吹付け

(15.8.2)

ロックウールのホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・
接着剤のホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・
吹付け厚さ(mm)　・図示　・ 25

16 建具工事

1 防火戸

※建具表による

2 見本の製作等

(16.1.4)

建具見本の製作　・行う（建具符号：　　）
　　・行わない
建具見本の程度　・工事に使用するものとして、あらかじめ製作する
　　・納まり等が分かる程度のもの
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　　）
　　・行わない

3 防犯建物部品

(16.1.6)

・適用する（※建具表による　・　　）
・適用しない

④ アルミニウム製建具

(16.2.2、4、5)（表14.2.1）

性能等級
　外部に面する建具　・Ａ種（建具符号：※建具表による　・　　）
　　⊙Ｂ種（建具符号：※建具表による　・　　）
　　・Ｃ種（建具符号：※建具表による　・　　）
　防音ドアセット,防音サッシ　・ 適用する　遮音性の等級（　　）
　　（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
　断熱ドアセット,断熱サッシ　・ 適用する　断熱性の等級（　）
　　（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
　耐震ドアセット　・ 適用する　面内変形追随性の等級（　　）
　　（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
枠の見込み寸法　⊙建具表による　・
表面処理
　外部に面する建具　⊙B-1種　・B-2種　・
　　皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による　・　）
　　着色（・アンバー　・ブロンズ　・ブラック系　・ステンカラー）
　屋内の建具　・C-1種　・C-2種　・
　　皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による　・　）
　　着色（・アンバー　・ブロンズ　・ブラック系　・ステンカラー）
結露水の処理方法　※図示　・
水切り板、ぜん板　※図示　・
（㈱LIXIL　PRO-SE70　同等品）

⑤ 網戸等

(16.2.3)

種類	材種	線径	網目
⊙防虫網	・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ⊙ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

6 樹脂製建具

(16.3.2～5)

性能等級
　外部に面する建具　・Ａ種（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・Ｂ種（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・Ｃ種（建具符号：・建具表による　・　　）
　防音ドアセット,防音サッシ　・ 適用する　遮音性の等級（・Ｔ－１　・Ｔ－２）
　　（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
　断熱ドアセット,断熱サッシ　・ 適用する　断熱性の等級（・Ｈ－４・Ｈ－５・　）
　　（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
枠の見込み寸法　・建具表による　・
表面色　※標準色　・特注色
水切り板、ぜん板　※図示　・
ガラス　※複層ガラス

7 鋼製建具

(16.2.2)(16.4.2～4)（表16.4.2）

性能等級
　簡易気密型　・適用する（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
　外部に面する建具の耐風圧性　・S-4（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・S-5（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・S-6（建具符号：・建具表による　・　　）
　防音ドアセット,防音サッシ　・ 適用する　遮音性の等級（　）
　　（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
　断熱ドアセット,断熱サッシ　・ 適用する　断熱性の等級（　）
　　（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
　耐震ドアセット　・ 適用する　面内変形追随性の等級（　）
　　（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない

鋼板

材料	めっき付着量	厚さ
・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板）	※Z12又はF12	・標準仕様書表16.4.2による
・JIS G 3317（溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板）	※ Y08	

16 建具工事

⑧ 鋼製軽量建具

(16.2.2)(16.5.2～4)

性能等級
　簡易気密型　・適用する（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
　防音ドアセット,防音サッシ　・ 適用する　遮音性の等級（　）
　　（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
　断熱ドアセット,断熱サッシ　・ 適用する　断熱性の等級（　）
　　（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
　耐震ドアセット　・ 適用する　面内変形追随性の等級（　）
　　（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
鋼板　※亜鉛めっき鋼板　・ビニル被覆鋼板　・カラー鋼板
鋼板の厚さ　・標準仕様書表16.5.1による　・
召合せ、縦小口包み板の材質　※鋼板　・

9 ステンレス製建具

(16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～4)

性能等級
　簡易気密型　・適用する（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
　外部に面する建具の耐風圧性　・S-4（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・S-5（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・S-6（建具符号：・建具表による　・　　）
　防音ドアセット,防音サッシ　・ 適用する　遮音性の等級（　）
　　（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
　断熱ドアセット,断熱サッシ　・ 適用する　断熱性の等級（　）
　　（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
　耐震ドアセット　・ 適用する　面内変形追随性の等級（　）
　　（建具符号：・建具表による　・　　）
　　・適用しない
鋼板（屋外）　※SUS430J1L、SUS443J1、SUS304　・
鋼板（屋内）　※SUS430、SUS430J1L、SUS443J1、SUS304　・
表面仕上げ　※ＨＬ仕上げ　・鏡面仕上げ　・
ステンレス鋼板の曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ

10 木製建具

(16.7.2～4)

建具材の加工、組立時の含水率　※Ｂ種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

・フラッシュ戸
　表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板Ｇ	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※ｳﾚﾀﾝ程度　・　　） 不透明塗料塗り （※しな合板程度　・　　） 板面の品質（　　） 接着の程度（・1類　・2類）	
・天然木 化粧合板Ｇ	樹種名（　　） 接着の程度（・1類　・2類）	
・特殊加工 化粧合板Ｇ	化粧加工の方法 （・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ・ﾌﾟﾘﾝﾄ・塗装） 表面性能（　　）タイプ 接着の程度（・1類　・2類）	

表面板の厚さ　※表16.7.6による　・

・かまち戸
　かまち樹種（パイン）　鏡板樹種（　　）
　見込み寸法　※36mm　・建具表による　・
・ふすま
　張りの種別（・Ⅰ型　・Ⅱ型）
　上張り　・鳥の子　・新鳥の子又はビニル紙程度　押入等の裏側は雲花紙程度
　縁仕上　・塗り縁　・生地縁（素地）　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
　見込み寸法　※19.5mm　・建具表による　・
・戸ぶすま
　見込み寸法　※30mm　・建具表による　・
・紙張り障子
　見込み寸法　※30mm　・建具表による　・

枠、くつずりの材料　・建具表による

⑪ 建具用金物

(16.8.2,3)

金物の種類・見え掛り部の材質等
　※標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による　・
樹脂製建具に使用する丁番　※標準仕様書表16.8.3による　・
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置　・建具表による　・

⊙錠前類　【シリンダ箱錠及びシリンダ本締り錠】
　（品質）
　　デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。 鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
　（性能）
　　建築材料等品質性能表による

・錠前類　【レバーハンドル】
　（性能）
　　建築材料等品質性能表による

・クローザ類
　（品質・性能）
　　建築材料等品質性能表による
　（試験方法）
　　建築材料等品質性能表による

⑫ 鍵

(16.8.4)

マスターキー　⊙製作する　・製作しない
その他の鍵　※各室３本１組　・
鍵箱　※有り　・無し

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号	縮　尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
年　月　日 H28.1.12	NS / 原図 A2	建築工事　特記仕様書（５）	T — 06 / 77

16 建具工事

13 自動ドア開閉機構

(16.9.2、3)

自動ドア	性能	防錆	センサーの種類	凍結防止
・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSLD-1 ・DSLD-2	※標準仕様書表16.9.1による	・適用する ・適用しない	・マットスイッチ ・光線（反射）スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能トイレスイッチ	・行う （適用箇所は建具表による） ・行わない
・SWD-1 ・SWD-2	※標準仕様書表16.9.2による			
・図示				

（品質・性能）
建築材料等品質性能表による
（試験方法）
建築材料等品質性能表による

14 自閉式上吊り引戸装置

(16.10.3)

性能　※ 標準仕様書表 16.10.1 による
（試験）
建築材料等品質性能表による

15 重量シャッター

(16.11.2、3)

シャッターの種類
・ 一般重量シャッター耐風圧強度（　　）N/m²
・ 外壁用防火シャッター耐風圧強度（　　）N/m²
・ 屋内用防火シャッター
・ 屋内用防煙シャッター

開閉機能による種類　※ 上部電動式（手動併用）・ 上部手動式
一般重量シャッターのシャッターケース　・ 設ける　・ 設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類　・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板）
めっきの付着量　※Z12又はF12　・

16 軽量シャッター

(16.12.2~4)

開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）
耐風圧強度（　）N/㎡
スラットの材質
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板）
めっき付着量（※Z06又はF06　・　　）
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板）
めっき付着量（※AZ90　・　　）
スラットの形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形

17 オーバーヘッドドア

(16.13.2,3)

セクション材料による区分	耐風圧区分(Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

⑱ガラス

(9.7)（16.14.2~4）（表16.14.1）

・ガラス

品種	構成種類	性能
・フロートガラス	・網入ガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類
・型板ガラス	・網入ガラス ・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス	・Ⅱ-1類　・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類

⊙強化ガラス

材料板ガラスによる種類	種類	性能
⊙フロートガラス	⊙フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	・Ⅰ類　・Ⅲ類
⊙型板ガラス	⊙型板強化ガラス	

・熱線吸収板ガラス

品種	性能	色調
・熱線吸収フロート板ガラス ・熱線吸収網入磨き板ガラス	・１種　・２種	・ブルー　・グレー　・ブロンズ

・複層ガラス

品種	断熱性	日射熱遮へい性
・断熱複層ガラス	・１種	U1
	・２種	U2
	・３種	U-3-1　・U-3-2
・日射熱遮へい複層ガラス	・４種	E4
	・５種	E5

・熱線反射ガラス

品種	日射遮へい性	耐久性
・熱線反射ガラス 色調（・ブルー　・グレー）	・１種	A種
	・２種	・A種　・B種
・高性能熱線反射ガラス 色調（・ブロンズ　・シルバー）	・３種	B種

反射被膜面　・内面　・外面
映像調整　・行わない　・行う

・倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称	色調
・フロート倍強度ガラス	－
・熱線吸収倍強度ガラス	・ブルー　・グレー　・ブロンズ

16 建具工事

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	※シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・	※標準仕様書表16.14.1による ・図示 ・
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材 ・	※標準仕様書表16.14.1による ・図示　・
ステンレス製	※シーリング材 ・	※標準仕様書表16.14.1による ・図示　・

19 ガラスブロック

(16.14.5)

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調 クリア	色調 乳白	目地幅(mm) 平積み	目地幅(mm) 曲面積み	伸縮調整目地(mm)	防火性能
・正方形	・125×125	80			※8~15 ・15~25 ・	外側 ※15以下 ・ 内側 ※6以上 ・	※6m以下ごとに10~25 ・図示 ・	※無し ・有り
	・160×160	・95 ・125						
	・200×200	・95 ・125						
	・320×320	95						
・長方形	・250×125	80						
	・320×160	95						

曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。
壁用金属枠及び補強材　・設ける（形状　※図示　・　　）
・設けない
力骨　材質　※ステンレス鋼(SUS304)　・
寸法　※径5.5mm　・
形状　※はしご形状複筋及び単筋　・
化粧目地モルタルの色（　　）
金属製化粧カバー　材質　・ステンレス製　・アルミニウム製
寸法　※図示　・
形状　※図示　・
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
・適用しない
目地部の力骨の補強方法
※ガラスブロック製造所の仕様による　・図示　・

19 ガラス用フィルム

名称	種類	張り面	性能値
・ガラス飛散防止フィルム	ＧＳ	※ 内張り　・外張り	飛散防止率Ｄ１
・日射調整フィルム			

品質　JIS A 5759による
※特記なき限り全ての強化ガラスは飛散防止フィルム貼りとする

17 カーテンウォール工事

1 取付方法、性能等

(17.1.3)（17.2.2）（17.3.2）

取付方法　・層間方式　・柱・梁方式　・方立方式　・スパンドレル方式
性能

耐震性能 水平方向(kH)	耐震性能 垂直方向(kV)	水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性(℃)
・1.0 ・	・0.5 ・					・30分 ・1時間	・80 ・70 ・60

耐風圧性能
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
・適用しない
主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離(h)	耐風圧性能	状態
4m以下	・たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量20mm以下であること	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。
4mを超える		

層間変位追従性

建築物の構造種別	層間変位量（h=支点間距離）	変位後の状態
鉄骨造	・±(1/200)×h以上	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。 シーリングは補修程度の損傷であること。
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	・±(1/300)×h以上	

シーリング材
下表以外は標準仕様書表 9.7.1 による

被着体の組合せ		シーリング材の種別 記号	主成分による区分
金属	ガラス		
	石、タイル		
ガラス	ガラス		
カーテンウォール板間目地			

構造用ガスケット
・適用する　（施工箇所　・図示　・　　）
材質　・クロロプレン系　・EPDM系　・シリコーン系
形状　・H型　・Y型　・C型
寸法(mm)　ガラス板厚（　　）、支持枠の厚さ（　　）、ウェブの寸法（　　）
・適用しない
断熱材 G
種類（　　）
厚さ(mm)（　　）
施工箇所　・図示　・

耐火材料

施工部位	種別	規格帯
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

17 カーテンウォール工事

2 メタルカーテンウォール

カーテンウォールの材料

材料	規格等		映像調整
※アルミニウム製	※標準仕様書表17.2.3による ・	・A-1種　・A-2種　・ 皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による　・　） 着色（・ｱﾉﾊﾞｰ　・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ ・ｸﾞﾗｯｸ系　・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	・行う ・行わない
・			

製品及び取付位置の寸法許容差　※標準仕様書表17.2.1~3による
ガラス溝の寸法、形状　※製造所の仕様による　・

3 ＰＣカーテンウォール

(17.3.2~5)

カーテンウォールの材料
コンクリート　※標準仕様書17.3.2(a)(ⅰ)~(ⅳ)による　・
鉄筋　※SD295A（・D13　・D10）
補強鉄線の径(mm)　※3.2　・4.0　・5.0　・6.0
配筋　※図示
先付けの材料　・サッシ枠　・ゴンドラ用ガイドレール
表面仕上げ材　・磁器質タイル
・石材（・花こう岩　・大理石　・　）
・
ガスケットを用いる場合のアンカー溝のオ法及び寸法許容差(mm)
・h=-1~+2、W1及びW2=±1
製品及び取付位置の寸法許容差　※標準仕様書表17.3.1~2による　・

18 塗装工事

①材料

(18.1.3)

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・
・防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・次の箇所を除き防火材料とする。（箇所：　　）

②素地ごしらえ

(18.2.2~7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面		※C種　・A種　・B種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種　・C種
モルタル面及びプラスター面		※B種　・A種
コンクリート面、ＡＬＣパネル面及び押出成形セメント板面		※B種　・A種
せっこうボード面及び その他ボード面	目地：継目処理工法	※A種　・B種
	目地：継目処理工法以外	※B種　・A種

③錆止め塗料塗り

(18.3.2、3)

下地面等		工程の種別	塗料の種別
鉄鋼面	見え掛り部分	※A種　・B種	
	見え隠れ部分	※B種　・A種	
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※A種　・B種　・C種	・A種　・B種
	鋼製建具以外	※C種　・A種　・B種	・C種

④塗装

(18.4.1~18.14.2)

塗装		種別	塗料の種類
⊙合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※A種　・B種	※1種　・2種
	木部屋内	※B種　・A種	※1種　・2種
	鉄鋼面	※B種　・A種	※1種　・2種
	亜鉛めっき鋼面	－	※1種　・2種
・クリヤラッカー塗り(CL)		※B種　・A種	－
⊙アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)		※B種　・A種	－
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	－	上塗り等級（1）級
	亜鉛めっき鋼面	－	上塗り等級（1）級
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種　・B種　・C種	上塗り等級（ ）級
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面等	※B種　・A種	－
	屋内の鉄鋼面	※B種　・A種	－
・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		※B種　・A種	－
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り(EP-T)		※B種　・A種	－
⊙ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種　・A種	－
・ラッカーエナメル塗り(LE)		※B種　・A種	－
⊙オイルステイン塗り(OS)		－	－
・木材保護塗料塗り(WP)		※B種　・A種	－

⊙D化粧(打)部全て　保護塗料塗り(水性ｼﾘｺﾝ系)

屋上、屋根面の金属面に塗装する場合の塗料は高日射反射率塗装　とする。

19 内装工事

①接着剤

(19.2.2)

接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外　・
接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

2 ビニル床シート

(19.2.2~3)

種類	JIS 記号	施工箇所	色柄	特殊機能	厚さ(mm)	備考
○ 発泡層のないもの	※FS	仕上表による	⊙無地 ⊙ﾏｰﾌﾞﾙ柄	・帯電防止 ・耐動荷重性	※ 2.0 ⊙2.5	
発泡層のあるもの			・無地 ・柄物	・防滑性 ・耐薬品性		

工法　※ 熱溶接工法　・ 突付け（施工箇所：　　）
特殊機能
帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上~3.2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10⁷~1×10¹⁰Ω程度
・

③ビニル床タイル

(19.2.2)

JIS記号	施工箇所	色柄	寸法	特殊機能	厚さ(mm)	備考
⊙ＦＴ	増築棟廊下床	・無地 ⊙柄物	⊙300×300 ・450×450	・帯電防止 ・防滑性	※ 2.0 ・2.5 ・3.0	
⊙ＫＴ	既設棟廊下床	・無地 ⊙柄物	⊙300×300 ・450×450	・帯電防止 ・防滑性	※ 2.0 ・3.0	
・ＦＯＡ		・無地 ・柄物	・500×500	・帯電防止 ・防滑性	・	

19 内装工事

特殊機能
帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上~3.2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10⁷~1×10¹⁰Ω程度
・

4 ビニル幅木

(19.2.2)

材質　・軟質　・硬質
高さ(mm)　※60　・75　・100　・300
厚さ(mm)　※1.5以上　・

5 ゴム床タイル

(19.2.2)

色柄（　　）
厚さ(mm)　・3.0　・4.5　・6.0　・9.0
寸法(mm)（　　）

6 カーペット敷き

・ 織じゅうたん　(19.3.3)(表 19.3.1)

種別	パイル形状	織り方	色柄等	帯電性	備考
・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種	・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ ・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ ・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・ｳｨﾙﾄﾝ ｶｰﾍﾟｯﾄ ・ﾀﾞﾌﾞﾙﾌｪｰｽｶｰﾍﾟｯﾄ ・ｱｷｽﾐﾝｽﾀｰ ｶｰﾍﾟｯﾄ	・無地 ・柄物 （標準品）	・適用する （性能：※人体帯電圧3kv以下　・　） ・適用しない	

下敷き材
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm　・

・ タフテッドカーペット　(19.3.3~4)

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ	・5~7　・	※全面接着工法 ・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ 工法	・適用する （性能：※人体帯電圧3kv以下　・　） ・適用しない	
・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	・4~6　・			
・ﾊﾟﾈﾙｰﾌﾞﾊﾟｲﾙ	・4　・			
・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・			

下敷き材(グリッパー工法の場合)
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm　・

・ニードルパンチカーペット
厚さ（mm）（　）帯電性　・適用する（性能：※人体帯電圧3kv 以下　・　　）
・適用しない
備考（　　）

⊙タイルカーペット　(19.3.3.4)

パイル形状	種別	施工箇所	寸法	総厚さ（mm）	備考
※ ループパイル	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	
・ カットパイル	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	
・ カット・ループ併用	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	

タイルカーペットの敷き方　平　場　※市松敷き　・模様流し　・
階段部分　※模様流し　・市松敷き　・
見切り、押え金物　・適用する（材質、形状等　※図示　・　　）
・適用しない

7 合成樹脂塗床

(19.4.2)(19.4.3)(表 19.4.1~7)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床	調理室	・薄膜流し展べ 工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			
・ｱｸﾘﾙ樹脂塗床 （JIS K 5970）			工程 塗布量（kg/㎡） ・ 表面仕上げ ・平滑　・防滑 溶剤 ・水性色　・溶剤系　・無溶剤系 仕上げ色 ・標準色　・

⊙耐熱水、耐衝撃部のみ圧膜型水性ウレタンコンクリート系塗り床材とする(煮炊釜廻り)
塗料のホルムルデヒド放散量　(19.4.2)　※規制対象外

⑧フローリング張り

単層フローリング　(19.5.2~7)(表 19.5.1~6)

種類	工法	樹種	厚さ(mm)	大きさ(mm)	仕上塗装	間伐材等の適用
・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ	・釘留め工法 （根太張り）	※ なら ・	15	板幅75 板長さ500以上	⊙ 塗装品 ・無塗装品	
	・釘留め工法 （直張り）	※ なら ・	・12以上 ・	板幅75 板長さ300以上		
	・接着工法	※ なら ・	・12以上 ・	板幅75 板長さ300以上		
・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ	・接着工法	※ なら ・	15	303×303	・ 塗装品 ・無塗装品	
	・モルタル埋込工法	※ なら ・	※15 ・	※303×303 ・	・ 塗装品 ・無塗装品	
・ ﾓｻﾞｲｸﾊﾟｰｹｯﾄ	接着工法	・	・	・	・ 塗装品 ・無塗装品	

天然木化粧複合フローリング

種類	工法	樹種	厚さ/大きさ(mm)	種別	防湿処理	仕上塗装	間伐材等の適用
⊙複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	・釘留め工法 （根太張り） ・釘留め工法 （直張り）	※なら		・A種 ・B種 ※C種	・適用する ・適用しない	⊙塗装品 ・無塗装品	
	⊙直張り	※なら ・すぎ	板厚 ⊙12以上　・ 板幅 ⊙300以上 板長さ ⊙300以上	⊙塗装品　表層2mm ⊙耐摩耗			

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計　一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

年　月　日　H28.1.12

縮　尺　NS　原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

建築工事　特記仕様書（６）

NO. T — 07

19 内装工事

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量　※ 規制対象外
接着工法の場合の緩衝材　※合成樹脂発泡シート
現場塗装仕上　・行う（施工箇所　　）
※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ﾜｯｸｽ塗り
・生地のままﾜｯｸｽ塗り
・行わない

9 畳敷き

(19.6.2)(表 19.6.1)

種別　・A種　・B種　・C種　・D種（畳床：・KT-Ⅰ・KT-Ⅱ・KT-Ⅲ・KT-K・KT-N）
下地の種類　・標準仕様書　表12.5.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン G ）
・
畳表及び畳床にホルムアルデヒド、アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

10 せっこうボードその他のボード張り

(19.7.2、3)(表 19.7.1)

種　類	JIS記号	厚さ(mm)、規格等
・硬質木毛セメント板	HW	・ 15　・ 20　・ 25
・中質木毛セメント板	MW	・ 15　・ 20　・ 25
・普通木毛セメント板	NW	・ 15　・ 20　・ 25
・硬質木片セメント板	HF	・ 12　・ 15　・ 18　・ 21
・普通木片セメント板	NF	・ 30
・けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2（無石綿）　⊙ 6　⊙ 8
・ロックウール化粧吸音板	DR	・ フラットタイプ（・ 9（不燃）⊙ 12 ・　） ・ 凹凸タイプ（・ 12（不燃）・ 15 ・　）
・ロックウール吸音ボード 1号	RW-B	・ 25　・
・グラスウール吸音ボード 1号32K	GW-B	・ 25（ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包）　・
⊙せっこうボード	GB-R	※12.5（不燃）・ 15（不燃）
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5（不燃）化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
・シージングせっこうボード	GB-S	12.5（不燃）
⊙強化せっこうボード	GB-F	・12.5（不燃）・15（不燃）⊙21（不燃）
・硬質せっこうボード	GB-R-H	・9.5（不燃）・12.5（不燃）
・せっこうラスボード	GB-L	9.5
・化粧せっこうボード(木目)	GB-D	12.5（不燃）幅 440mm 程度 模様（・ 柾目　・ 板目）　専用下地材有り
⊙化粧せっこうボード（トラバーチン模様）	GB-D	9.5（準不燃）
⊙普通合板		表面の材種 生地、透明塗料塗り （※ｳﾚﾀﾝ程度　・ ｼﾅ　） 不透明塗料塗り （・しな程度　・　） 板面の品質（　） 厚さ(mm)（ 9.0 ） 接着の程度（※規制対象外） ・防虫処理　※難燃処理　・防炎処理
・天然木化粧合板		樹種名（　） 接着の程度（・1類　・2類 ） 厚さ(mm)（　） ・防虫処理　・難燃処理　・防炎処理
・特殊加工化粧合板		化粧加工の方法　（・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ・ﾌﾟﾘﾝﾄ・塗装） 表面性能（　）タイプ 接着の程度（・1類　・2類 ） 厚さ(mm)（　） ・防虫処理　・難燃処理　・防炎処理
⊙メラミン不燃化粧板		3.0　不燃
・ポリエステル樹脂化粧板		
・ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・ 3　・ 7　・ 9　・ 12
・単板張りパーティクルボード		・ 無研磨板　・ 研磨板 ・ 10　・ 12　・ 15　・ 18
・化粧パーティクルボード		・ 単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ 塗装 ・ 10（難燃）・ 12（難燃）・
・ハードボード（素地）	HB	・無研磨板（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ） ・研磨板　（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ）
・ハードボード（化粧）		・内装用　・外装用 ・2.5　・3.5　・5　・7
・インシュレーションボード	IB	A級（・天井仕上　・内装仕上　・　） ・9　・12　・15　・18

せっこうボード等の下地は図示による。
遮音シール材　⊙適用する（⊙シーリング材　・ジョイントコンパウンド）
・適用しない
合板類、ＭＤＦ及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・
合板類の張付け　※B種　・A種
せっこうボードの目地工法　⊙仕上げ表による

11 壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　(19.8.2、3)

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	無機質	その他	防火種別	備考
	・	・	・	・	・	・ 不燃・ 準不燃	・ AA級
	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・		

モルタル・プラスター面の素地ごしらえ　※B種　・A種
コンクリート・ＡＬＣ面の素地ごしらえ　※B種　・A種
せっこうボード面の素地ごしらえ　※B種　・A種

19 内装工事

12 断熱材

(19.9.2、3)

ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外
・断熱材打込み工法

種類		厚さ(mm)	施工箇所
・ ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材		・	
⊙ 押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材(ｽｷﾝなし)	・保温板（2種b）	・25 ・	
	⊙保温板（3種b）	⊙25 ・50	・接地部分､RFｽﾗﾌﾞ下
	・	・	
・ A種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材		・30	
・ ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ保温材　(3種2号を除く)		・	

・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　※A種1　・B種1
厚さ（mm）　・25　・30　・20
施工箇所　・図示　・
・現場発泡断熱材
(品質・性能)
建築材料等品質性能表による
(試験方法)
建築材料等品質性能表による

20 ユニット及びその他の工事

1 フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構　法	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重(N)	表面仕上げ材	備考
	・ﾊﾟﾈﾙ構法 ・満構法	・500×500	60	・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ	

寸法精度
※標準仕様書20.2.2(b)(5)(ⅰ)～(ⅲ)による　・
厚さ　±0.5mm
平坦度　パネル周辺部　1.0mm以下
図心と各頂点を結ぶ線上部　2.0mm以下

表面仕上材の品質、性能は、標準仕様書19章による。
構成材の材質　・アルミニウム製　⊙鋼製（仕上げ：溶融亜鉛ﾒｯｷ鋼板）　・
スロープ及びボーダー　・製造所の仕様による　・図示
配線用取り出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　・20～30パーセント　・
配線取り出し開口　・パネル1枚につき、40mm×80mm　程度の開口1箇所以上
・図示
空調用吹き出し（吸い込み）パネル　・なし　・あり（形式、施工箇所：図示）

(性能)
建築材料等品質性能表による
(試験方法)
建築材料等品質性能表による

2 可動間仕切

(20.2.3)

構造形式	構成基材の種類 スタッド	パネル	総厚さ(mm)	表面仕上材 材質	厚さ(mm)	パネル表面仕上げ	遮音性(db/500HZ)	防火性能
・ スタッド式(内蔵) ・ スタッド式(露出) ・ スタッドパネル式 ・ パネル式			80	・鋼板	・0.6 ・0.8	・ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付又はｱｸﾘﾙ樹脂焼 ・ 壁紙張り	・ 0 ・ 12 ・ 20 ・ 28 ・ 36	・不燃

パネル内に取付ける建具　・あり（※図示　・　　）・なし
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による

3 移動間仕切

(20.2.4)

走行方向	操作方法	圧縮装置の操作方法	総厚さ(mm)	表面仕上材 材質	パネル表面仕上げ	遮音性(db/500HZ)
・ 平行方向 移動式 ・ 二方向 移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式 ・		・鋼板	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・ 36未満 ・ 36以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能　標準仕様書19章による
遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする
ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の５倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
・図示

(品質・性能及び試験方法)
建築材料等品質性能表による

4 トイレブース

(20.2.5)

表面材の材質	脚部 形状	ドアエッジ 形状	材質
・ メラミン樹脂系化粧板　(木目程度) ・ ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・	・ 標準 ・ R	・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 表面材と同材

(品質・性能)
建築材料等品質性能表による
(試験方法)
建築材料等品質性能表による

20 ユニット及びその他の工事

5 視覚障害者用床タイル

(11.2.2)(19.2.2)

施工箇所		種類	寸法(mm)	厚さ(mm)
屋内		・塩化ビニル製	・300×300	・ 7.0
		・磁器質タイル　・せっ器質タイル	・300×300	・
		・レジンコンクリート製　・コンクリート製	・300×300	・
屋外		・磁器質タイル　・せっ器質タイル	・300×300	・
	ｱﾌﾟﾛｰﾁ	・レジンコンクリート製　・コンクリート製	・300×300	・ 5.0

ブロックパターンは JIS T 9251 による

6 階段滑り止め

(20.2.6)

材種	幅(mm)	取付け工法	端部フラットエンド	
・ステンレス製(SUS304)ビニルタイヤ入り ・ステンレス製(SUS304)	・約35	※接着工法 ・埋込み工法	・あり	・ビニル製 ・ステンレス製
			・なし	―

7 手すり

材種	表面仕上げ	ｻｲｽﾞ	取付箇所	備考
・集成材	・クリアラッカー　・			
・ステンレスパイプ	・ＨＬ			
・ビニル製ハンドレール				
⊙アルミニウム	⊙アルマイト	50×25 t=2.0		

8 黒板及びホワイトボード

(20.2.8)

種　類		寸法(mm)	色　彩	形　式	
⊙ 黒板	※ 焼付け	図示	※ 緑・黒	⊙ 平面　⊙ 曲面	・ ｽｸﾘｰﾝ付引分
・ ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ	ほうろう	図示	白	・ 平面　・ 曲面	・ ｽｸﾘｰﾝ付引分

9 鏡

(20.2.9)

取付箇所　（　）
寸法（mm）　・ 図示
厚さ（mm）　※ 5

10 表示

(20.2.10)

区分	材質	寸法(mm)	厚さ(mm)	取付高さ(mm)	備考
・衝突防止表示 （・両面　・片面）	・ステンレス製 ・図示	・30φ ・25φ	・市販品	・図示	
⊙室名札	・アクリル板 ⊙図示	⊙図示	・5	⊙図示	
・ピクトグラフ	・アクリル板 ・図示	・図示	・5	・図示	
・とびら番号	・アクリル板	・図示	・5	・図示	
・庁舎案内板	・アクリル板	・図示	・5	・図示	
・各階案内板	・アクリル板	・図示	・5	・図示	

案内用図記号はJIS Z 8210による。
誘導標識、非常用進入口等の表示は市販品とする。
色、書体、印刷等の種別、取付け形式等は図示による。

11 煙突ライニング

(20.2.11)

・ 煙突用成形ライニング材
適用安全使用温度　・ 400℃　・ 650℃
・ キャスタブル耐火材
煙突用成形ライニング材の製造所の指定する製品とする

(品質・性能)
建築材料等品質性能表による
(試験方法)
建築材料等品質性能表による

12 消火器及び消火器ボックス

(20.2.12)

（消火器）
型　式　※ABC粉末消火器（10型）
取付箇所　（　廊下　）

（消火器ボックス）
型　式　※埋め込み型　・スタンド型
取付箇所　（　廊下　）

13 ブラインド

(20.2.13)

形　式	操作方法	種　類	スラットの材種	ｽﾗｯﾄ幅(mm)	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材種	寸　法 取付箇所
・横型	・手動	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※ アルミニウム合金製	※ 25	※鋼製	・図示
	・電動	―				
・縦型	・手動	※２本操作ｺｰﾄﾞ式 ・１本操作ｺｰﾄﾞ式	・ アルミスラット ・ クロススラット	・ 80 ・ 100	ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	・図示
	・電動	―				

アルミスラット　焼付け塗装仕上げ
クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合 G

14 ロールスクリーン G

(20.2.14)

材種	操作方式	遮光性	寸法(mm)	取付箇所	備考
・ポリエステル	・電動式 ・スプリング式 ・チェーン式	・1級 ・2級 ・3級	・図示	・図示	

巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料は製造所の仕様による。

20 ユニット及びその他の工事

15 カーテン

(20.2.15)

形式		開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ、つまひだ ・プレーンひだ、片ひだ		・図示	
					・図示	(暗幕)

使用される繊維のうち、ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する製品については G とする
暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり　※300mm以上

16 カーテンレール

(20.2.16)

材　種　※ アルミニウム製　⊙ ステンレス製
形式　・シングル　⊙ダブル
・片引き　⊙引分け
強さによる区分　※10-90　・
仕上げ　※アルマイト　・
形状　※角形　・

17 ブラインドボックス及びカーテンボックス

(―)

溝型×深さ（mm）　・90×150　・120×80　⊙150×150　・150×80　⊙図示
材質　⊙集成材（仕上げ：　SOP塗　）
・アルミニウム製　押出し型材（市販品）
表面処理・C-1
・C-2（・アンバー　・ブロンズ　・ブラック系　・ステンカラー）
・
皮膜等の種類　※標準仕様書表14.2.1による　・
・鋼製（仕上げ：　）

18 天井点検口

(―)

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※アルミニウム製	⊙450×450 ・600×600	⊙一般形	・屋内外用 ⊙屋内用	⊙額縁タイプ ・目地タイプ	⊙額縁タイプ ・目地タイプ
		・気密形			

※天井仕上げが岩綿吸音板は目地ﾀｲﾌﾟとする
(品質・性能)
建築材料等品質性能表による
(試験方法)
建築材料等品質性能表による

19 床点検口

(―)

材種	寸法	形式		備考
・アルミニウム製 ⊙ステンレス製 ・鋼製	・300×300 ⊙450×450 ⊙600×600	・一般形 ⊙密閉形 ・結露防止形	・屋内外用 ⊙屋内用	⊙鍵付き

(品質・性能)
建築材料等品質性能表による
(試験方法)
建築材料等品質性能表による

20 耐震スリット

方　向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
⊙ 垂直方向 ・ 水平方向	※ 完全（全貫通型）	⊙ 耐火型 ・ 非耐火型	⊙ 有り ・ 無し	⊙ t=25mm

目地

目地	内壁	外壁
目地材(mm)	・シーリング材（見え掛かりのみ） ・	・シーリング材(見え掛かりのみ) ⊙シーリング材（内外とも）
目地寸法（幅m×深さm）	・幅20×深さ10	・幅20×深さ10

目地材の材質は標準仕様書表9.7.2による

21 止水板

形　状　・ 差込式　・ 据置式　・ 壁張り式
施工箇所　・図示

22 エキスパンション・ジョイント金物

材種	クリアランス	耐火性能	備考
・アルミニウム製 ⊙ステンレス製	・50 ⊙100 ・200	⊙有り（ 1時間遮熱性能 ） ・無し	

外部は防水型とする

23 くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼（SUS304）製	・ステンレス鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金	

24 流し台ユニット

材種	寸法(mm) W	D	H	備考
・流し台	・1200 ・1500 ・1800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板人造大理石
・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
・つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	－	－	市販品 ステンレス製 ・1段式　・

品質・性能　JIS A 4420による
形状　※図示　・

25 換気口

材種	仕様	径(mm)	取付場所
・鋼板製	・防火ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付き(72℃) ・防火設備適合品 ・耐食塗装仕上げ	・100φ	・天井裏 （建令114条区画部分）

26 消火器

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計　一級建築士　第 93977号　市川　司

整理番号	縮　尺
年 月 日 H28.1.12	NS 原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事
建築工事　特記仕様書（７）

NO. T ― 08

20 ユニット及びその他の工事

26 旗竿

材種	形式	高さ(mm)	操作方法	固定方法	備考
・アルミニウム合金製	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式	

27 旗竿受金物

材　種　・ ステンレス製（SUS 304）

28 車止め支柱

形式		材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製		

29 フェンス

フェンスの種類　⊙ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス
・アルミフェンス

高さ　⊙図示　・

30 プレキャストコンクリート　(20.3.3～4)

コンクリートの設計基準強度
※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/㎥を満足する調合強度
・図示
配筋
※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。
・図示
取付け方法
※図示

31 間知石及びコンクリート間知ブロック積み積み　(20.4.2～3)

材種	材種	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	―	―	
・コンクリート間知ブロック	―		・A　・B	

積み方　※谷積み　・布積み
目塗り　・図示　・ 伸縮目地
伸縮目地　材種　・図示　・
厚さ　・図示　・

21 排水工事

1 排水管　排水管用材料　(21.2.1)(表 21.2.1)(21.3.3)

材種	管の種類	形状	呼び径	備考
・ 遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管（1種）	・B形管	※図示	
・ 硬質ポリ塩化ビニル管	・ VP		※ 図 示	
	・ VU		※ 図 示	
	・ RS-VU		※ 図 示	

基床の厚さ及び種類　・図示
砂地業に用いる材料　※標準仕様書（21.2.3）(a)(1)　・図示
砂利地業に用いる材料　※標準仕様書（21.2.3）(a)(2)　・図示
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料　※接着剤
コンクリート基礎等に用いる材料
※標準仕様書（6.14）
設計基準強度18N/mm2 とする。ただし、コンクリートが簡易な場合の調合（容積比）
セメント１：砂２：砂利４程度とする。
・図示

2 側塊、排水桝等　(21.2.2)

側塊、排水桝等
形状及び寸法　・図示　・
砂地業に用いる材料　※標準仕様書（21.2.3）(a)(1)　・図示
砂利地業に用いる材料　※標準仕様書（21.2.3）(a)(2)　・図示
コンクリート基礎等に用いる材料
※標準仕様書（6.14）
設計基準強度18N/mm2 とする。ただし、コンクリートが簡易な場合の調合（容積比）
セメント１：砂２：砂利４程度とする。
・図示

3 鋳鉄製ふた　(21.2.2)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形（パッキン式） ・密閉形（テーパ・パッキン式） ・中ふた付き密閉形（テーパ・パッキン式）	・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－２０用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会 SHASE-S209による

4 グレーチング　(21.2.2)

材質	形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	亜鉛 めっき（付着量）	上面形状
・鋼製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・Ｕ字溝用	・歩行用	・細目 ・	・（　　） ・	・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目	・（　　） ・	・平形 ・
・ステンレス製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・Ｕ字溝用	・歩行用	―	―	・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	―	―	・平形 ・

（品質・性能）
工事建築材料等品質性能表による
（荷重試験方法）
工事建築材料等品質性能表による

21 排水工事

5 街きょ、縁石、側溝　(21.4.1)(表21.4.1)

街きょ、縁石、側溝

種類	形状、寸法
・縁石	・ 図 示
・L形側溝	・ 図 示
⊙U形側溝	⊙ 図 示
⊙U形側溝ふた	⊙ 図 示
・	・ 図 示

地業の材料　※標準仕様書（4.6.2）(a)による　・図示
砂利地業の厚さ　※100（mm）　・図示
コンクリート基礎等に用いる材料
※標準仕様書（6.14）
設計基準強度18N/mm2 とする。ただし、コンクリートが簡易な場合の調合（容積比）
セメント１：砂２：砂利４程度とする。
・図示

6 埋戻し土　(21.2.3)

※　Ｂ種

22 舗装工事

1 路床　(22.2.2、3、5)(表22.2.2)

路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種 ・建設汚泥から再生した処理土 G	・図示
・遮断層	・川砂、海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量10%以下）	・図示
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン G・クラッシャラン　・切込み砂利 ・川砂、海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量10%以下）	・図示
・フィルター層	・川砂、海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量６%以下） ・	・図示

路床安定処理
・添加材料による安定処理
種類　・普通ポルトランドセメント　・高炉セメントＢ種
・フライアッシュセメントＢ種
・生石灰（　　）　・消石灰（　　）
添加量　kg（目標CBR　・5以上　・　　）
・ジオテキスタイル
単位面積質量　・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm（10kgf/5cm）以上　・
透水係数　・1.5×10-1cm/sec以上　・
試験
砂の粒度試験　・行う　・行わない
路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験　・行う　・行わない
路床締固め度の試験　・行う　・行わない

2 路盤　(22.2.2、3、5)(表 3.2.1)

路盤の厚さ　・図示　・
路盤材料　・砕石
・再生クラッシャラン
・クラッシャラン鉄鋼スラグ
・
・図示
試験
路盤締固め度の試験　※行う　・行わない

3 アスファルト舗装　(22.4.2～6)(表 22.4.1.5)

アスファルト舗装の構成及び厚さ　※図示　・
材料
アスファルト　・ 再生アスファルト　・ ストレートアスファルト
骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材
加熱アスファルト混合物等の種類　(22.4.4)(表22.4.5)

区分	地域	種類
表層	・一般地域	・密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13)
	・寒冷地域	・密粒度アスファルト混合物(13F) ・細粒度アスファルト混合物(13F)
基層	一般及び寒冷地域	粗粒度アスファルト混合物(20)

シールコートの施工　・行う　・行わない
試験
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

4 コンクリート舗装　コンクリート舗装の厚さ　(22.5.2～4、6)(表22.5.4)

舗装の種類	部位	厚さ(mm)
コンクリート舗装	車道部	・図示　・150　・
	歩道部	・図示　・70　・
転圧コンクリート	車道部	・図 示　・150

縁部立下り寸法等　・図示
材料
コンクリート　・標準仕様書表22.5.2による　・
早強セメント　・使用する　・使用しない
注入目地材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ
転圧コンクリートの工法　※図示　・
目地
種類、間隔、構造　※標準仕様書表22.5.4及び図22.5.1による　・図示
試験
コンクリート版厚さの試験　・行う　・行わない

22 舗装工事

5 カラー舗装　(22.6.2～4)(表22.6.1)

種類	部位	車道部の基層	厚さ(mm)
・加熱系 ・常温系	・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物	・車道部 ・歩道部	・無し ・有り	・図示

舗装厚さの許容差　※標準仕様書22.4.2(c)による
材料
添加する材料　・着色骨材（　　）　・自然石（　　）
配合
結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料添加量　・
樹脂系混合物、ニート工法及び塗布工法の配合等　・

6 透水性アスファルト舗装　(22.7.2、3、6)

材料	厚さ(mm)
ストレートアスファルト	⊙図 示

試験
透水性アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　⊙行わない
舗装の平坦性　※著しい不陸がないもの

7 排水性アスファルト舗装　(22.8.2、3、6)

区分	種類	材料	厚さ(mm)
表層	・排水性舗装用アスファルト混合物	・ポリマー改質アスファルトⅡ型	・ 図示
基層	・加熱アスファルト混合物等(密粒アスファルト混合物)	・再生アスファルト ・ストレートアスファルト	・ 図示

舗装の平坦性　※著しい不陸がないもの
試験
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない

8 ブロック系舗装

・ コンクリート平板舗装　(22.9.2、3)

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
※普通平板(N) ・透水平板(P)	※300角	・ 60	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

歩道部に使用するコンクリート平板はG（再生材料を用いた舗装用ブロック）とする。透水平板はG（透水性コンクリート）とする。
仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内

⊙ インターロッキングブロック舗装　(22.9.2、3)

種　類	部位	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm²)	備考
※ 普通ブロック（N） ・ 透水性ブロック（P） ⊙ 図示	車道部	※80　・	※5.0	色彩、表面加工 ・ 標準品
	歩道部	※60　・	※3.0	

歩道部に使用するブロックはG（再生材料を用いた舗装用ブロック）とする。透水性ブロックはG（透水性コンクリート）とする。
仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内

・ 舗石舗装　(22.9.2、3)

種　類	寸法(mm)	厚さ(mm)	施工方法	基　層
※ 小舗石（花こう岩）		・ 80	・ うろこ張り	・コンクリート舗装 ・アスファルト舗装

仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内

9 玉砂利敷き　(22.10.1)

種別
・ Ａ種（施工範囲：・図示　・通路　・　　）
・ Ｂ種（施工範囲：・図示　・建物周囲　・　　）　(―)

10 路面標示用塗料

路面標示用塗料はJIS K 5665（路面標示用塗料）による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
⊙ 1種 G	常温	液状	⊙白	⊙ 150	・ 1.0
・ 2種 G	加熱			・ 100	
・ 3種 1号	溶融	粉体状			

G 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

23 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確認等　(23.1.3)

土壌の水素イオン濃度（pH）試験　・行う　・行わない
水溶性塩類（EC）の試験　・行う　・行わない

2 植栽基盤の整備　(23.2.2)(23.2.4)

植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｄ種	樹高12m以上 （※100　・120　・150） 樹高7m以上～12m未満 （※80　・100） 樹高3m以上～7m未満 （※60　・80） 樹高3m未満 （※50　・60）	・業張り部分 ・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※Ｂ種	※20	・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備　・設ける（※図示　・　　）　・設けない

3 植込み用土　(23.2.3)

※ 現場発生土の良質土　・ 客土

4 土壌改良材　(23.2.3)

・ バーク堆肥 G
施工箇所　※植栽範囲　・図示
使用量　植栽基盤面積1㎡あたり　（　・50L　・　　）

・ 汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）G
施工箇所　※植栽範囲　・図示
使用量　植栽基盤面積1㎡あたり　（　・10L　・　　）
材料
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする

5 樹木　(23.3.2)

樹種、寸法、株立数等　※図示

6 支柱　(23.3.2)

支柱材　※ 丸太（間伐材）G　・ 真竹
防腐処理方法　※加圧式防腐処理丸太材
形式　・図示　(23.3.3)

7 幹巻き用材料　(23.3.2)

材料
※ 幹巻き用テープ　・ わら及びこも

8 芝　(23.4.2)

種類　※ コウライシバ　・ノシバ
芝張りの工法
平地　※目地張り　・べた張り
法面　・目地張り　※べた張り

9 吹付けは種　(23.4.2)

種子の種類	発芽率	施肥量（g/㎡）	備考
※洋芝類（採取後2年以内）	※発芽率80%以上	※70～80g	

10 地被類　(23.4.2)

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数

11 新植、移植樹木、芝等の枯保証　(23.3.4)(23.3.6)(23.4.7)

新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間
※引渡しの日から１年　・無し
移植樹木の枯損処置を行う期間
※引渡しの日から１年　・無し

12 屋上緑化 G　(23.5.2～3)

植栽基盤及び材料
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ　・ 図示　・
排水層　・ 軽量骨材（層の厚さ　：　　）　・ 板状成型品
植込み用土　※ 改良土　・ 人工軽量土
樹木の樹種並びに種類、寸法、株立数、寸法等　※図示
見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等　※ 図示

（品質・性能）
建築材料等品質性能表による
（試験方法）
建築材料等品質性能表による

・屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の樹種並びに種類等　※ 図示
見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等　※ 図示

（品質・性能）
建築材料等品質性能表による
（試験方法）
建築材料等品質性能表による

工法　(23.5.4)

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない
支柱　・ 設置する　（形式　・ 図示　・　　）
かん水装置　・ 設置する　（種類　・　　）

3 解体施工

1 杭の解体体　杭の解体　・行う　・行わない　[解3.9.2]
杭の解体工法　・引抜き工法　・破砕による解体

2 樹木等　樹木の伐採抜根及び移植　[解3.10.1]
※行う　・

3 地下埋設物、埋設配管　地中埋設物及び埋設配管の解体　[解3.11.1]
※行う　・

4 解体後の整地　解体後の埋戻し及び盛土　[解3.12.1]　[標表3.2.1]
⊙行う（各層30cm程度毎に締め固めること）
整地高さ　⊙現状ＧＬ　・
種別
・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・建設汚泥から再生した処理土
Ｃ種の場合
「建設発生土情報交換システム」を活用し、以下の土質の土とする。
発生土利用基準（国営計第59号平成18年８月10日）
表－３　適用用途標準（１）・第１種、第２種、第３種　・
Ｄ種の場合
「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）」により、六価クロム溶出試験を行う。
建設汚泥から再生した処理土の場合
「建設汚泥処理土利用技術基準について（国営計第41号 平成18年6月12日）表－４建設汚泥処理土の適用用途標準」における下記の区分とする。
※第３種処理土　・
・行わない

23 その他

1 三重県「ユニバーサルデザインのまちづくり」推進条例への対応

※本工事建物は三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進条例における特定施設であり、この条例に定められた整備基準に適合するものとする。

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計	整理番号	縮　尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
一級建築士　第 93977号　市川　司	年　月　日 H28.1.12	NS 原図 A2	建築工事　特記仕様書（８）	T ― 09 77

総合仮設・直接仮設　工事区分

工事	工　種	項　目	工事区分 建築・電気	工事区分 機械	工事区分
総合仮設工事	仮設建物	監督員事務所 同備品	○		
		現場事務所 下小屋 倉庫	○	○	共同1棟可
		仮設便所	○	○	共同1棟可
	工事施設	仮囲い	○		
	現場安全	安全費	○	○	統括安全衛生管理は、 建築請負業者とする。
	機械器具	機械器具損料	○	○	
		揚重機費	○	○	
	その他	各種試験費	○	○	
	片付清掃	片付・清掃及び 発生材等の処理	○	○	
		周辺道路清掃	○		
直接仮設工事		仮設足場	○		各設備業者に対して 無償にて使用させる こと。
		清掃・片付け	○	○	
		養生	○	○	

工　事　区　分

No.	項　目		建築・電気	機械	No.	項　目	建築・電気	機械
1	機械基礎及びその仕上		○		27	避難器具		
2	鉄筋コンクリート造の設備工事に関するスリーブ及び箱入れ		○	○	28	浄化槽･受水層･その他の水槽等のコンクリート躯体･断熱及び防水工事		
3	同上鉄筋補強		○		29	同上内部仕上･マンホール及び タラップ		
4	鉄骨造の設備工事 に関するスリーブ及び補強				30	ガソリントラップ及びコンクリート製 グリーストラップ		
5	機械室自体の防音･防振･防水 （機械に附属するものを除く）				31	排水溝（厨房･敷地内通路･機械室）･ルーフドレン･フロアドレン･雨水排水竪樋	○	
6	機械搬入に伴う開口･閉塞及び補強				32	雨水排水竪樋の桝までの横引き		○
7	軽量鉄骨下地天井、 壁ボード類の切込	補強	○		33	雨水配管の防露工事		
		切込	○	○	34	ピット･トレンチ内の排水設備工事		
8	埋込分電盤 端子盤 プルボックス	補強	○		35	出入口のマット下排水目皿及び 排水設備工事（自動ﾄﾞｱ下排水含む）		
		切込	○	○	36	陶製以外の流し類~~（業務用等の厨房流しを除く）~~		
9	乾式壁に取付ける器具の下地補強		○	○	37	同上　附属金物及び接続工事		
10	設備工事に伴う防水貫通用屋上スラブ コンクリート立上げ				38	浴槽		
11	配管・ダクトなどの貫通部防水仕舞		○	○	39	~~鏡（衛生工事に関連しない場合･特殊寸法の場合）~~		
12	屋内外ピット･トレンチ及びそれらの蓋 マンホール･ハンドホールなどの化粧蓋		○	○	40	建物外内壁･ドア･窓枠に取付ける ガラリ類（ガラリ取付け本枠等も含む）	○	
13	屋外配管用スタンション		○	○	41	シャッター･自動ドア等制御盤から 電動盤･スイッチ等に到る配管･配線		
14	二重スラブ内の水及び空気の漏通管 二重壁内の湧水処理費				42	煙感知機連動の扉･シャッター及び 防煙垂れ壁等の自閉用作動装置		
15	大理石･テラゾー･ALC･PC･RC版･鋼板 などの穴あけ		○	○	43	エレベーター昇降口･インジケーター 及び押釦の穴あけ		
16	同上　穴あけに伴う補強		○		44	エレベーター機械室の天井フック取付 ･床穴あけ及び床増内コンクリート		
17	設備機器･ダクト類の化粧囲い		○	○	45	吊ボルトの躯体への支持	○	○
18	吹出口･吸込口･照明器具･スピーカー ･火災報知機･換気扇等の穴あけ		○	○	46	天井吊り型FCU及び全熱交換型換気扇と 操作スイッチとの渡り配管･配線	○	
19	同上　天井穴あけ部の下地補強		○		47	煙感知機から連動制御盤を経て防煙ダンパに至る配管･配線	○	
20	天井･壁･床及びパイプシャフトなどの 点検口		○		48	小便器用節水装置の制御盤以降の配管 配線		
21	ユニットシステム（バス･トイレ･キッチン）及び内部の　･配管･配線				49	電力	○	○
22	ユニットシステム（バス･トイレ･キッチン）への配管･配線及び接続				50	用水	○	○
23	保守用キャットウォーク･タラップ手摺 （設備機器に装着するものを除く）							
24	換気扇取付枠			○				
25	配電盤･制御盤等の基礎（屋内外）							
26	ルーフファン							

月･　日		月･　日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社　市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

年　月　日
H28.1.12

縮　尺
NS

原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

工事区分表

NO.
T — 10

＜敷地概要＞

地名地番	三重県津市長岡町846-2
敷地面積	26,130.33㎡
用途地域	第1種低層住居専用地域
防火地域	指定なし
その他地域・地区	22条区域
指定建ぺい率	60%
指定容積率	100%

＜建物概要＞

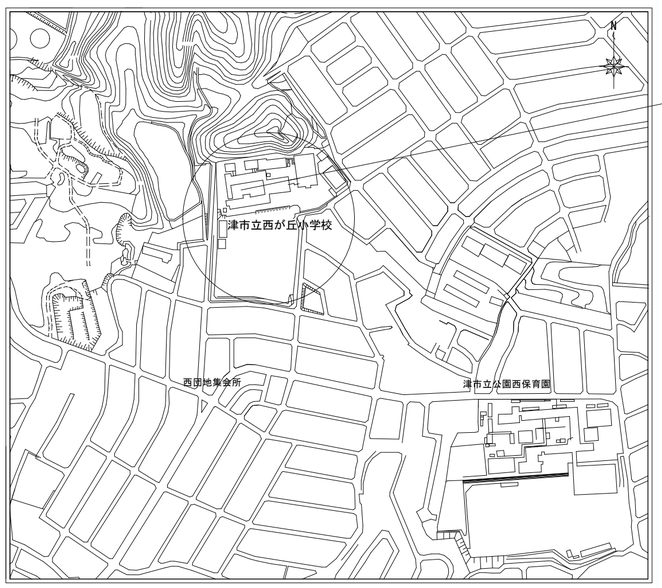
主要用途	小学校
工事種別	増築
構　造	鉄筋コンクリート造
階　数	地上3階
各部の高さ	軒　高　7.550m（増築棟） 最高高さ　8.150m（増築棟）

延床面積

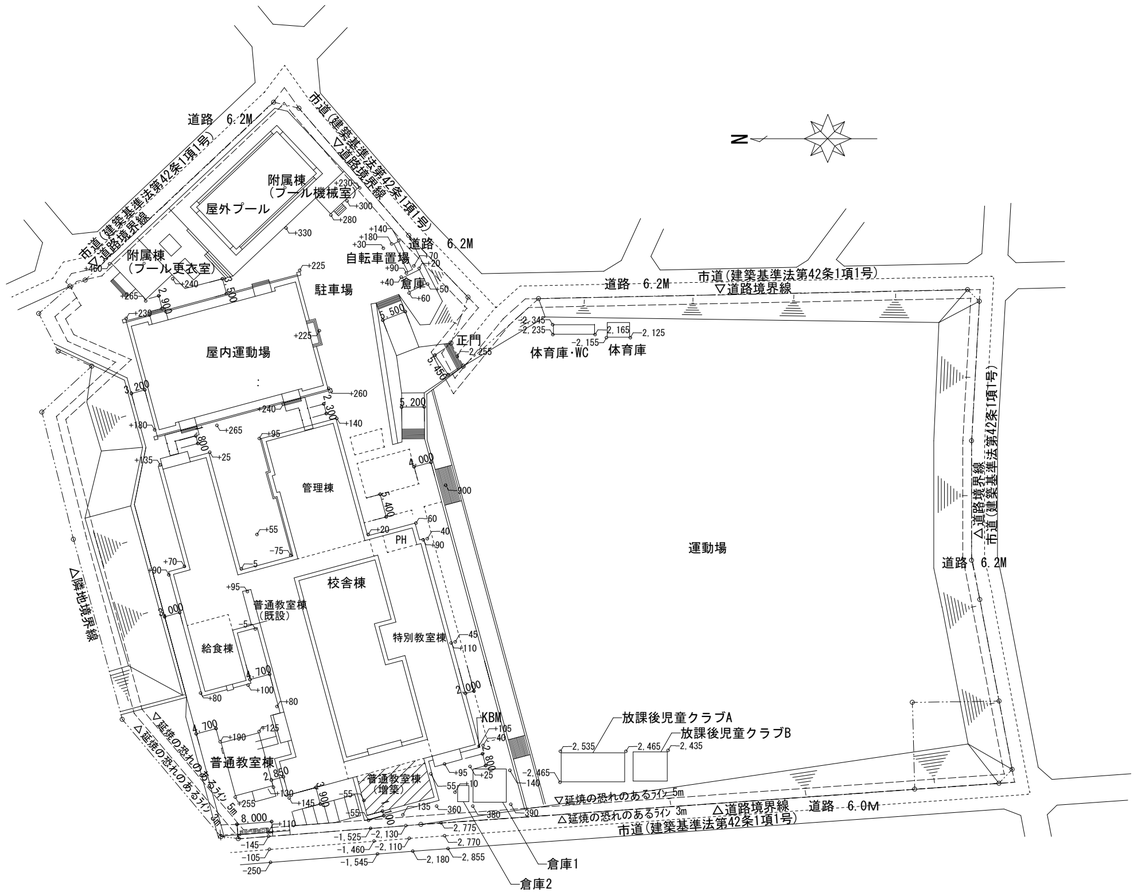
		校舎棟		
		既設	増築	合　計
本体	PH	28.12 ㎡		28.12 ㎡
	３Ｆ	1,746.05 ㎡		1,746.05 ㎡
	２Ｆ	2,202.32 ㎡	152.16 ㎡	2,354.48 ㎡
	１Ｆ	2,293.36 ㎡	152.16 ㎡	2,445.52 ㎡
	小計	6,269.85 ㎡	304.32 ㎡	6,574.17 ㎡
その他	屋内運動場			1000.00 ㎡
	附属棟（プール機械室）			33.00 ㎡
	附属棟（プール更衣室）			62.00 ㎡
	体育庫			32.00 ㎡
	体育庫・ＷＣ			38.00 ㎡
	倉庫			25.00 ㎡
	普通教室棟			227.00 ㎡
	放課後児童クラブＡ			163.62 ㎡
	放課後児童クラブＢ			97.20 ㎡
	倉庫１			58.45 ㎡
	倉庫２			9.62 ㎡
	自転車置場			8.65 ㎡

建築面積

		校舎棟		
		既設	増築	合　計
本体	小計	2,387.97 ㎡	152.16 ㎡	2,540.13 ㎡
その他	屋内運動場			942.93 ㎡
	附属棟（プール機械室）			33.00 ㎡
	附属棟（プール更衣室）			62.00 ㎡
	体育庫			32.00 ㎡
	体育庫・ＷＣ			38.00 ㎡
	倉庫			25.00 ㎡
	普通教室棟			113.45 ㎡
	放課後児童クラブＡ			163.62 ㎡
	放課後児童クラブＢ			104.45 ㎡
	倉庫１			58.45 ㎡
	倉庫２			9.62 ㎡
	自転車置場			8.65 ㎡



案 内 図



配 置 図

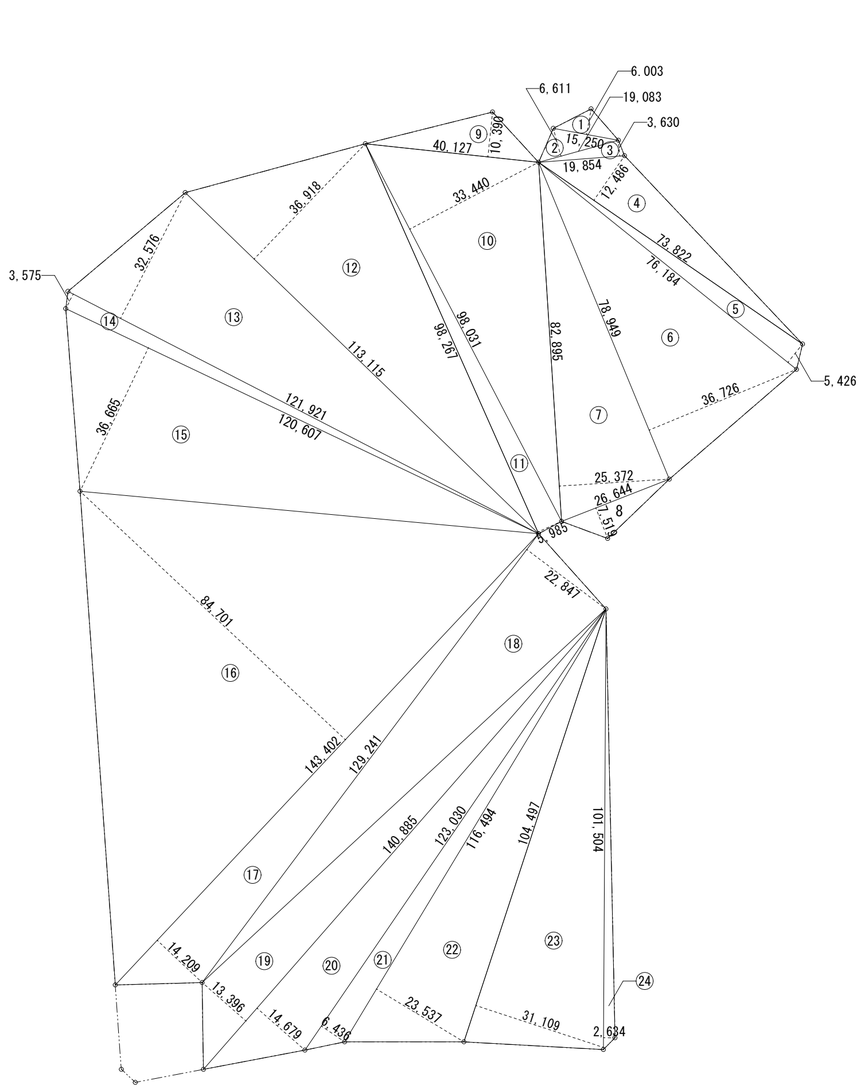
増築建物を示す

※無窓階計算に算入する建具について 道又は道に通ずる幅員１ｍ以上の通路を確保する。

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計	整理番号	縮　尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
一級建築士　第 93977号　市川　司	年　月　日 H28.1.12	A2 1/1000 原図 A2	建築概要・案内図・配置図	D — 01 77



敷地面積求積表					
①	15.250 ＊ 6.003 ／ 2	45.77	⑬	121.921 ＊ 32.576 ／ 2	1,985.85
②	19.083 ＊ 6.611 ／ 2	63.08	⑭	121.921 ＊ 3.575 ／ 2	217.93
③	19.854 ＊ 3.630 ／ 2	36.04	⑮	120.607 ＊ 36.665 ／ 2	2,211.03
④	73.822 ＊ 12.486 ／ 2	460.87	⑯	143.402 ＊ 84.701 ／ 2	6,073.15
⑤	76.184 ＊ 5.426 ／ 2	206.69	⑰	143.402 ＊ 14.209 ／ 2	1,018.80
⑥	78.949 ＊ 36.726 ／ 2	1,449.74	⑱	129.241 ＊ 22.847 ／ 2	1,476.38
⑦	82.895 ＊ 25.372 ／ 2	1,051.61	⑲	140.885 ＊ 13.396 ／ 2	943.65
⑧	26.644 ＊ 7.519 ／ 2	100.17	⑳	140.885 ＊ 14.679 ／ 2	1,034.03
⑨	40.127 ＊ 10.390 ／ 2	208.46	㉑	123.03 ＊ 6.436 ／ 2	395.91
⑩	98.031 ＊ 33.44 ／ 2	1,639.08	㉒	116.494 ＊ 23.537 ／ 2	1,370.96
⑪	98.267 ＊ 5.985 ／ 2	294.06	㉓	104.497 ＊ 31.109 ／ 2	1,625.40
⑫	113.115 ＊ 36.918 ／ 2	2,087.99	㉔	101.504 ＊ 2.634 ／ 2	133.68
				計	26,130.33 ㎡

敷地求積図　　S = 1 / 1000

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

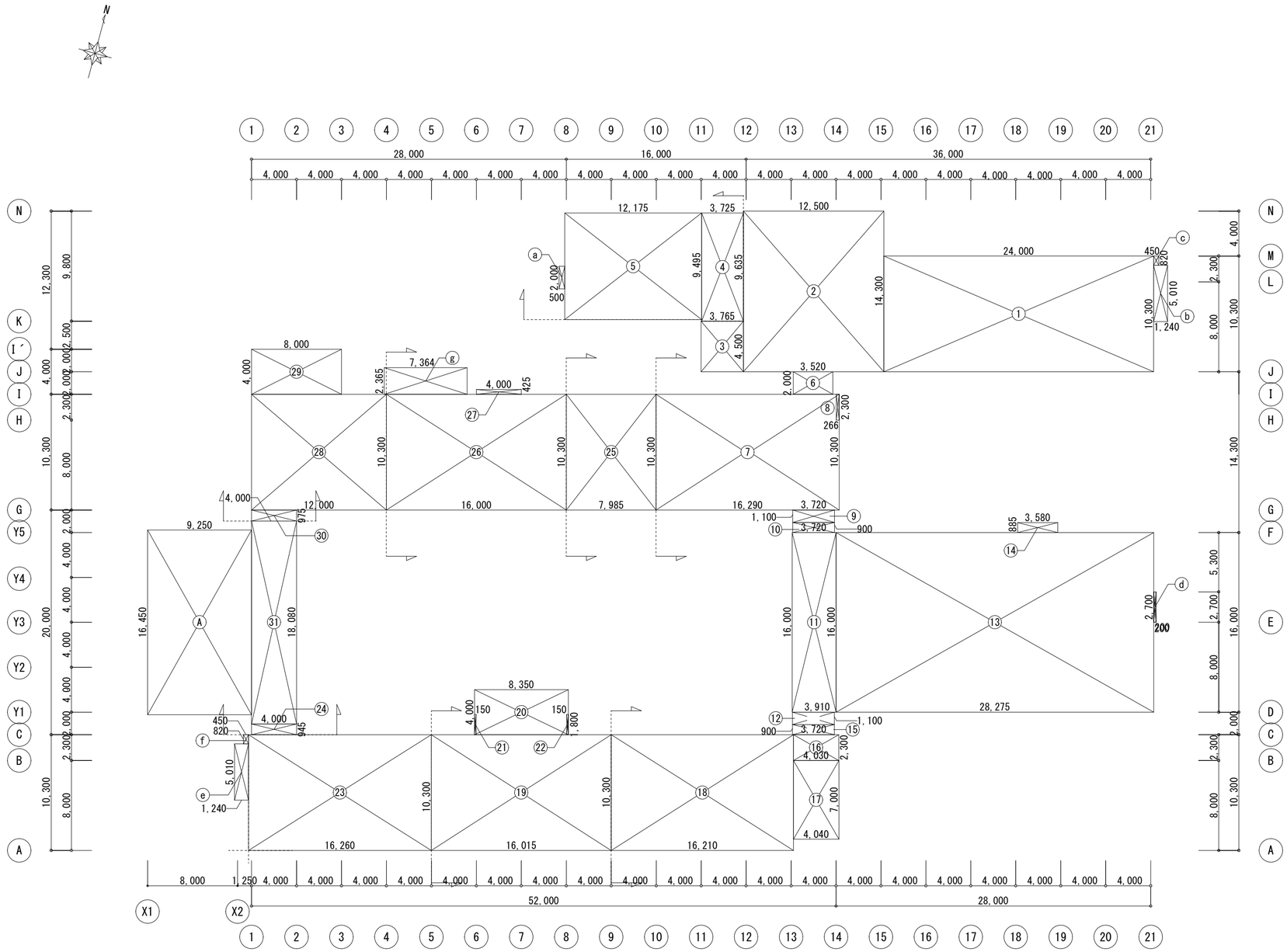
年　月　日
H28.1.12

縮　尺
A2 1/1000
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

敷地求積図・求積表

NO.
D — 02
77



建築面積求積表					
普通教室棟（既設）建築面積求積表			㉘	12.000*10.300	123.60
①	24.000*10.300	247.20	㉙	8.000*4.000	32.00
②	12.500*14.300	178.75	㉚	4.000*0.975	3.90
③	3.765 ＊ 4.500	16.95	㉛	4.000*18.080	72.32
⑥	3.520 ＊ 2.000	7.04	ⓑ	1.240*5.010	6.22
⑦	16.290 ＊ 10.300	167.79	ⓒ	0.450*0.820	0.37
⑧	-0.266 ＊ 2.300	-0.61	ⓖ	7.364*2.365	17.42
⑨	3.720 ＊ 1.100	4.10			
⑩	3.720 ＊ 0.900	3.35			
⑪	3.910 ＊ 16.000	62.56			
⑫	3.720 ＊ 1.100	4.10			
㉕	7.985 ＊ 10.300	82.25			
㉖	16.000*10.300	164.80			
㉗	4.000*0.425	1.70		小計	1,195.81 ㎡
給食棟（既設）建築面積求積表			特別教室棟（既設）建築面積求積表		
④	3.725 ＊ 9.635	35.90	⑮	3.720 ＊ 0.900	3.35
⑤	12.175* 9.495	115.61	⑯	4.030 ＊ 2.300	9.27
ⓐ	0.500*2.000	1.00	⑰	4.040 ＊ 7.000	28.28
			⑱	16.210 ＊ 10.300	166.97
	小計	152.51 ㎡	⑲	16.015 ＊ 10.300	164.96
			⑳	8.350*4.000	33.40
管理棟（既設）建築面積求積表			㉑	-0.150*1.800	-0.27
⑬	28.275*16.000	452.40	㉒	-0.150*1.800	-0.27
⑭	3.580*0.885	3.17	㉓	16.260 ＊ 10.300	167.48
ⓓ	0.200*2.700	0.54	㉔	4.000 ＊ 0.945	3.78
			ⓔ	1.240*5.010	6.22
			ⓕ	0.450*0.820	0.37
	小計	456.11 ㎡		小計	583.54 ㎡
				計	2,387.97 ㎡

普通教室棟（増築）建築面積求積表		
Ⓐ	9.250 ＊ 16.450	152.163
	計	152.163 ㎡

校舎棟　建築面積求積図　　S=1/300

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

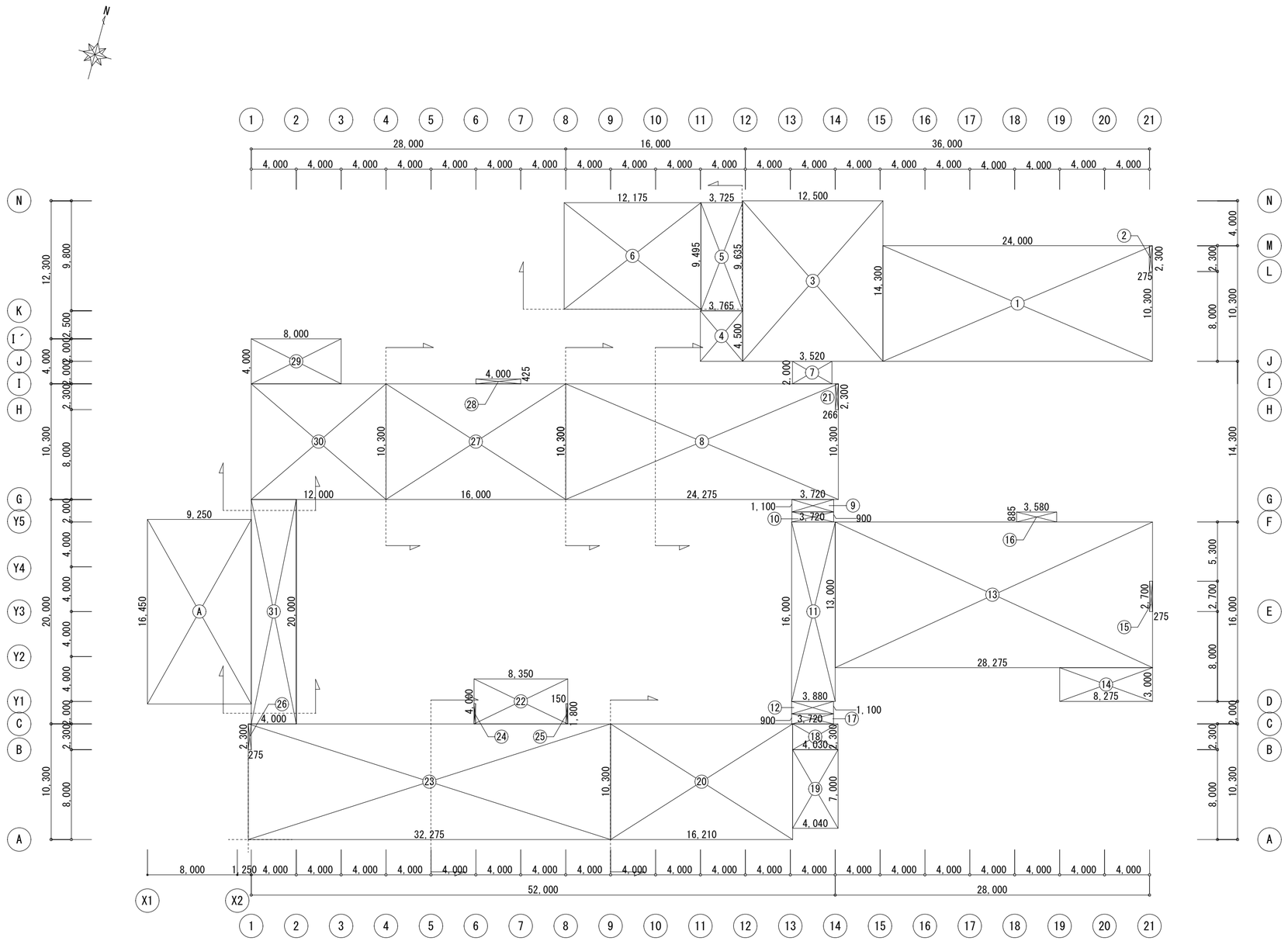
整理番号
年　月　日

縮　尺
A2 1/300
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

建築面積求積図・求積表

NO.
D — 03
77



校舎棟　１階求積図　　S=1/300

１階床面積求積表					
普通教室棟（既設）１階床面積求積表			㉙	8.000*4.000	32.00
①	24.000*10.300	247.20	㉚	12.000*10.300	123.60
②	-0.275* 2.300	-0.63	㉛	4.000*20.000	80.00
③	12.500*14.300	178.75			
④	3.765 * 4.500	16.95			
⑦	2.000 * 3.520	7.04			
⑧	24.275*10.300	250.04			
⑨	3.720 * 1.100	4.10			
⑩	3.720 * 0.900	3.35			
⑪	3.880 * 16.000	62.08			
⑫	3.720 * 1.100	4.10			
㉑	-0.266* 2.300	-0.61			
㉗	16.000*10.300	164.80			
㉘	4.000*0.425	1.70		小計	1,174.47 ㎡
給食棟（既設）１階床面積求積表			特別教室棟（既設）１階床面積求積表		
⑤	3.725 * 9.635	35.90	⑰	3.720*0.900	3.35
⑥	12.175* 9.495	115.61	⑱	4.030*2.300	9.27
			⑲	7.000*4.040	28.28
	小計	151.51 ㎡	⑳	16.210*10.300	166.97
			㉒	8.350*4.000	33.40
管理棟（既設）１階床面積求積表			㉓	32.275*10.300	332.44
⑬	28.275*13.000	367.58	㉔	-0.150*1.800	-0.27
⑭	8.275*3.000	24.83	㉕	-0.150*1.800	-0.27
⑮	-0.275*2.700	-0.74	㉖	-0.275*2.300	-0.63
⑯	3.580*0.885	3.17			
	小計	394.84 ㎡		小計	572.54 ㎡
				計	2,293.36 ㎡

普通教室棟（増築）１階床面積求積表		
Ⓐ	9.250 * 16.450	152.163
	計	152.163 ㎡

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

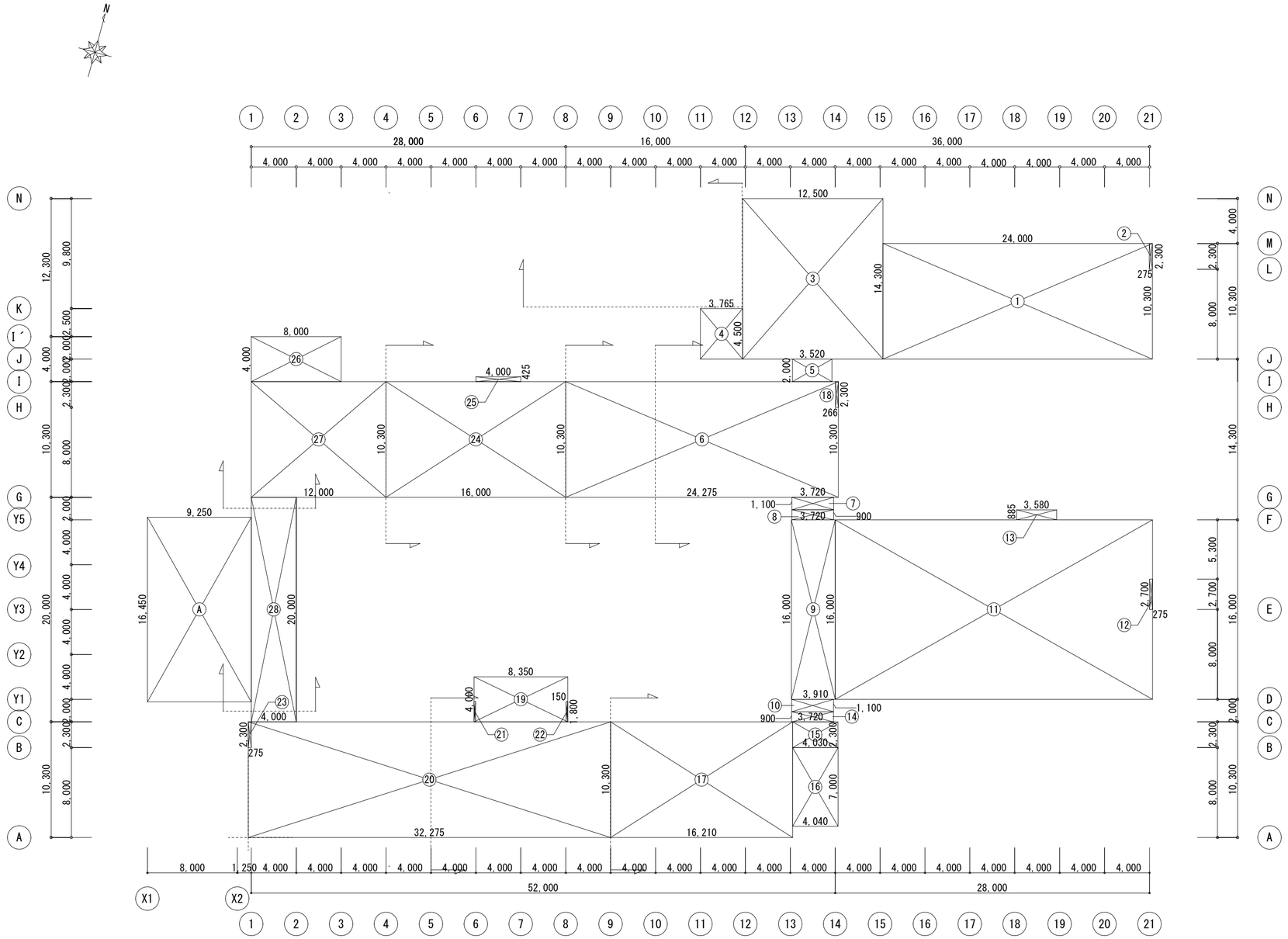
整理番号
年　月　日

縮　尺
A2 1/300
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

１階求積図・求積表

NO.
D — 04
77



校舎棟　２階求積図　　S=1/300

２階床面積求積表					
普通教室棟（既設）２階床面積求積表			㉖	8.000*4.000	32.00
①	24.000*10.300	247.20	㉗	12.000*10.300	123.60
②	-0.275* 2.300	-0.63	㉘	4.000*20.000	80.00
③	12.500*14.300	178.75			
④	3.765 * 4.500	16.95			
⑤	2.000 * 3.520	7.04			
⑥	24.275*10.300	250.04			
⑦	3.720 * 1.100	4.10			
⑧	3.720 * 0.900	3.35			
⑨	3.910 * 16.000	62.56			
⑩	3.720 * 1.100	4.10			
⑱	-0.266* 2.300	-0.61			
㉔	16.000*10.300	164.80			
㉕	4.000*0.425	1.70		小計	1,174.95 ㎡
			特別教室棟（既設）２階床面積求積表		
			⑭	3.720*0.900	3.35
			⑮	4.030*2.300	9.27
			⑯	7.000*4.040	28.28
			⑰	16.210*10.300	166.97
			⑲	8.350*4.000	33.40
管理棟（既設）２階床面積求積表			⑳	32.275*10.300	332.44
⑪	28.275*16.000	452.40	㉑	-0.150*1.800	-0.27
⑫	-0.275*2.700	-0.74	㉒	-0.150*1.800	-0.27
⑬	3.580*0.885	3.17	㉓	-0.275*2.300	-0.63
	小計	454.83 ㎡		小計	572.54 ㎡
				計	2,202.32 ㎡

普通教室棟（増築）２階床面積求積表		
Ⓐ	9.250 * 16.450	152.163
	計	152.163 ㎡

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

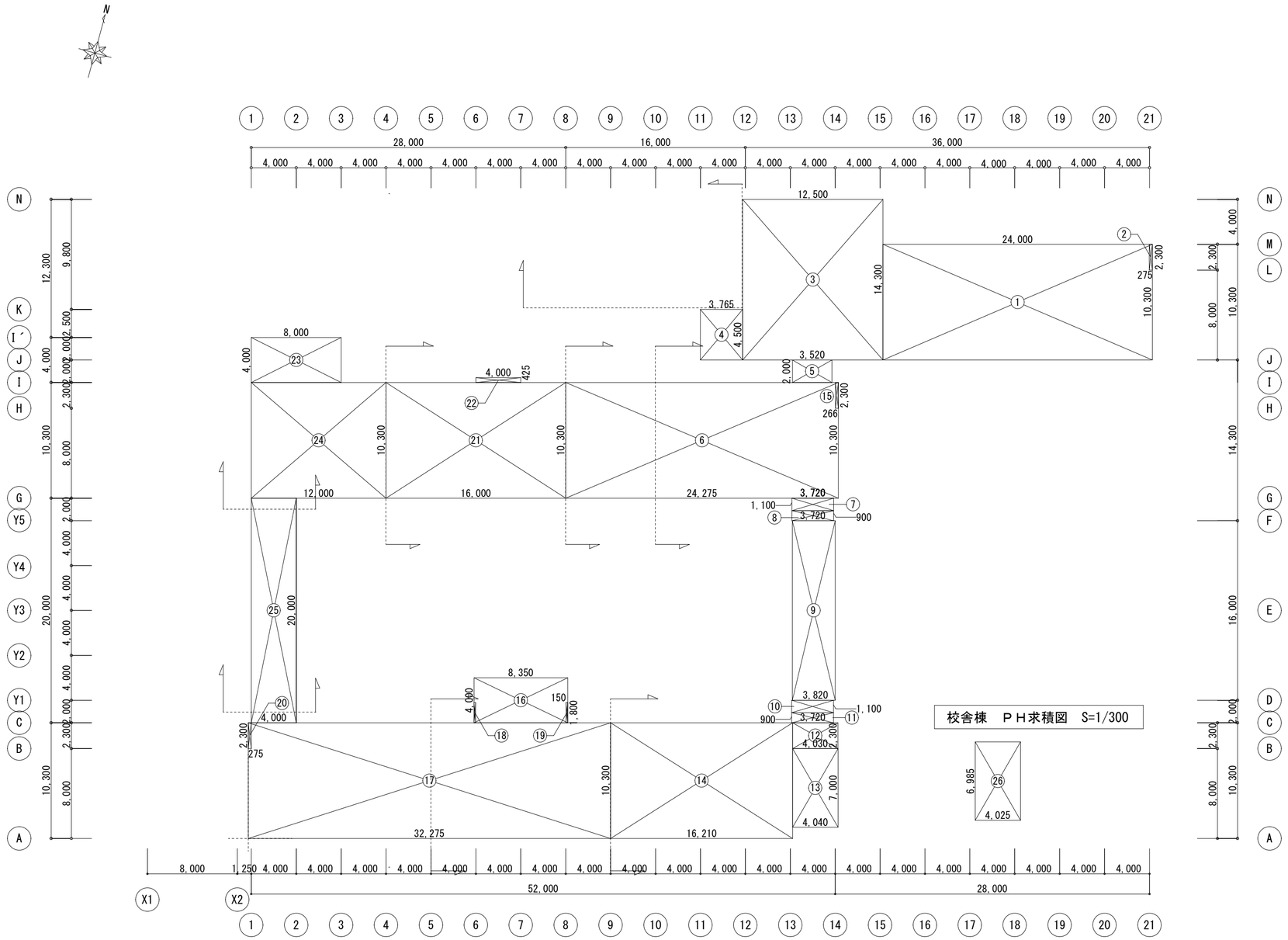
整理番号
年　月　日

縮　尺
A2 1/300
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

２階求積図・求積表

NO.
D — 05
77



校舎棟　３階求積図　　S=1/300

校舎棟　ＰＨ求積図　S=1/300

３階床面積求積表					
普通教室棟（既設）３階床面積求積表			㉓	8.000*4.000	32.00
①	24.000*10.300	247.20	㉔	12.000*10.300	123.60
②	-0.275* 2.300	-0.63	㉕	4.000*20.000	80.00
③	12.500*14.300	178.75			
④	3.765 * 4.500	16.95			
⑤	2.000 * 3.520	7.04			
⑥	24.275*10.300	250.04			
⑦	3.720 * 1.100	4.10			
⑧	3.720 * 0.900	3.35			
⑨	3.820 * 16.000	61.12			
⑩	3.720 * 1.100	4.10			
⑮	-0.266* 2.300	-0.61			
㉑	16.000*10.300	164.80			
㉒	4.000*0.425	1.70		小計	1,173.51 ㎡

特別教室棟（既設）３階床面積求積表		
⑪	3.720*0.900	3.35
⑫	4.030*2.300	9.27
⑬	7.000*4.040	28.28
⑭	16.210*10.300	166.97
⑯	8.350*4.000	33.40
⑰	32.275*10.300	332.44
⑱	-0.150*1.800	-0.27
⑲	-0.150*1.800	-0.27
⑳	-0.275*2.300	-0.63
	小計	572.54 ㎡
	計	1,746.05 ㎡

特別教室棟（既設）ＰＨ床面積求積表		
㉖	4.025 * 6.985	28.12
	計	28.12 ㎡

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号
年　月　日

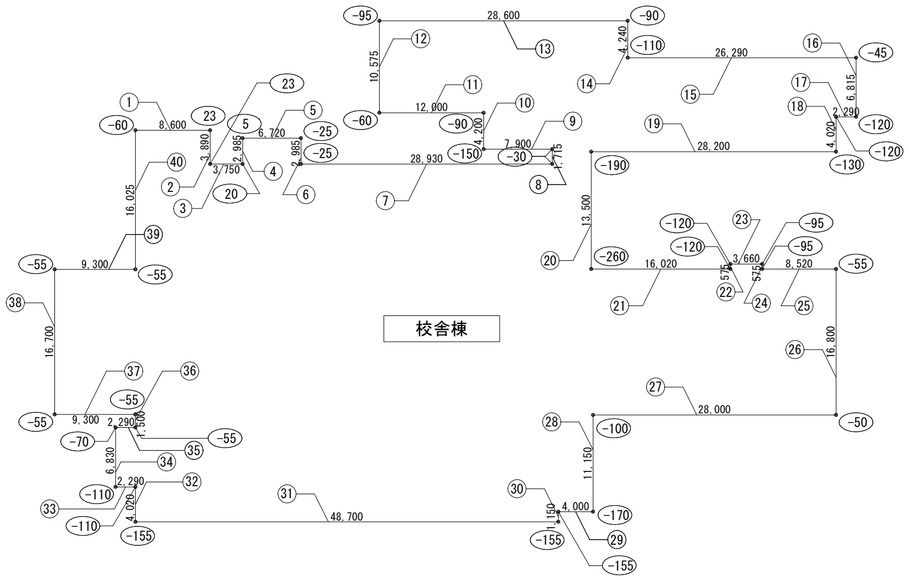
縮　尺
A2 1/300
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

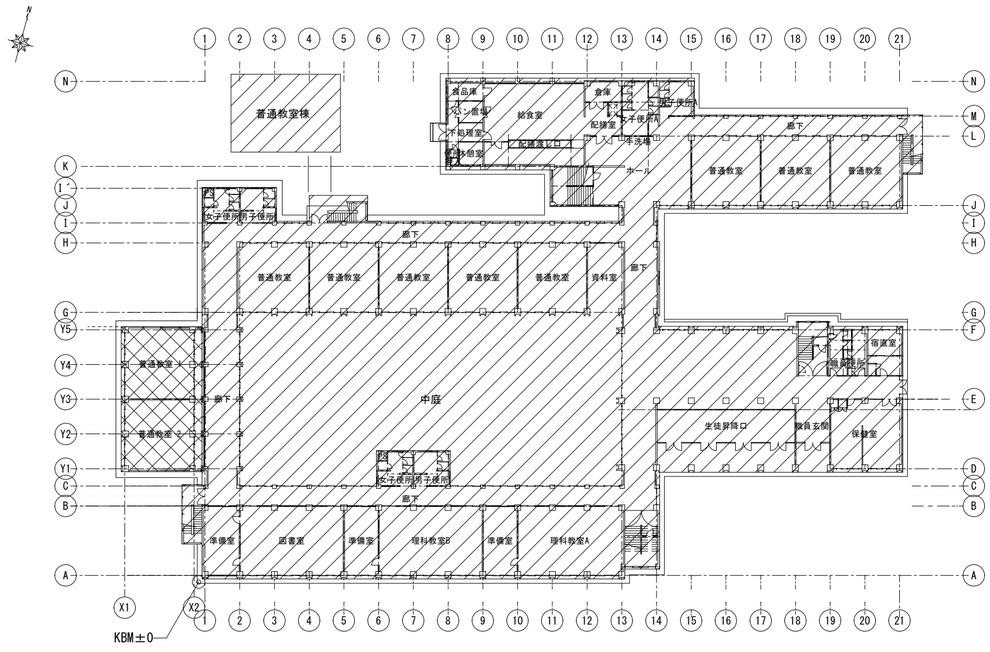
３階求積図・求積表

NO.
D — 06
77

平均地盤算定図、算定表　　S=1/500



校舎棟平均地盤算定											
NO.	H	L	HxL	始点	終点	NO.	H	L	HxL	始点	終点
①	-0.019	8.600	-0.163	-0.060	0.023	㉔	-0.095	0.575	-0.055	-0.095	-0.095
②	0.023	3.890	0.089	0.023	0.023	㉕	-0.075	8.520	-0.639	-0.095	-0.055
③	0.022	3.750	0.083	0.023	0.020	㉖	-0.053	16.800	-0.890	-0.055	-0.050
④	0.013	2.985	0.039	0.020	0.005	㉗	-0.075	28.000	-2.100	-0.050	-0.100
⑤	-0.010	6.720	-0.067	0.005	-0.025	㉘	-0.135	11.150	-1.505	-0.100	-0.170
⑥	-0.025	2.985	-0.075	-0.025	-0.025	㉙	-0.163	4.000	-0.652	-0.170	-0.155
⑦	-0.028	28.930	-0.810	-0.025	-0.030	㉚	-0.155	1.150	-0.178	-0.155	-0.155
⑧	-0.030	1.715	-0.051	-0.030	-0.030	㉛	-0.155	48.700	-7.549	-0.155	-0.155
⑨	-0.090	7.900	-0.711	-0.030	-0.150	㉜	-0.133	4.020	-0.535	-0.155	-0.110
⑩	-0.120	4.200	-0.504	-0.150	-0.090	㉝	-0.110	2.290	-0.252	-0.110	-0.110
⑪	-0.075	12.000	-0.900	-0.090	-0.060	㉞	-0.090	6.830	-0.615	-0.110	-0.070
⑫	-0.078	10.575	-0.825	-0.060	-0.095	㉟	-0.063	2.290	-0.144	-0.070	-0.055
⑬	-0.093	28.600	-2.660	-0.095	-0.090	㊱	-0.055	1.500	-0.083	-0.055	-0.055
⑭	-0.100	4.240	-0.424	-0.090	-0.110	㊲	-0.055	9.300	-0.512	-0.055	-0.055
⑮	-0.078	26.290	-2.051	-0.110	-0.045	㊳	-0.055	16.700	-0.919	-0.055	-0.055
⑯	-0.083	6.815	-0.566	-0.045	-0.120	㊴	-0.055	9.300	-0.512	-0.055	-0.055
⑰	-0.120	2.290	-0.275	-0.120	-0.120	㊵	-0.058	16.025	-0.929	-0.055	-0.060
⑱	-0.125	4.020	-0.503	-0.120	-0.130						
⑲	-0.160	28.200	-4.512	-0.130	-0.190			415.610	-39.501		
⑳	-0.225	13.500	-3.038	-0.190	-0.260						
㉑	-0.190	16.020	-3.044	-0.260	-0.120	面積/全周長					-39.501/415.610
㉒	-0.120	0.575	-0.069	-0.120	-0.120						-0.095043
㉓	-0.108	3.660	-0.395	-0.120	-0.095	平均地盤					KBM-0.105



校舎棟（既設部分）を示す

増築棟を示す

1階キープラン（増築後）

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計　一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

年　月　日　H28.1.12

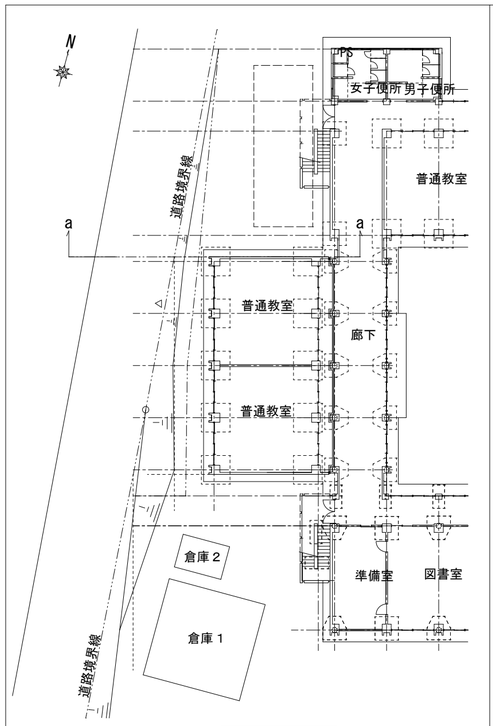
縮　尺　A2 1/500

原図 A2

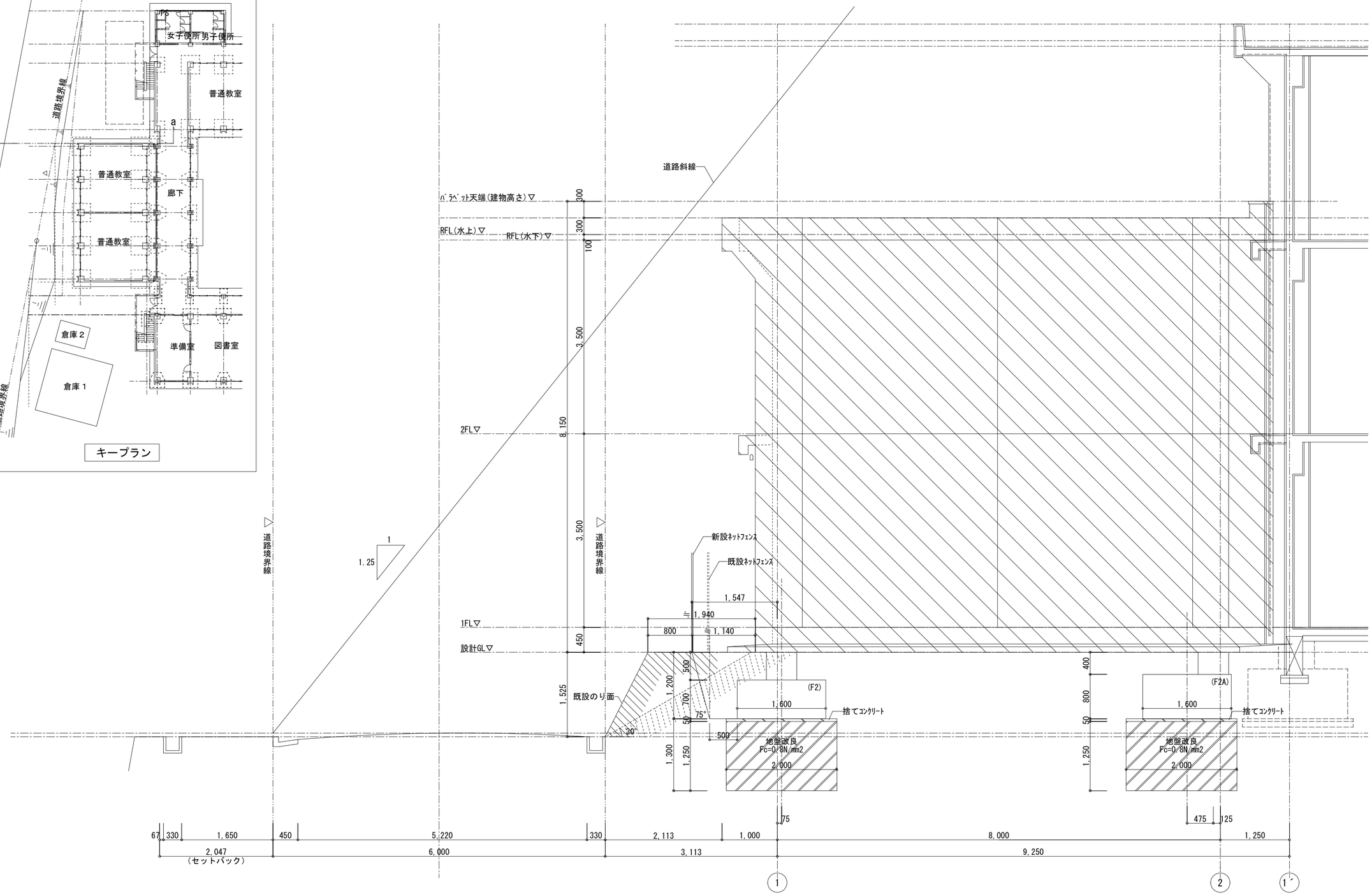
津市立西が丘小学校増築工事

平均地盤算定図、算定表

NO. D — 07



キープラン



建物高さ・位置・のり面検討図　　S=1/50

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

年　月　日
H28.1.12

縮　尺
A2 1/50
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

建物高さ・位置・のり面 検討図

NO.
D — 08
77

外部仕上表

部位		仕上
屋根		
	増築後	改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ防水 屋根露出防水絶縁工法（ﾄｰﾁ工法）
外壁	改修前	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上複層塗材E
	増築後	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修の上複層塗材RE吹付
庇	改修前	ﾓﾙﾀﾙ金鏝の上 亀裂自閉性樹脂防水 及びｶﾗｰｺｰﾄ仕上共 撤去
	増築後	防水ﾓﾙﾀﾙ塗の上ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水(X-2)
犬走り	改修前	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え(t=30)共 撤去
	増築後	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押え 目地@2,000
巾木	改修前	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え
	増築後	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押えの上保護塗料塗り（水性ｼﾘｺﾝ系） 目地@2,000
軒天		
	増築後	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修の上 外装薄塗材E
庇軒裏		
	増築後	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修の上 外装薄塗材E

付属物		仕上
換気孔	改修前	塩ﾋﾞﾊﾞｲﾌﾞφ50(防虫網)
	増築後	SUS製φ50 防虫網(SUS製)付 ｴﾙﾎﾞ付（1ｽﾊﾟﾝ3箇所）
ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ		
	増築後	鋳鉄製φ100
竪樋	改修前	SGPφ100(SOP)撤去
	増築後	ｶﾗｰVPφ100
ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管		
	増築後	SUS304呼径40φ（ﾂﾊﾞ付） SUS製防虫網16ﾒｯｼｭ
笠木		
	増築後	ｱﾙﾐ製
EXP.J金物		
	増築後	ｽﾃﾝﾚｽ製（1時間遮熱）

部位		仕上

内部仕上表

階数	室名		床	巾木	壁	柱型	梁型	廻縁	天井高	天井	備考
1階	普通教室 1	増築	なら複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ t=12直張り 表面単板t=2.0（塗装品）	木製巾木(米栂H=100) SOP	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ下地の上 NAD ﾗﾜﾝ合板 t=5.5張(木製胴縁40×18@300下地)の上 掲示ｸﾛｽ貼り	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ下地の上 NAD	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修の上 NAD	塩ﾋﾞ製	2850	化粧石膏ボード t=9.5張 LGS下地	上下式曲面黒板、児童用ﾛｯｶｰ、掃除具入れ、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ(木製:米栂W150H100 SOP)、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、 予定黒板、教師用棚、掲示ｸﾛｽ、天井裏換気口(ｱﾙﾐ製 防火ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付)
	普通教室 2	増築	なら複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ t=12直張り 表面単板t=2.0（塗装品）	木製巾木(米栂H=100) SOP	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ下地の上 NAD ﾗﾜﾝ合板 t=5.5張(木製胴縁40×18@300下地)の上 掲示ｸﾛｽ貼り	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ下地の上 NAD	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修の上 NAD	塩ﾋﾞ製	2850	化粧石膏ボード t=9.5張 LGS下地	上下式曲面黒板、児童用ﾛｯｶｰ、掃除具入れ、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ(木製:米栂W150H100 SOP)、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、 予定黒板、教師用棚、掲示ｸﾛｽ、天井裏換気口(ｱﾙﾐ製 防火ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付)
	渡り廊下	改修前	ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ貼り t=2.0 一部撤去(下地ﾓﾙﾀﾙ共)	ﾗﾜﾝ OS H=100 撤去	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押えの上EP 撤去	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え の上EP 一部撤去	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え の上EP 一部撤去	塩ﾋﾞ製	2715	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.0目透し張の上 EP LGS下地共 撤去	
		改修後	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ貼り一部新設(下地ﾓﾙﾀﾙ共)	木製巾木(米栂H=100) SOP 新設	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ下地の上 NAD LGS下地 硬質PB t=12.5 貼りの上 NAD	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え の上NAD 一部新設	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え の上NAD 一部新設	塩ﾋﾞ製	2715	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5目透し張の上 EP LGS下地共 新設	消火器ﾎﾞｯｸｽ(埋込型)、消火器(ABC 10型) 、床下点検口(SUS製)
2階	普通教室 3	増築	なら複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ t=12直張り 表面単板t=2.0（塗装品）	木製巾木(米栂H=100) SOP	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ下地の上 NAD ﾗﾜﾝ合板 t=5.5張(木製胴縁40×18@300下地)の上 掲示ｸﾛｽ貼り	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ下地の上 NAD	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修の上 NAD	塩ﾋﾞ製	2850	化粧石膏ボード t=9.5張 LGS下地	上下式曲面黒板、児童用ﾛｯｶｰ、掃除具入れ、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ(木製:米栂W150H100 SOP)、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、 予定黒板、教師用棚、掲示ｸﾛｽ、天井裏換気口(ｱﾙﾐ製 防火ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付)
	普通教室 4	増築	なら複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ t=12直張り 表面単板t=2.0（塗装品）	木製巾木(米栂H=100) SOP	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ下地の上 NAD ﾗﾜﾝ合板 t=5.5張(木製胴縁40×18@300下地)の上 掲示ｸﾛｽ貼り	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ下地の上 NAD	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修の上 NAD	塩ﾋﾞ製	2850	化粧石膏ボード t=9.5張 LGS下地	上下式曲面黒板、児童用ﾛｯｶｰ、掃除具入れ、ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ(木製:米栂W150H100 SOP)、ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ、 予定黒板、教師用棚、掲示ｸﾛｽ、天井裏換気口(ｱﾙﾐ製 防火ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付)
	渡り廊下	改修前	ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ貼り t=2.0 一部撤去(下地ﾓﾙﾀﾙ共)	ﾗﾜﾝ OS H=100 撤去	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押えの上EP 撤去	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え の上EP 一部撤去	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え の上EP 一部撤去	塩ﾋﾞ製	2706	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5目透し張の上 EP LGS下地共 撤去	
		改修後	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ貼り一部新設(下地ﾓﾙﾀﾙ共)	木製巾木(米栂H=100) SOP 新設	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ下地の上 NAD LGS下地 硬質PB t=12.5 貼りの上 NAD	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え の上NAD 一部新設	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え の上NAD 一部新設	塩ﾋﾞ製	2706	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5目透し張の上 EP LGS下地共 新設	消火器ﾎﾞｯｸｽ(埋込型)、消火器(ABC 10型) 新設

■凡例

□ 塗装仕上げの略号

SOP	合成樹脂調合ペイント
AEP	アクリル樹脂系エマルション塗料
UC	ポリウレタン樹脂系クリヤー
CL	クリヤラッカー
DP	耐候性塗料
VP	塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｴﾅﾒﾙ
EP	酢酸ビニル樹脂系エマルション塗料
NAD	非水分散形エマルション塗料
OSCL	オイルステインクリアラッカー
EP-G	つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り

□ 法定防火材料認定番号（通則的認定抜粋）

PB	:石こうﾎﾞｰﾄﾞ<9.5mm:QM-9823、12.5mm、15mm:NM-8612>
耐水PB	:ｼｰｼﾞﾝｸﾞ石こうﾎﾞｰﾄﾞ<9.5mm:QM-9826、12.5mm:NM-9639>
化粧PB	:化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ<9.5mm:QM-0542、12.5mm:NM-1864>
硬質PB	:硬質石こうﾎﾞｰﾄﾞ<9.5mm:NM1908、12.5mm、15mm:NM-9645>
ASB	:繊維混入けい酸カルシウム板<6.0、8.0mm:NM-8578>
GAB	:岩綿吸音板<12.0mm:NM-8599>
有孔PB	:有孔石こうﾎﾞｰﾄﾞ<NM-0879>
EP	:酢酸ビニル樹脂系エマルション塗料<NM-8585>
NAD	:非水分散形エマルション塗料<NM-8585>
ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ	:準不燃SP級<QM-9412>
柱	:鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造<平成12年 告示第1399号>(厚み10cm以上)
梁	:鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造<平成12年 告示第1399号>(厚み10cm以上)
外壁	:鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造<平成12年 告示第1399号>(厚み10cm以上)
屋根	:鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造<平成12年 告示第1399号>(厚み10cm以上)
階段	:鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造<平成12年 告示第1399号>(厚み10cm以上)

・面積区画、異種用途区画(建令第112条)
LGS+PB t=12.5+12.5 両面貼り(天井内ｽﾗﾌﾞ・梁下まで)
H12年 建告第1380号
LGS+PB t=21+21（天井内ｽﾗﾌﾞ・梁下まで）
FP060NP-0046
・防火上主要な間仕切壁(建令第114条)
LGS+PB t=12.5+12.5 両面貼り(天井内ｽﾗﾌﾞ・梁下まで)
H12年 建告第1380号
LGS+PB t=21+21（天井内ｽﾗﾌﾞ・梁下まで）
FP060NP-0046

□ 材料凡例

M	モルタル	W	木
ＴＣＰ	タイルカーペット	ＬＣ	軽量コンクリート
ＶＳ	長尺シート	ＲＣ	鉄筋コンクリート
Ａ防水	アスファルト防水	Ｃ（金）	コンクリート金こて押え
ＰＢ	石こうボード	Ｍ（金）	モルタル金こて押え
	不燃石こう積層板	Ｃ（打）	コンクリート打放し仕上
ＯＳＢ	構造用合板(配向性ｽﾄﾗﾝﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ)	Ｃ化粧（打）	化粧型枠コンクリート打放し
ＭＢ	木毛セメント板	ﾀｲﾙA	せっき質特注ﾀｲﾙ
ＡＳＢ	繊維混入けい酸カルシウム板	ﾀｲﾙB	せっき質特注ﾀｲﾙﾌﾞﾘｯｸﾓﾙﾀﾙ仕上
ＧＡＢ	岩綿吸音板	ﾀｲﾙC	内装100角ﾀｲﾙ
ＧＷ	グラスウール	ﾀｲﾙD	内部床用100角ﾀｲﾙ
Ｓ	鉄骨	ﾀｲﾙE	外部床用100角ﾀｲﾙ
ＬＧＳ	軽量鉄骨		
Ｃ	コンクリート		
ＳＧＰ	配管用炭素鋼管		

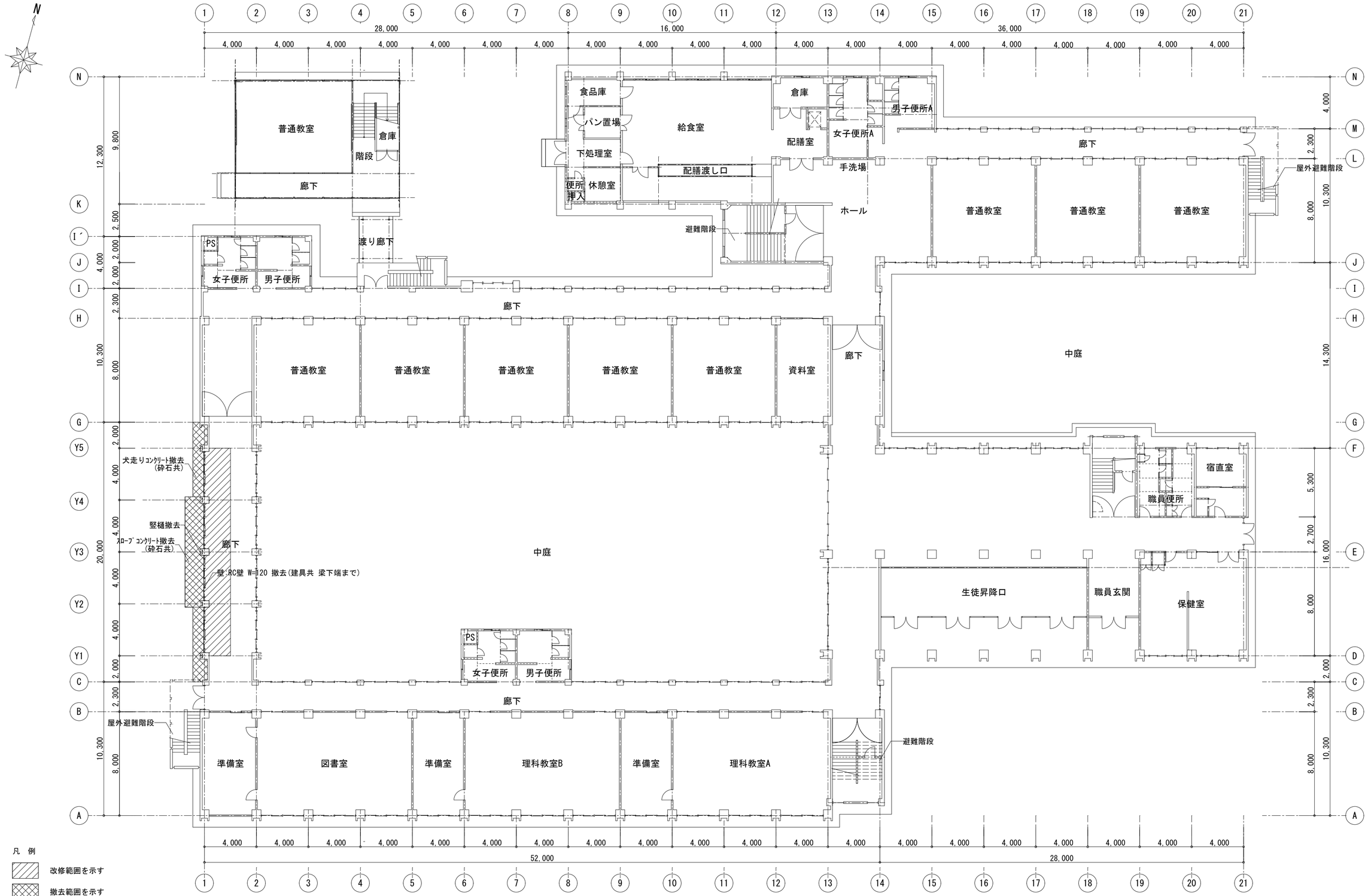
□ 特記事項

１．１ＦＬ±０は、設計ＧＬ+４５０とする。
２．各階スラブレベルは構造図による。
３．床高は各階基準床レベル（ＦＬ）からのレベルを示す。
４．特記なき限りＲＣのＰＢ貼はＧＬ工法（ＰＢ厚１２．５）とする。なお壁のＰＢは全てテーパーボードとし、ウォールジョイント工法（継目処理工法）とする。
５．特記なき限り一般軽量鉄骨間仕切壁はＰＢ９．５＋１２．５ ２枚貼（両面）とする。
６．特記なき限り耐火軽量鉄骨間仕切壁はＰＢ１２．５＋１２．５ ２枚貼（両面・天井内スラブ下まで）とする。（建法１１４条区画もこれに倣う）
７．特記なき限り一般軽量鉄骨間仕切壁は天井内も間仕切する。天井内はＰＢ１枚張（両面）とする。なお遮音壁（図示による）の間仕切壁は天井内もＰＢで２枚張とし、ＧＷ３２ｋｇ品厚５０充填とする。
８．特記なき限りＲＦスラブ下面は、現場発泡ウレタン吹付厚２０とする。
９．特記なき限り接地面の床スラブ下は、捨コン厚５０＋フォームポリスチレンボード厚２５＋ポリエチレンフィルム厚０．１５×２＋砕石厚１００とする。断熱なしの室の床スラブ下は、捨コン厚５０＋ポリエチレンフィルム厚０．１５×２＋砕石厚１００とする。
１０．カーテンボックスはカーテンレールまでとする。
１１．ブラインドボックス、スクリーンボックスはそれぞれブラインド、ロールスクリーン共とする。模型、縦型の区分は図示による。
１２．コンクリート打放し部の Ａ 表記は共仕6.2.5のA種を示す。
１３．使用材料は全てF☆☆☆☆とする
１４．嵩上げｺﾝｸﾘｰﾄ部には溶接金網φ6 @150を含むこと
１５．特記なき限りC化粧（打）は内・外部とも保護塗料塗り（水性シリコン系）

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

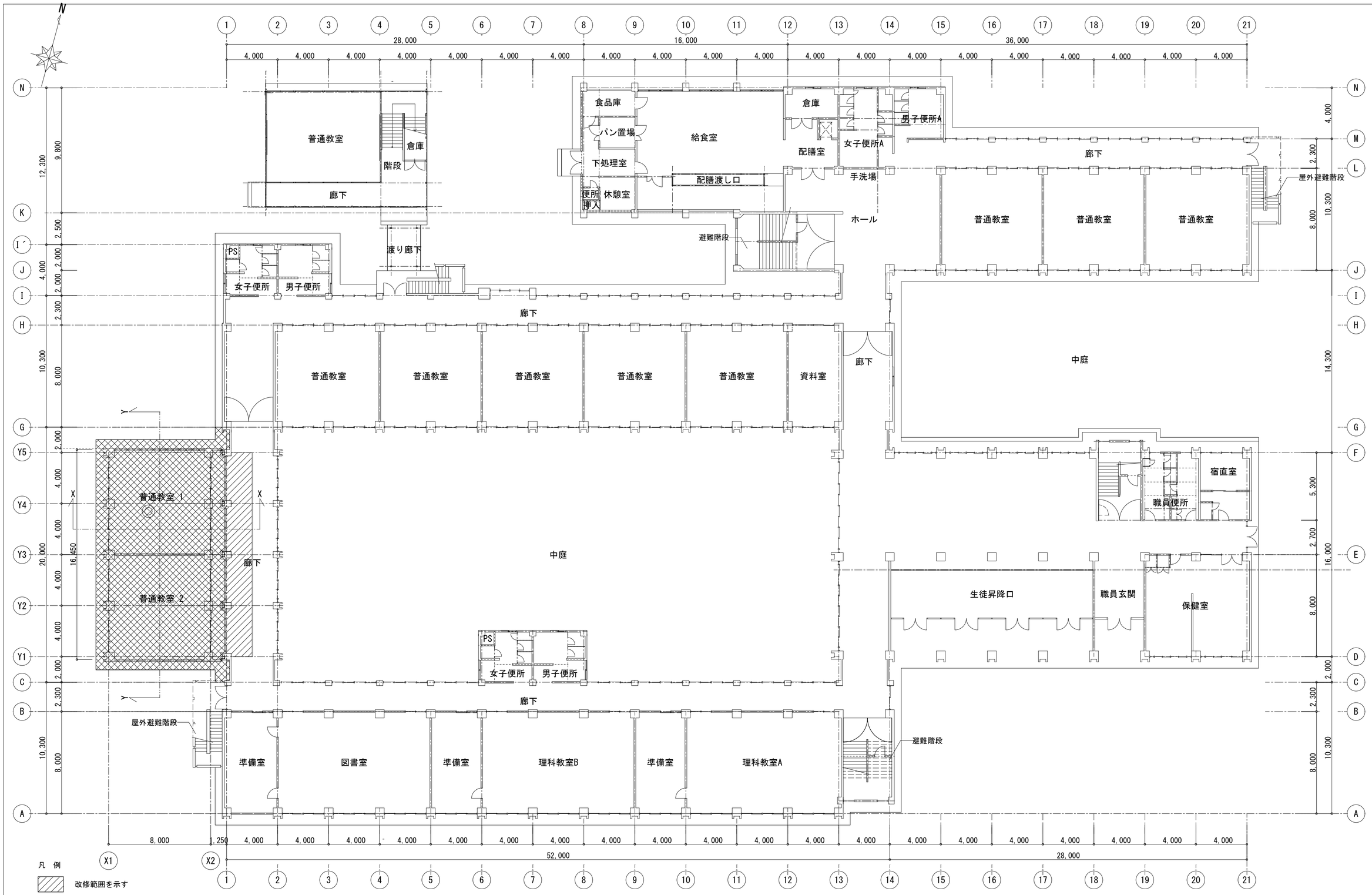
株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設計	整理番号	縮尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
一級建築士 第 93977号 市川 司	年 月 日 H28.1.12	ＮＳ 原図 A2	外部・内部仕上表	D — 09 77



1階平面図（改修前） S=1/200

月・日	月・日	株式会社 市川三千男総合設計	設 計	整理番号	縮 尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
・	・	三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659	一級建築士 第 93977号 市川 司	年 月 日	A2 1/200		D — 10
・	・	一級建築士 第 266489号 山口 裕之		H28.1.12	原図 A2	1階平面図（改修前）	77
・	・						

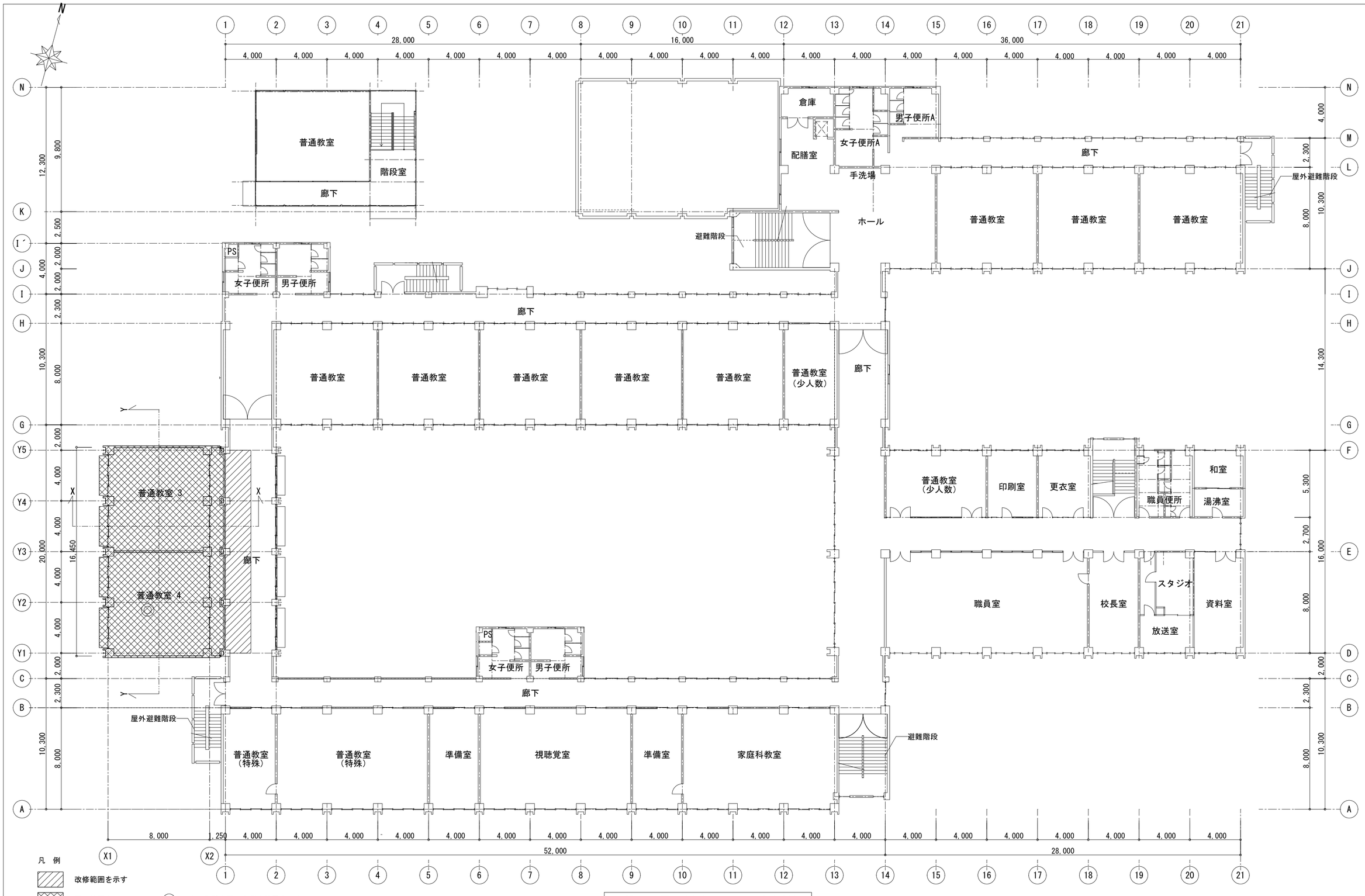


1階平面図（改修後） S=1/200

月・日	月・日	株式会社 市川三千男総合設計	設 計	整理番号	縮 尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
・	・	三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659	一級建築士 第 93977号 市川 司		A2 1/200		D — 11
・	・	一級建築士 第 266489号 山口 裕之		年 月 日 H28.1.12	原図 A2	1階平面図（改修後）	77
・	・						

2階平面図（改修前） S=1/200

月・日	月・日	株式会社 市川三千男総合設計	設 計	整理番号	縮 尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
・	・	三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659	一級建築士 第 93977号 市川 司	年 月 日	A2 1/200	2階平面図（改修前）	D — 12
・	・	一級建築士 第 266489号 山口 裕之		H28.1.12	原図 A2		77



2階平面図（改修後） S=1/200

月・日	月・日
・	・
・	・
・	・

株式会社 市川三千男総合設計

三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設 計
一級建築士 第 93977号 市川 司

整理番号

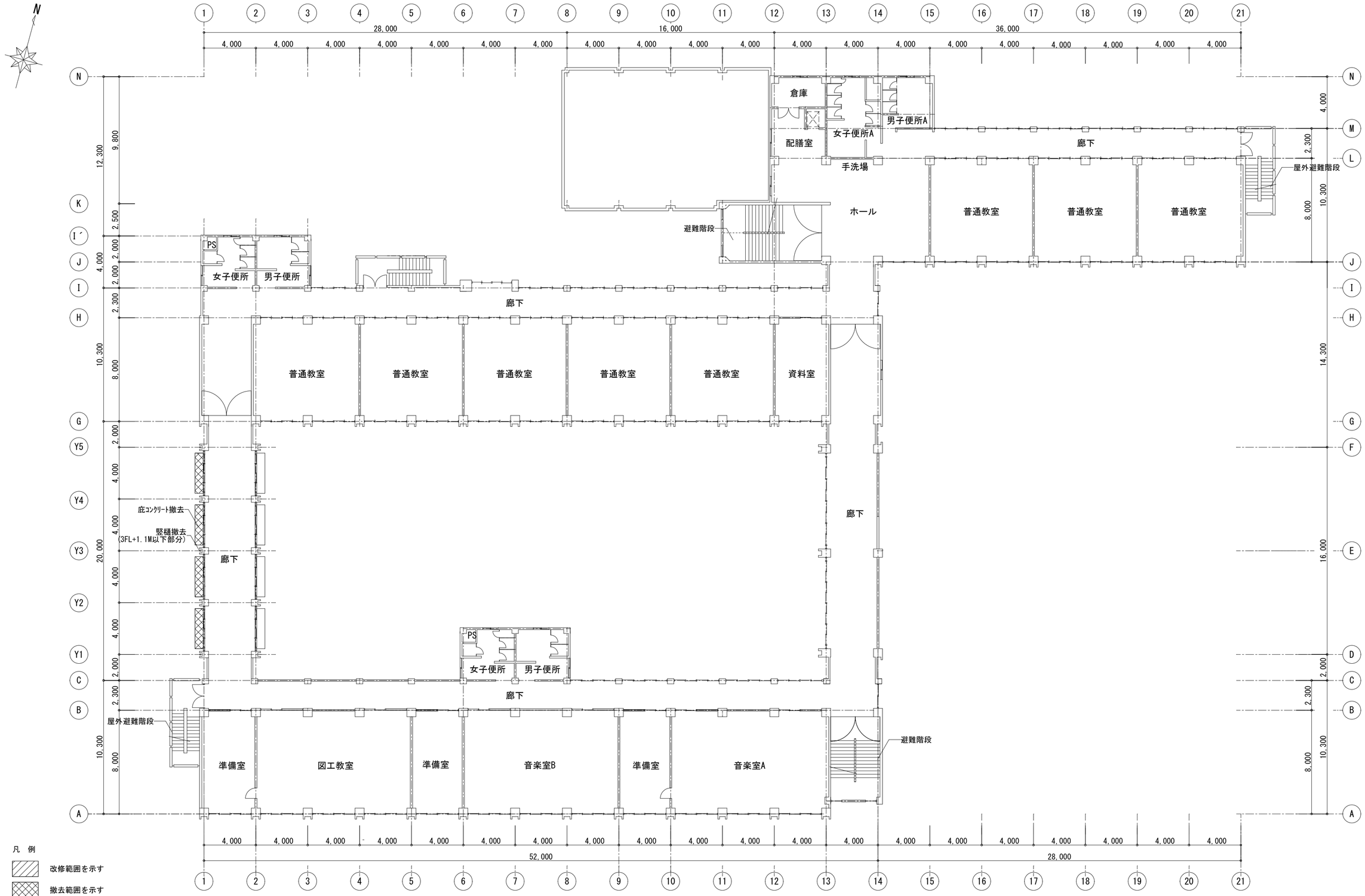
年 月 日
H28.1.12

縮 尺
A2 1/200
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

2階平面図（改修後）

NO.
D — 13



3階平面図（改修前） S=1/200

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設 計
一級建築士 第 93977号 市川 司

整理番号

年 月 日
H28.1.12

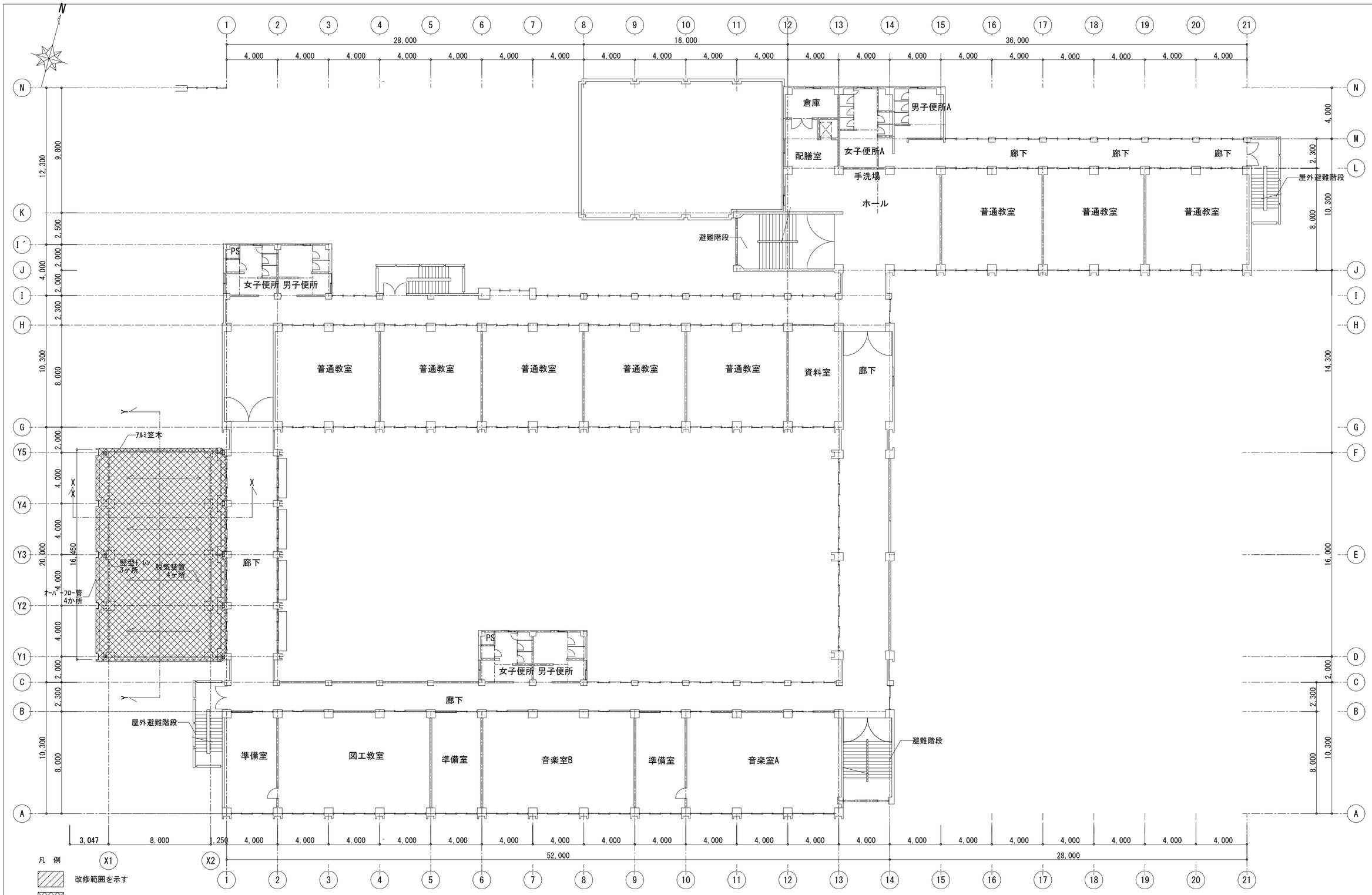
縮 尺
A2 1/200

原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

3階平面図（改修前）

NO.
D — 14



3階平面図（改修後） S=1/200

月・日	月・日
・	・
・	・
・	・

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設 計
一級建築士 第 93977号 市川 司

整理番号

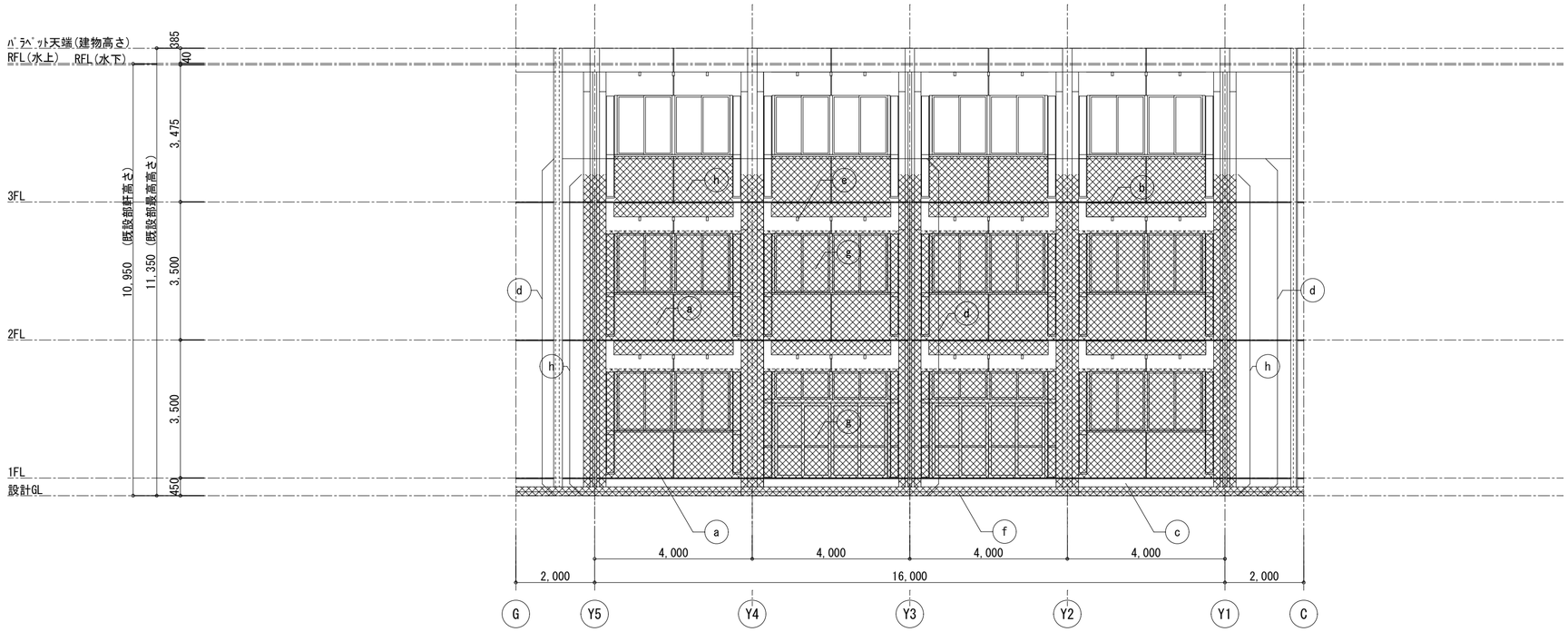
年 月 日
H28.1.12

縮 尺
A2 1/200
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

3階平面図（改修後）

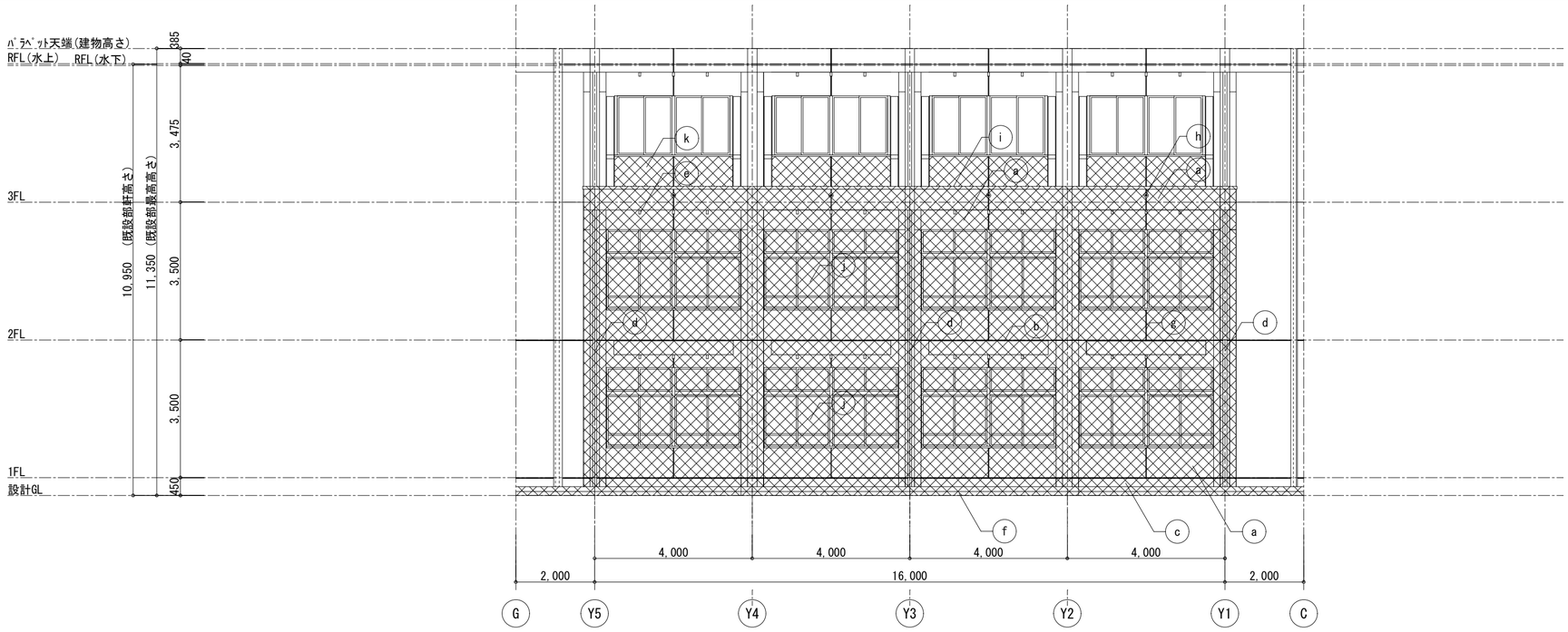
NO.
D — 15
77



西面立面図（改修前）　S=1/100

凡例

a	外壁：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上複層塗材E 撤去
b	庇：ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ塗りの上 塗膜防水仕上 撤去
c	既設巾木：ﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上 t=30
d	既設竪樋：SGPφ100(OP)撤去 (L=8.55M)
e	換気孔：塩ﾋﾞﾊﾟｲﾌﾟφ50(防虫網) 撤去 (開口は通気口として残置)
f	犬走り：ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝押え t=30 撤去
g	ｱﾙﾐ製建具 撤去
h	既設柱型(H=8.15M)･3F腰壁：ｺﾝｸﾘｰﾄ部既存塗膜 (複層塗材E) のみ撤去
▨	撤去範囲を示す



西面立面図（改修後）　S=1/100

凡例

a	外壁：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修の上、複層塗材RE
b	庇：防水ﾓﾙﾀﾙ塗の上ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水(X-2)
c	巾木：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押えの上保護塗料塗り（水性ｼﾘｺﾝ系）
d	竪樋：ｶﾗｰVPφ100 ｽﾃﾝﾚｽ製掴み金物共
e	換気孔：SUS製φ50 外部防虫網(SUSU製)付 ｴﾙﾎﾞ付 (1ｽﾊﾟﾝ3箇所)
f	犬走り：ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押え 目地@2,000
g	目地：化粧目地 W=20
h	ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管：SUS304呼径40φ（ﾂﾊﾞ付） SUS製防虫網16ﾒｯｼｭ
i	笠木：ｱﾙﾐ製
j	ｱﾙﾐ製建具
k	既存塗膜撤去下地補修の上 複層仕上塗材RE吹付 （既設柱型(H=8.15M)･3F腰壁 外壁部分）
l	軒裏：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上、外装薄塗材E
m	EXP.J金物：ｽﾃﾝﾚｽ製
▨	増築範囲を示す

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

年　月　日
H28.1.12

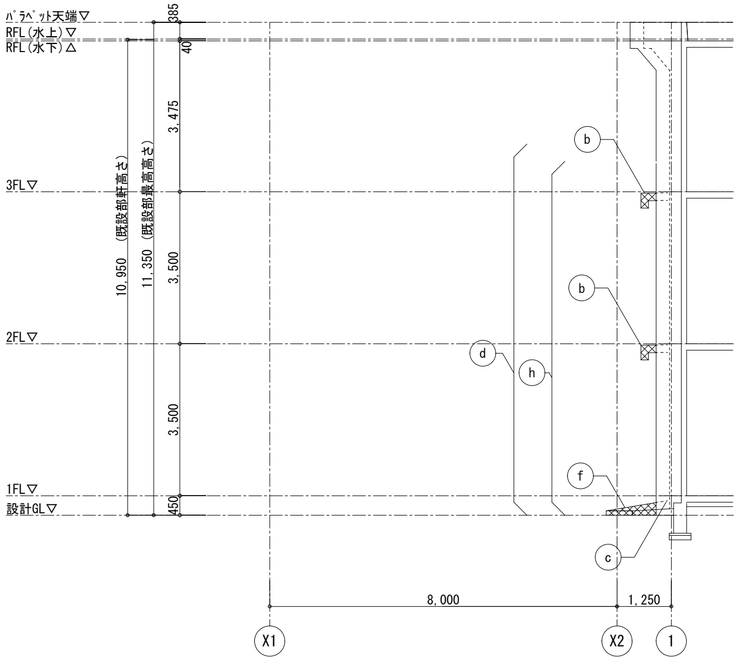
縮　尺
A2 1/100

原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

立面図 1（改修前・後）

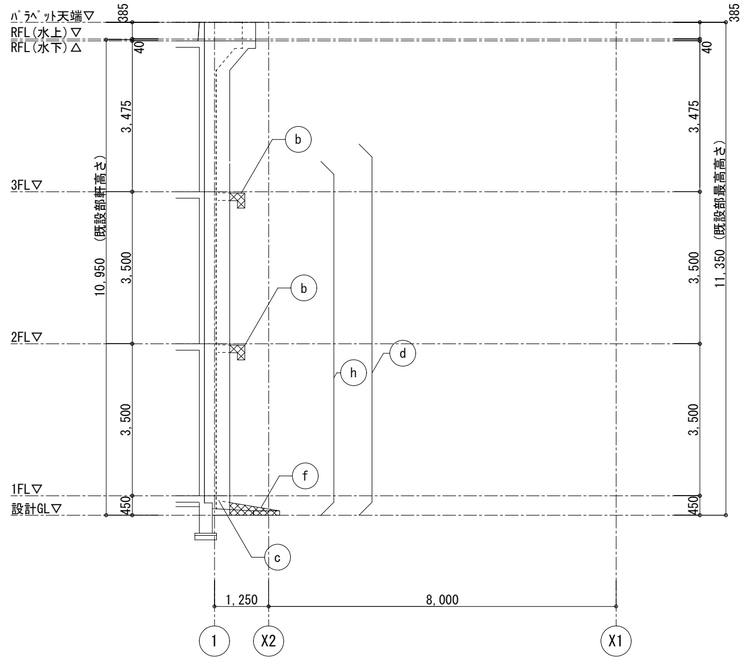
NO.
D — 16



南面立面図（改修前）　S=1/100

凡例

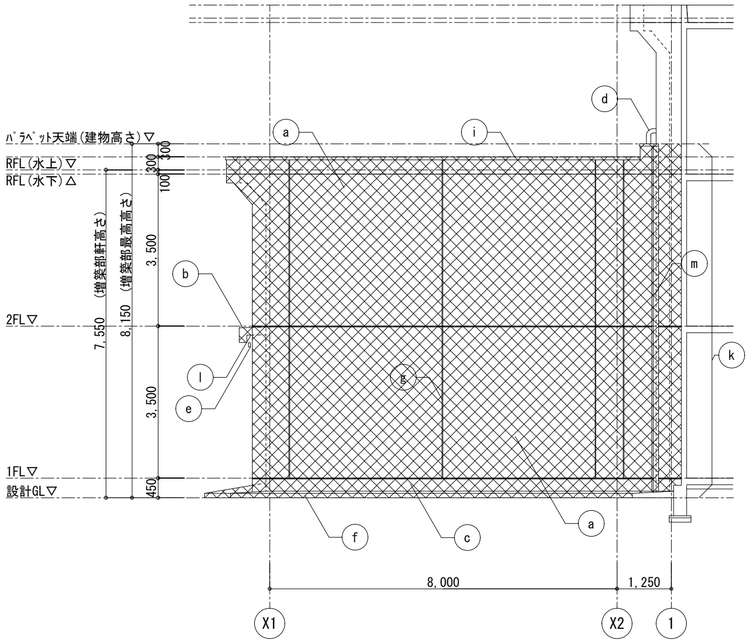
a	外壁：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上複層塗材E 撤去
b	庇：ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ塗りの上 塗膜防水仕上 撤去
c	既設巾木：ﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上 t=30
d	既設竪樋：SGPφ100(OP)撤去 (L=8.55M)
e	換気孔：塩ﾋﾞﾊﾞｲﾌﾟφ50(防虫網) 撤去 (開口は通気口として残置)
f	犬走り：ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝押え t=30 撤去
g	ｱﾙﾐ製建具 撤去
h	既設柱型(H=8.15M)・3F腰壁：ｺﾝｸﾘｰﾄ部既存塗膜 (複層塗材E) のみ撤去
▨	撤去範囲を示す



北面立面図（改修前）　S=1/100

凡例

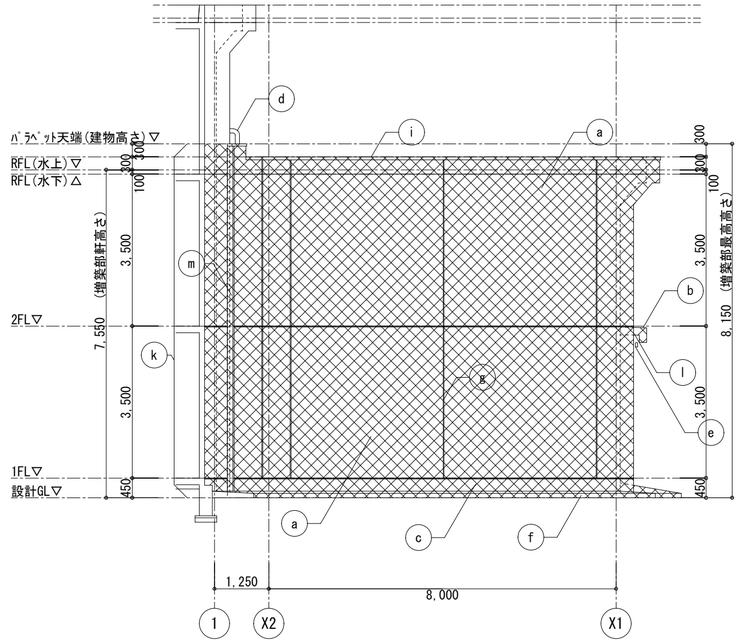
a	外壁：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上複層塗材E 撤去
b	庇：ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ塗りの上 塗膜防水仕上 撤去
c	既設巾木：ﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上 t=30
d	既設竪樋：SGPφ100(OP)撤去 (L=8.55M)
e	換気孔：塩ﾋﾞﾊﾞｲﾌﾟφ50(防虫網) 撤去 (開口は通気口として残置)
f	犬走り：ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝押え t=30 撤去
g	ｱﾙﾐ製建具 撤去
h	既設柱型(H=8.15M)・3F腰壁：ｺﾝｸﾘｰﾄ部既存塗膜 (複層塗材E) のみ撤去
▨	撤去範囲を示す



南面立面図（改修後）　S=1/100

凡例

a	外壁：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修の上、複層塗材RE
b	庇：防水ﾓﾙﾀﾙ塗の上ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水(X-2)
c	巾木：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押えの上保護塗料塗り（水性ｼﾘｺﾝ系）
d	竪樋：ｶﾗｰVPφ100 ｽﾃﾝﾚｽ製掴み金物共
e	換気孔：SUS製φ50 外部防虫網(SUSU製)付 ｴﾙﾎﾞ付 (1ｽﾊﾟﾝ3箇所)
f	犬走り：ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押え 目地@2,000
g	目地：化粧目地 W=20
h	ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管：SUS304呼径40φ (ﾂﾊﾞ付) SUS製防虫網16ﾒｯｼｭ
i	笠木：ｱﾙﾐ製
j	ｱﾙﾐ製建具
k	既存塗膜撤去下地補修の上 複層仕上塗材RE吹付 (既設柱型(H=8.15M)・3F腰壁 外壁部分)
l	軒裏：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上、外装薄塗材E
m	EXP.J金物：ｽﾃﾝﾚｽ製
▨	増築範囲を示す



北面立面図（改修後）　S=1/100

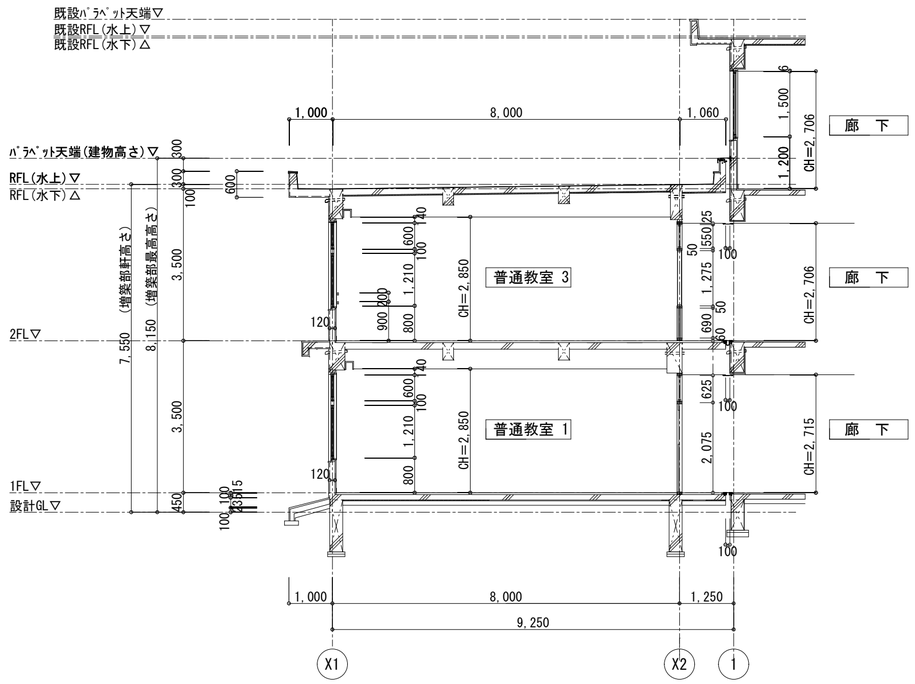
凡例

a	外壁：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修の上、複層塗材RE
b	庇：防水ﾓﾙﾀﾙ塗の上ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水(X-2)
c	巾木：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ押えの上保護塗料塗り（水性ｼﾘｺﾝ系）
d	竪樋：ｶﾗｰVPφ100 ｽﾃﾝﾚｽ製掴み金物共
e	換気孔：SUS製φ50 外部防虫網(SUSU製)付 ｴﾙﾎﾞ付 (1ｽﾊﾟﾝ3箇所)
f	犬走り：ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押え 目地@2,000
g	目地：化粧目地 W=20
h	ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管：SUS304呼径40φ (ﾂﾊﾞ付) SUS製防虫網16ﾒｯｼｭ
i	笠木：ｱﾙﾐ製
j	ｱﾙﾐ製建具
k	既存塗膜撤去下地補修の上 複層仕上塗材RE吹付 (既設柱型(H=8.15M)・3F腰壁 外壁部分)
l	軒裏：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上、外装薄塗材E
m	EXP.J金物：ｽﾃﾝﾚｽ製
▨	増築範囲を示す

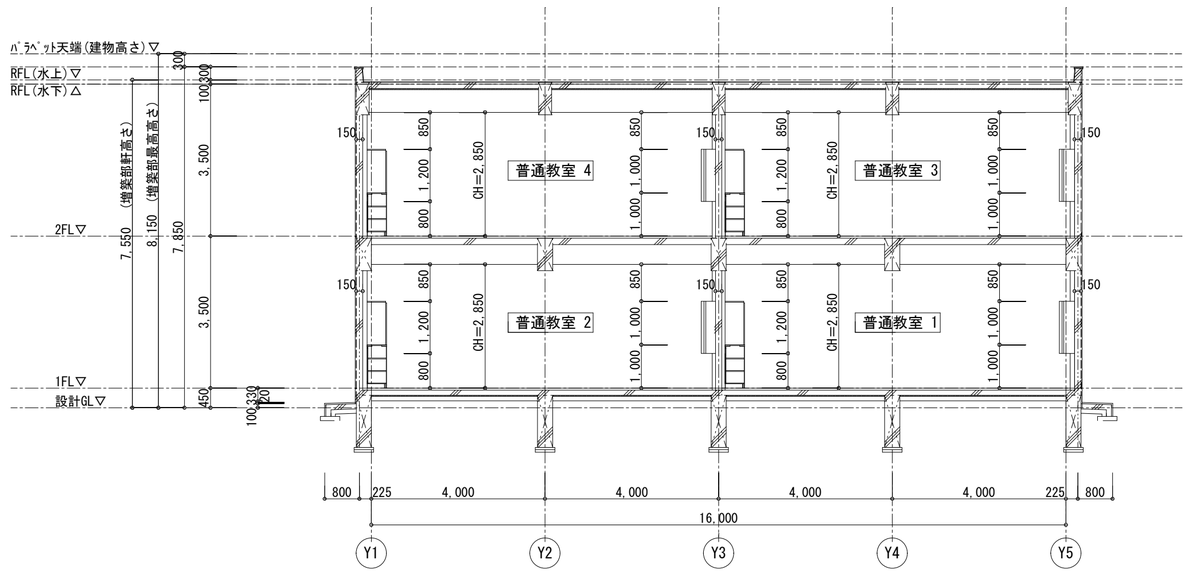
月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設計	整理番号	縮尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
一級建築士　第 93977号　市川　司	年 月 日 H28.1.12	A2 1/100 原図 A2	立面図 2（改修前・後）	D — 17 77

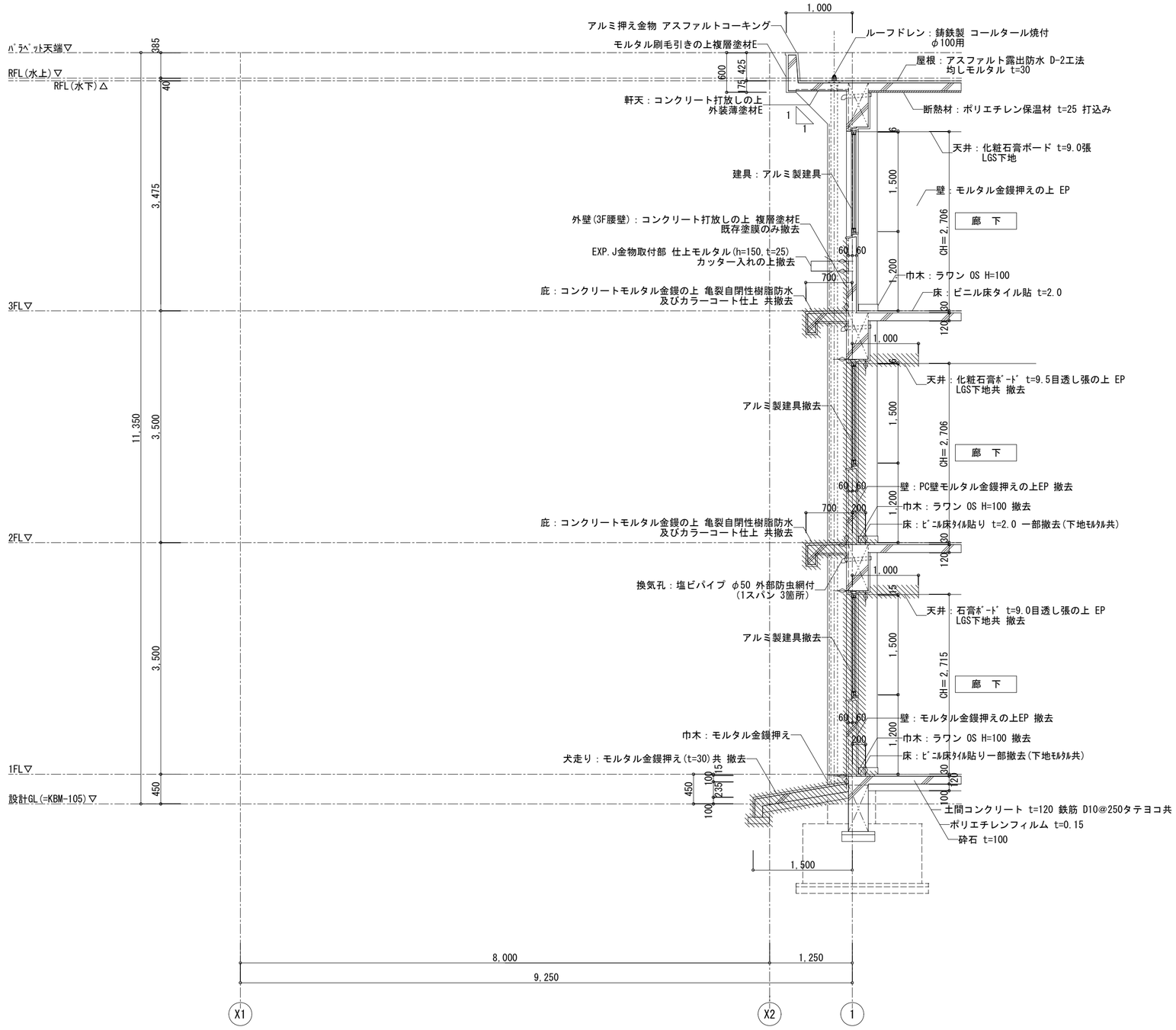


X—X 断面図（改修後）　S=1/100



Y—Y 断面図（改修後）　S=1/100

月・日	月・日	株式会社 市川三千男総合設計	設計	整理番号	縮尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
・	・	三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659	一級建築士 第 93977号 市川 司	年 月 日	A2 1/100		D — 18
・	・	一級建築士 第 266489号 山口 裕之		H28.1.12	原図 A2	断面図（改修後）	77
・	・						



矩計図 1（改修前）　　S=1/50

凡例	
	撤去部分を示す
	既設部分を示す
	ｶｯﾀｰ位置を示す

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口 裕之

設 計
一級建築士　第 93977号　市川 司

整理番号

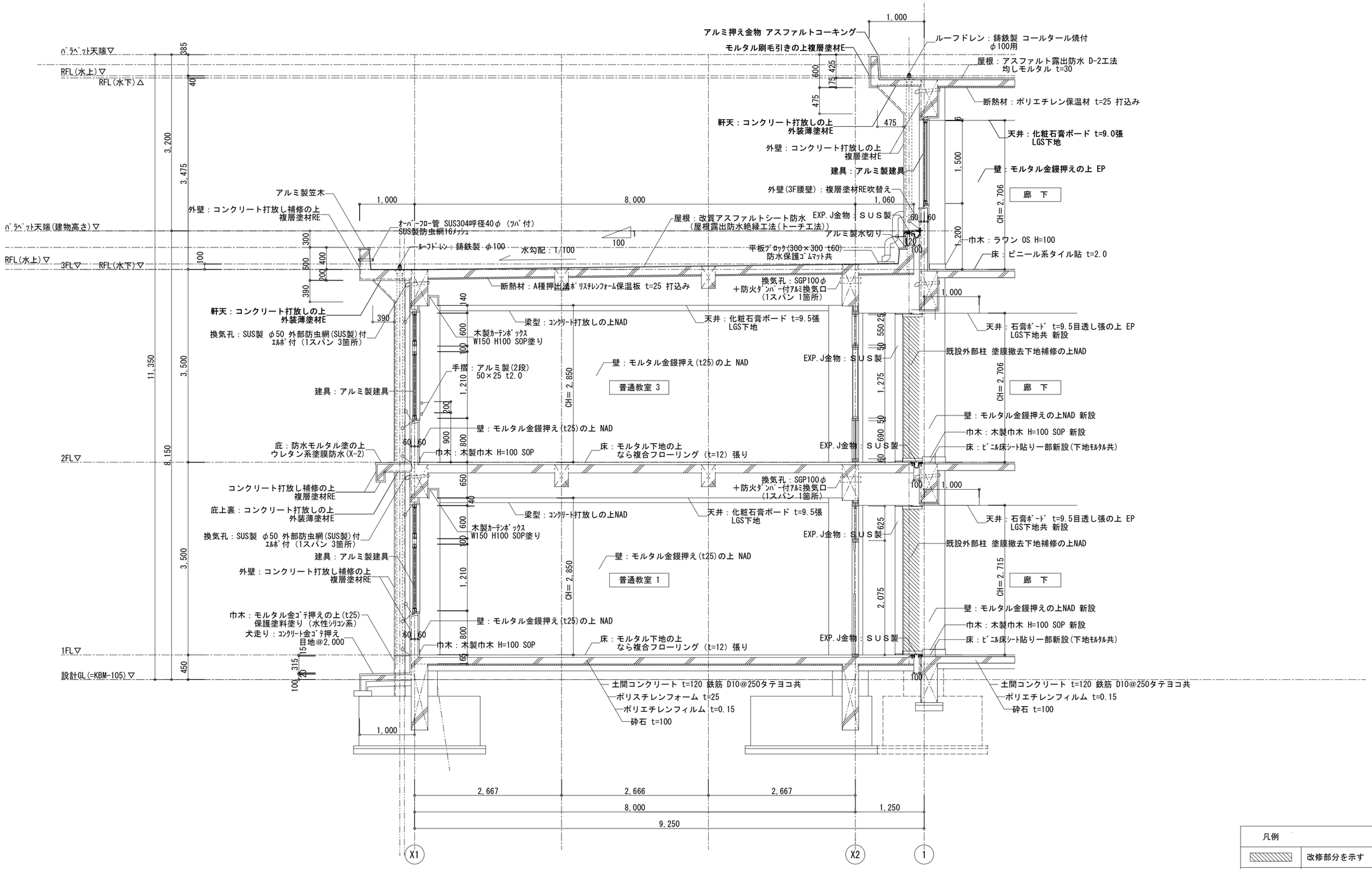
年 月 日
H28.1.12

縮 尺
A2 1/50
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

矩計図 1（改修前）

NO.
D — 19



矩計図 2（改修後）　　S=1/50

凡例	
	改修部分を示す
	既設部分を示す
	ｶｯﾀｰ位置を示す
	ｼｰﾘﾝｸﾞ位置を示す

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口 裕之

設 計：一級建築士 第 93977号 市川 司

整理番号：

年 月 日：H28.1.12

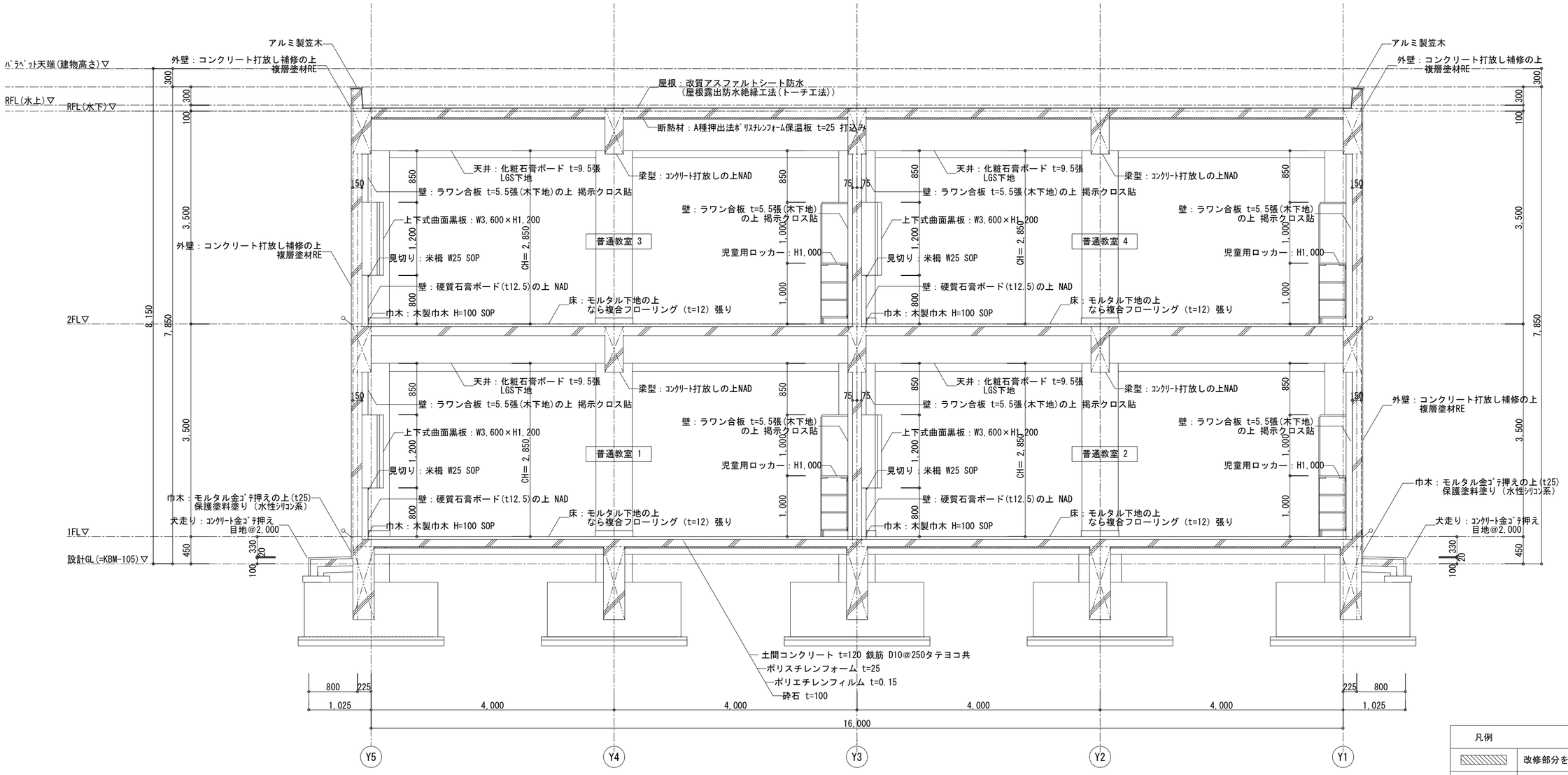
縮 尺：A2 1/50

原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

矩計図 2（改修後）

NO. D — 20



矩計図 3 (改修後)　　S=1/50

凡例	
	改修部分を示す
	既設部分を示す
	ｶｯﾀｰ位置を示す
	ｼｰﾘﾝｸﾞ位置を示す

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口 裕之

設計
一級建築士　第 93977号　市川 司

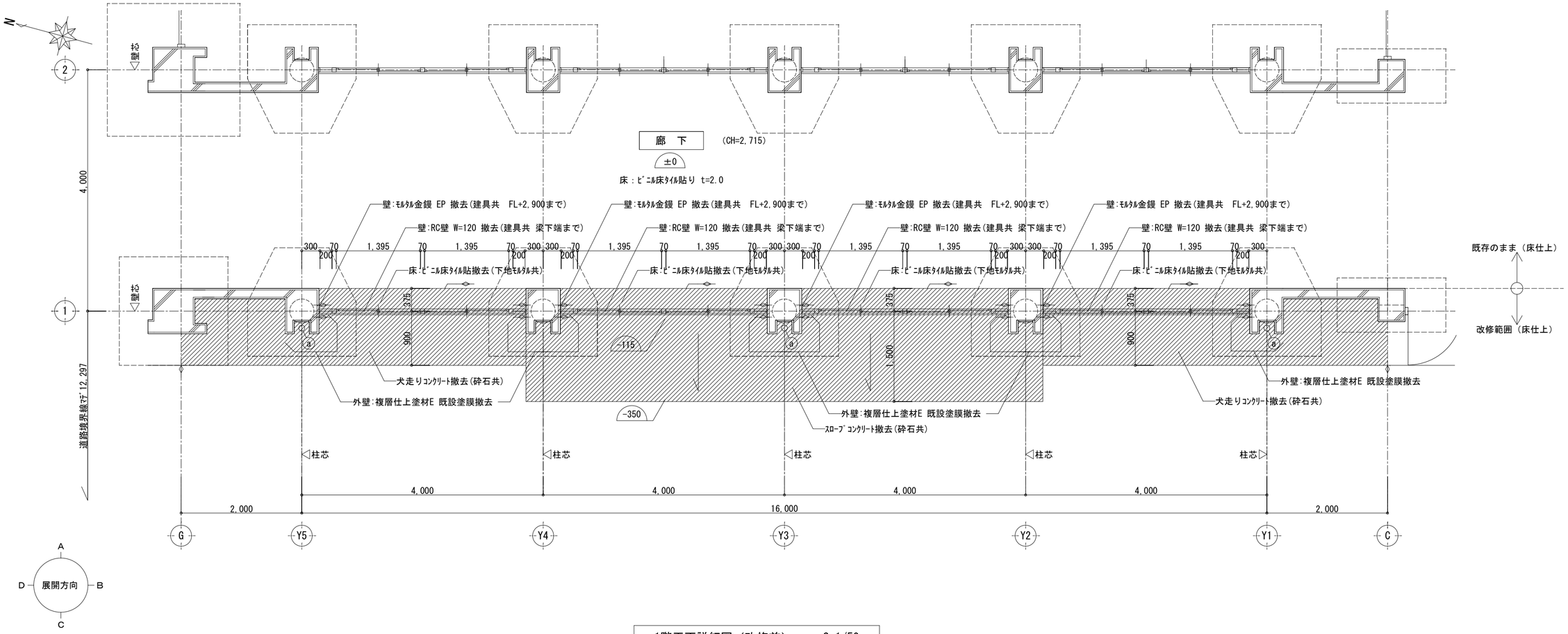
整理番号
年 月 日　H28.1.12

縮尺　A2 1/50
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

矩計図 3 (改修後)

NO. D — 21



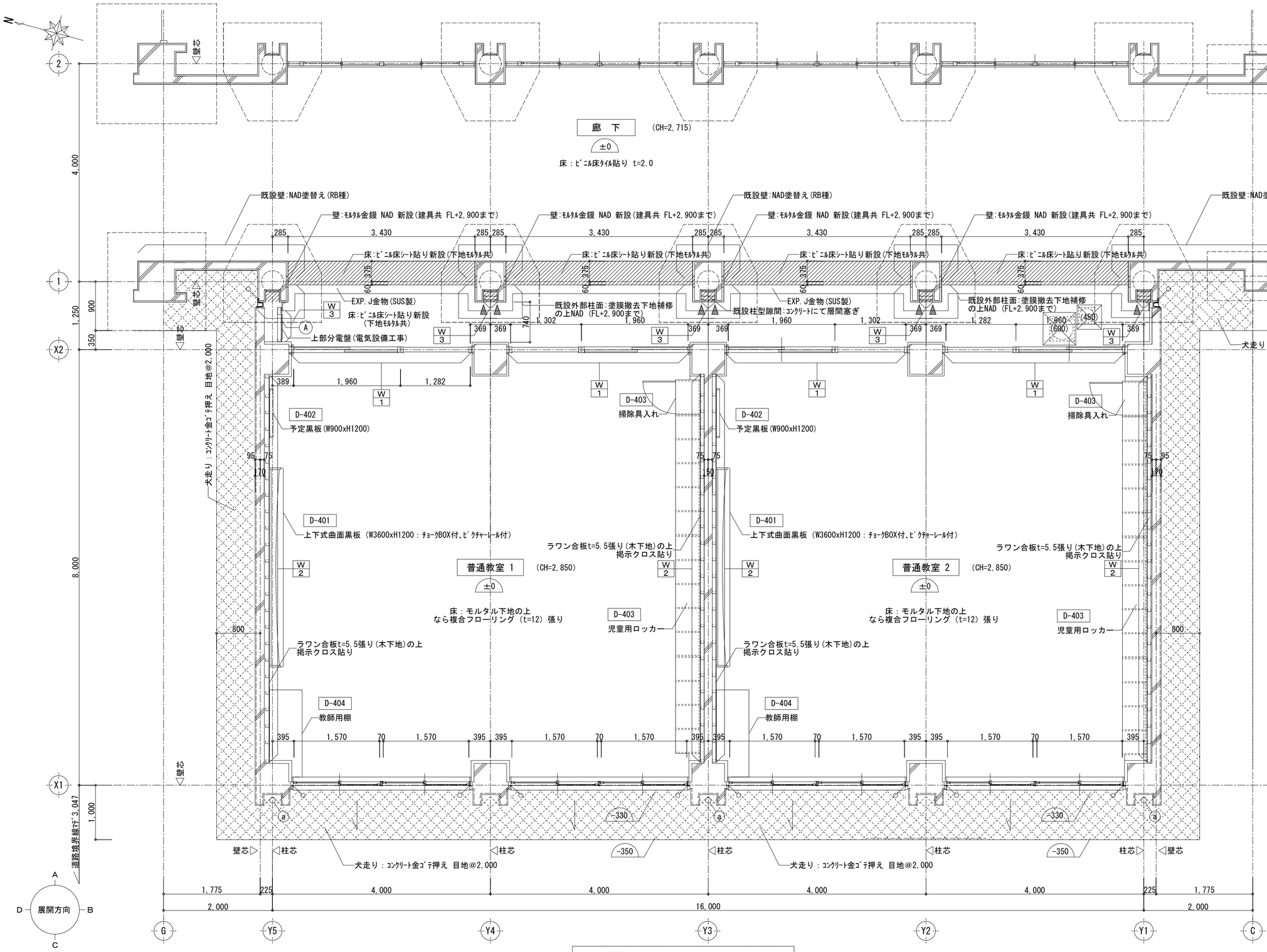
1階平面詳細図（改修前）　S=1/50

凡例	
	撤去部分を示す
	既設部分を示す
	既設建物基礎を示す
	ｶｯﾀｰ位置を示す
○—ⓐ	既設竪樋SGPφ100撤去を示す
±0	一般ＦＬからの床仕上高さを示す

月・日	月・日					
・	・	株式会社 市川三千男総合設計	設　計	整理番号	縮　尺 A2 1/50	津市立西が丘小学校増築工事
・	・	三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659	一級建築士　第　93977号　市川　司	年　月　日 H28.1.12	原図 A2	1階平面詳細図（改修前）
・	・	一級建築士　第 266489号　山口　裕之				

NO. D — 22

77



1階平面詳細図（改修後）　S=1/50

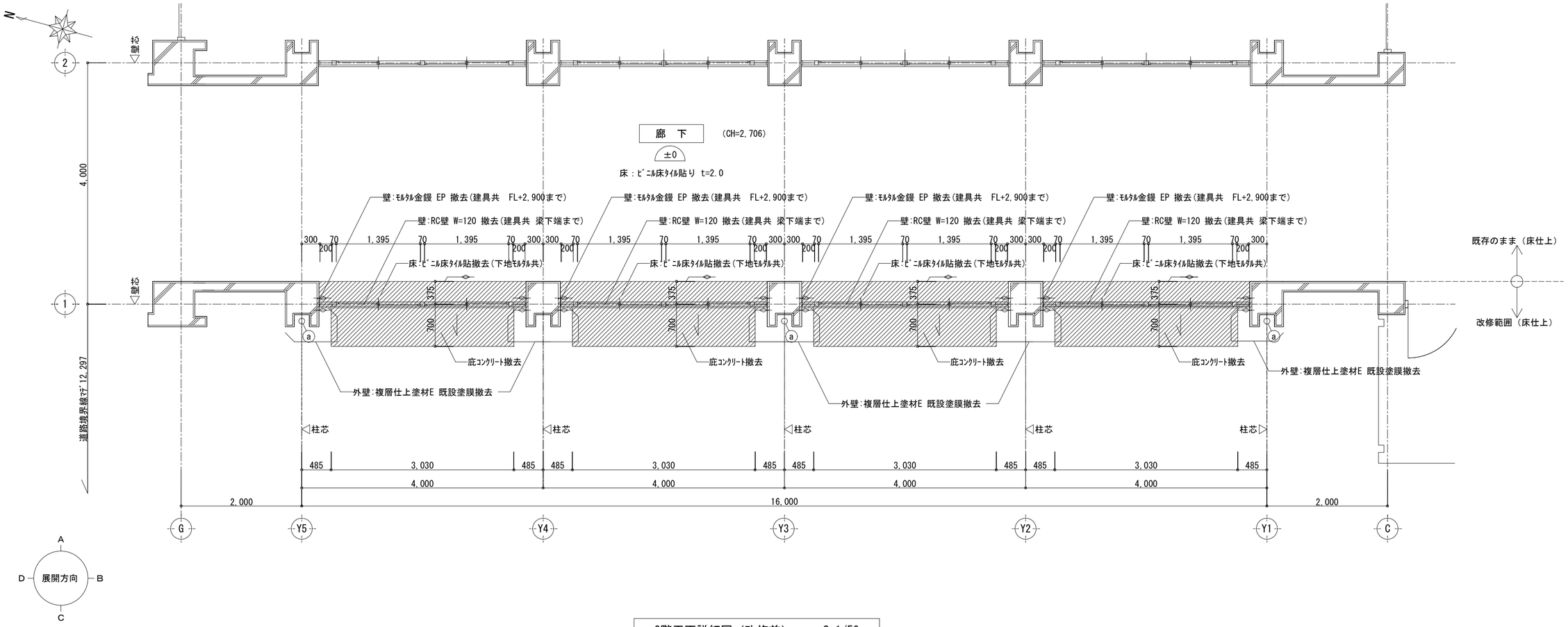
凡例	
	改修部分を示す
	既設部分を示す
	既設建物基礎を示す
	犬走り新設部分を示す
○—	ｼｰﾘﾝｸﾞ位置を示す（MS-2）
▶	ｼｰﾘﾝｸﾞ位置を示す（PU-2）
W 1	防火上主要な間仕切壁（建令114条） RC造（平12建告第1399号） 開口部建具STP(建令114条対応品)
W 2	木下地+ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔ t=5.5 下地の上 掲示ｸﾛｽ貼り
W 3	既設柱型隙間ｺﾝｸﾘｰﾄにて層間塞ぎの上 壁設置:LGS65+PB t=15 片面貼り
(450)	床下点検口：SUS製、密閉型 (450)-450×450、(600)-600×600 D-301
±0	一般ＦＬからの床仕上高さを示す
○—ⓐ	新設竪樋ｶﾗｰVPφ100を示す
Ⓐ	新設消火器ﾎﾞｯｸｽ(埋込型)を示す 消火器(ABC10型)共

月・日	月・日
・	・
・	・
・	・

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号	縮　尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
年　月　日 H28.1.12	A2 1/50 原図 A2	1階平面詳細図（改修後）	D — 23 77



2階平面詳細図（改修前）　S=1/50

凡例	
	撤去部分を示す
	既設部分を示す
	ｶｯﾀｰ位置を示す
a	既設竪樋SGPφ100撤去を示す
±0	一般ＦＬからの床仕上高さを示す

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

年　月　日
H28.1.12

縮　尺
A2 1/50

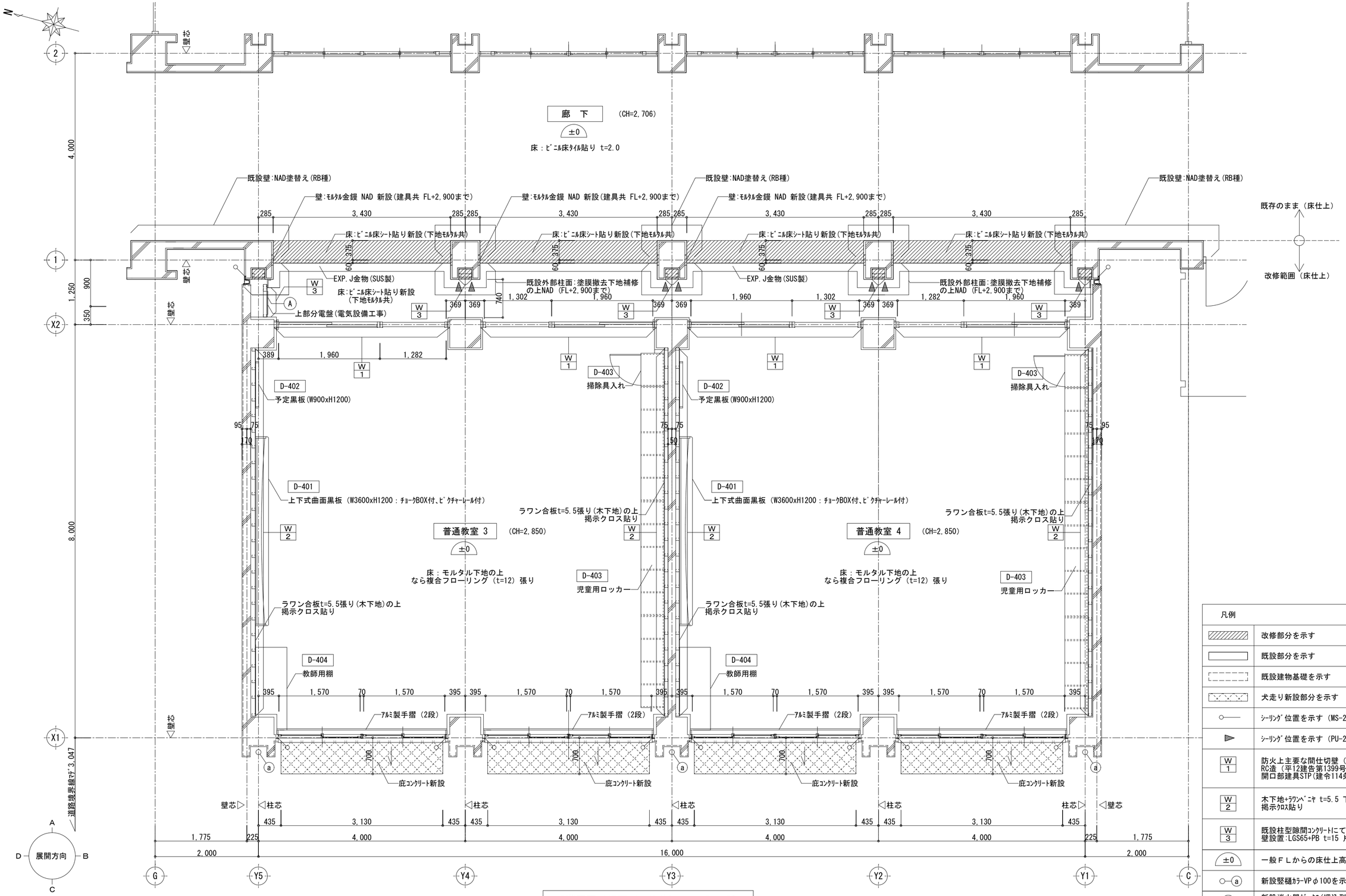
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

2階平面詳細図（改修前）

NO.
D — 24

77



2階平面詳細図（改修後）　S=1/50

凡例	
	改修部分を示す
	既設部分を示す
	既設建物基礎を示す
	犬走り新設部分を示す
○——	ｼｰﾘﾝｸﾞ位置を示す（MS-2）
▶	ｼｰﾘﾝｸﾞ位置を示す（PU-2）
W 1	防火上主要な間仕切壁（建令114条）RC造（平12建告第1399号）開口部建具STP(建令114条対応品)
W 2	木下地+ﾗﾜﾝﾍﾞﾆﾔ t=5.5 下地の上掲示ｸﾛｽ貼り
W 3	既設柱型隙間ｺﾝｸﾘｰﾄにて層間塞ぎの上壁設置:LGS65+PB t=15 片面貼り
±0	一般ＦＬからの床仕上高さを示す
○—ⓐ	新設竪樋ｶﾗｰVPφ100を示す
Ⓐ	新設消火器ﾎﾞｯｸｽ(埋込型)を示す 消火器(ABC10型)共

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号
年　月　日　H28.1.12

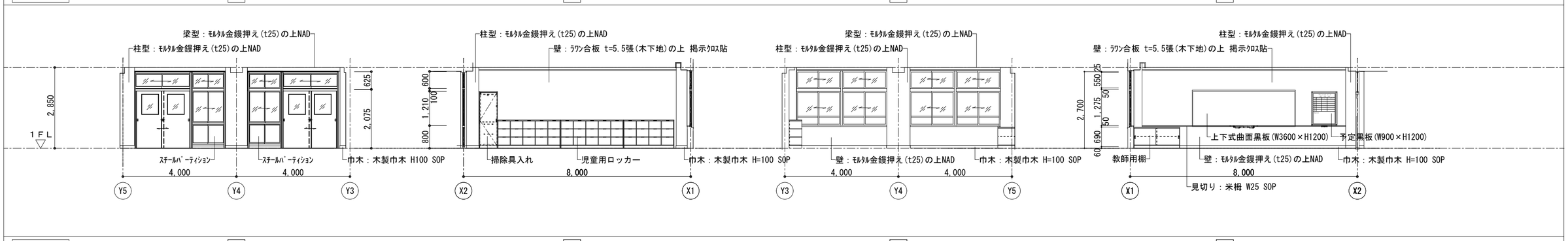
縮　尺　A2 1/50
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

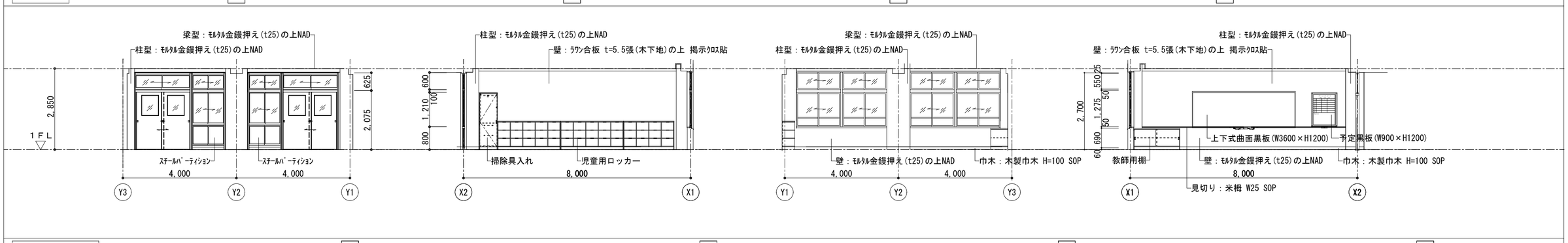
2階平面詳細図（改修後）

NO. D — 25
77

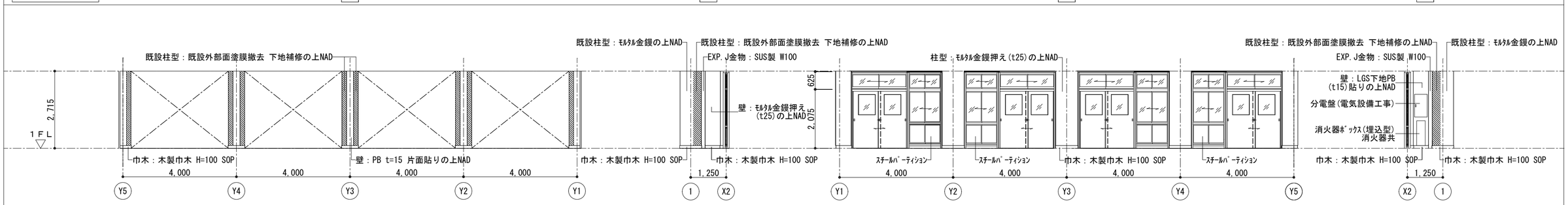
普通教室１



普通教室２



１階廊下（増築部）



月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設 計
一級建築士 第 93977号 市川 司

整理番号

年 月 日
H28.1.12

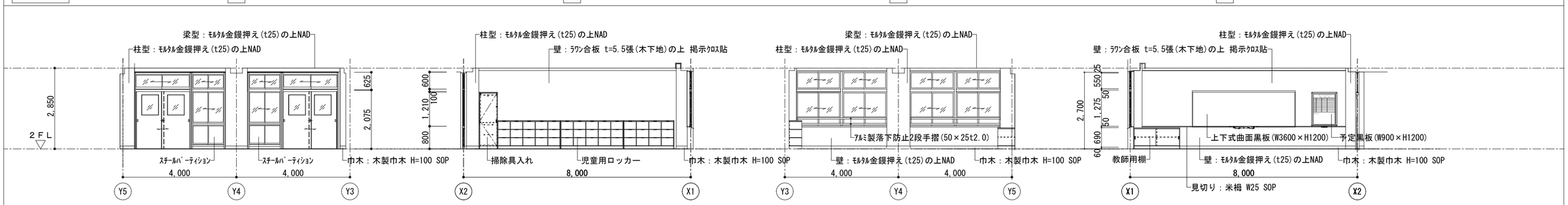
縮 尺
A2 1/100
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

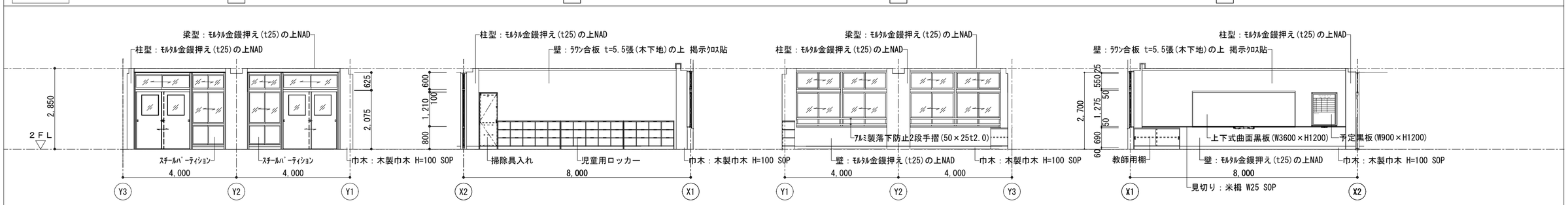
1階 展開図

NO.
D — 26

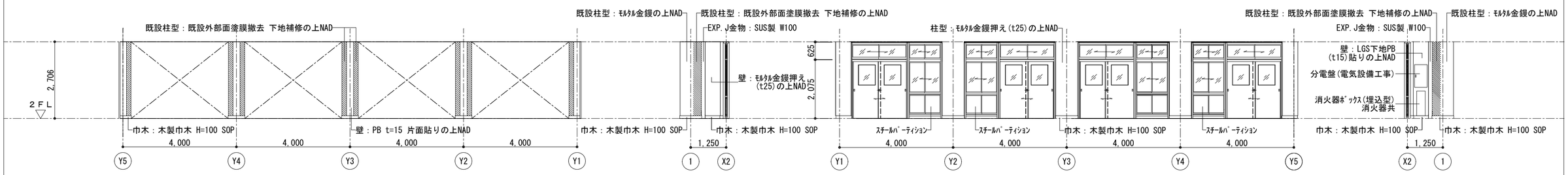
普通教室３



普通教室４



２階廊下（増築部）



月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設 計
一級建築士 第 93977号 市川 司

整理番号

年 月 日
H28.1.12

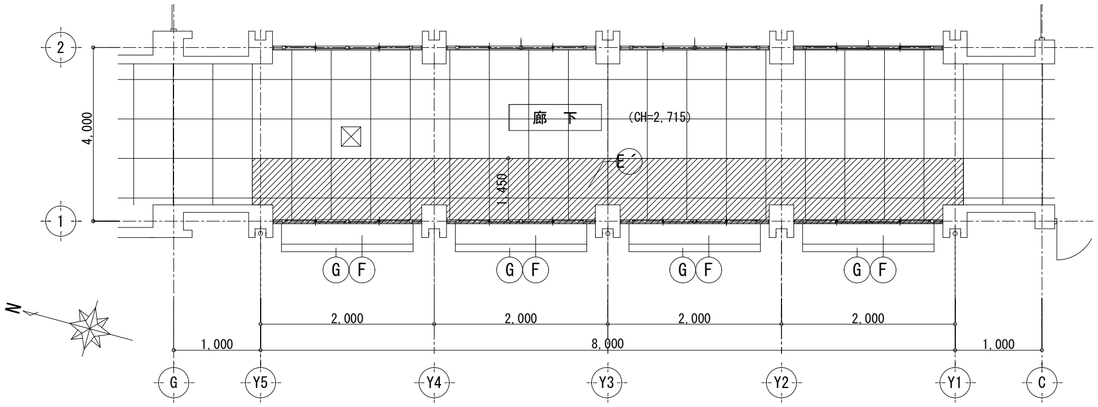
縮 尺
A2 1/100
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

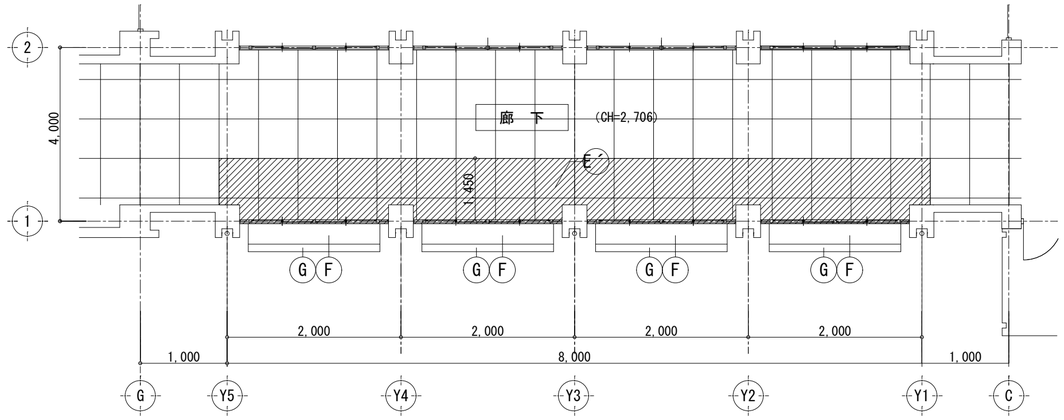
2階 展開図

NO.
D — 27
77

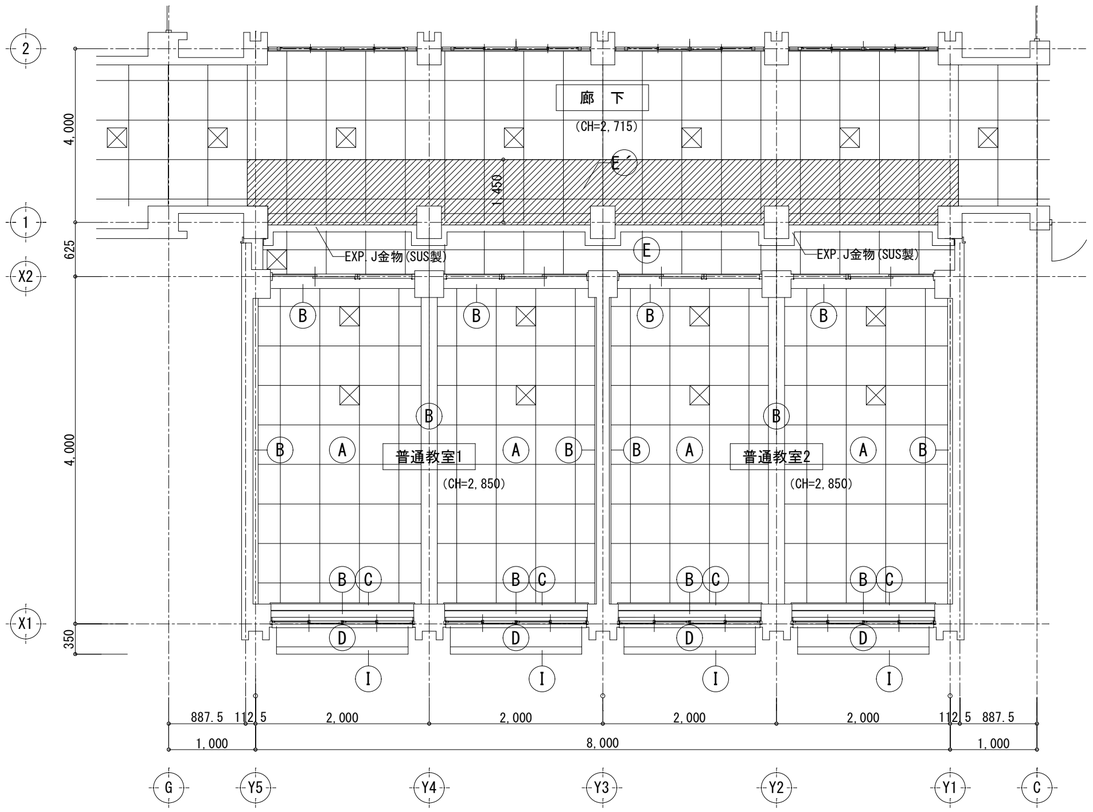
1階天井伏図（改修前） S=1/100



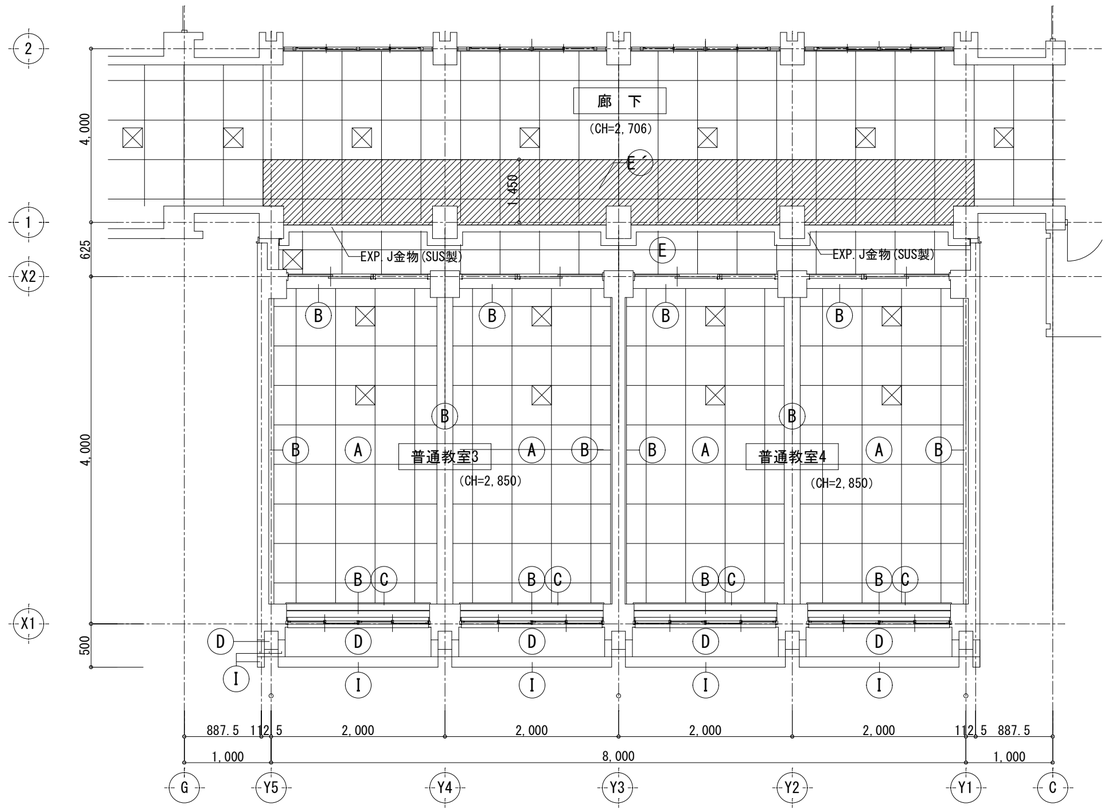
2階天井伏図（改修前） S=1/100



1階天井伏図（改修後） S=1/100



2階天井伏図（改修後） S=1/100



天井開口補強リスト	1000x1000	450x450	400x400	200x200
普通教室1	2	4	1	1
普通教室2	2	4	1	1
普通教室3	2	4	1	1
普通教室4	2	4	1	1
1階廊下		6		
2階廊下		7		
計	8	29	4	4

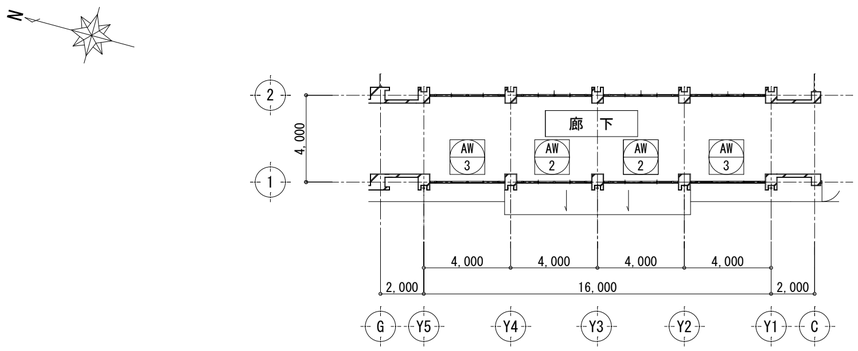
凡例									
		Ⓒ	ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ 米桐 SOP W150×H100 ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ SUS製 ﾀﾞﾌﾞﾙ	E´	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5目透し張の上 EP 撤去・新設	Ⓘ	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修の上複層塗材RE		※天井仕上げ材撤去・新設範囲は下地共 撤去・新設とする
Ⓐ	化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5張	Ⓓ	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上 外装薄塗材E	Ⓕ	合成型枠ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上外装薄塗材E 撤去		改修部分を示す		※天井仕上げ材撤去・新設範囲は塩ビ製廻り縁共 撤去・新設とする
Ⓑ	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押え(t25)の上 NAD	Ⓔ	化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9.5張り 新設	Ⓖ	ﾓﾙﾀﾙ刷毛引の上外装薄塗材E 撤去	☒	ｱﾙﾐ製天井点検口 450角		

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

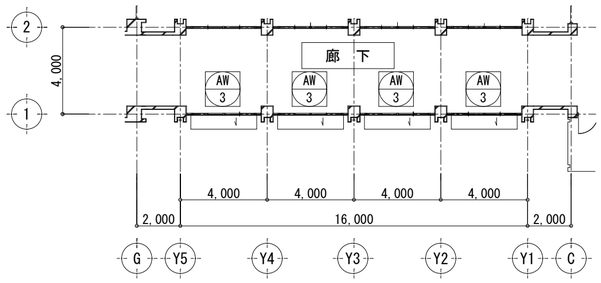
株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設 計	整理番号	縮 尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
一級建築士 第 93977号 市川 司	年 月 日 H28.1.12	A2 1/100 原図 A2	天井伏図（改修前・後）	D — 28 77

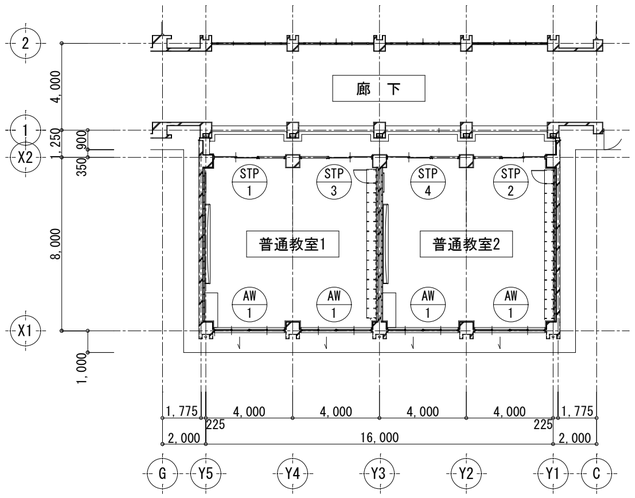
1階建具伏図（改修前）　S=1/200



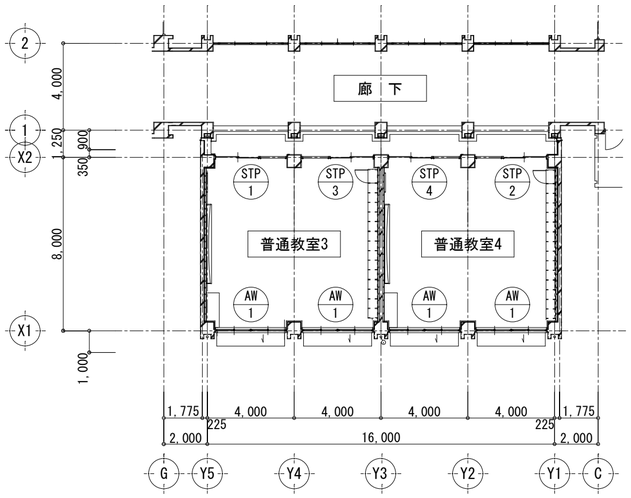
2階建具伏図（改修前）　S=1/200



1階建具伏図（改修後）　S=1/200



2階建具伏図（改修後）　S=1/200



AW 1　撤去する建具を示す

AW 1　新設する建具を示す

■ 共通事項

（1）建具寸法はすべて枠内法寸法を示し、製作にあたっては再度現場調整する。
（2）アルミニウム建具の仕様は、特記仕様書および共通仕様書によるほか下記による。

1．耐風圧性
・S-1（ 800Pa）　・S-2(1200Pa)　・S-3(1600Pa)
⊙S-4(2000Pa)　・S-5(2400Pa)　・S-6(2800Pa)
・S-7(3600Pa)

2．気 密 性
・A-1(120等級線)　・A-2(30等級線)
・A-3(8等級線) ⊙　A-4(2等級線)

3．水 密 性
・W-1(100Pa)　・W-2(150Pa)　・W-3(250Pa)
・W-4(350Pa) ⊙ W-5(500Pa)

4．遮音等級
・T-1(25等級線)　・T-2(30等級線)
・T-3(35等級線)　・T-4(40等級線)

5．表面処理
・A-1種　・A-2種　⊙B-1種　・B-2種
・C-1種　・C-2種　・D種

6．アルミニウム製建具の防火設備取扱いについて製品は認定品の使用を原則とするが、認定品で対応できない場合は認定品を有するメーカー製品とし、建具寸法をできるだけ認定品に近い寸法とし、かつ認定品と同一の部材を使用し、方立・無目については厚み２mmとする。

■ 建具符号略号

SD ・・鋼製扉
SW ・・鋼製窓
SG ・・鋼製ｶﾞﾗﾘ
SS ・・鋼製重量ｼｬｯﾀｰ
LSD ・鋼製軽量扉
LSS ・鋼製軽量ｼｬｯﾀｰ
STD ・ｽﾃﾝﾚｽ製扉
STW ・ｽﾃﾝﾚｽ製窓
STG ・ｽﾃﾝﾚｽ製ｶﾞﾗﾘ
STS ・ｽﾃﾝﾚｽ製ｼｬｯﾀｰ
AD ・・ｱﾙﾐ製扉
AW ・・ｱﾙﾐ製窓
AG ・・ｱﾙﾐ製ｶﾞﾗﾘ
AWS・・ｱﾙﾐ･木複合窓
TD ・・強化ｶﾞﾗｽ製扉
PG ・・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製ｶﾞﾗﾘ
STP ・鋼製ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ
WD ・・木製扉
WW ・・木製窓
WG ・・木製ｶﾞﾗﾘ
F ・・・ふすま
WF ・・戸ふすま
SJ ・・紙障子

■ ｶﾞﾗｽ略号

SG ・・透明ｶﾞﾗｽ
FG ・・型板ｶﾞﾗｽ
TG ・・強化ｶﾞﾗｽ
PSG ・磨きｶﾞﾗｽ
PWG ・網入磨きｶﾞﾗｽ
FWG ・網入型板ｶﾞﾗｽ
HG ・・熱線吸収ｶﾞﾗｽ
FL ・・ﾌﾛｰﾄｶﾞﾗｽ

■ 材料・仕上略号

S・・・鋼
AL ・・ｱﾙﾐ
ST ・・ｽﾃﾝﾚｽ
BR ・・真ちゅう
W・・・木

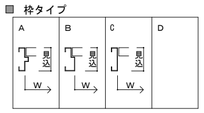
■ 塗装略号

SOP ・・合成樹脂合ﾍﾟｲﾝﾄ
FE ・・ﾌｪﾉﾙ酸樹脂系塗料
VE ・・溶剤形塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂系塗料
NAD ・・非水分散形ｱﾏﾙｼｮﾝ塗料
AEP ・・ｱｸﾘﾙ樹脂系ｴﾏﾙｼｮﾝ塗料
多彩・・多彩模様塗料
AC ・・ｱｸﾘﾙ樹脂系ｸﾘｱｰ
GWP ・・水系有光沢塗料
BE ・・焼付形塗料
AE ・・ｱｸﾘﾙ樹脂系塗料
UC ・・ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ樹脂系ｸﾘｱｰ
UE ・・ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ樹脂系塗料
alP ・・ｱﾙﾐﾆｳﾑﾍﾟｲﾝﾄ
GP ・・塩化ｺﾞﾑ系塗料
ExP ・・ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗料
TExP ・・ﾀｰﾙｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗料
ｽﾀｯﾌﾟﾙ・・ｽﾀｯﾌﾟﾙ仕上

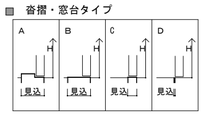
■ 付属金物略号

H・・・丁番
PH ・・ﾋﾟﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ
FH ・・ﾌﾛｱｰﾋﾝｼﾞ
LH ・・ﾗﾊﾞﾄﾘｰﾋﾝｼﾞ
HC ・・ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞｰ
DC ・・ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ
FB ・・あげ落とし
AS ・・あおり止め
T ・・・戸当たり
CL ・・ｼﾘﾝﾀﾞｰ本締錠（ｻﾑﾀｰﾝ付き）
ML ・・本締付ﾓﾉﾛｯｸ
GL ・・ｹﾞﾚﾓﾝ錠
MC ・・ﾓﾉﾛｯｸ空錠

■ 枠タイプ



■ 沓摺・窓台タイプ



■ 特記事項

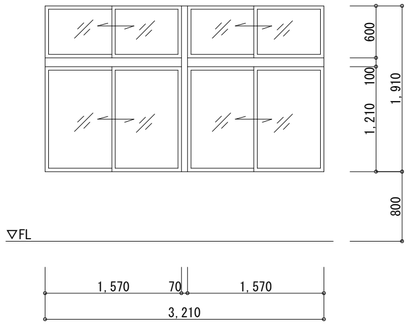
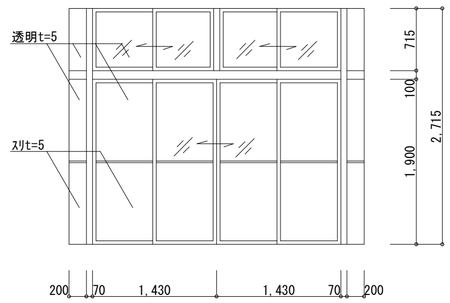
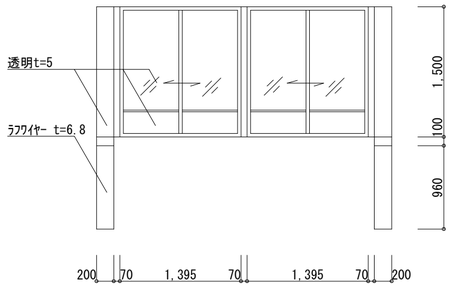
1．建具の製作にあたっては、製作図を作成の上、再度現場調整を行う。
2．扉枠（引戸含む全て）には戸当りゴムを縦枠に取付ける。
3．アルミサッシのガラス止めは全てシリコン系シーリングとする。
4．図中のＳＵＳ ＨＬはヘアーラインとする。沓摺は㋐２.０とする。
5．図中のＡＬはアルミアルマイト（オーバーエッチング）とする。
6．建具金物は全て見本品を提出し、監督員の承認を得ること。
7．外部に面するガラス入りサッシには全て縦板部につゆ受けを設けること。
8．外部に面する建具(出入口及びFIXを除く)は、ｽﾃﾝﾚｽ網戸付とする。

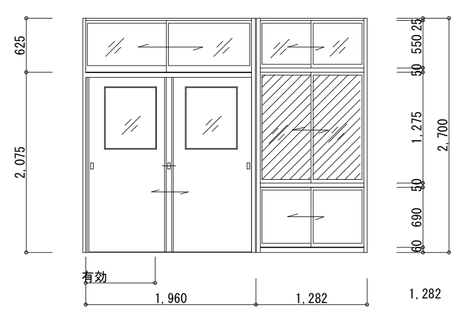
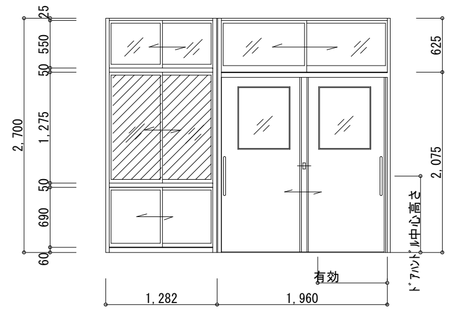
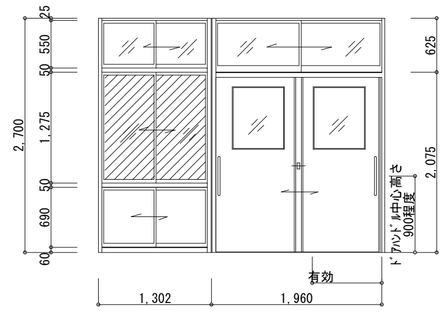
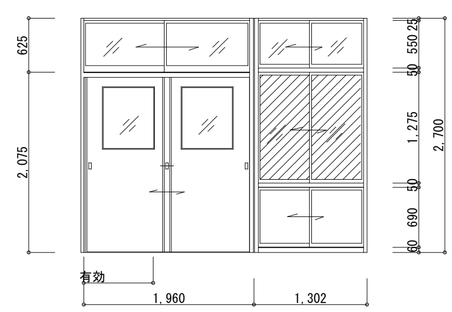
月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・	。	・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号	縮　尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
年　月　日 H28.1.12	A2 1/200 原図 A2	建具伏図（改修前・後）	D — 29 / 77

建具符号	AW 1 上部引違い　2連引違いｱﾙﾐｻｯｼ　新設	AW 2 ｱﾙﾐ2連引違窓及びはめ殺し　撤去	AW 3 ｱﾙﾐ2連引違窓及びはめ殺し　撤去	
姿　図				
位置 / 数量	普通教室1～4 / 8	廊下 / 2	廊下 / 6	
内法 / 枠見込	W 3,210 × H 1,910 / 70	W 3,400 × H 2,715 / 70	W 3,400 × H 2,560 / 70	
材料 / 沓摺	ｱﾙﾐ製	ｱﾙﾐ製	ｱﾙﾐ製	
硝　子	TG-4	上段及び欄間 透明ｶﾞﾗｽt=5　下段 ｽﾘｶﾞﾗｽt=5	透明ｶﾞﾗｽ t=5　Fix下部ﾗﾌﾜｲﾔｰ t=6.8	
仕　上	ｱﾙﾏｲﾄ	ｱﾙﾐ無着色陽極酸化皮膜の上に塗装	ｱﾙﾐ無着色陽極酸化皮膜の上に塗装	
金　物	ｸﾚｾﾝﾄ、戸車、4方ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ、ｱﾙﾐ水切、その他付属金物一式	ｸﾚｾﾝﾄ、戸車、4方ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ、ｱﾙﾐ水切、その他一式	ｸﾚｾﾝﾄ、戸車、4方ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ、ｱﾙﾐ水切、その他一式	
備　考	2Fｱﾙﾐ製2段手摺			

建具符号	STP 1 ｽﾁｰﾙﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ　新設	STP 2 ｽﾁｰﾙﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ　新設	STP 3 ｽﾁｰﾙﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ　新設	STP 4 ｽﾁｰﾙﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ　新設
姿　図				
位置 / 数量	普通教室1・3 / 2	普通教室2・4 / 2	普通教室1・3 / 2	普通教室2・4 / 2
内法 / 枠見込	W 3,242 × H 2,700 / 80	W 3,242 × H 2,700 / 80	W 3,262 × H 2,700 / 80	W 3,262 × H 2,700 / 80
材料 / 沓摺	ｽﾁｰﾙ製	ｽﾁｰﾙ製	ｽﾁｰﾙ製	ｽﾁｰﾙ製
硝　子	TG-4、型板強化-4	TG-4、型板強化-4	TG-4、型板強化-4	TG-4、型板強化-4
仕　上	亜鉛めっき鋼板（焼付塗装仕上）	亜鉛めっき鋼板（焼付塗装仕上）	亜鉛めっき鋼板（焼付塗装仕上）	亜鉛めっき鋼板（焼付塗装仕上）
金　物	引手（大型彫込引手）、戸車、ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙ、引き違い戸錠、ｸﾚｾﾝﾄ、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ、 付属金物一式	取っ手（棒状取っ手）、戸車、ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙ、引き違い戸錠、ｸﾚｾﾝﾄ、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ、 付属金物一式	取っ手（棒状取っ手）、戸車、ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙ、引き違い戸錠、ｸﾚｾﾝﾄ、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ、 付属金物一式	引手（大型彫込引手）、戸車、ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙ、引き違い戸錠、ｸﾚｾﾝﾄ、ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ、 付属金物一式
備　考	114条区画対応品	114条区画対応品、ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ対応品	114条区画対応品、ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ対応品	114条区画対応品

AW 1　撤去する建具を示す

AW 1　新設する建具を示す

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第 93977号　市川　司

整理番号
年 月 日　H28.1.12

縮　尺　A2 1/50
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

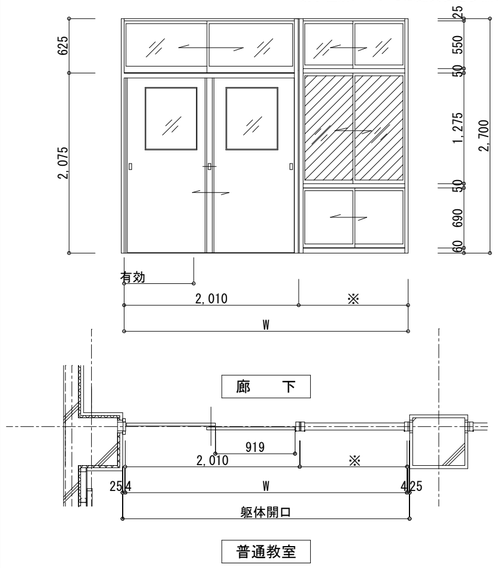
建具表

NO. D — 30

平面・展開図　S=1/50

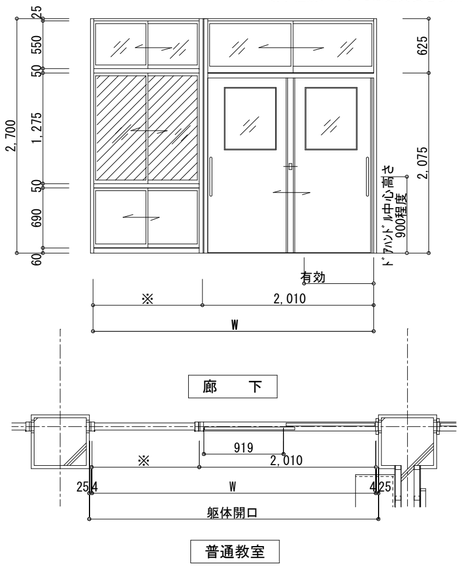
STP 1,4

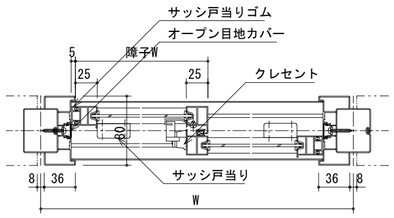
・硝子種別については建具表を参照の事



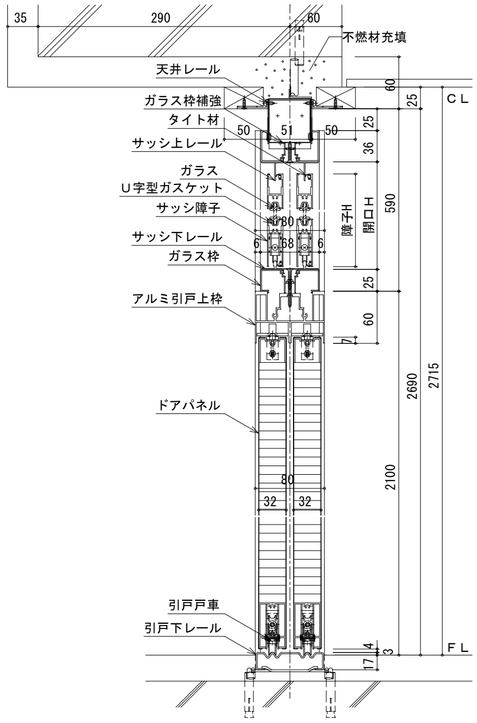
STP 2,3 （※ユニバーサルデザイン対応品）

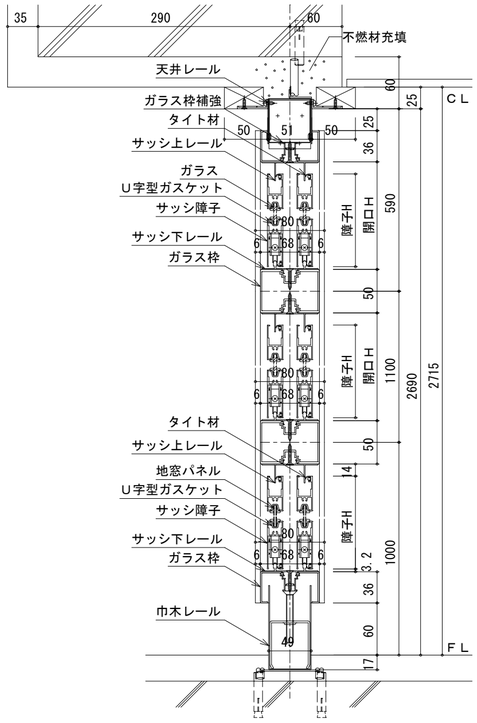
・硝子種別については建具表を参照の事

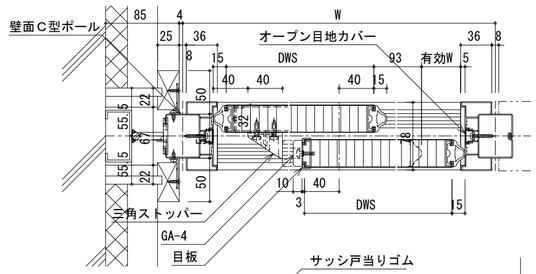


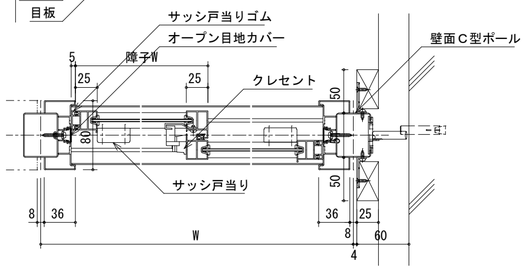


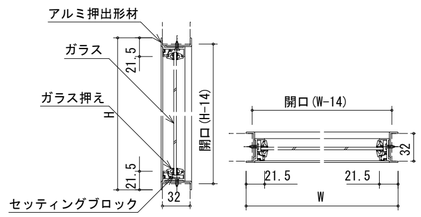
学校間仕切　断面詳細図　S=1/5











３２mm用アルミ枠付き切窓詳細　S=1/5

◇仕様表

項　目	部　材	材　料（板厚mm）
骨材	天井レール・上桟	亜鉛めっき鋼板　1.0mm　〈指定色焼付塗装仕上〉
	巾木レール	亜鉛めっき鋼板　1.2mm　〈指定色焼付塗装仕上〉
	上骨・下骨	亜鉛めっき鋼板　0.4mm
	ポール・横桟	冷間圧延鋼板　1.2mm　〈指定色焼付塗装仕上〉
	壁面C型ポールレール	亜鉛めっき鋼板　1.2mm　〈指定色焼付塗装仕上〉
枠	サッシ・引戸・ガラス枠	アルミ押出形材　〈指定色焼付塗装仕上〉
	オープン目地カバー	ポリ塩化ビニル(PVC)
	ガラス枠補強	亜鉛めっき鋼板　0.5mm　L=100
サッシ	サッシ・地窓障子	アルミ押出形材　〈アルマイトクリア処理仕上〉
地窓	上・下レール	アルミ押出形材　〈アルマイト処理仕上〉
	地窓パネル表面材	亜鉛めっき鋼板　0.5mm（焼付塗装仕上）
	地窓パネル芯材	ＭＤＦ　2.5mm
	サッシU字型ガスケット	ポリ塩化ビニル(PVC)　対応ガラス厚3～6.8mm〈グレー色〉
	サッシ戸当り	ポリ塩化ビニル(PVC)
	上下框取付戸当り	樹脂(PA)
	サッシ用クレセント	亜鉛ダイキャスト
	サッシ戸車	樹脂(POM)
引違戸	パネル表面材	亜鉛めっき鋼板　0.5mm（焼付塗装仕上）
	芯材	ペーパーコア
	切窓	アルミ押出形材　〈指定色焼付塗装仕上〉
	切窓ビート	ポリ塩化ビニル　〈グレー色〉対応ガラス厚3～6mm
	引戸下レール	ステンレス　1.2mm　〈ヘアライン仕上〉
	目板	亜鉛めっき鋼板　1.2mm　〈指定色焼付塗装仕上〉
	戸当りゴム	ポリ塩化ビニル(PVC)
	ハズレ止め	樹脂(POM)
	引戸戸車	高炭素クロム軸受鋼(SUJ2)
	掘込引手、 （※棒状取っ手）	ステンレス(W30×H122)〈梨地電解〉、 （※ステンレス鏡面抗菌仕上：L450, φ25）
	三角ストッパー	樹脂(PA6)　〈グレー色〉
	GA-4（戸当りゴム）	エチレン・プロピレンゴム(EPDM)　〈グレー色〉
備考	・建令第114条区画対応品 ・（※　　）ユニバーサルデザイン対応品	

月・日	月・日
・	・
・	・
・	・

株式会社　市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計　一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

年　月　日　H28.1.12

縮　尺　A2 1/50,1/5

原図 A2

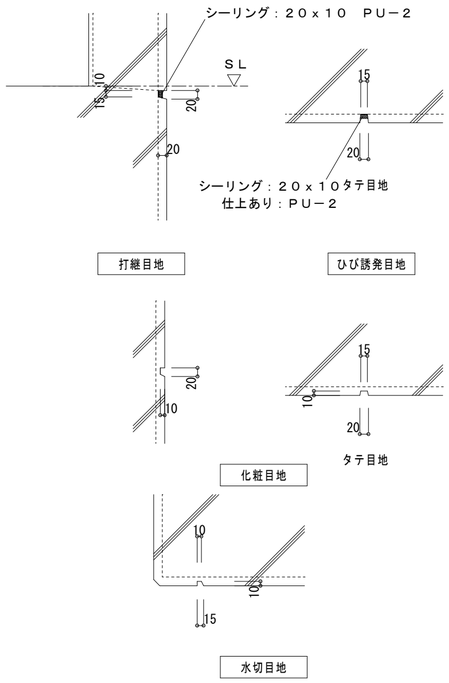
津市立西が丘小学校増築工事

スチールパーテイション詳細図（参考図）

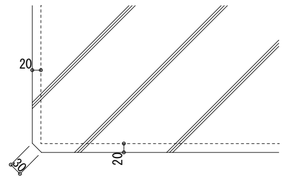
NO. D — 31

77

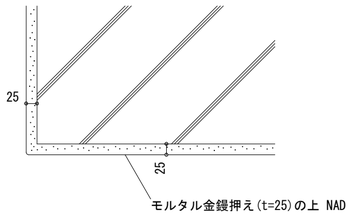
D-101 コンクリート目地詳細図 S=1：10



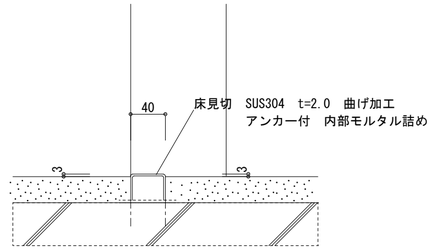
D-102 外壁コーナー詳細図 S=1：10



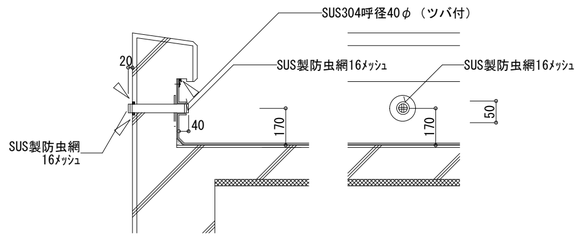
D-201 内壁柱コーナー詳細図 S=1：10



D-202 ステンレス沓摺詳細図 S=1：5

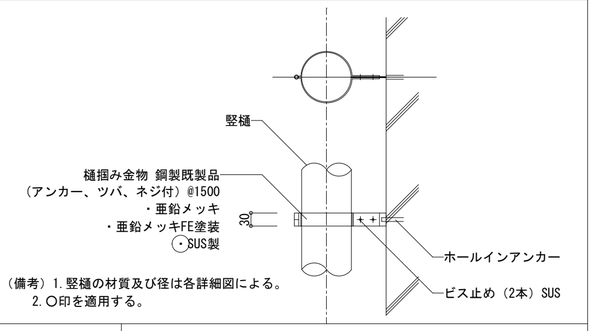


D-203 ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管 S=1：20



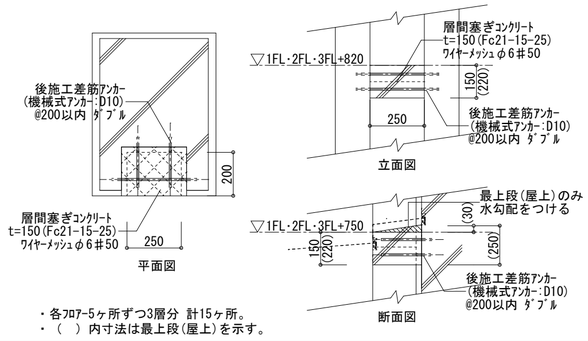
ﾊﾞﾗﾍﾟｯﾄ西面に各ｽﾊﾟﾝ1ヶ所ずつ、計4ヶ所とする。

D-204 竪樋掴み金物（ＲＣの場合） S=1：10



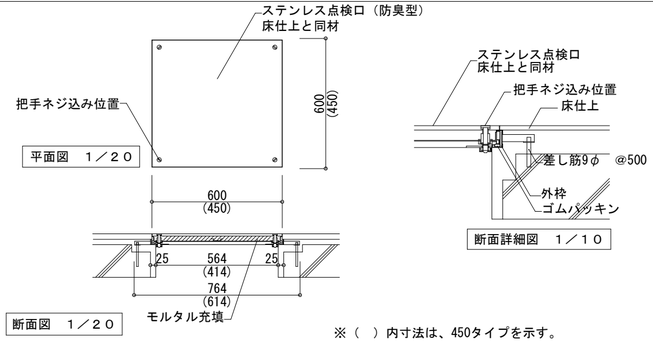
（備考）1.竪樋の材質及び径は各詳細図による。
2.○印を適用する。

D-205 既設柱型層間塞ぎ S=1：20



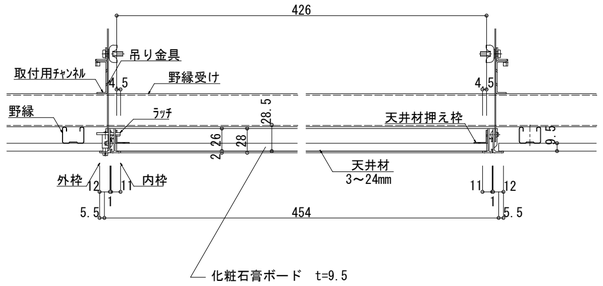
・各ﾌﾛｱｰ5ヶ所ずつ3層分 計15ヶ所。
・（　）内寸法は最上段(屋上)を示す。

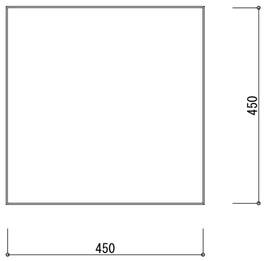
D-301 床下点検口 S=1：10、1：20



※（　）内寸法は、450タイプを示す。

D-302 天井点検口 S=1：10

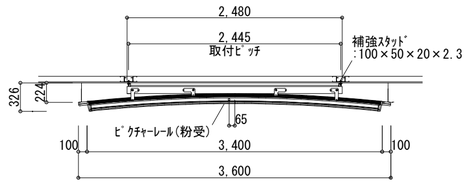




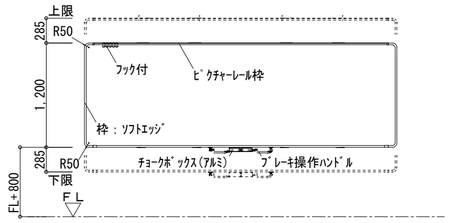
※アルミ製額縁タイプ（天井同仕上）
ナカエ業　ハイハッチＭタイプ　又は同等品以上とする。

D-401 普通教室用　上下式正面曲面黒板（参考図） S=1：10、1：50

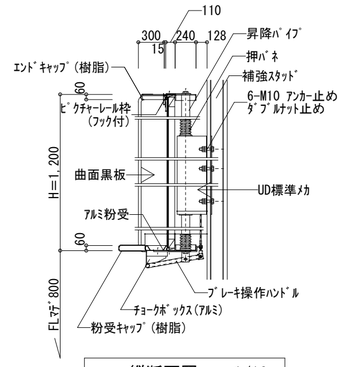
室名	W	H	数
1階普通教室1・2 2階普通教室3・4	3，600	1，200	4



平面図　1/30

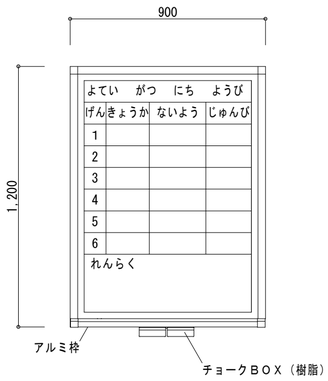


立面図　1/30



縦断面図　1/10

D-402 普通教室用　予定黒板 S=1：20



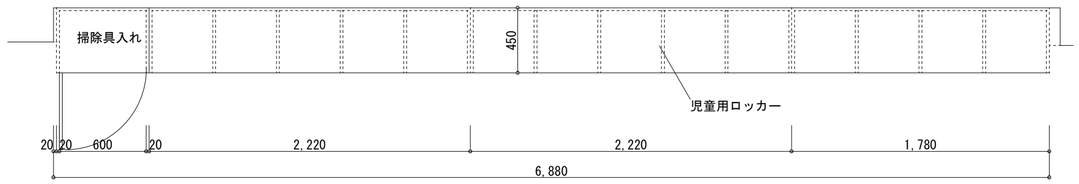
※記入文字については、監督員に確認の上決定すること。

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

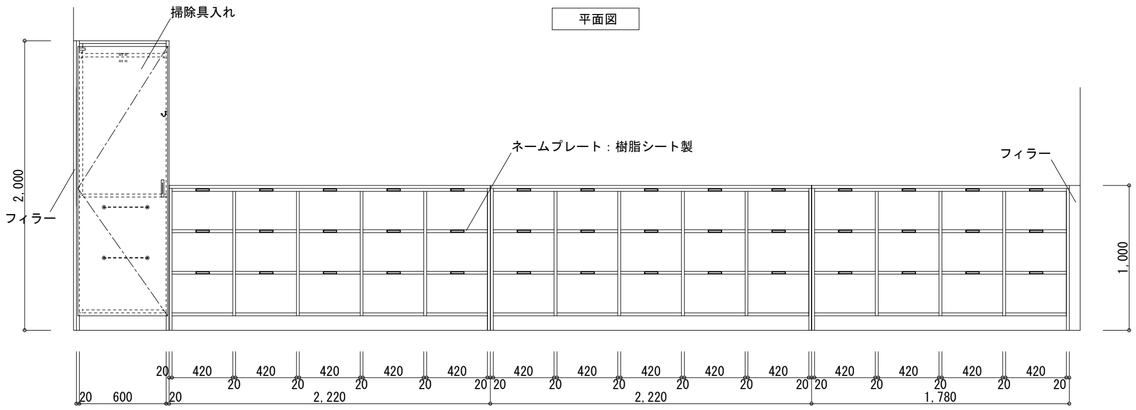
株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設計	整理番号	縮尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
一級建築士　第 93977号　市川　司	年 月 日 H28.1.12	A2 1/50,1/20 1/10,1/5 原図 A2	部分詳細図（１）	D — 32 77

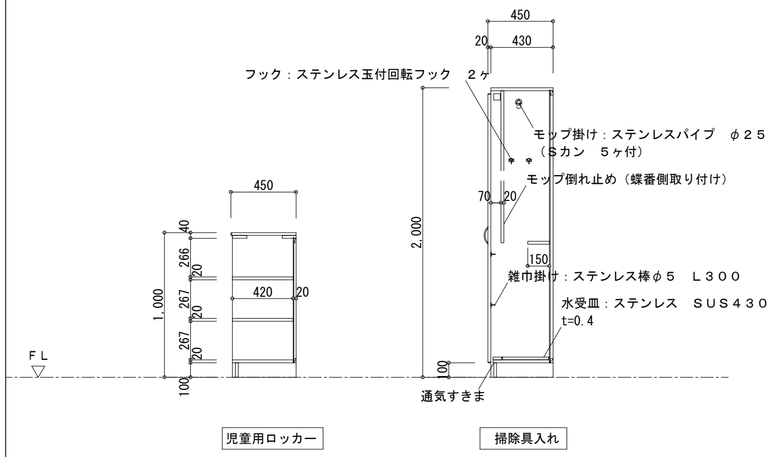
D-403 児童用ロッカー詳細図 S=1：30



平面図



立面図



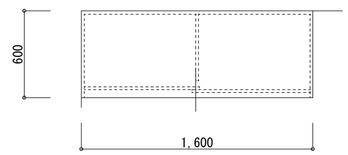
児童用ロッカー　　掃除具入れ

断面図

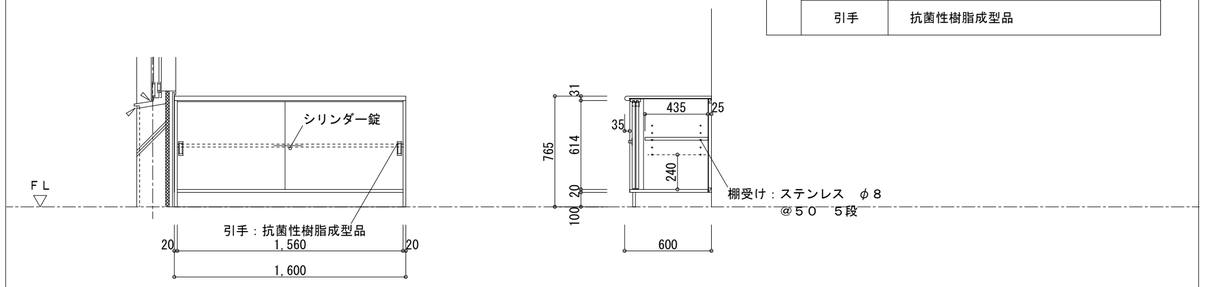
数	４か所	
仕様	生徒用ロッカー	
	天板	化粧メラミンパーティクルボード　t=20 エッジ：セフティーエッジ　t=3
	扉	化粧メラミンパーティクルボード　t=20 エッジ：セフティーエッジ　t=3
	本体	化粧メラミンパーティクルボード　t=20 エッジ：樹脂シート　t=4.5
	棚板	化粧メラミンパーティクルボード　t=20
	裏板	ポリエステル樹脂合板　t=4 片面フラッシュ
	巾木	化粧メラミンパーティクルボード　t=20

※掃除具入れ内部金物等の取付高さについては、
監督員と協議の上決定すること。

D-404 教師用棚詳細図 S=1：30



平面図



断面図

数	９か所	
仕様	天板	メラミン化粧ポストフォーム
	本体	化粧メラミンパーティクルボード　t=20 エッジ：樹脂シート　t=0.45
	引戸・戸枠	化粧メラミンパーティクルボード　t=20
	付鴨居	化粧メラミンパーティクルボード　t=20
	敷居	樹脂成型品
	棚板	化粧メラミンパーティクルボード　t=20
	巾木	化粧メラミンパーティクルボード　t=20
	引手	抗菌性樹脂成型品

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計　一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

年　月　日　H28.1.12

縮　尺　A2 1/30　原図 A2

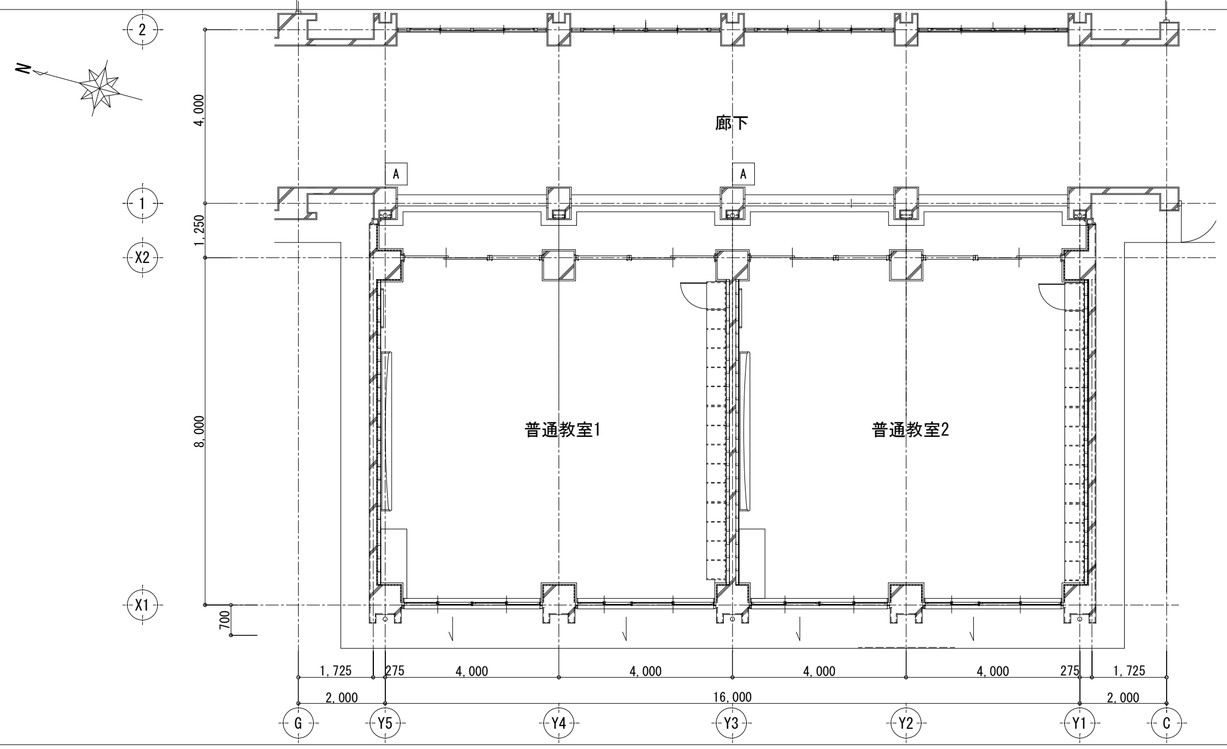
津市立西が丘小学校増築工事

部分詳細図（２）

NO. D — 33

1階ｻｲﾝ配置図

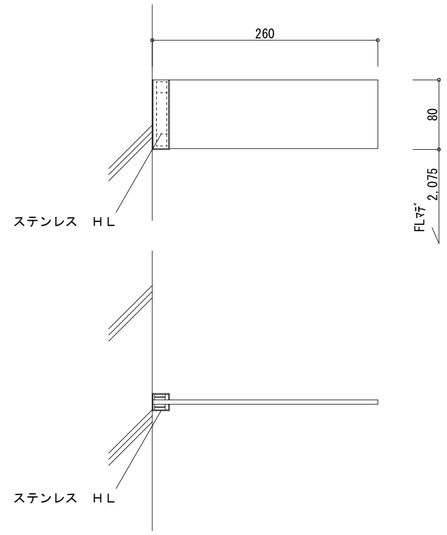
S=1：100



新設サインリスト	
A	室名札　突き出し型

室名札詳細図

S=1：5



（４か所）

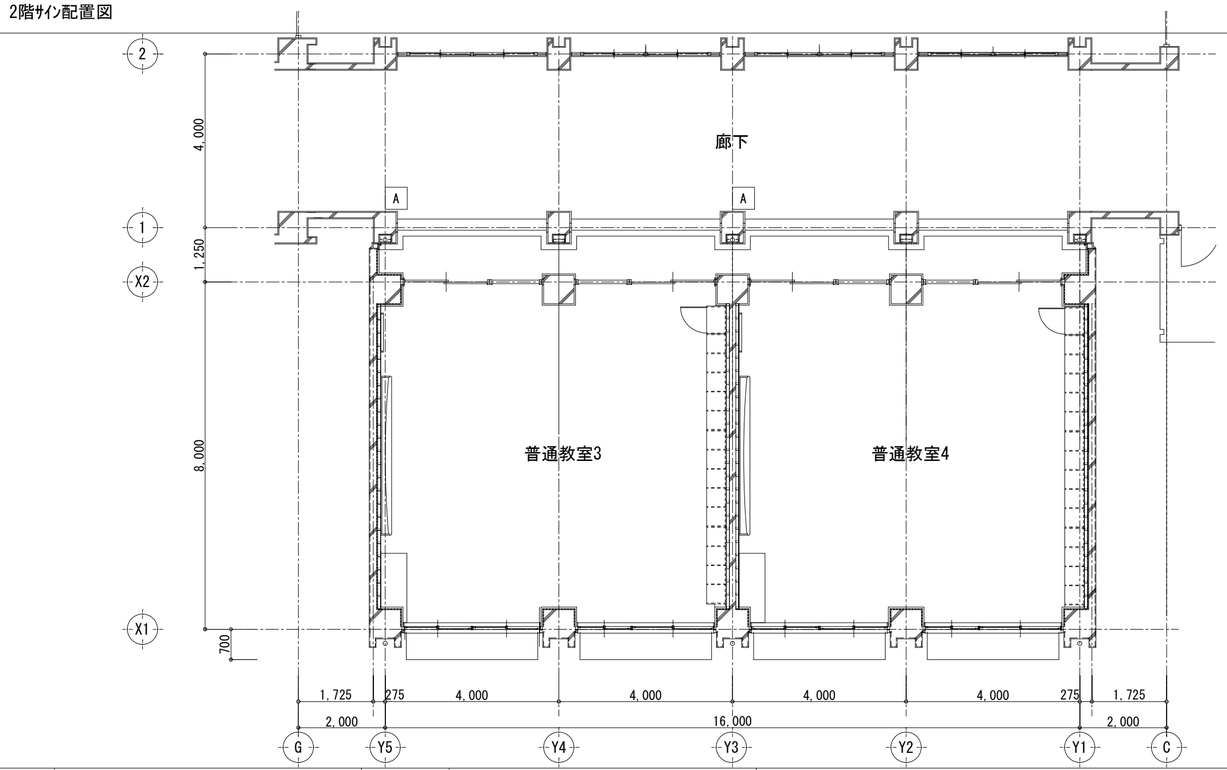
基材	アクリル板 t=5
表示	インクジェット印刷

取付高さ：FL＋2,075(下端)

室名札　突き出し型

2階ｻｲﾝ配置図

S=1：100



新設サインリスト	
A	室名札　突き出し型

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社　市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

年　月　日
H28.1.12

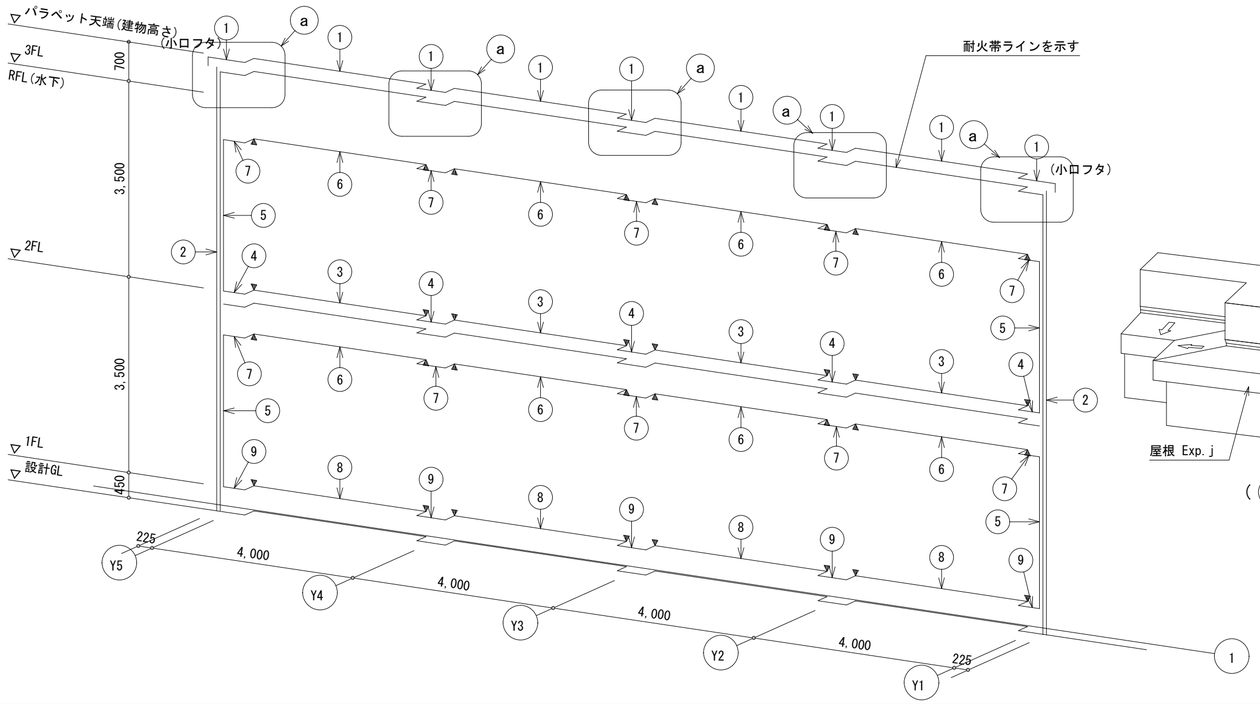
縮　尺
A2 1/100,1/5
原図 A2

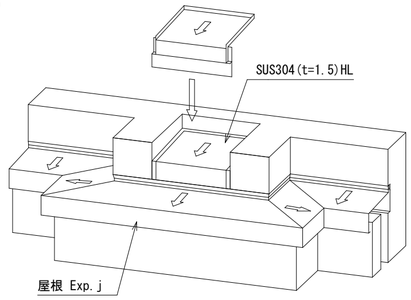
津市立西が丘小学校増築工事

ｻｲﾝ配置図・詳細図

NO.
D — 34
77

Exp. j キープラン

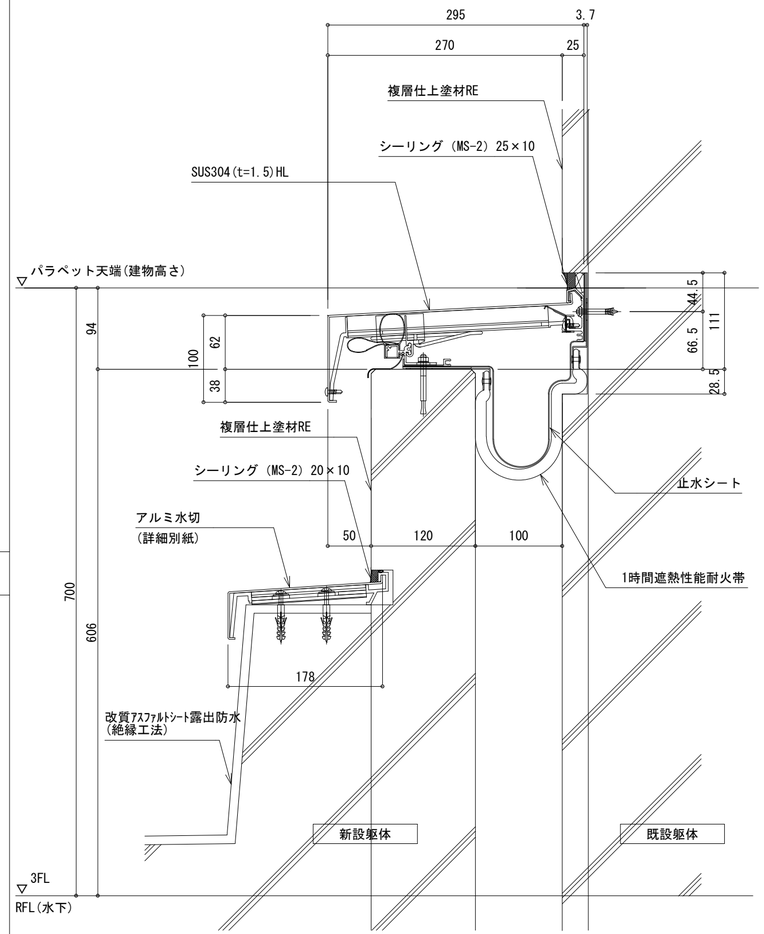




(a 納まり姿図)

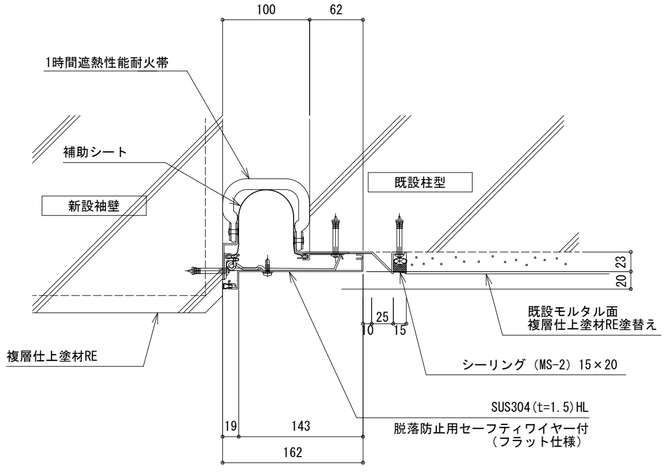
1 屋根ー外壁 Exp.j (ステンレス製) S=1:5

クリアランス	100mm
1時間遮熱	



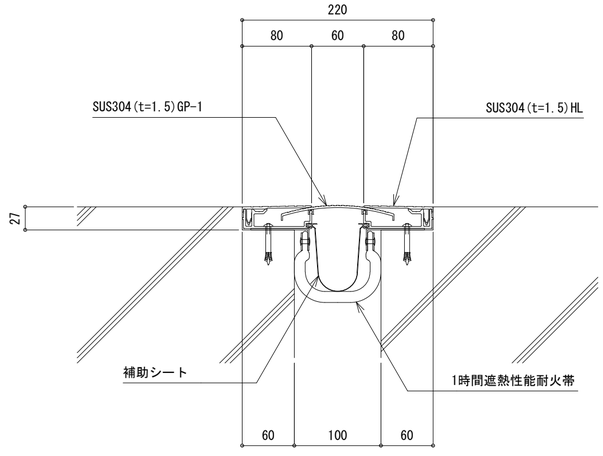
2 外壁コーナー Exp.j (ステンレス製) S=1:5

クリアランス	100mm
1時間遮熱	



3 床ー床 Exp.j (ステンレス製) S=1:5

クリアランス	100mm
1時間遮熱	



月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設 計: 一級建築士 第 93977号 市川 司

整理番号

年 月 日: H28.1.12

縮 尺: A2 1/5

原図 A2

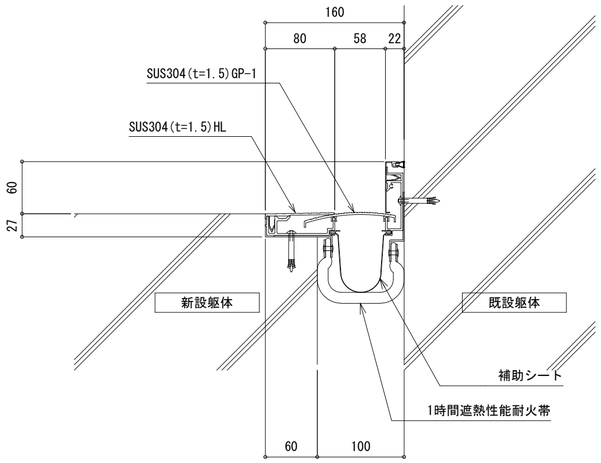
津市立西が丘小学校増築工事

Exp. j 断面図(1) (参考図)

NO. D — 35

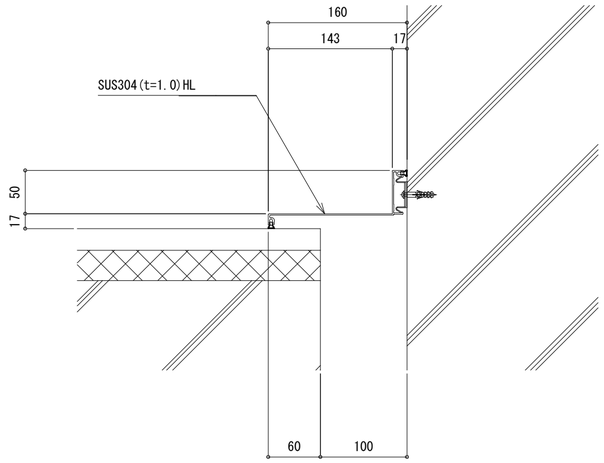
④ 床コーナー Exp.j（ステンレス製） S=1:5

クリアランス	100mm
1時間遮熱	



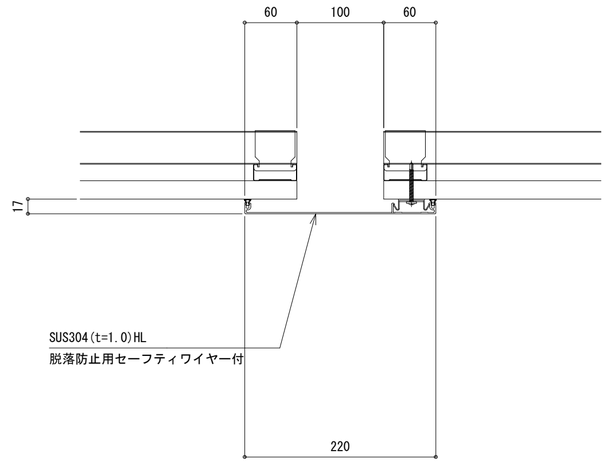
⑤ 内壁コーナー Exp.j（ステンレス製） S=1:5

クリアランス	100mm



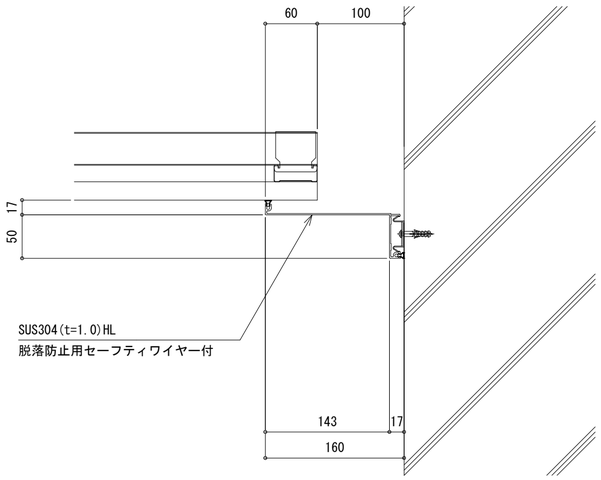
⑥ 天井ー天井 Exp.j（ステンレス製） S=1:5

クリアランス	100mm



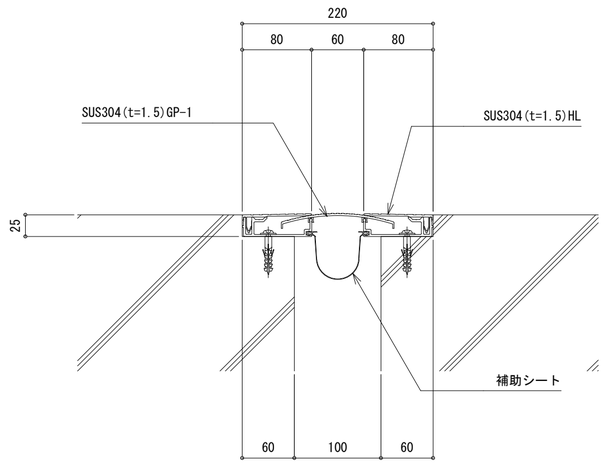
⑦ 天井コーナー Exp.j（ステンレス製） S=1:5

クリアランス	100mm



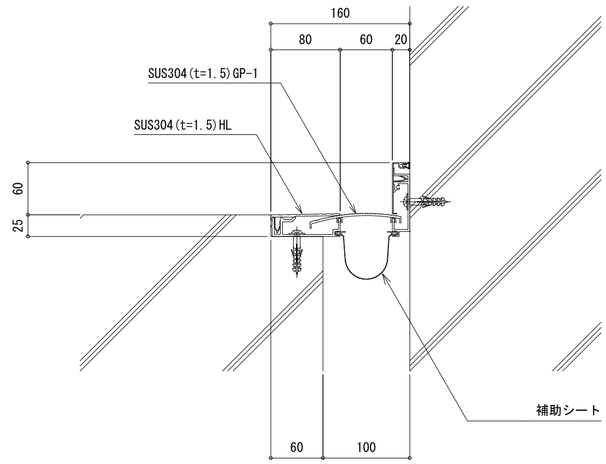
⑧ 床ー床 Exp.j（ステンレス製） S=1:5

クリアランス	100mm



⑨ 床コーナー Exp.j（ステンレス製） S=1:5

クリアランス	100mm

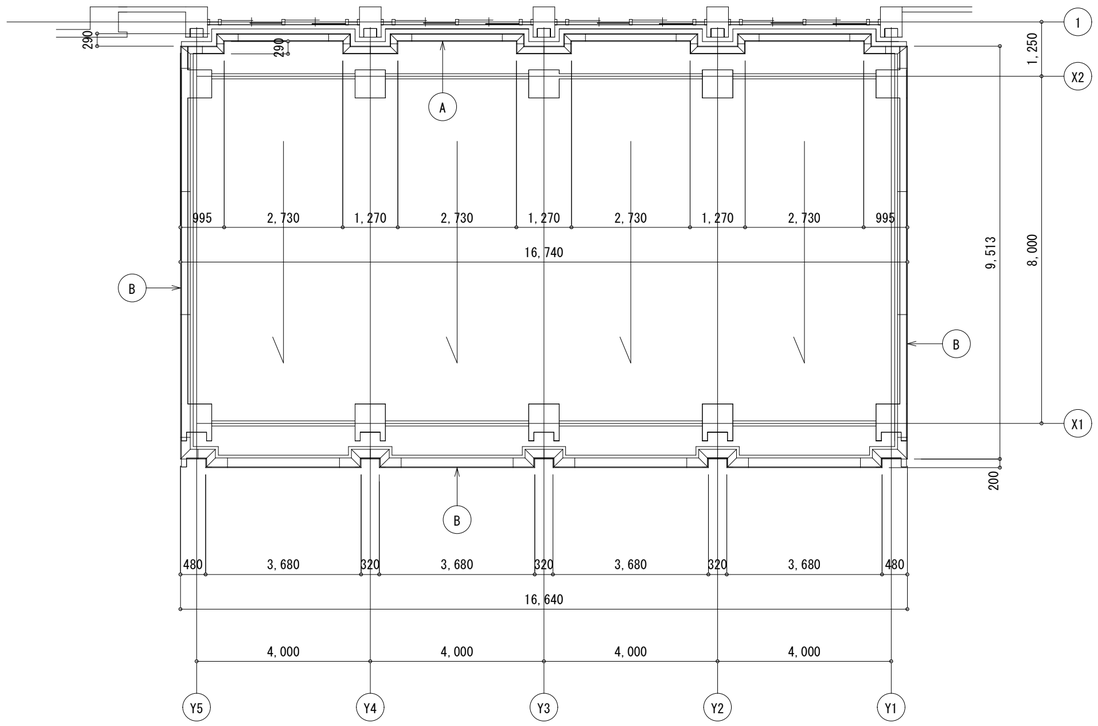


月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

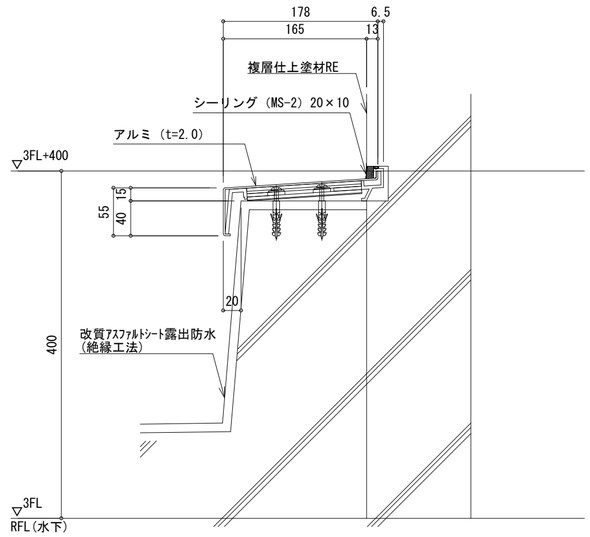
株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設計	整理番号	縮尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
一級建築士 第 93977号 市川 司	年 月 日 H28.1.12	A2 1/5 原図 A2	Exp.j 断面図(2)（参考図）	D — 36

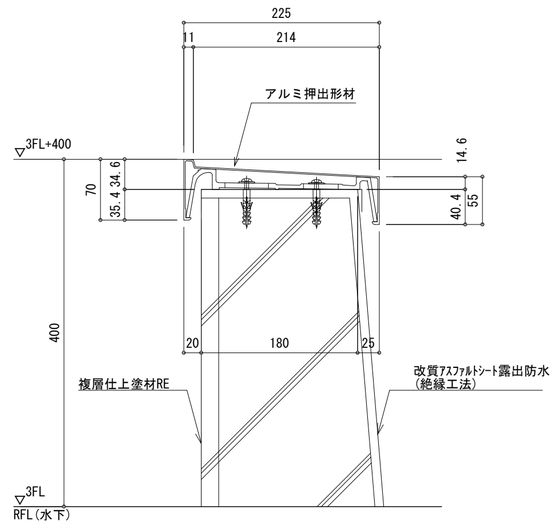
水切・笠木 キープラン



Ⓐ 水切（アルミ製） S=1:5



Ⓑ 笠木（アルミ製） S=1:5



月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設 計
一級建築士 第 93977号 市川 司

整理番号

年 月 日 H28.1.12

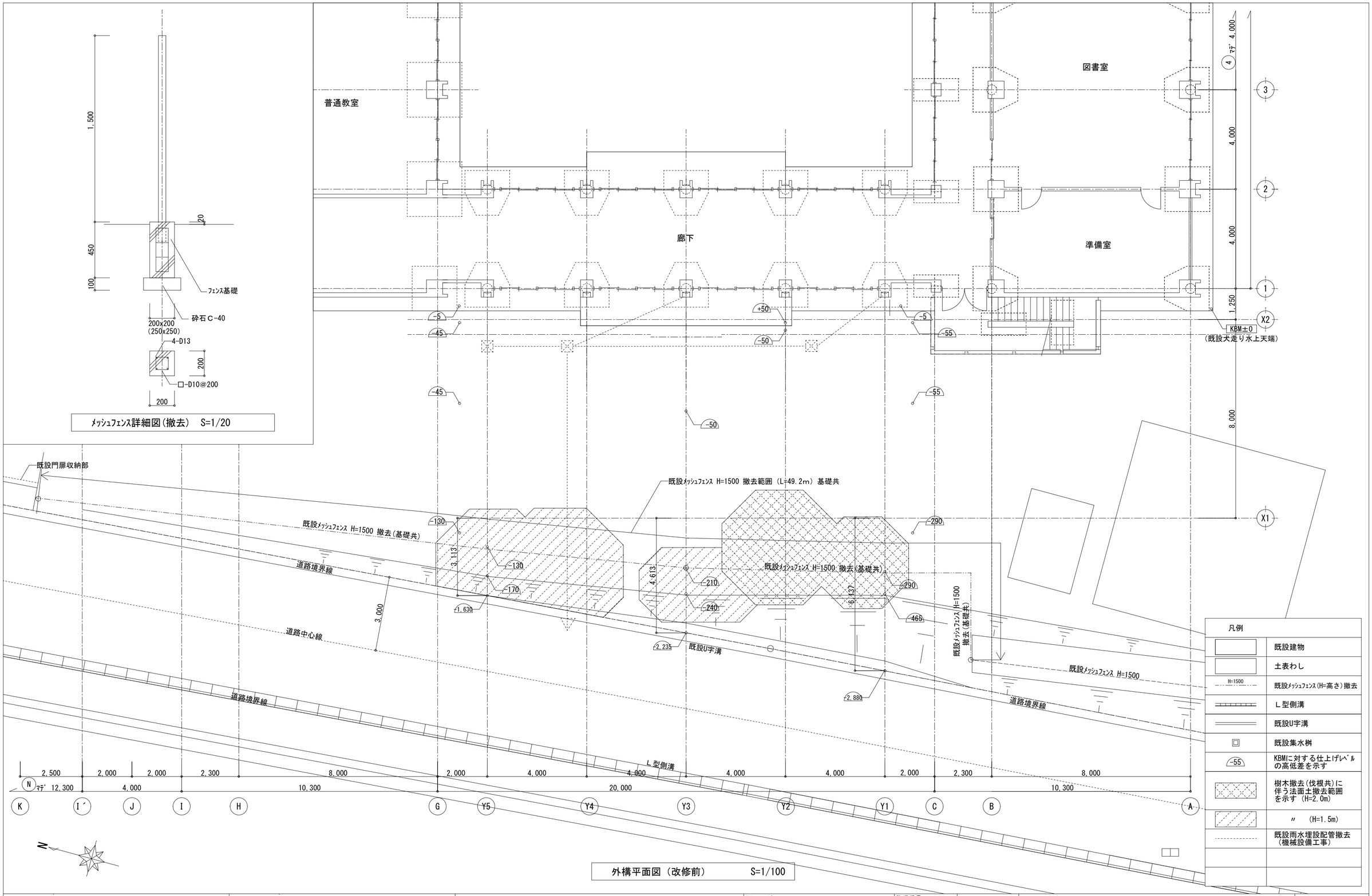
縮 尺 A2 1/5

原図 A2

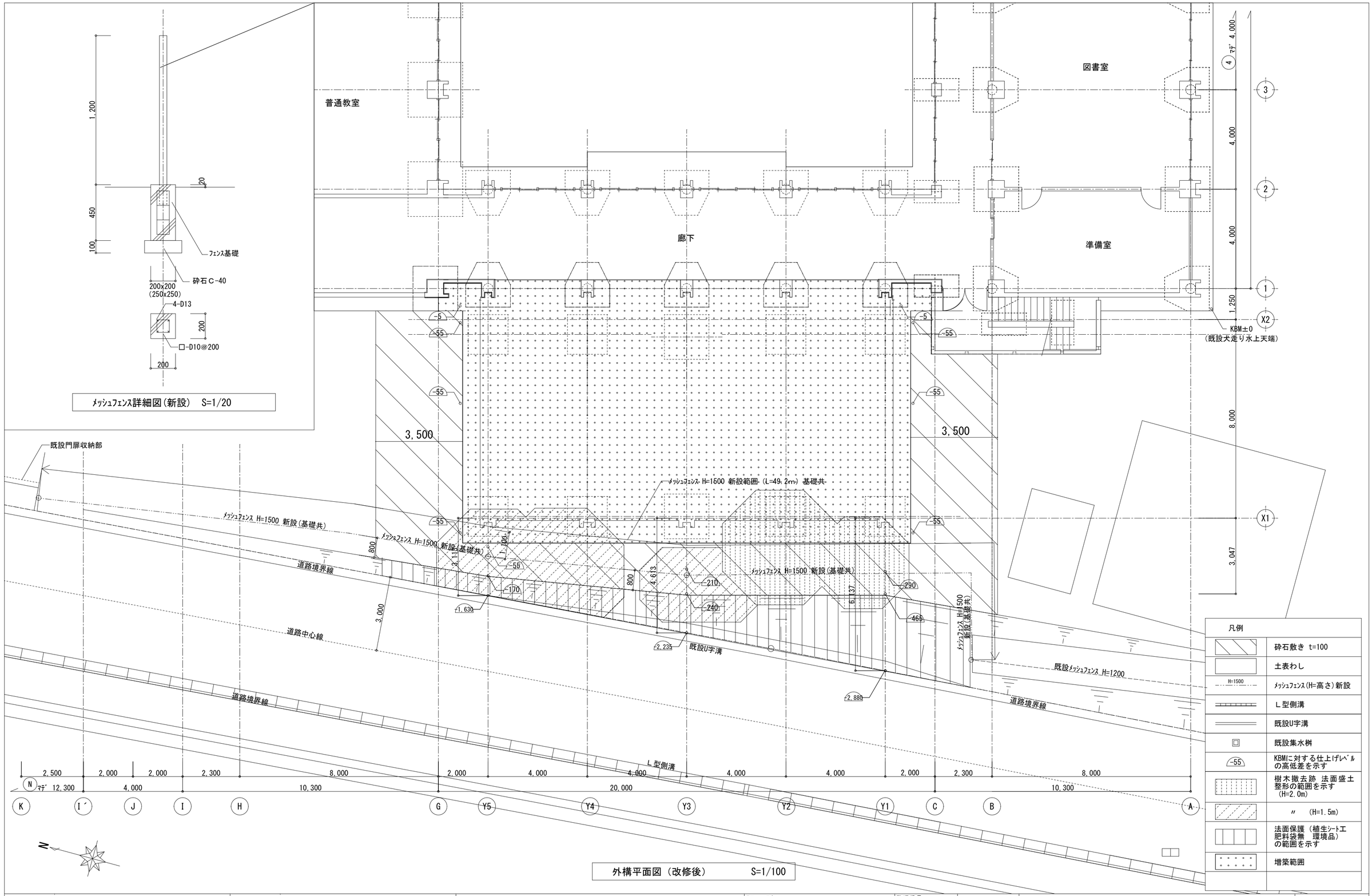
津市立西が丘小学校増築工事

笠木 断面図（参考図）

NO. D — 37

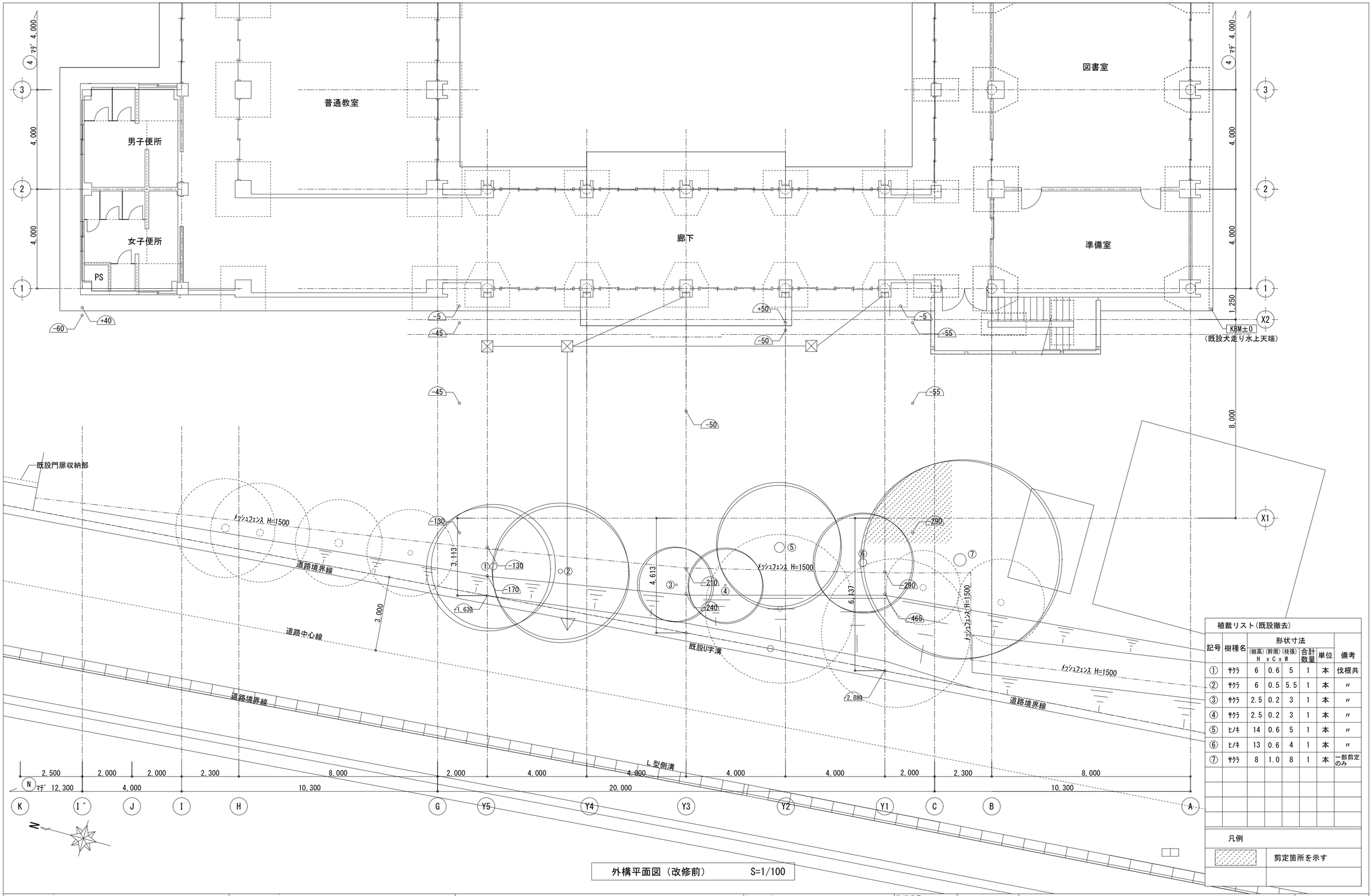


月・日	月・日	株式会社 市川三千男総合設計	設計	整理番号	縮尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
・	・	三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659	一級建築士 第 93977号 市川 司	年 月 日	A2 1/100		D — 38
・	・	一級建築士 第 266489号 山口 裕之		H28.1.12	原図 A2	外構平面図 (改修前)	77
・	・						



外構平面図（改修後）　S=1/100

月・日	月・日	株式会社 市川三千男総合設計	設計	整理番号	縮尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
・	・	三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659	一級建築士 第 93977号 市川 司	年 月 日	A2 1/100		D — 39
・	・	一級建築士 第 266489号 山口 裕之		H28.1.12	原図 A2	外構平面図（改修後）	77



外構平面図（改修前）　S=1/100

植栽リスト(既設撤去)

記号	樹種名	形状寸法 (樹高) H	(幹周) x C	(枝張) x W	合計数量	単位	備考
①	ｻｸﾗ	6	0.6	5	1	本	伐根共
②	ｻｸﾗ	6	0.5	5.5	1	本	〃
③	ｻｸﾗ	2.5	0.2	3	1	本	〃
④	ｻｸﾗ	2.5	0.2	3	1	本	〃
⑤	ﾋﾉｷ	14	0.6	5	1	本	〃
⑥	ﾋﾉｷ	13	0.6	4	1	本	〃
⑦	ｻｸﾗ	8	1.0	8	1	本	一部剪定のみ

凡例

剪定箇所を示す

月・日	月・日
・	・
・	・
・	・

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

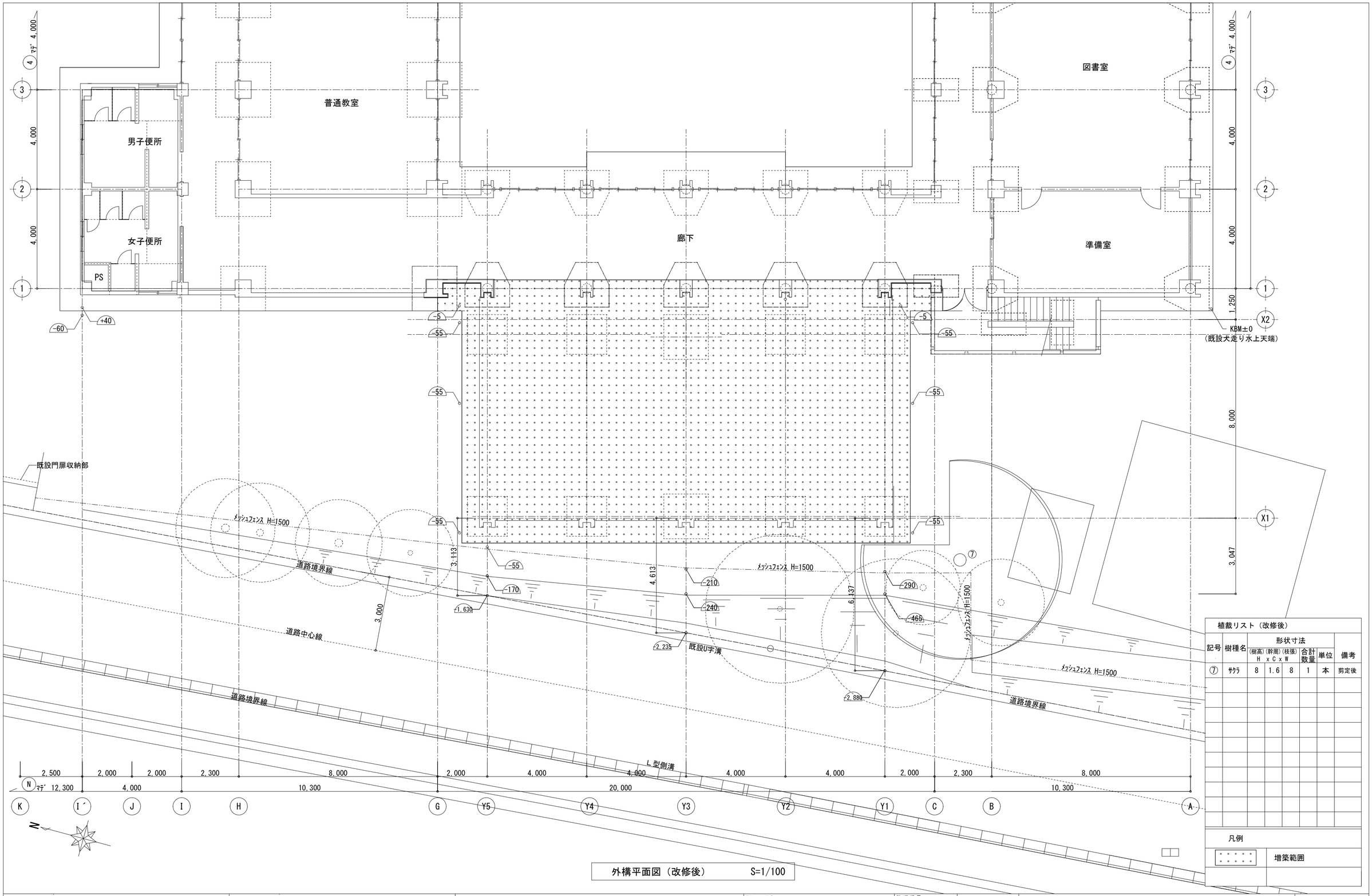
年　月　日
H28.1.12

縮　尺
A2 1/100
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

植栽平面図（改修前）

NO.
D — 40
77



外構平面図（改修後）　S=1/100

植栽リスト（改修後）

記号	樹種名	形状寸法 (樹高) H	(幹周) x C	(枝張) x W	合計数量	単位	備考
⑦	ｻｸﾗ	8	1.6	8	1	本	剪定後

凡例

	増築範囲

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口 裕之

設計
一級建築士　第 93977号　市川 司

整理番号

年 月 日
H28.1.12

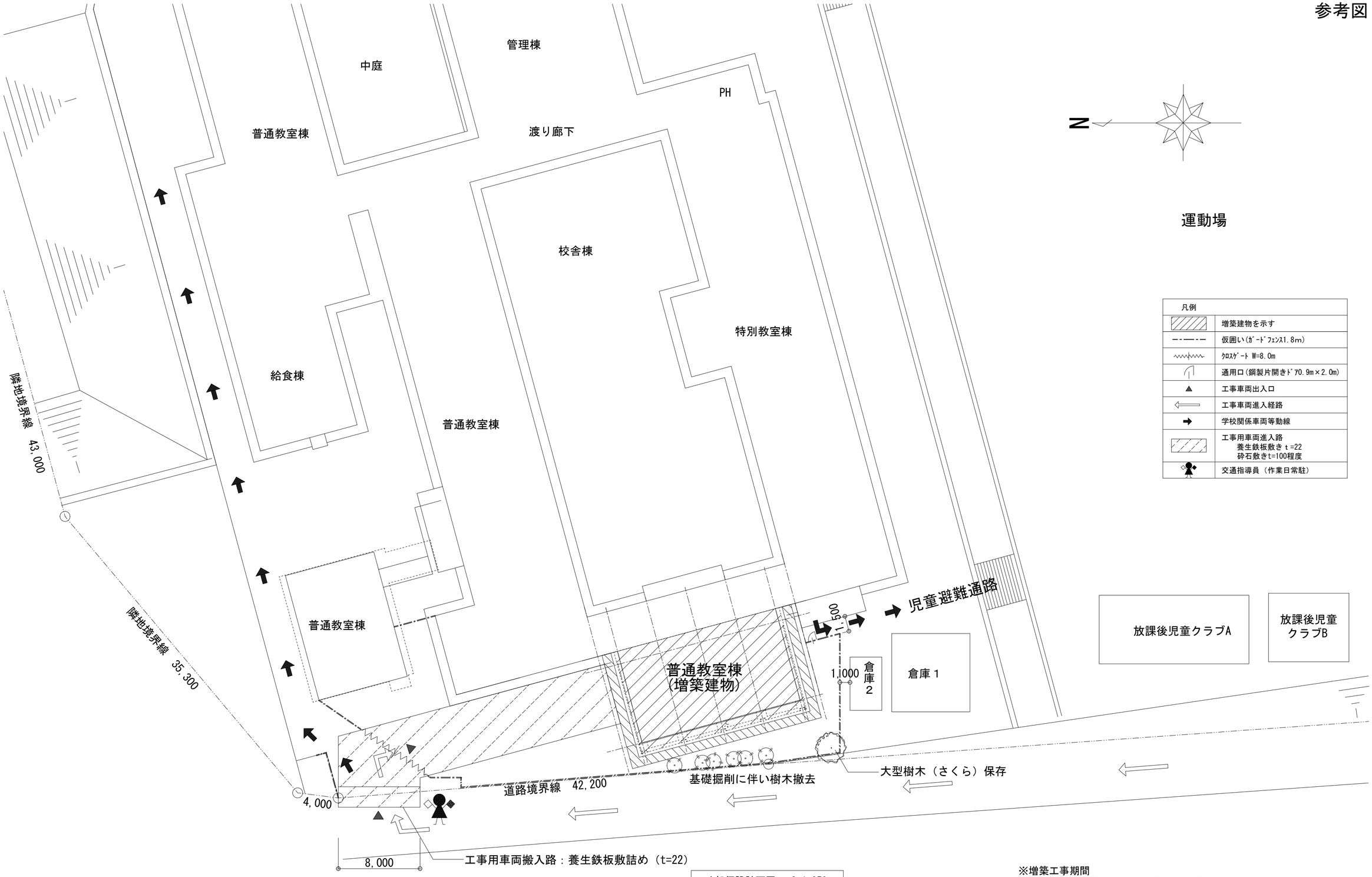
縮尺
A2 1/100
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

植栽平面図（改修後）

NO.
D — 41
77

参考図



外部仮設計画図　S=1:250

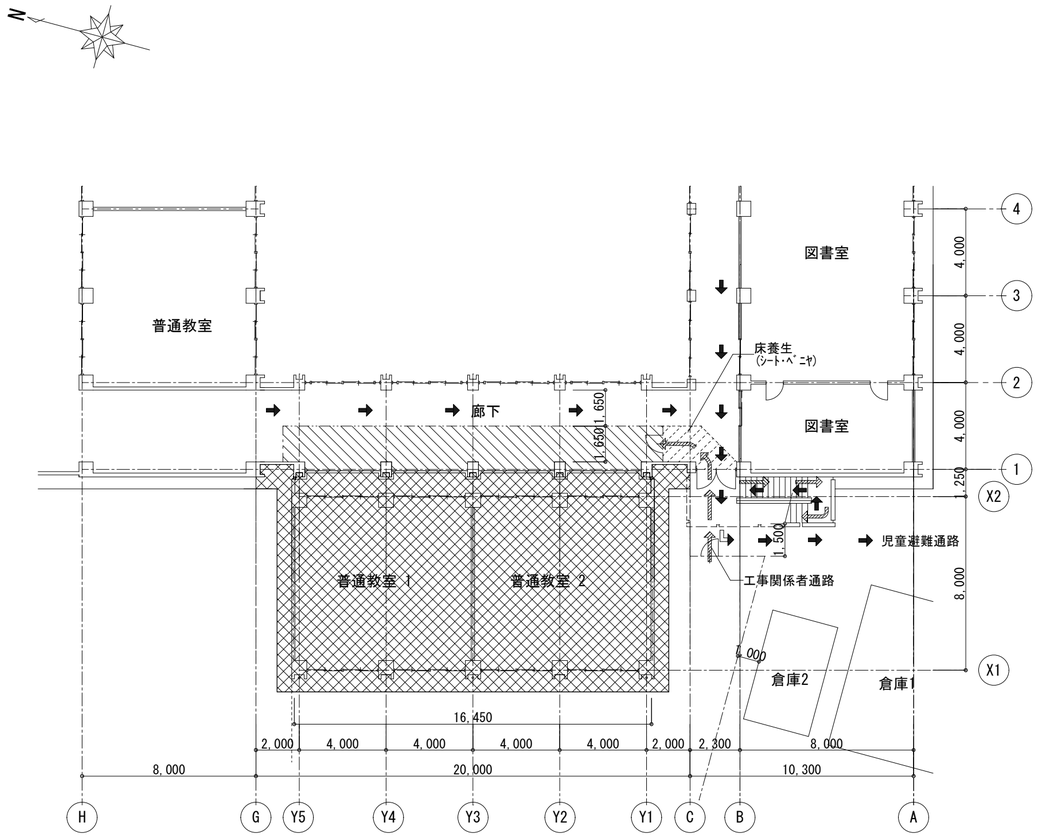
※増築工事期間
※工事完了後、既設ﾌｪﾝｽの簡易復旧、場内整地を行うこと。

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設計	整理番号	縮尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
一級建築士　第 93977号　市川　司	年 月 日 H28.1.12	A2 1/250 原図 A2	仮設計画図（1）	D — 42 77

参考図



凡 例

改修範囲を示す

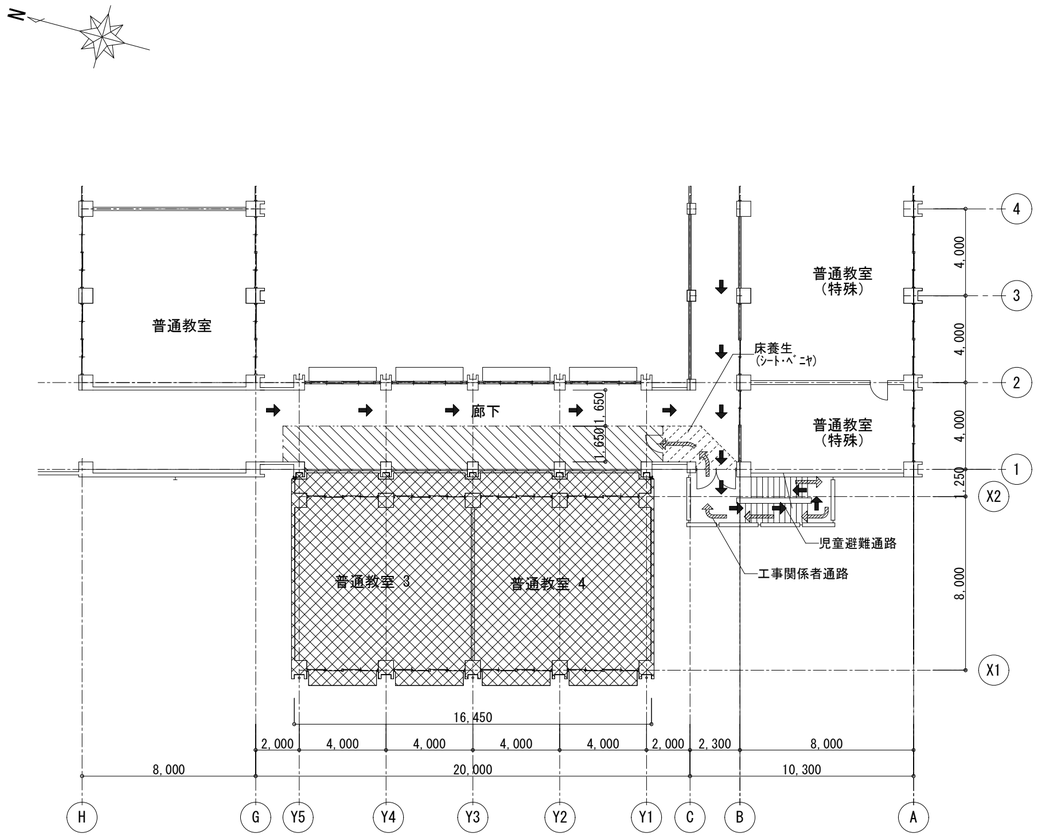
増築範囲を示す

1階内部仮設計画図　S=1/200

※増築工事期間

凡例	
	仮囲い(ｶﾞｰﾄﾞﾌｪﾝｽ1.8m)
	通用口(鋼製片開きﾄﾞｱ0.9m×2.0m)
	工事関係者通路
	生徒・職員等動線
	床養生(ｼｰﾄ･ﾍﾞﾆﾔ)
	仮設間仕切り(A種)
	安全区画(ｺｰﾝ+ﾊﾞｰ)

参考図



凡 例

改修範囲を示す

増築範囲を示す

2階内部仮設計画図　S=1/200

※増築工事期間

凡例	
	仮囲い(ｶﾞｰﾄﾞﾌｪﾝｽ1.8m)
	通用口(鋼製片開きﾄﾞｱ0.9m×2.0m)
	工事関係者通路
	生徒・職員等動線
	床養生(ｼｰﾄ･ﾍﾞﾆﾔ)
	仮設間仕切り(A種)
	安全区画(ｺｰﾝ+ﾊﾞｰ)

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

年　月　日
H28.1.12

縮　尺
A2 1/200
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

仮設計画図 (2)

NO.
D — 43

構造関係共通図(配筋標準図)

1.1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表1.1を標準とする。

表1.1　鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ角度	折曲げ図(余長)	折曲げ内法直径(D) SD295A SD295B, SD345 D16以下	SD295A SD295B, SD345 D19〜D38	SD390 D19〜D38
180°	d, D, 4d以上	3d以上	4d以上	5d以上
135°	d, D, 6d以上			
90°	d, D, 8d以上			
135°及び90°(幅止め筋)	4d以上, D, d, 4d以上			

1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

2.1 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。
（1）柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部

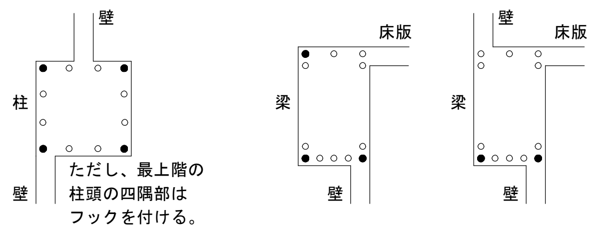


図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（ ● 印）

（2）煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
（3）杭基礎のベース筋
（4）帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3.1 継手及び定着

（a）鉄筋の重ね継手
（1）径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
（2）鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1　鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	L_1（フックなし）	L_{1h}（フックあり）
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24, 27	35d	25d
	30, 33, 36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24, 27	40d	30d
	30, 33, 36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	40d	30d

（注）1. L_1 ，L_{1h} ：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
2. フックありの場合のL_{1h} は、図3.1に示すようにフック部分　を含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

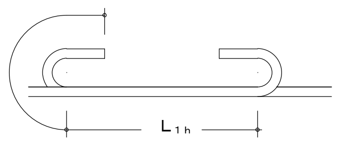


図3.1　フックありの場合の重ね継手の長さ

（3）鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上（軽量骨材を使用する場合は50d以上）と表3.1の重ね継手の長さのうち大きい値とする。

（4）隣り合う継手の位置は、表3.2による。
ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。

表3.2　隣り合う継手の位置

継手		
重ね継手	フックありの場合	L_{1h}, a, $a=0.5L_{1h}$ ／ L_{1h}, a, L_{1h}, $a\geqq0.5L_{1h}$
重ね継手	フックなしの場合	L_1, a, $a=0.5L_1$ ／ L_1, a, L_1, $a\geqq0.5L_1$
圧接継手 容接継手	─	圧接継手・溶接継手, a, $a\geqq400$mm
機械式継手	─	カップラー, b, a, $a\geqq400$mm、かつ、$a\geqq(b+40)$mm

（b）鉄筋の定着
（1）鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3　鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	直線定着の長さ L_1	L_2	L_3 小梁	L_3 スラブ	フックあり定着の長さ L_{1h}	L_{2h}	L_{3h} 小梁	L_{3h} スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	─
	21	40d	35d			30d	25d		
	24, 27	35d	30d			25d	20d		
	30, 33, 36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24, 27	40d	35d			30d	25d		
	30, 33, 36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24, 27	45d	40d			35d	30d		
	30, 33, 36	40d	35d			30d	25d		

（注）1. L_1 ，L_{1h}：2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2. L_2 ，L_{2h}：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3. L_3 ：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L_{3h} ：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

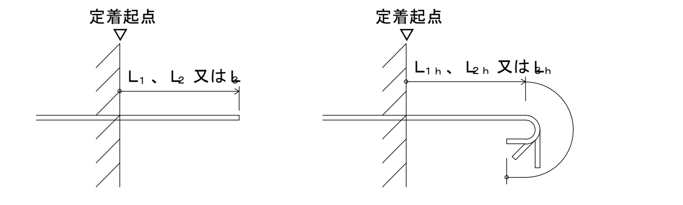


図3.2　直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

（2）梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(ⅰ)、(ⅱ)及び(ⅲ)をすべて満足するものとする。
（ⅰ）全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
（ⅱ）余長は8d以上
（ⅲ）仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さは表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

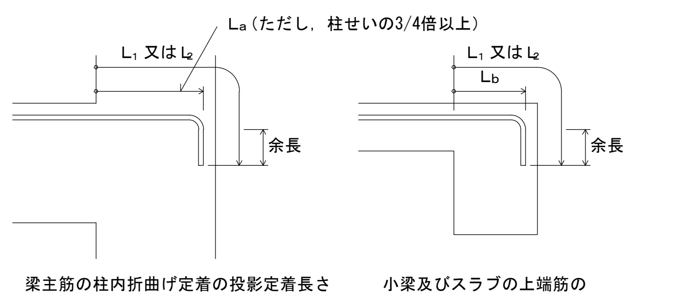


図3.3　折曲げ定着の方法

表3.4　鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	L_a	L_b
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

（注）1. L_a ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。
（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
2. L_b ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。
（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

（3）溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
なお、L_2 及びL_3 は表3.3の（注）による。

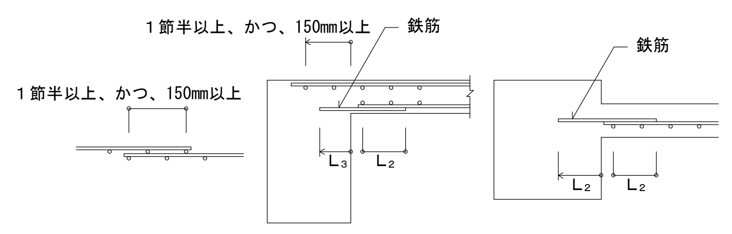


図3.4　溶接金網の継手及び定着

（4）スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

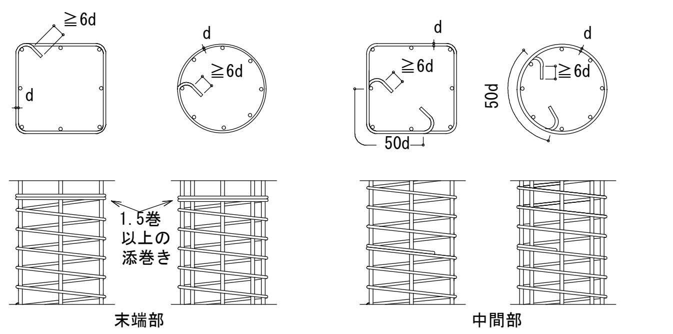


図3.5　スパイラル筋の継手及び定着

4.1 最小かぶり厚さ

（a）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1　鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ(単位：mm)

構造部分の種別				最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ，耐力壁以外の壁	仕上げあり		20
		仕上げなし		30
	柱，梁，耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁，耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱，梁，スラブ，壁			＊40
	基礎，擁壁，耐圧スラブ			＊60
煙突等高熱を受ける部分				60

（注）1. ＊印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

（b）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

（c）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

（d）鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。
（1）粗骨材の最大寸法の1.25倍
（2）25mm
（3）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1.5倍

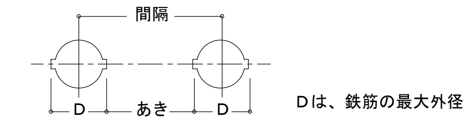


図4.1　鉄筋相互のあき

（e）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。

（f）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(c)による。

5.1 基礎梁

（a）一般事項
（1）梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
（2）梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b)(4)による。

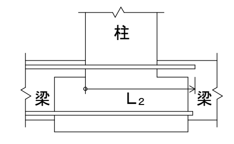
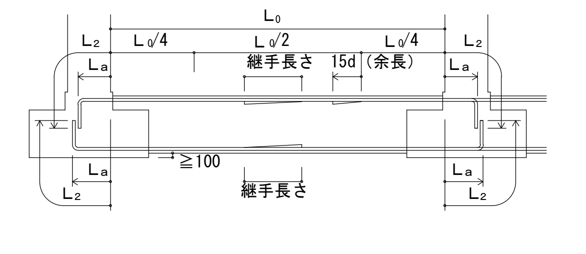
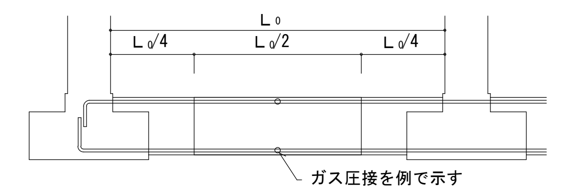


図5.1　梁筋の基礎梁内への定着

（b）独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



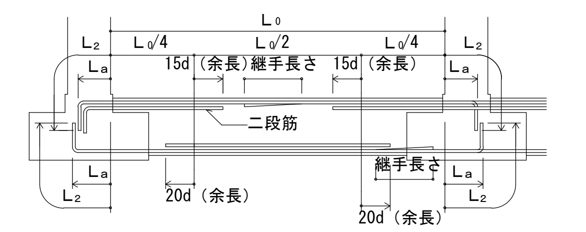
（注）1. 図示のない事項は、7.1による。
2. ═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）



□ ：継手の好ましい位置

図5.2　主筋の継手、定着及び余長（その1）

（c）独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。
ただし、耐圧スラブが付く場合は、(d) による。



（注）1. 図示のない事項は、7.1による。
2. ═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

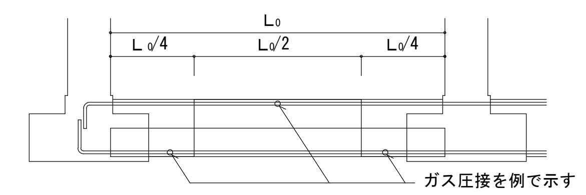
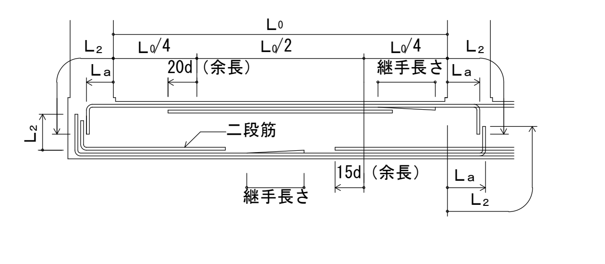


図5.3　主筋の継手、定着及び余長（その2）

（d）連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。



（注）1. 図示のない事項は、7.1による。
2. ═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

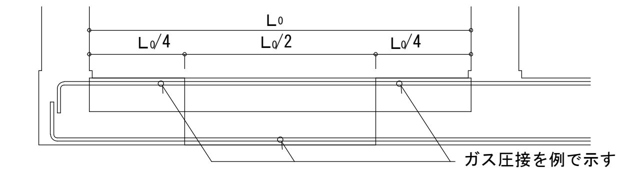


図5.4　主筋の継手、定着及び余長（その３）

5.2 基礎梁のあばら筋等

（a）一般事項
（1）あばら筋の径および間隔は、構造図による。
（2）あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(b)による。
ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

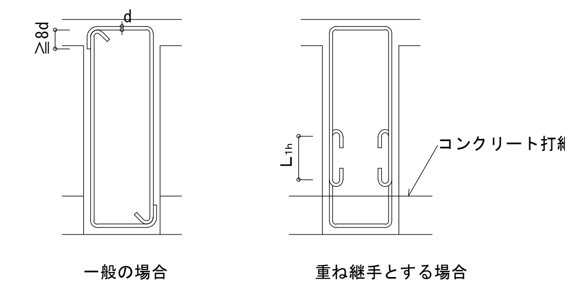


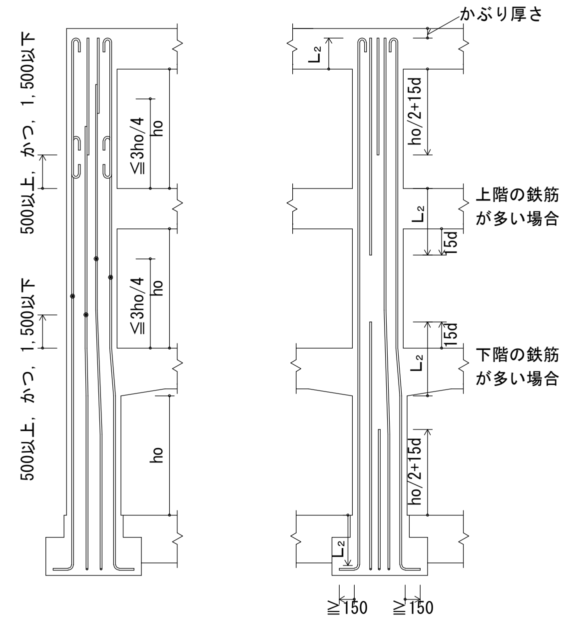
図5.5　あばら筋組立の形及びフックの位置

（b）腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は構造図による。

（c）あばら筋の割付けは、7.2(c)による。

6.1 柱

（a）一般事項
（1）継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4（hoは柱の内法高さ）以下とする。
（2）継手、定着及び余長は、図6.1による。
ただし、柱頭定着長さL2 が確保できない場合は、構造図による。



（注）1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
2. 隣り合う継手の位置は、表3.2［隣り合う継手の位置］による。
3. 継手及び定着は、すべての階に適用できる。

図6.1　柱主筋の継手、定着及び余長

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第 93977号
構造設計一級建築士　第 2319号　市川　司

整理番号	縮　尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO. S ― 01
年 月 日 H28.1.12	NS 原図 A2	構造関係共通図１	77

（b）柱打ち増し部
（1）打増し部分に、壁、梁及びスラブ等がとりつく場合は、壁、梁及びスラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。
（2）土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。

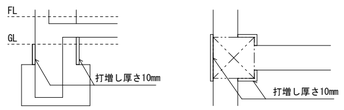


図6.2　柱打増し部

6.2　帯筋

（a）帯筋の種類及び間隔は、構造図による。

（b）帯筋組立の形は図6.3により、適用は構造図による。
（1）Ｈ形の135°曲げのフックが困難な場合は、Ｗ－Ⅰ形とする。
（2）溶接する場合の溶接長さＬは、両面フレア溶接の場合は５ｄ以上、片面フレア溶接の場合は１０ｄ以上とする。
（3）ＳＰ形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻き行う。

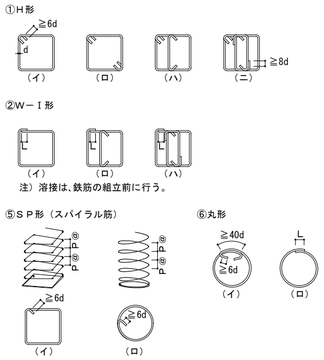
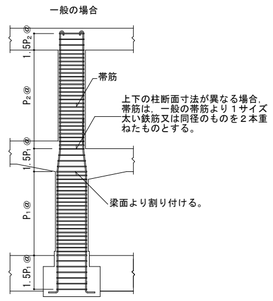


図6.3　帯筋組立の形

（c）フック及び継手の位置は交互とする。

（d）帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は構造図による。



（注）1．図示のない事項については、一般の場合に同じ。
2．柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P ＠または1.5P₂＠とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。なお、P₁＠　、P ＠は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6.4　帯筋の割付け

7.1　大梁

（a）一般事項
（1）梁の上がり下がりは FLを基準とした寸法値とする。
（2）地中梁下の砂利地業厚及び捨てコンクリート地業厚は構造図による。
（3）打ち増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打ち増し部分を含まない。

（b）大梁主筋の継手及び定着の一般事項
（1）継手中心位置は、次による。
上端筋：中央　o/2以内
下端筋：柱面より梁せい（Ｄ）以上離し、　o/4を加えた範囲以内
（2）継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。
（3）梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

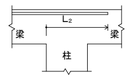


図7.1　梁主筋の梁内定着

（4）梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は3.1(b)(3)による。
上端筋：曲げ降ろす
下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。
下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。
（5）梁にハンチをつける場合、その傾斜は構造図による。
（6）段違い梁は、図7.2による。

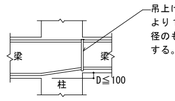
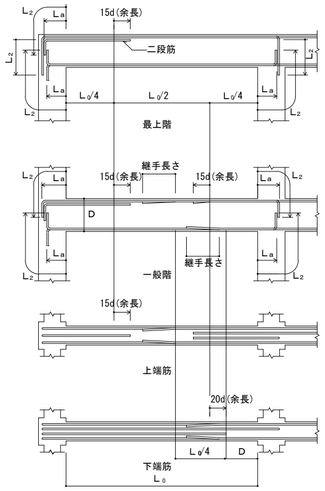


図7.2　段違い梁

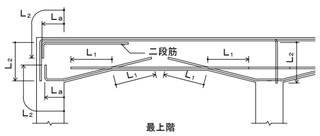
（c）ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。

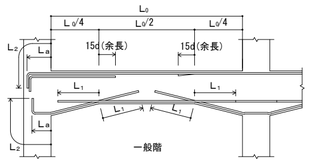


（注）1．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2．═══　印は、継手及び余長を示す。
3．破線は、柱内定着の場合を示す。
4．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.3　大梁の重ね継手、定着及び余長

（d）ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。





（注）1．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2．═══　印は、継手及び余長を示す。
3．梁内定着の端部下端筋が接近するときは、═══　のように引き通すことができる。
4．破線は、柱内定着を示す。
5．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.4　ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2　あばら筋等

（a）あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項
（1）あばら筋の種類、径及び間隔は、構造図による。
（2）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。
ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは構造図による。
（3）幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

（b）あばら筋組立の形及びフックの位置
（1）形は、図7.5（イ）とする。
ただし、L形梁の場合は、（ロ）または（ハ）、T形梁の場合は（ロ）～（ニ）とすることができる。
（2）フックの位置
ⅰ．（イ）の場合は交互とする。
ⅱ．（ロ）の場合　L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
ⅲ．（ハ）の場合は床版の付く側を90°折曲げとする。

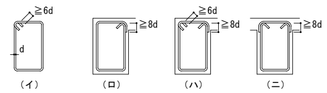
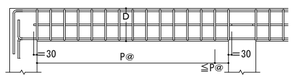


図7.5　あばら筋組立の形

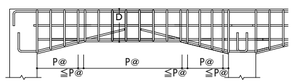
（c）あばら筋の割付け
（1）間隔が一様でハンチのない場合は、図7.6による。



（注）1．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2．図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6　あばら筋の割付け（その１）

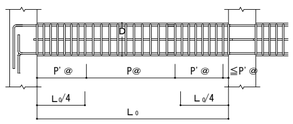
（2）間隔が一様でハンチのある場合は、図7.7による。



（注）1．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2．図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7　あばら筋の割付け（その２）

（3）梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。



（注）1．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2．図中のP@、PW1+2019@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8　あばら筋の割付け（その３）

（d）腹筋及び幅止め筋
（1）一般の梁は、図7.9による。

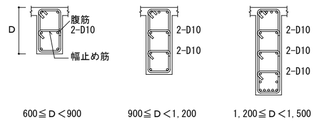
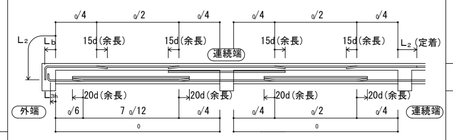


図7.9　腹筋および幅止め筋

7.3　小梁

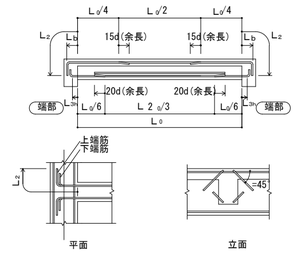
（a）小梁主筋の継手、定着及び余長
（1）連続小梁の場合は、図7.10による。



（注）1．図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
2．═══　印は、余長位置を示す。

図7.10　小梁主筋の継手、定着及び余長（その１）

（b）単独小梁の場合は、図7.11による。



直交する梁へ斜めに定着する場合

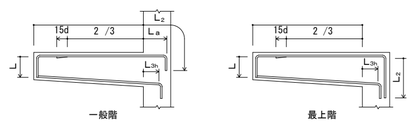
（注）1．図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
2．═══　印は、余長位置を示す。

図7.11　小梁主筋の継手、定着及び余長（その２）

（c）あばら筋は、7.2による。

7.4　片持梁

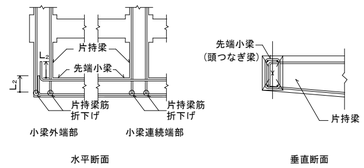
（a）片持梁主筋の定着及び余長
（1）先端に小梁のない場合は、図7.12による。



（注）1．図示のない事項は、7.1による。
2．═══　印は、余長位置を示す。
3．先端の折曲げの長さＬは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

図7.12　片持梁主筋の定着及び余長

（2）先端に小梁がある場合は、図7.13による。



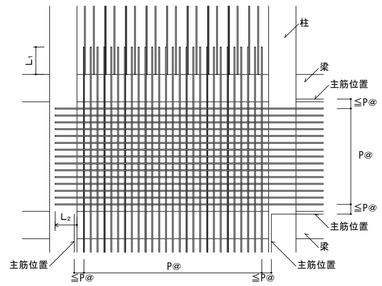
（注）1．図示のない場合は、（1）による。
2．先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3．先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7.13　片持梁主筋の定着

（b）あばら筋は、7.2による。

8.1　壁

（a）一般事項
（1）壁配筋の重ね継手及び定着の長さは、重ね継手長さをL2、定着長さをL1とする。
（2）幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。
（3）EWO○、EKWO○、ERWO○の配筋はWO○、KWO○、RWO○に同じで、かぶり厚さ、定着長さ及び継手長さは、3.1、4.1による。
（4）打増し部分に、壁及びスラブ等が取り付く場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打ち増し部分は含まない。



（注）図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

図8.1　壁の配筋

（b）壁の配筋は表8.1により、種別は構造図による。

表8.1　壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図　(mm)
壁リスト参照		

（注）壁筋の配筋順序は、規定しない。

（c）片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は構造図による。

表8.2　片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋		断面図　(mm)	階段の配筋 種別(表10.1)
KW1	縦筋	D13-200@ダブル	180	KA1
	横筋	D10-200@ダブル		KA3
KW2	縦筋	D13-150@ダブル	200	KA2
	横筋	D10-200@ダブル		KA4

（注）縦筋は，横筋の外側に配筋する。

月・　日		月・　日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社　市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第 93977号
構造設計一級建築士　第 2319号　市川　司

整理番号

年　月　日
H28.1.12

縮　尺
NS
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

構造関係共通図２

NO.
S — 02
77

（d）壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。

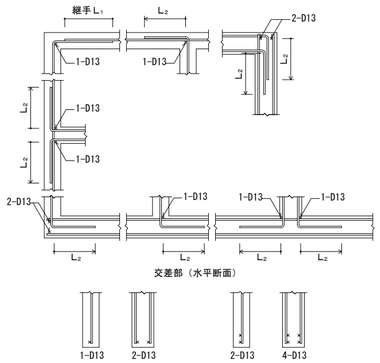


図8.2　壁の交差部及び端部の配筋

8.2　壁の補強

（a）壁開口部の補強

（1）耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。なお、耐震壁の補強筋は、構造図による。

表8.3　壁開口部補強筋（A形）

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
壁ﾘｽﾄ参照		

表8.4　壁開口部補強筋（B形）

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
壁ﾘｽﾄ参照		

（2）壁開口部補強の定着長さは、図8.3による。

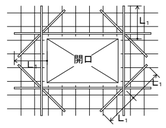


図8.3　壁開口部補強筋の定着長さ

（b）コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。

9.1　スラブ

（1）スラブ及び土間コンクリートの上がり下がりは、FLを基準とした寸法値とする。
（2）土間スラブ下の砂利地業厚及び捨てコンクリート厚は構造図による。
（3）土間コンクリート補強筋(D0)の配筋及びコンクリート厚さは構造図による。
（4）スラブの配筋（S形配筋）は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

表9.1　S形配筋

配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域
ｽﾗﾌﾞﾘｽﾄ参照		

（注）上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

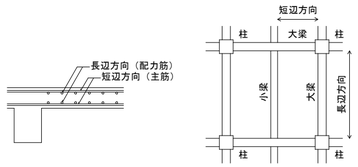


図9.1　スラブの配筋

（5）配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
（6）鉄筋の重ね継手長さは、L　とする。
（7）定着長さ及び受け筋は、図9.2による。
ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

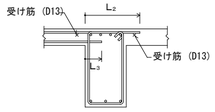


図9.2　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その１）

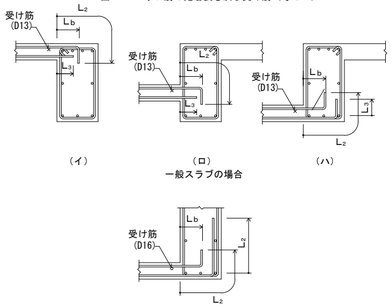


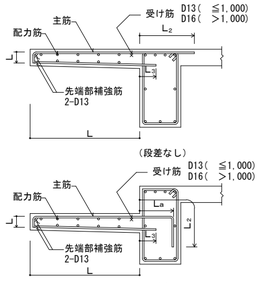
図9.3　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その２）

9.2　片持スラブ

片持スラブの配筋は、次による。
（1）片持スラブの配筋（CS形配筋）は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

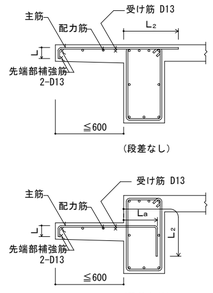
表9.2　CS形配筋

配筋種別	主筋
ｽﾗﾌﾞﾘｽﾄ参照	



（注）1．先端の折り曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.4　片持スラブの配筋（CS１からCS５）



（注）1．先端の折り曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.5　片持スラブの配筋（CS６及びCS７）

（2）先端に壁が付く場合の配筋は、図9.6による。

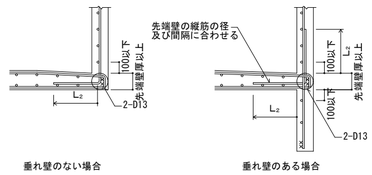


図9.6　先端に壁が付く場合の配筋

（3）出隅部
（i）補強の配筋は構造図により、配筋方法は、図9.7による。
（ii）出隅受け部分（図9.7の斜線部分）の補強筋は構造図による。

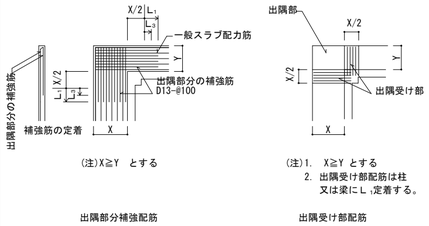


図9.7　片持ちスラブ出隅部の補強配筋

9.3　スラブ等の補強

（a）スラブ開口部の補強
スラブ開口部の補強は、特記による。
（i）スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、図9.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13（　＝2L　）シングルを上下筋の内側に配筋する。

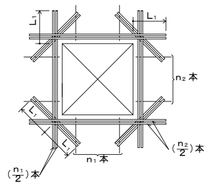


図9.8　スラブ開口部の補強配筋

（ii）スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

（b）屋根スラブの補強
屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

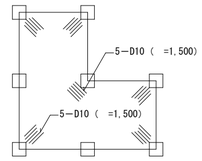
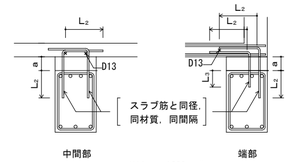


図9.9　出隅及び入隅部の補強配筋

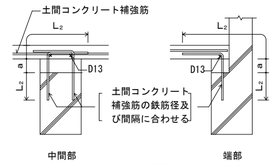
（c）土間スラブの打継ぎ補強
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は図9.10による。
ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。



（注）a≦300の場合

図9.10　打継ぎ補強配筋

（d）土間コンクリートの補強
土間コンクリートの補強筋は、構造図による。なお、基礎梁との接合部は、図9.11による。



（注）a≦300の場合

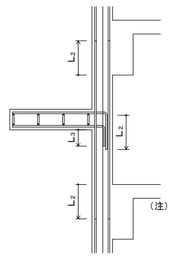
図9.11　土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1　片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、表10.1及び図10.1により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

表10.1　片持スラブ形階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図	D13 D13 D10-300@ D10-300@ t	2-D13 D13 D10-300@ D10-300@ t
配筋種別	KA3	KA4
配筋図	D10-300@ t t D13 D13	D10-300@ t t D13 2-D13



（注）1．壁配筋は、8.1（c）による。
2．階段主筋は、壁の中心線を越えてから緩に下ろす。
3．スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、表3.3［鉄筋の定着の長さ］のLdとする。

図10.1　片持スラブ形階段配筋の定着

10.2　二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

表10.2　二辺固定スラブ形配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも（全域）
階段ﾘｽﾄ参照	

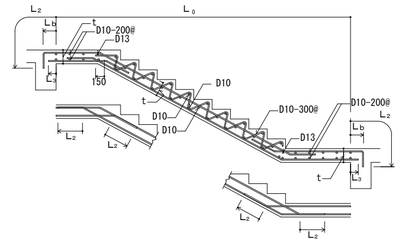
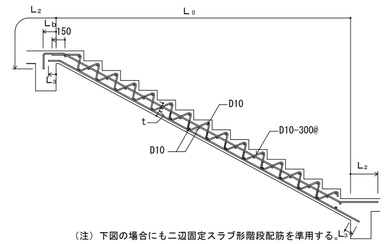


図10.2　二辺固定スラブ形階段配筋（その１）



（注）下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

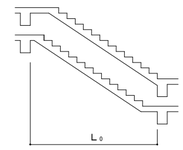


図10.3　二辺固定スラブ形階段配筋（その２）

月・ 日		月・ 日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社　市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第 93977号
構造設計一級建築士　第 2319号　市川　司

整理番号	縮　尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
年　月　日 H28.1.12	NS 原図 A2	構造関係共通図３	S — 03

11.1　梁貫通孔

（a）梁貫通孔は、次による。
（1）　梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
（2）　孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
（3）　孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3（Dは梁せい）の範囲には設けてはならない。
（4）　孔は、柱面から原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
（5）　孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の３倍以上とする。
（6）　縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
（7）　補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
（8）　孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
（9）　溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
(10)　溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13Φのリング筋を取り付ける。
なお、リング節は、溶接金網に４箇所以上溶接する。
(11)　溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

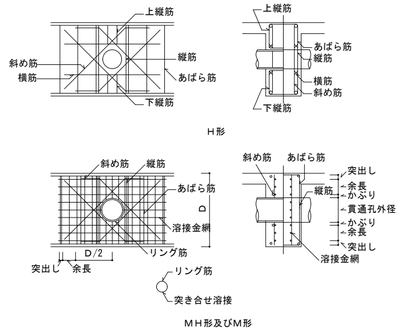


図11.1　梁貫通孔補強筋の名称等

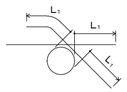


図11.2　補強筋の定着長さ

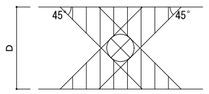


図11.3 他の開孔を設けない範囲

（b）梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.3により、配筋種別は構造図による。

表11.1　H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

（注）――――　は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.2　M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	配　筋　図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13		
M3	4-2-D13	2-6Φ-100@	
M4	6-2-D13		

（注）――――　は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.3　MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6Φ-100@	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6Φ-100@	
MH7	4-2-D19			

（注）――――　は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2　コンクリートブロック帳壁との取合い

（a）控壁は、次による。
（1）控壁の配置は、構造図による。
（2）配筋は、図11.4による。

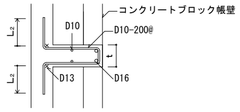


図11.4　控壁の配筋（水平、垂直とも）

（b）帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

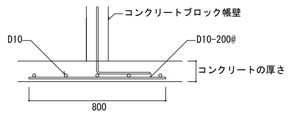


図11.5　壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3　パラペット

パラペットの配筋は、図11.6により、コンクリート厚さ、配筋は構造図による。

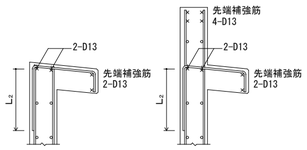


図11.6　パラペットの配筋

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社　市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第 93977号
構造設計一級建築士　第 2319号　市川　司

整理番号

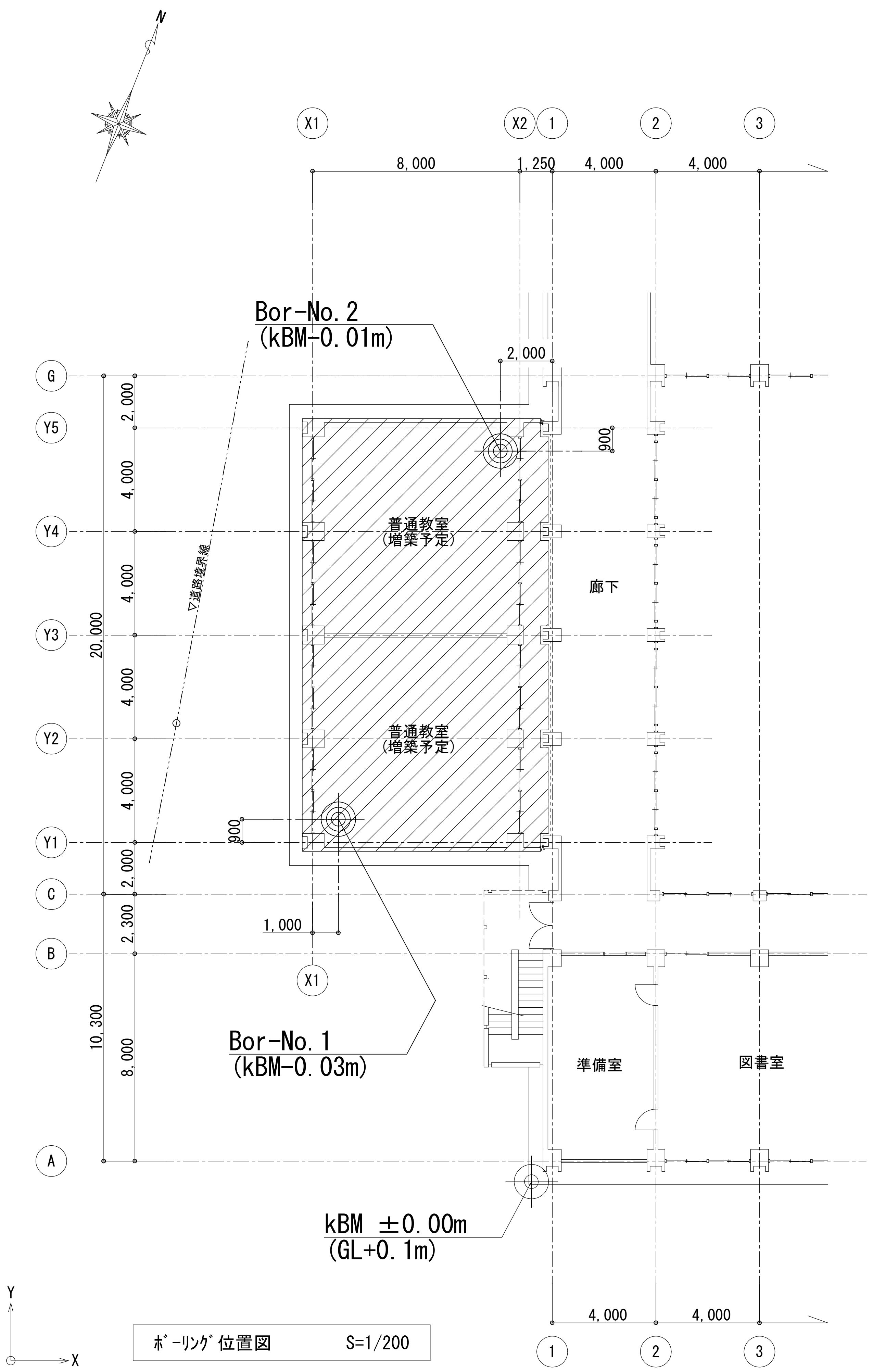
年　月　日
H28.1.12

縮　尺
NS
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

構造関係共通図４

NO.
S ― 04



ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ位置図 S=1/200

ボーリング柱状図 (No.1)

調査名: 平成27年度営教総第1-19号 津市立西が丘小学校増築工事等に係る地質調査業務委託

ボーリング名	No.1	調査位置	津市長岡町地内	北緯	34°44′40.7″
発注機関	津市建設部営繕課	調査期間	平成27年7月21日 ～ 27年7月22日	東経	136°29′28.2″
孔口標高	KBM -0.03m	試錐機	カノKR-50H	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	14.40m	エンジン	ヤンマーNFAD9	ポンプ	カノV-4

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-2.43	2.40	2.40	盛土(砂質シルト)	暗灰~茶灰			砂は細砂主体で、不規則に混入 上部、φ=2~10mmの礫を混入 下部、固結シルト片を混入
-3.93	1.50	3.90	シルト質細砂	淡茶灰	中位		粒径均一 全体にシルト分を多く混在し、所々で砂質シルト状を呈す
-4.73	0.80	4.70	砂混りシルト	黄褐		非常に硬い	含水量少ない 砂は細砂で混在
-5.33	0.60	5.30	シルト質細砂	茶灰			粒径均一
-6.33	1.00	6.30	砂質シルト	灰~茶灰			含水量少ない 砂は細砂で、所々多く混在
-8.43	2.10	8.40	シルト質細砂	茶灰~灰	中位		粒径均一 全体にシルト分を多く混在し、所々で砂質シルト状を呈す
-8.93	0.50	8.90	シルト	白灰			含水量少ない
-9.73	0.80	9.70	シルト質細砂	淡黄灰	中位		粒径均一 所々、シルト分を多く混在
-11.03	1.30	11.00	シルト質砂	暗茶灰	密		粒径やや不均一で細砂主体 所々、シルト分を多く混在
-14.43	3.40	14.40	固結シルト	灰~暗茶灰~青灰		固結した	含水量少ない GL-13m付近、炭化物を混入 所々、細砂を混在し、一部で砂混り状を呈す

標準貫入試験

深度 (m)	0~10	10~20	20~30	打撃回数/貫入量(cm)
1.15–1.45	2	3	3	8/30
2.15–2.45	1	2	2	5/30
3.15–3.45	7	7	8	22/30
4.15–4.45	6	6	6	18/30
5.15–5.45	6	8	9	23/30
6.15–6.45	4	6	8	18/30
7.15–7.45	8	9	10	27/30
8.15–8.45	6	7	11	24/30
9.15–9.45	7	7	12	26/30
10.15–10.45	7	9	14	30/30
11.15–11.45	9	11	16	36/30
12.15–12.35	26	34		60/20
13.15–13.29	42	18/4		60/14
14.15–14.40	19	24	17/5	60/25

原位置試験: ▽1FL、▽KBM、△設計GL、450、70、30、1,200 基礎▽下端、1,300 改良体▽下端

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
3.15–3.45	1-P3	○	細粒分
4.15–4.45	1-P4	○	細粒分
7.15–7.45	1-P7	○	細粒分
9.15–9.45	1-P9	○	細粒分
10.15–10.45	1-P10	○	細粒分
12.15–12.35	1-P12	○	細粒分
14.15–14.40	1-P14	○	細粒分

掘進月日: 7/21、7/22

ボーリング柱状図 (No.2)

調査名: 平成27年度営教総第1-19号 津市立西が丘小学校増築工事等に係る地質調査業務委託

ボーリング名	No.2	調査位置	津市長岡町地内	北緯	34°44′40.4″
発注機関	津市建設部営繕課	調査期間	平成27年7月22日 ～ 27年7月23日	東経	136°29′28.1″
孔口標高	KBM -0.01m	試錐機	カノKR-50H	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	10.41m	エンジン	ヤンマーNFAD9	ポンプ	カノV-4

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-1.31	1.30	1.30	盛土(砂質シルト)	灰~黄褐			砂は細砂主体で、不規則に混入 少量の細~中礫を混入
-2.31	1.00	2.30	シルト	淡灰			含水量やや少ない~少ない 下部、固結状を呈す
-4.81	2.50	4.80	シルト質細砂	茶灰	非常に密~密		粒径均一 所々、シルト分を多く混在
-5.71	0.90	5.70	固結シルト	淡茶灰		固結した	含水量少ない 少量の細砂を混在
-6.71	1.00	6.70	砂質シルト	灰~黄灰		非常に硬い	含水量少ない 砂は細砂主体で、所々多量に混在
-8.31	1.60	8.30	シルト質細砂	淡茶灰	中位		粒径均一 全体に、シルト分を多く混在 最下部、酸化され、固結化している
-8.71	0.40	8.70	シルト混り砂	暗茶灰			粒径やや不均一で細砂主体
-9.31	0.60	9.30	シルト質細砂	淡茶灰			粒径均一
-10.01	0.70	10.00	固結シルト	灰			含水量少ない
-10.42	0.41	10.41	シルト質細砂	暗灰	非常に密		粒径均一 所々、炭化物を混入

標準貫入試験

深度 (m)	0~10	10~20	20~30	打撃回数/貫入量(cm)
1.15–1.45	1	1	5	7/30
2.15–2.45	11	18	25	54/30
3.15–3.44	14	20	26/9	60/29
4.15–4.45	8	10	13	31/30
5.15–5.45	13	19	22	54/30
6.15–6.45	8	10	12	30/30
7.15–7.45	6	10	13	29/30
8.15–8.45	6	7	10	23/30
9.15–9.45	6	9	18	33/30
10.15–10.44	16	24	20/9	60/29

原位置試験: ▽1FL、▽KBM、△設計GL、450、90、10、1,200 基礎▽下端、1,300 改良体▽下端

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
3.15–3.45	2-P3	○	細粒分
5.15–5.45	2-P4	○	細粒分
6.15–6.45	1-P6	○	細粒分
7.15–7.45	2-P7	○	細粒分
10.15–10.44	2-P10	○	細粒分

掘進月日: 7/22、7/23

月·日		月·日	
·		·	
·		·	
·		·	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設計
一級建築士 第 93977号
構造設計一級建築士 第 2319号 市川 司

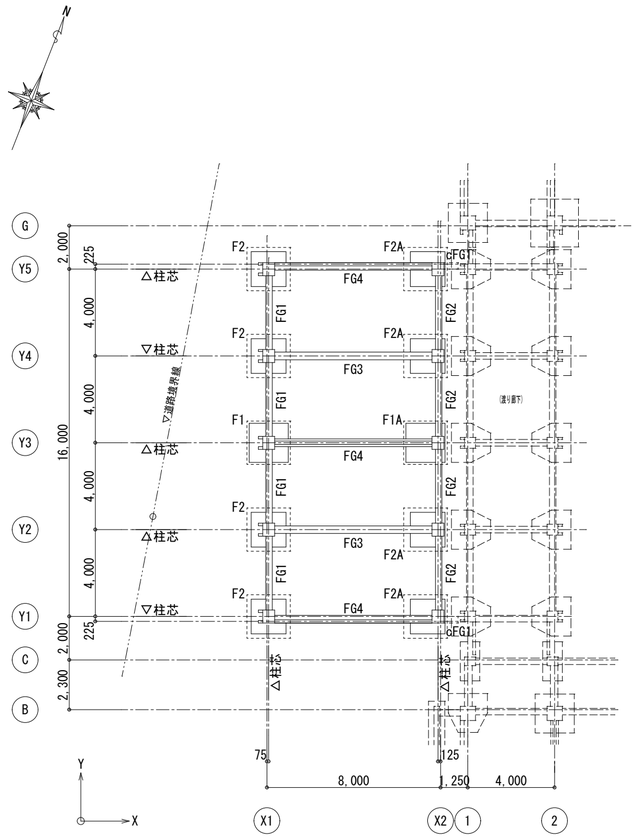
整理番号
年 月 日 H28.1.12
縮尺 1/100,200 原図 A2

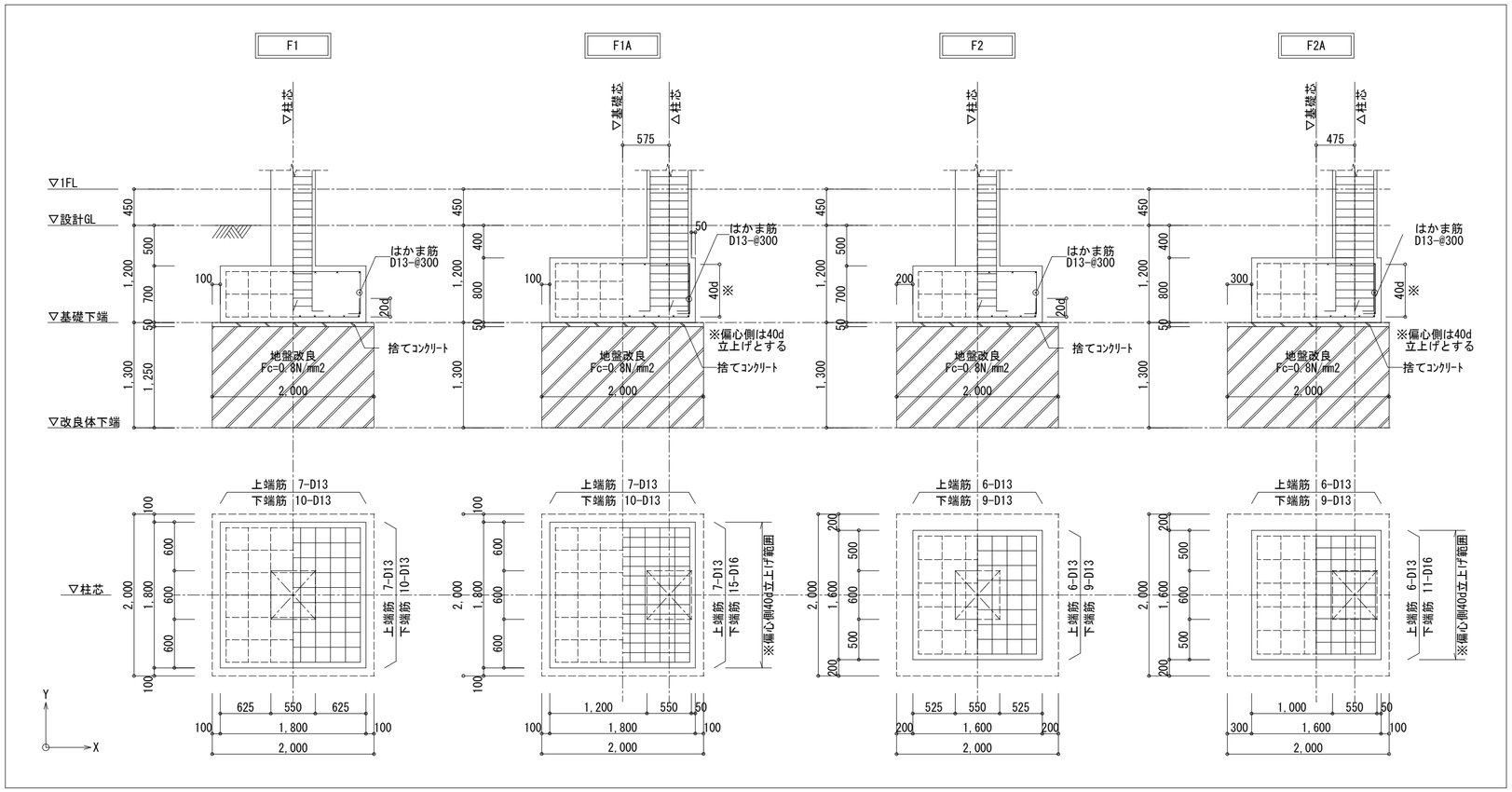
津市立西が丘小学校増築工事

ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ柱状図

NO. S — 05

基礎ﾘｽﾄ　S=1/50





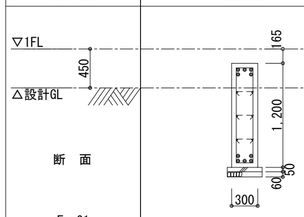
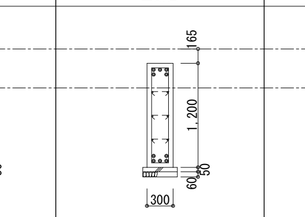
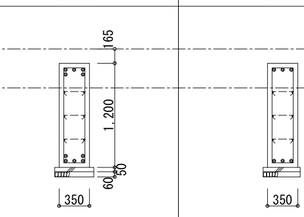
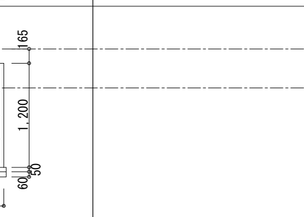
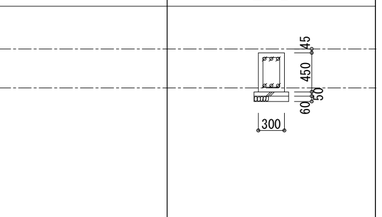
基礎伏図　S=1/200

特記なき限り下記による

1. 梁天端…1FL-165
2. ⬚ は地盤改良範囲(2000x2000)を示す。
   地盤改良はセメントミルクを用いた浅層混合処理工法とする。

地中梁ﾘｽﾄ　S=1/50

特記なき限り　幅止筋　D10-⊂⊃ @1,000 以下とする。

符　号	FG1	FG2	FG3	FG4		cFG1
位　置	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面
断　面 Fc=21						
上端筋	3/2-D19	3/2-D19	3/2-D19	3-D19		3-D16
下端筋	3/2-D19	3/2-D19	3/2-D19	3-D19		3-D16
ｽﾀﾗｯﾌﾟ	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200		□-D10@200
腹　筋	6-D10	6-D10	6-D10	6-D10		---
備　考			※主筋 柱内定着40d以上	※主筋 柱内定着40d以上		

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第 93977号
構造設計一級建築士　第 2319号　市川　司

整理番号

年 月 日　H28.1.12

縮　尺　1/50,200

原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

杭伏図・基礎伏図・基礎ﾘｽﾄ・地中梁ﾘｽﾄ

NO. S — 06

77

浅層混合処理工法　特記仕様書

1　工事概要

本地業は、セメントミルクを用いた浅層混合処理工法による地盤改良地業である。
この工法は、セメント系固化材を原地盤と攪拌混合し、原地盤を固化する方法によって
地盤改良を行うものである。

2　一般事項

本地業は、本特記仕様書によるほか、「改訂版　建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針
平成14年11月」（（財）日本建築センター、以下指針という）による。

3　特記事項

（1）　改良範囲、改良厚等は設計図書による。ただし、改良範囲、改良厚及びセメントミルクの
配合等について土質や地盤状況より変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の
上に変更することができる。

(2)　改良体の設計基準強度はＦc=800kN/m　(0.8N/mm²)、造成後の改良体強度に対し
変動係数３０％以下とし、検査手法Ａが適用できる工法とする。

検査手法Ａ　：　各施工業者で既往の調査結果から信頼できる標準偏差、変動係数を
設定して品質検査に用いる方法。

(3)　推定配合量は事前に現状土による室内配合試験を実施し配合量を決定する。

(4)　設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理及び品質検査を実施する。

(5)　工法の選定においては、(財)日本建築センター等　公的機関における性能証明を取得した工法
とする。

4　施工計画

工事に先立ち、施工計画書を監査員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

① 地盤概要
② 工事内容（改良範囲・改良深度・設計基準強度）
③ 工事期間及び工程
④ 工事要領（使用固化材・配合・混合攪拌速度・吐出量等）
⑤ 施工機器および仮設設備と配置
⑥ 配合管理の方法
⑦ 施工管理の方法
⑧ 品質検査の方法
⑨ 各種作業の主たる従事者の組織表
⑩ 施工記録の方法
⑪ 安全対策
⑫ 建築請負業者の本工事責任者名
⑬ 本工事施工業者名及び責任者名

5　施工

（1）　作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないように養生する。

(2)　必要に応じ監督員の立ち会いのもとで試掘を行う。ボーリングデータ等地盤の状況が
把握できる地点の近くで試掘を行い、所定の下部地盤に到達した時に次の事項を確認し
支持層を決定する。

① 深さ
② 支持層確認

(3)　基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が判明した場合は別途検討する。

① 施工範囲を計量、検収し、スラリー注入量注入時間、混合時間の算出をする。
② プラントからセメントスラリーを計画配合に達するまで圧送しながら、
ミキシングフォークにより色ムラがなくなるまで、混合攪拌を行う。
③ 計画量配合量に達し、色ムラがなくなるまで混合攪拌が行われは完了となる。
④ 改良した土が固化したところを確認した後、指定高さまでスキ取りを行う。

6　施工機械

（1）　固化材と改良対象土を確実に混合攪拌することができるバケットを装備する施工機械を
用いる。

(2)　所定のミルク量を計測、記録できる管理装置を用いる。

(3)　改良機本体は、本地業の施工仕様を満足できる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。

(4)　ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7　配合管理

（1）　セメントミルクに使用する固化材は、特殊土用セメント系固化材とする。

(2)　配合強度

配合管理目標変動係数を想定し、「9　品質検査」に規定する抜き取り個所数Ｎから
表1を用いて α_t を決め、配合強度 X_f を設定する。

$X_f = F_c \cdot \alpha_t$

X_f ：配合強度
F_c ：設計基準強度
α_t ：割り増し係数

表 1　割り増し係数（$L_{(p)}$ =80%, V_d =25%の場合）

抜き取りヶ所数 N ／ 配合管理目標変動係数 V_c	1	2	3	4～6	7～8	9～
25%	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

(3)　W/Cと固化材量

室内配合試験の結果あるいは過去の工事実績に基づいて、配合強度を満足するように決定する。

$X_1 = X_f / \alpha_{f1}$

X_1 ：室内配合強度
X_f ：配合強度
α_{f1} ：現場/室内強度比（強度比　０．６）

(4)　注入固化ミルクの配合及び使用量は、下記を原則とする。
（事前に現状土による室内配合試験を実施し、配合量を決定する。）

① 固化材料　：　特殊土用セメント系固化材（特殊土用固化材）
水　（飲料水・工業用水等）
② 配　合　：　Ｗ／Ｃ＝80％
③ 添 加 量　：　300kg/m³
とする。

8　施工管理

（1）　施工の安定性を確保するために下記に示す項目について施工管理する。

① 形状・寸法
改良範囲：基礎外より出幅を確保し改良範囲を確保する。
掘削深度：施工前にバックホウにマーキング検尺し、マーキングから
の検尺により確認する。

② セメントミルク
材料　：水、固化材を計量する。
ミルク比重　：比重計（マッドバランス等）で計測する。
ミルク吐出量：流量計で計測し記録する。

③ 攪拌混合度
混合攪拌速度：砂質土　1.5分/m³
粘性土　2.0分/m³

④ 下部地盤
施工時試掘で確認を行った支持地盤の確認（目視）を行う。

⑤ 改良天端処理
改良頭部の位置を所定の仕上がり高さにするため、施工後適切な時期にバックホー
で天端処理を行う。ただし、深基礎等、現場状況により改良天端処理が
不可能な場合は、根切り工掘削時に改良体を損傷しないように削り取ること。

(2)　施工の立会い
建築工事の請負者は、本地業責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者
は本地業の施工中は立ち会うものとする。

9　品質検査

（1）　検査対象層及び調査ヶ所数

① 検査対象層は（ 盛土層 ）であり設計対象層を（ 盛土層 ）とする。
② 検査手法は強度のバラツキを想定する場合は検査手法Aによる。その場合は、選定工法による
改良体の強度のバラツキデータを添付すること。
③ 調査ヶ所数（検査対象群に対して）

表 2　調査ヶ所数

検査手法A	現場供試体（ﾓｰﾙﾄﾞｺｱ）	1ヶ所 × 6本　計12本（材令7日、28日）
	深度コア	1ヶ所 × 6本　計12本（材令7日、28日）

(2)　合否の判定

① 設計対象層についての抜取り1ヶ所に対し3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所
の強度とする。
② 一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。
③ 検査手法Aによる品質検査
合否の判定は設計対象層におけるNヶ所（抜取ヶ所数）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足
する場合を合格と判定する。

$X_N \geqq X_L = F_c + k_a \cdot \sigma_d = F_c + k_a \{ F_c \cdot V_d / (1-1.3V_d) \}$

X_N ：Ｎヶ所の一軸圧縮強度の平均値
X_L ：合格判定値
F_c ：設計基準強度
k_a ：合格判定係数
σ_d ：標準偏差　$\sigma_d = V_d \cdot q_{ud}$
V_d ：変動係数、品質確認書より想定する

表 3　合格判定係数

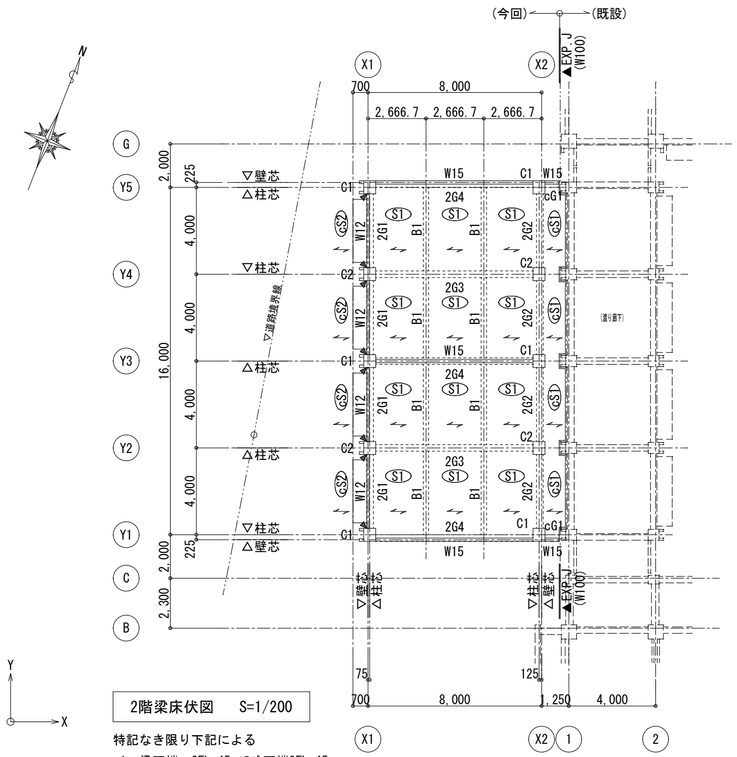
抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数　k_a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

（3）　六価クロム溶出試験
配合計画段階に、六価クロム溶出試験を実施し、試験結果（計量証明書）を提出するものとする。
尚、試験方法は、セメント及びセメント系固化材を使用した改良土等の六価クロム溶出試験要領に
よるものとする。
（平成３年８月２３日環境庁告示第４６号（土壌の汚染に係る環境基準）による。）
検査検体数、検査対象層、基準値は下記のものとする。
検体数　：　１検体
対象層　：　設計対象層（礫混じり粘土）
基準値　：　0.05mg/Ｌ 以下

10　報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に提出する。

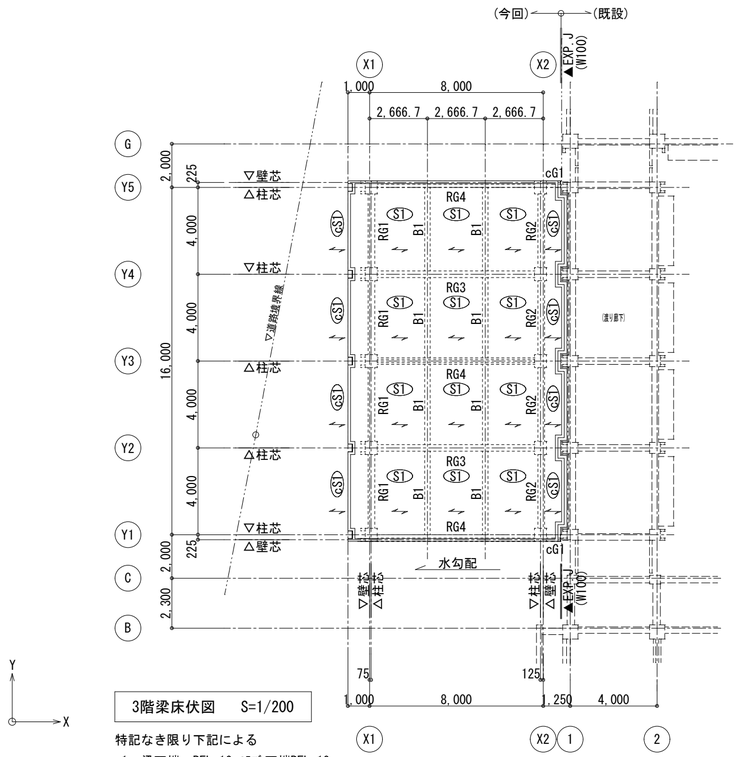
① 改良エリアの伏図及び番号
② 改良エリアの施工日
③ 改良エリアの形状寸法
④ 改良深度
⑤ 混合時間
⑥ ミルクの配合と固化材の使用量
⑦ コアの強度管理試験結果
⑧ 合格判定結果



2階梁床伏図　S=1/200

特記なき限り下記による

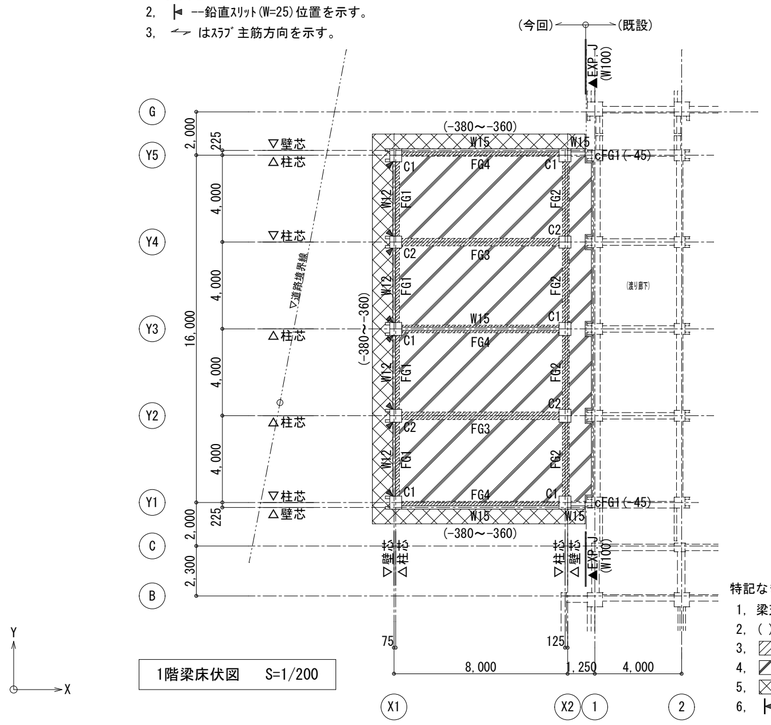
1. 梁天端…2FL-45、ｽﾗﾌﾞ天端2FL-45
2. ⊢ ―鉛直ｽﾘｯﾄ(W=25)位置を示す。
3. ⌒ はｽﾗﾌﾞ主筋方向を示す。



3階梁床伏図　S=1/200

特記なき限り下記による

1. 梁天端…RFL-10、ｽﾗﾌﾞ天端RFL-10
2. ⌒ はｽﾗﾌﾞ主筋方向を示す。



1階梁床伏図　S=1/200

特記なき限り下記による

1. 梁天端…1FL-165、ｽﾗﾌﾞ天端1FL-45
2. ( )内は1FLからのｽﾗﾌﾞ・梁天端を示す。
3. ▨ ―梁増打ち部分を示す。
4. ▨ ―土間ｺﾝｸﾘｰﾄ範囲を示す。
5. ▨ ―犬走り範囲を示す。
6. ⊢ ―鉛直ｽﾘｯﾄ(W=25)位置を示す。

ｺﾝｸﾘｰﾄ材料(骨材・水・混和剤)(建築基準法令第37条)

ｺﾝｸﾘｰﾄの仕様

ｺﾝｸﾘｰﾄの種類	使用区分	設計基準強度(N/mm2)	ｽﾗﾝﾌﾟ(cm)	水ｾﾒﾝﾄ比	単位ｾﾒﾝﾄ量	単位水量
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	躯体	Fc21	18	65%以下	270kg以上	185kg/m3以下
〃	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ	Fc21	18			
〃	捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	Fc18	18			

一般事項
・平成25年度版 公共建築工事標準仕様書を適用する。
・型枠の取り外しは最小在置期間以後に行なう。最小在置期間を圧縮強度により定める場合はｺﾝｸﾘｰﾄの試験結果等を監督員に提出して承諾を受ける。
・支柱の盛り替えは行なわない。
・粗骨材の最大寸法は、25mmとする。

材料
・ｺﾝｸﾘｰﾄは　JIS A5308 による JIS 表示許可工場で製造されたﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄとする。
計画調合書を監督員に提出し、承諾を受ける。
・特記なき限り、ｾﾒﾝﾄは普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ(JIS R5210)とする。
・混和材は　AE材又はAE減水剤標準形とし、監督員の承認を受けること。

練混ぜ水
・JIS A5308 附属書9(規定)　(ﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄの練混ぜに用いる水)による。

養生の期間
・平成25年度版 公共建築工事標準仕様書の方法とする。

以下の法令をはじめとして、各関係法令に適合するように施工を行うこと。

建築基準法施行令　令72条、令74条、令75条、令76条

(ｺﾝｸﾘｰﾄの材料)
第72条　鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造に使用するｺﾝｸﾘｰﾄの材料は、次の各号に定めるところによらなければならない。
一　骨材、水及び混和材料は、鉄筋をさびさせ、又はｺﾝｸﾘｰﾄの凝結及び硬化を妨げるような酸、塩、有機物又は泥土を含まないこと。
二　骨材は、鉄筋相互間及び鉄筋とせき板との間を容易に通る大きさであること。
三　骨材は、適切な粒度及び粒形のもので、かつ、当該ｺﾝｸﾘｰﾄに必要な強度、耐久性及び耐火性が得られるものであること。

(ｺﾝｸﾘｰﾄの強度)
第74条　鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造に使用するｺﾝｸﾘｰﾄの強度は、次に定めるものでなければならない。
一　四週圧縮強度は、1mm2につき12ﾆｭｰﾄﾝ(軽量骨材を使用する場合においては、9ﾆｭｰﾄﾝ)以上であること。
二　設計基準強度(設計に際し採用する圧縮強度をいう。以下同じ。)との関係において国土交通大臣が安全上必要であると認めて定める基準に適合するものであること。
2　前項に規定するｺﾝｸﾘｰﾄの強度を求める場合においては、国土交通大臣が指定する強度試験によらなければならない。
3　ｺﾝｸﾘｰﾄは、打上りが均質で密実になり、かつ、必要な強度が得られるようにその調合を定めなければならない。

(ｺﾝｸﾘｰﾄの養生)
第75条　ｺﾝｸﾘｰﾄ打込み中及び打込み後五日間は、ｺﾝｸﾘｰﾄの温度が二度を下らないようにし、かつ、乾燥、震動によってｺﾝｸﾘｰﾄの凝結及び硬化が妨げられないように養生しなければならない。ただし、ｺﾝｸﾘｰﾄの凝結及び硬化を促進するための特別の措置を講ずる場合においては、この限りでない。

(型わく及び支柱の除去)
第76条　構造耐力上主要な部分に係る型わく及び支柱は、ｺﾝｸﾘｰﾄが自重及び工事の施工中の荷重によつて著しい変形又はひび割れその他の損傷を受けない強度になるまでは、取りはずしてはならない。
2　前項の型わく及び支柱の取りはずしに関し必要な技術的基準は、国土交通大臣が定める。

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第 93977号
構造設計一級建築士　第 2319号　市川　司

整理番号

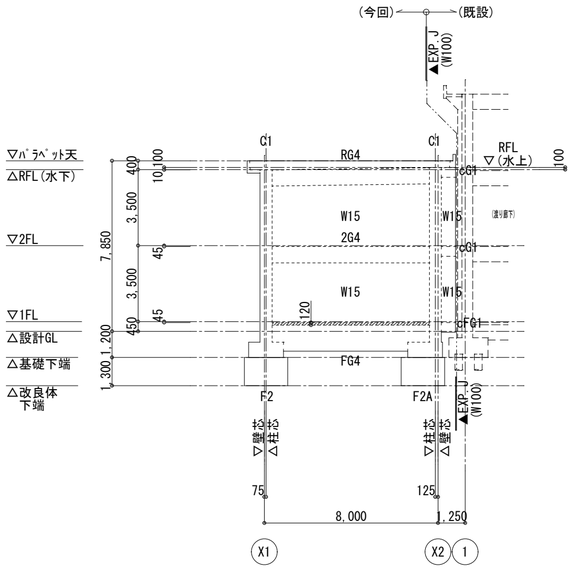
年 月 日　H28.1.12

縮　尺　1/200　原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

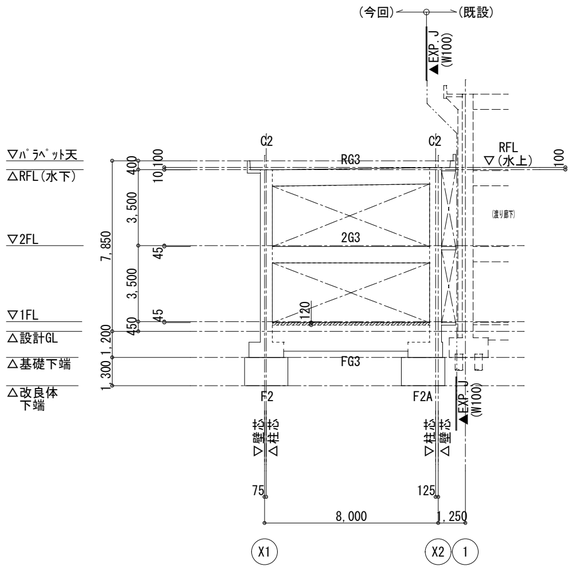
梁 床 伏 図

NO. S — 08



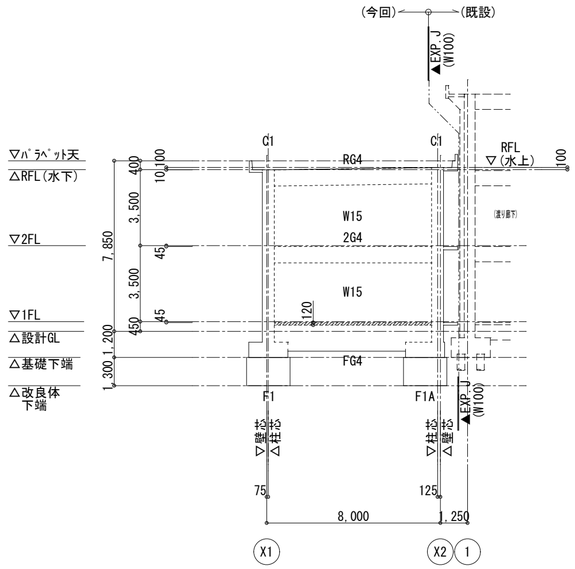
Y1通り軸組図　S=1/200

特記なき限り下記による
1. ▨ ―梁増打ち部分を示す。



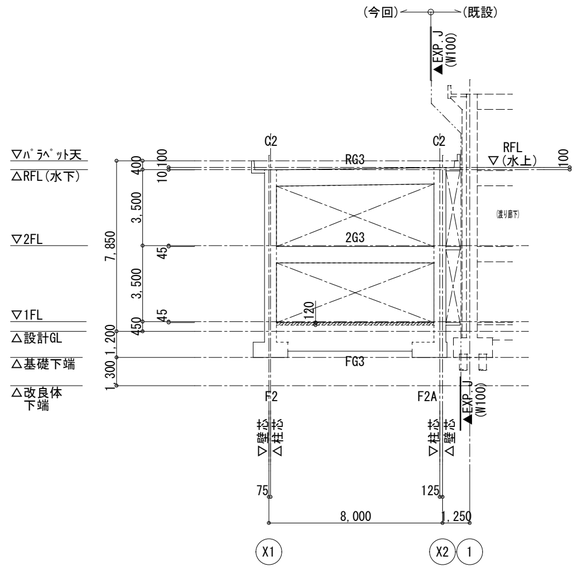
Y2通り軸組図　S=1/200

特記なき限り下記による
1. ▨ ―梁増打ち部分を示す。



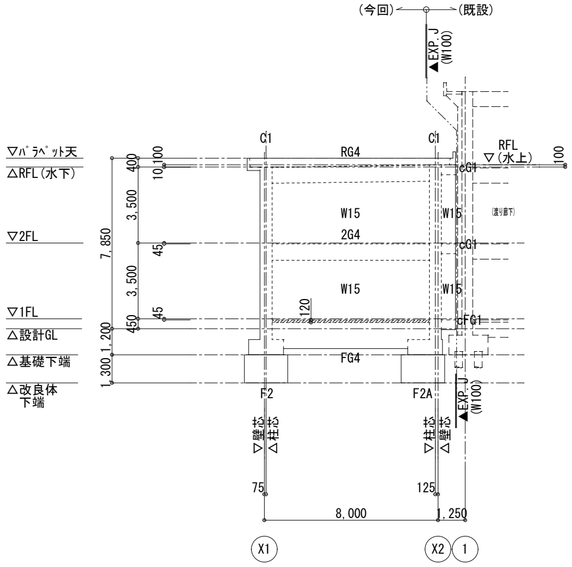
Y3通り軸組図　S=1/200

特記なき限り下記による
1. ▨ ―梁増打ち部分を示す。



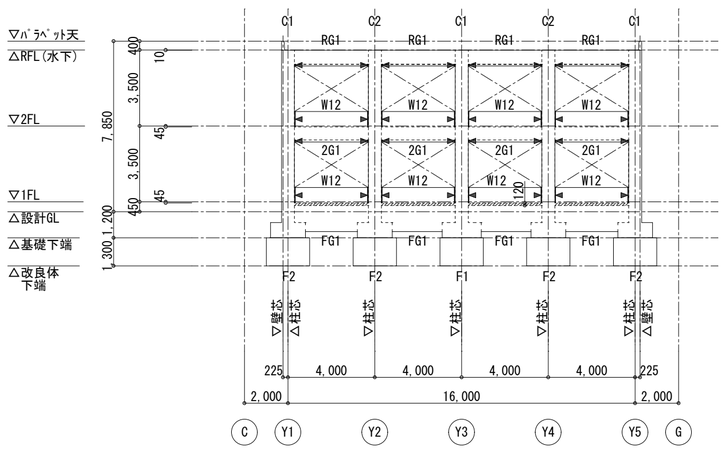
Y4通り軸組図　S=1/200

特記なき限り下記による
1. ▨ ―梁増打ち部分を示す。



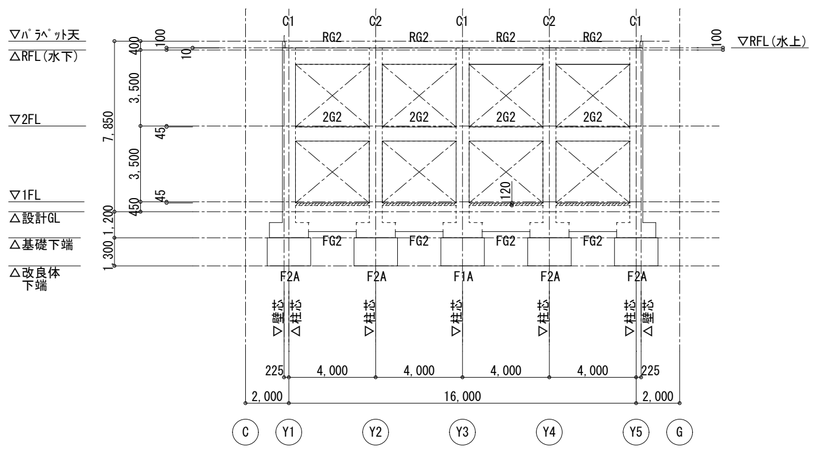
Y5通り軸組図　S=1/200

特記なき限り下記による
1. ▨ ―梁増打ち部分を示す。



X1通り軸組図　S=1/200

特記なき限り下記による
1. ▨ ―梁増打ち部分を示す。
2. ⊢ ―鉛直ｽﾘｯﾄ(W=25)位置を示す。



X2通り軸組図　S=1/200

特記なき限り下記による
1. ▨ ―梁増打ち部分を示す。

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第 93977号
構造設計一級建築士　第 2319号　市川　司

整理番号

年 月 日
H28.1.12

縮　尺
1/50,200
原図 A2

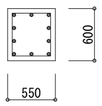
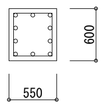
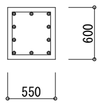
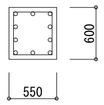
津市立西が丘小学校増築工事

軸 組 図

NO.
S ― 09

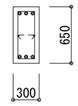
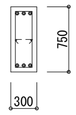
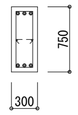
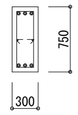
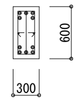
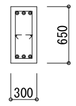
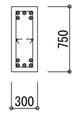
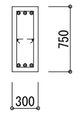
柱ﾘｽﾄ　S=1/50

特記なき限り　HOOPは閉鎖型もしくはｽﾊﾟｲﾗﾙとする。
仕口部はH形とし副帯筋は無しとする。
又、下階柱の帯筋と同径、同種とし、@100以下とする。

階	符　号	C1	C2	
2階	断　面			
Fc=21	B x D	550 x 600	550 x 600	
	主　筋	10-D19	10-D22	
	帯　筋	□-D10@100	□-D10@100	
1階	断　面			
Fc=21	B x D	550 x 600	550 x 600	
	主　筋	10-D19	10-D22	
Y X	帯　筋	□-D10@100	□-D10@100	

大梁ﾘｽﾄ　S=1/50

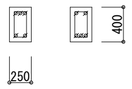
特記なき限り　幅止筋　D10-┌┐@1,000 以下とする。

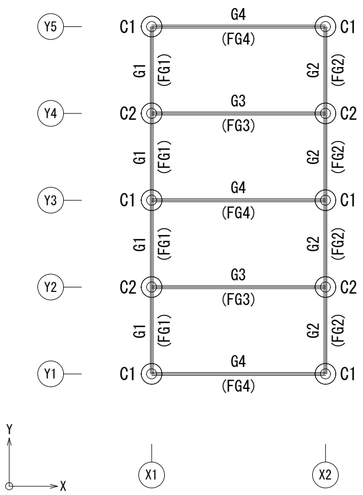
階	符　号	G1	G2	G3	G4			cG1
R階	位　置	全断面	全断面	全断面	全断面			全断面
	断　面							
Fc=21	上端筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19			3-D16
	下端筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19			3-D16
	ｽﾀﾗｯﾌﾟ	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200			□-D10@200
	腹　筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10			---
	備　考			※主筋 柱内定着40d以上	※主筋 柱内定着40d以上			
2階	位　置	全断面	全断面	全断面	全断面			全断面
	断　面							
Fc=21	上端筋	3/2-D19	3-D19	3/2-D19	3-D19			3-D16
	下端筋	3/2-D19	3-D19	3/2-D19	3-D19			3-D16
	ｽﾀﾗｯﾌﾟ	┌┐-D10@100	□-D10@150	□-D10@200	□-D10@200			□-D10@200
	腹　筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10			---
	備　考			※主筋 柱内定着40d以上	※主筋 柱内定着40d以上			

ｽﾗﾌﾞﾘｽﾄ

符号	ｽﾗﾌﾞ厚 (mm)	位置	短辺（主筋）方向 端部	短辺（主筋）方向 中央	長辺（配力筋）方向 端部	長辺（配力筋）方向 中央	備　考
S1	150	上	D13+D10@200	←	D10@200	←	
		下	D10@200	←	D10@200	←	
cS1	150	上	D13@150	←	D10@200	←	
		下	D10@150	←	D10@200	←	
cS2	基 130 先 120	上	D13@200	←	D10@200	←	
		下	D10@200	←	D10@200	←	

小梁ﾘｽﾄ　S=1/50

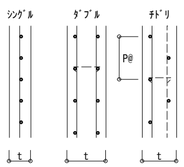
符　号	B1		
位　置	端部　中央		
断　面			
上端筋	3-D16　2-D16		
下端筋	2-D16　3-D16		
ｽﾀﾗｯﾌﾟ	□-D10@200		
腹　筋	---		
備　考			



柱,大梁 キープラン

※( )内部材符号は、地中梁を示す。

壁ﾘｽﾄ



符　号	壁厚 t (mm)	縦　筋	横　筋	開口補強筋 ﾀﾃ	開口補強筋 ﾖｺ	開口補強筋 ﾅﾅﾒ
W15	150	D10 @150 ｼﾝｸﾞﾙ	D10 @150 ｼﾝｸﾞﾙ	2-D13	2-D13	1-D13
W12	120	D10 @200 ｼﾝｸﾞﾙ	D10 @200 ｼﾝｸﾞﾙ	1-D13	1-D13	1-D13

使用材料

【ｺﾝｸﾘｰﾄ】
- 基礎、地中梁　：Fc21+S
- 柱 、梁 、壁 、ｽﾗﾌﾞ　：Fc21+S
- 土間ｺﾝｸﾘｰﾄ　：Fc21
- 捨てｺﾝｸﾘｰﾄ　：Fc18

【鉄 筋】
- D16以下　：SD295A
- D19以上　：SD345

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第 93977号
構造設計一級建築士　第 2319号　市川　司

整理番号

年 月 日　H28.1.12

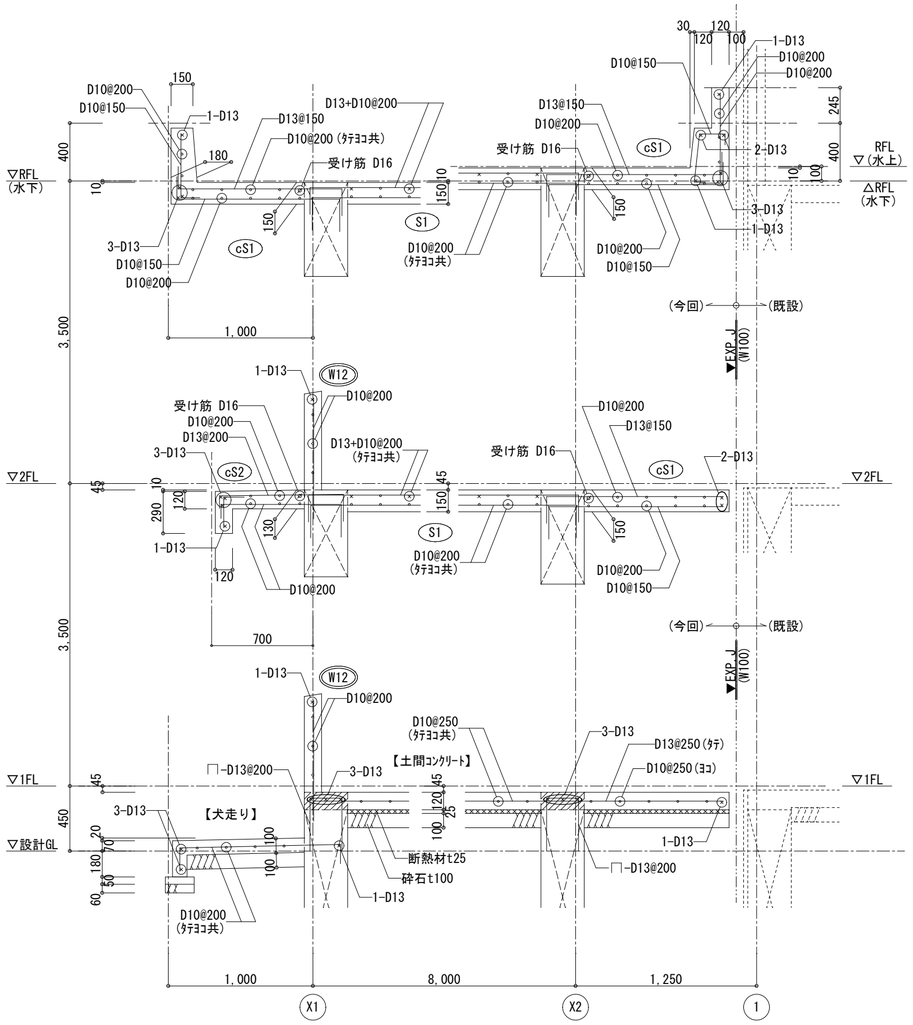
縮　尺　1/50　原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

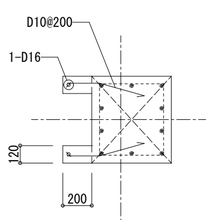
部材リスト

NO. S — 10

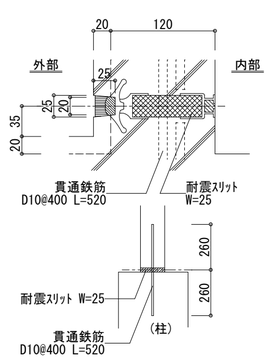
柱袖壁 配筋詳細図 S=1/30



柱袖壁 配筋詳細図 S=1/30

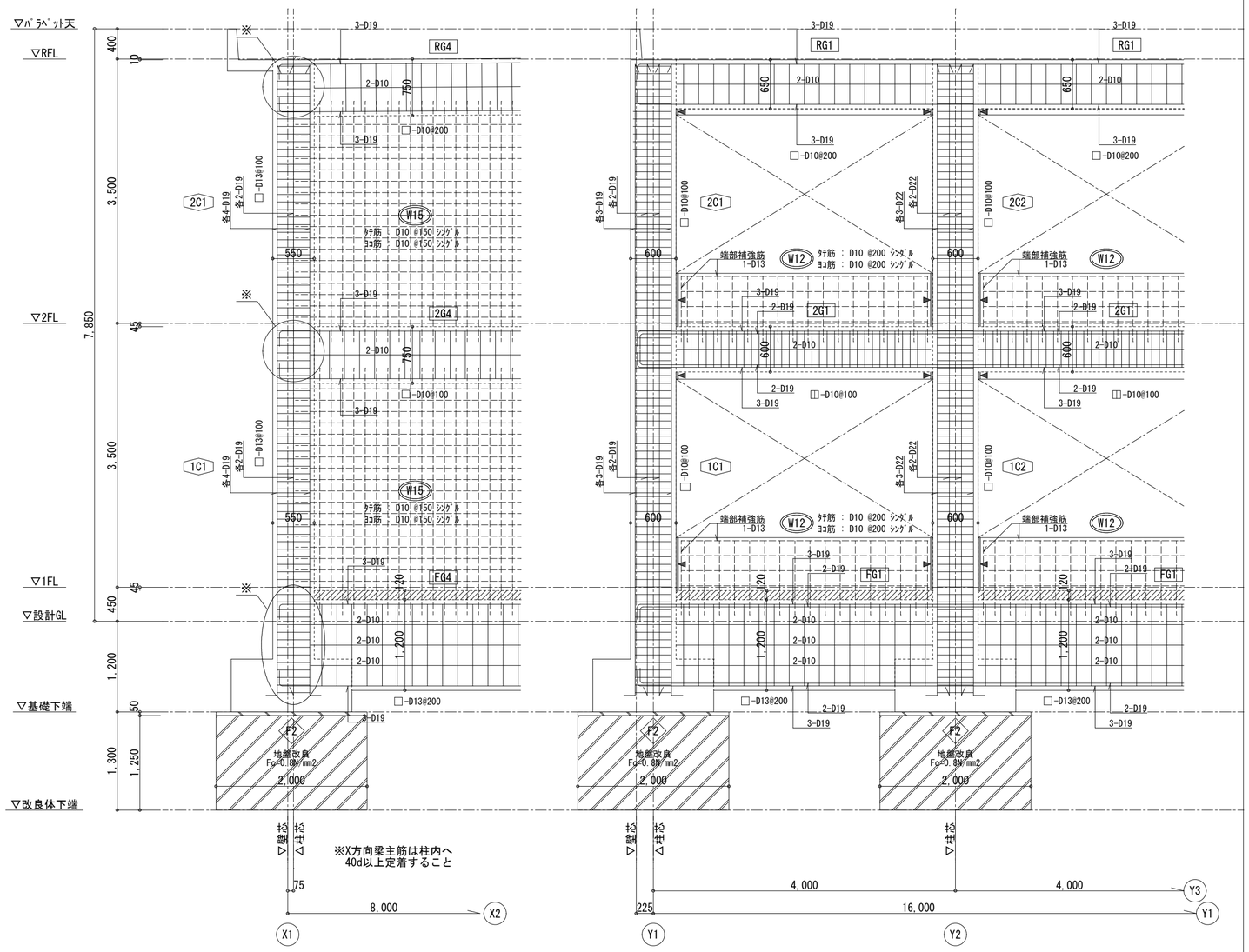


鉛直ｽﾘｯﾄ 詳細図 S=1/5



※耐火仕様とする。

架構詳細図 S=1/50



Y1通り 架構詳細図 S=1/50

特記なき限り下記による

1. ▨ ---梁増打ち部分を示す。

X1通り 架構詳細図 S=1/50

特記なき限り下記による

1. ▨ ---梁増打ち部分を示す。
2. ⊢◀ ---鉛直ｽﾘｯﾄ(W=25)位置を示す。

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設 計
一級建築士 第 93977号
構造設計一級建築士 第 2319号 市川 司

整理番号

年 月 日 H28.1.12

縮 尺 1/5,30,50 原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

雑配筋図・架構詳細図

NO. S — 11

工事名称　津市立西が丘小学校増築工事

仕　様　書

Ⅰ．工事概要

1．工事場所　津市長岡町　地内

2．建物概要

建物名称	構造及び階数	国:延面積	建:延面積	消施令の適用	備　考
小学校	鉄筋コンクリート造、地上3階		2,633.843	別表第一（7）項	

国:国有財産法延面積（㎡）　建:建築基準法延面積（㎡）

3．工事種目（○印の付いたものが対象工事）

工事種目＼建物別及び屋外	校舎棟				屋外･その他
○電灯設備	一式				
動力設備					
電熱設備					
雷保護設備					
○受変電設備					一式
電力貯蔵設備					
発電設備					
○構内情報通信網設備					
構内交換設備					
○情報表示設備	一式				
映像･音響設備					
○拡声設備	一式				
○誘導支援設備	一式				
○テレビ共同受信設備	一式				
監視カメラ設備					
駐車場管制設備					
防犯･入退室管理設備					
○自動火災報知設備	一式				
中央監視制御設備					
○構内配電線路					一式
構内通信線路					
テレビ電波障害防除設備					

（工事種別：校舎棟／屋外･その他）

4．指定部分　　無　　有　対象部分

Ⅱ．工事仕様

1．共通仕様

（1）図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の下記仕様書等のうち、○ 印が付いたものによる。
- ○ 公共建築工事標準仕様書　（電気設備工事編）（最新版）
- ○ 公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（最新版）
- ○ 公共建築設備工事標準図　（電気設備工事編）（最新版）

（2）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。
なお、機械設備工事の特記仕様は（　／　～　／　）図、建築工事の特記仕様は（　／　～　／　）図による。

2．特記仕様

（1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

（2）特記事項のうち選択する事項は、○印の付いたものを適用する。

（3）東海地震にかかる地震防災対策強化地域における工事にあっては「大規模地震対策特別措置法」による注意情報が発せられた場合、受注者は人身の保護及び安全な避難に必要な補強、落下防止等の保全措置を講ずるとともに、工事中断の措置をとること。又この事実が発生した場合は、契約書第 26 条（臨機の措置）によって処理されたものとする。

章	項目	特記事項
● 一般事項	① 環境への配慮	1）国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律に基づく特定調達物品等に関する判断基準は、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成２５年２月）閣議決定」による。 2）建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ①合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセドアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ②接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③接着剤は、可塑性（フタル酸ジーｎーブチル及びフタル酸ジー２ーエチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 3）設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ①建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
	② 材料・機材の品質等	1）本工事に使用する材料・機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 2）別表－１に示す設備機材等の製造業者等は次の①から⑥すべて事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。 ①品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。
● 一般事項	3 足場その他	別契約の関係受注者(下請け工事の場合は元請け)が定置したものは無償で使用できる。本工事で設置する。 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編) 第１編第1章2.2.2より足場の種別は以下による。 内部足場（　A種　B種　C種　D種　種） 外部足場（　A種　B種　C種　D種　種）
	④ 施工図等	工事が完成（指定部分に係わる完成を除く）したときは、本工事で作成する施工図等のうち、下記の原図及び複写図（1 部）を監督職員に提出する。ただし、製作図等で原図として提出ができないものは、原図に代わるものとしてよい。 なお、施工図等の著作権に係わる該当建物に限る使用権は、発注者に移譲する。 機器製作図　一式　、　制御システム図　一式 試験成績書　一式　、　機器・配管固定の施工図　一式
	⑤ 完成図等	完成図(オリジナルファイルも提出)にＰＤＦ形式を加える(ＰＤＦは1ﾌｧｲﾙにまとめる) ＰＤＦより縮刷製本を作成。保全に関する資料を含め、部数等は監督職員の指示による。
	⑥ 電源周波数	○６０Hz　　５０Hz
	⑦ 耐震措置	設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針 2005年版」（国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修）による。 1）設計用水平地震力 機器の重量 [kgf]に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合、設計用標準水平震度は、次による。

設計用標準水平震度

設置場所	機器種別	○特定の施設 重要機器	○特定の施設 一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器
上層階 屋上及び塔屋	機　器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
	水　槽　類	2.0	1.5	1.5	0.6
中間階	機　器	1.5	1.0	1.0	1.0
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水　槽　類	1.5	1.0	1.0	0.6
地下・１階	機　器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水　槽　類	2.0	1.0	1.0	0.6

・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階とする。
・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの
・重要機器は次のものを示す。

○配電盤　　発電装置(防災用)　　直流電源装置
交流無停電電源装置　　交換機　　自動火災報知受信機
中央監視装置　　総合盤　　放送架

2）設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の１／２とし、水平地震力と同時に働くものとする。

8　他工事との工事区分

図面に特記無き場合は、次表の「他工事との工事区分表」による。

「他工事との工事区分表」

他工事との取合い			電気設備工事	機械設備工事	建築工事
開口部	梁・床・壁貫通部	補強			
		スリーブ・仮枠			
	埋込分電盤・端子盤・プルボックス	補強			
		仮枠			
	軽量鉄骨下地天井・壁ボード類の切込	補強有りの場合(補強共)			
		補強無しの場合			
	床デッキプレート	切込			
	既製間仕切壁の位置ボックス及びその取付				
発電機の基礎					
配電盤・制御盤等の基礎		屋内・屋上			
		屋外			
自立型テレビアンテナの基礎（屋上）					
避雷針の基礎（屋上）					
配線ピット及び蓋					
自立閉鎖装置を取付ける防火戸の切込・補強及びﾄﾞｱﾁｪｯｸ・ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ					
照明器具・幹線等の吊ボルト用のインサート					
別途機器などへの接続（直接接続するもの）					
機器付属制御盤以降の配管配線（接地共）					
機器付属制御盤への電源供給の渡配管配線（接地共）					
機器付属制御盤への操作回路の渡配管配線					
天井吊型 FCU 及び全熱交換形換気扇と操作スイッチとの渡配管配線					
煙感知器から連動制御盤を経て防煙ダンパに至る配管配線					
小便器用水装置の制御盤以降の配管配線					
自動扉及び電動シャッターなどの制御装置に至る配管配線					
防油提					
天井点検口					

9　発生材の処理等について

引渡しを要するもの以外は、構内搬出適切処理とし、搬出処理費は別途とする。
- 引渡を要するもの　（　金属類　電線、ｹｰﾌﾞﾙ類　盤類　）
- 特定管理産業廃棄物　（　PCB使用機器　ｲｵﾝ化式感知器　蓄電池　）
- 再生資源化を図るもの　（　蛍光灯ﾗﾝﾌﾟ　白熱灯、HID灯　）
- 石綿含有品　（　）

10　特定建設資材の再資源化等

本工事は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」第９条による分別解体等実施義務の対象建設工事となることが想定されるため、同法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずる。ただし、工事契約後に明らかになったやむを得ない事情により、工事契約時に予定した条件により難い場合は、監督職員と協議する。また、分別解体・再資源化の完了時に、再資源化等が完了した年月日、再資源化等が完了した年月日、再資源化等をした施設の名称及び所在地、再資源化等に要した費用を書面にて監督職員に報告する。

①分別解体の方法

工　程	作業内容	分別解体の方法
新築	建築設備工事	
増築	有	手作業
修繕	無	手作業、機械作業併用
模様替		

②特定建設資材廃棄物の種類と再資源化等をする施設

特定建設資材廃棄物の種類	再資源化等をする施設名称	所　在　地
コンクリート		
コンクリート及び鉄から成る建設資材		
木材		
ｱｽﾌｧﾙﾄ、ｺﾝｸﾘｰﾄ		

届出に係る事項の説明時に上記と異なる施設（同種の再資源化等を行う施設に限る。）を受注者が提示した場合は、当該施設に搬出することができる。ただし、当該施設への変更については設計変更の対象としない。

11　建設発生土の処分

構内敷きならし
本工事は、建設発生土情報交換システム（以下「システム」という。）の登録対象工事であり、受注者は、工事の実施に当たっては土量、土質、土工期等に変更が有った場合、速やかに当該システムのデーター更新を行うものとする。尚、これにより難い場合には、監督職員と協議しなければならない。

章	項目	特記事項
● 一般事項	12 室内空気中の化学物質の濃度測定	室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、監督職員に報告する。　なお、測定はパッシブ型採取機器により行う。 測定時期　工事着手前　施工終了時 測定対象室　図　示 測定箇所　図　示
	13 天井仕上区分	（　）書き又は△を頭に付したの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
● 共通事項	1 電気工事士	最大電力 500 kW 以上の場合においても、第一種電気工事士により施工を行う。
	② 機器姿図	姿図の形状及び寸法は、概略を示す。
	③ 呼び線	長さ 1m 以上の入線しない電線管には、1.2mm 以上の呼び線を挿入する。
	④ ﾌﾗｯｼｭﾌﾟﾚｰﾄ	フラッシュプレートは、図面に特記なき場合は次による。 ○金属製（ステンレス、新金属も含む）　樹脂製
	⑤ 電線本数・管路等	分電盤、制御盤、端子盤などの二次側以降の配管経路、電線の太さ、電線本数、管径等は、監督職員の承諾を受けて変更してもさしつかえない。 ただし、相違する場合は監督職員の承諾を受ける。
	⑥ 金属管の塗装	次の露出配管は、塗装を行う。 （○屋外の配管　○直天井室内の配管　）
	⑦ 合成樹脂管配線	合成樹脂製可とう電線管（ＰＦ管）及び付属品は、タイプ － 25 のものを使用する。 なお、電力用位置ボックス類は原則として合成樹脂製とするが、コンクリート打ち込み部分は金属製としても良い。 ただし、金属製とする場合は当該ボックスには接地を施すものとする。
	⑧ 薄鋼電線管	薄鋼電線管は表示されているものと同一外形のねじなし電線管を使用しても良い。
	⑨ 保護管	ケーブル配線の保護管は、標準仕様書の金属管配線、合成樹脂管配線の項による。
	⑩ 最上階の埋め込み配管	最上階の天井スラブへの埋め込み配管は、原則として避けるものとする。
	⑪ 地中配線の埋設深さ等	地中配線で、特記なき埋設深さは 0.6m 以上とする。 なお、地中配線には標識シート等（２倍長以上重合せ）を設ける。
	⑫ ハンドホールの蓋	ハンドホール等の鉄蓋は、鋳型流し込みで用途名を表示する。 構内配電線路の用途名　（　電力　） 構内通信線路の用途名　（　通信　）
	⑬ 電力・電話の引き込み	電力及び電話引き込み線の引留方法、位置については電力会社及び電気通信事業者と打ち合わせのうえ監督職員と協議により施工する。また、外線工事負担金などの調査報告を監督職員に速やかに行う。
	⑭ 機器取付高さ	図面に特記無き場合は、次表の「機器標準取付高さ」による。

「機器標準取付高さ」

	名　称	測　点	取付高さ[mm]		名　称	測　点	取付高さ[mm]
電力共通	積算計器	地上 ～ 窓中心	1,800～2,000	出退表示	情報表示盤	床上 ～ 中心	天井高×0.9
	引込開閉器	地上 ～ 中心	1,800～2,200		壁付発信器	床上 ～ 中心	1,300
					ﾍﾞﾙ･ﾌﾞｻﾞｰ･ﾁｬｲﾑ	床上 ～ 中心	2,300
電灯	分電盤	床上 ～ 中心	1,500（上端1,900以下）		壁付押釦（一般）	床上 ～ 中心	1,300
	スイッチ	床上 ～ 中心	1,300	誘導支援	外部受付用ｲﾝﾀｰﾎﾝ子機	標準図による	
	スイッチ(多目的便所)	床上 ～ 中心	1,100		壁付ｲﾝﾀｰﾎﾝ(上記以外)	床上 ～ 中心	1,300
	スイッチ(自動扉)	床上 ～ 中心	1,800		呼出釦(ﾄｲﾚ呼出)	床上 ～ 中心	900
	コンセント（一般）	床上 ～ 中心	300		呼出釦(ﾄｲﾚ呼出)	床上 ～ 中心	300
	コンセント（和室）	床上 ～ 中心	150		復帰釦	床上 ～ 中心	1,500～1,800
	コンセント（台上）	台上 ～ 中心	150～ 200	テレビ共同受信	機器収容箱	天井下 ～ 上端	200
	コンセント（土間）	床上 ～ 中心	500		ﾃﾚﾋﾞ端子 直列ﾕﾆｯﾄ（一般）	床上 ～ 中心	300
	コンセント（外壁・屋外）	地上 ～ 中心	800		ﾃﾚﾋﾞ端子 直列ﾕﾆｯﾄ（和室）	床上 ～ 中心	150
	ブラケット（一般）	床上 ～ 中心	2,100～2,300				
	ブラケット（踊場）	床上 ～ 中心	2,000～2,500				
	ブラケット（鏡上）	鏡上端 ～ 中心	150	火災報知	受信機･副受信機	床上 ～ 中心	800～1,500
動力	壁掛形制御盤	床上 ～ 中心	1,500（上端1,900以下）		機器収容箱･発信機	床上 ～ 中心	800～1,500
					警報ベル	床上 ～ 中心	2,300
	手元開閉器箱	床上 ～ 中心	1,500		表示灯	床上 ～ 中心	2,100
	制御スイッチ	床上 ～ 中心	1,300		ｶﾞｽ検知機(LPG)	床上 ～ 中心	300
構内交換	室内端子盤	床上 ～ 下端	300	備考	注）1.天井高3,000以上の場合及び上記取付高さにおいて機器の使用に支障が生じる場合は、監督職員と協議する。 2.意匠に関する部分(正面玄関･玄関ﾎｰﾙ･EVﾎｰﾙ･上級室･会議室)の取付位置は、監督職員と協議すること。 3.表記は原則とし、施工前に監督職員の承諾を受ける。		
	集合保安器箱	天井下 ～ 上端	200				
	壁付電話機	床上 ～ 中心	1,300				
時計	壁掛形親時計	床上 ～ 中心	1,500（上端1,900以下）				
	子時計	床上 ～ 中心	天井高×0.9				
拡声	壁掛形スピーカ	床上 ～ 中心	天井高×0.9				
	壁付アッテネータ	床上 ～ 中心	1,300				

⑮ 接地極

図面に特記無き接地極は、次表の「接地極一覧表」による。

「接地極一覧表」

接地の種類	記　号	接地抵抗値	接地極の規格・数量
共同接地	$E_{A\cdot B\cdot C\cdot D}$	Ω以下	ＥＢ（D=14,L=1500 又は W=40,L=1200）×3 連 －　組
共同接地	$E_{A\cdot C\cdot D}$	１０Ω以下	ＥＢ（D=14,L=1500 又は W=40,L=1200）×3 連 －　組
A種	E_A	１０Ω以下	ＥＢ（D=14,L=1500 又は W=40,L=1200）×3 連 －　組
B種	E_B	Ω以下	ＥＢ（D=14,L=1500 又は W=40,L=1200）×3 連 －　組
C種	E_C	１０Ω以下	ＥＢ（D=14,L=1500 又は W=40,L=1200）×3 連 －　組
D種	E_D	Ω以下	ＥＢ（D=14,L=1500 又は W=40,L=1200）×3 連 －　組
○D種	E_D	１００Ω以下	ＥＢ（D=10,L=1000 又は W=30,L=900）×1
高圧避雷器	E_{LH}	１０Ω以下	ＥＢ（D=14,L=1500 又は W=40,L=1200）×3 連 －　組
交換装置用	E_t	１０Ω以下	ＥＢ（D=14,L=1500 又は W=40,L=1200）×3 連 －　組
通信用	E_{At}	１０Ω以下	ＥＢ（D=14,L=1500 又は W=40,L=1200）×3 連 －　組
通信用	E_{Dt}	１００Ω以下	ＥＢ（D=10,L=1000 又は W=30,L=900）×1
電話引込口の保安器用	E_{Dt}	１００Ω以下	ＥＢ（D=10,L=1000 又は W=30,L=900）×1
測定用	E_0	１００Ω以下	ＥＢ（D=10,L=1500 又は W=30,L=1200）×3 連 －　組
構造体接地		Ω以下	
等電位接地		Ω以下	

章	項目	特記事項
● 電力・受変電・発電	1 照明制御総合動作試験	照明制御の総合動作試験は次に示す事項について行い、監督職員に試験成績書を提出し、承諾をうける。 目標照度設定のための各調光センサー（夜間及び日中） 在不在制御機能の動作及び動作時間設定のための調光人感センサー タイムスケジュール制御における点滅及び調光制御の動作確認 外光センサーによる点滅及び調光制御のための動作確認 注）上記試験項目は全数確認とする。
	② 照度測定	一般照明の照度測定を（　箇所）測定し、監督職員に報告する。 なお、測定する場所は、監督職員と協議とする。
	3 発電機回路用ｺﾝｾﾝﾄ	発電機回路に接続されるコンセントは、回路種別が識別できるものとする。
	4 電動機等の接地	金属管配線において、電動機容量 7.5ｋＷ 以下は金属管を接地線とする。
● 電力・受変電・発電	⑤ 分電盤・実験盤	本工事の分電盤・実験盤で、分岐に用いる配線用遮断器の寸法と定格は、JIS C 8201-2-1：附属書XC(参考)「電灯分電盤用協約形回路遮断器」による。 また、漏電遮断器の寸法と定格は、JIS C 8201-2-2：附属書XC(参考)「電灯分電盤用協約形回路遮断器」による。
	6 インバータ装置の規約効率	三相可変速運転用インバータ装置の規約効率は、次の数値以上とする。

電動機出力(kW)	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5
規約効率(%)	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5

電動機出力(kW)	11	15	18.5	22	30	37	45
規約効率(%)	94.5	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5

（1）規約効率は、JEM-TR245「汎用インバータの規約効率」により算出した値とする。
（2）規約効率は、JIS C 4212「高効率低圧三相かご形誘導電動機」の定格電圧200V、IP4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。

章	項目	特記事項
● 電力・受変電・発電	7 低圧配電盤	低圧配電盤に用いる配線用遮断器は埋込形とし、全て警報接点付きとする。
	8 自家発電設備の配管工事等	原動機・発電機と付属各機器間の燃料油、冷却水などの配管、制御用配線は、監督職員の承諾を受けて多少相違しても差し支えない。
	9 太陽電池アレイの設置	太陽電池アレイの配置が決定した際、周辺環境への影響（日影・反射光等）を監督職員に報告すること。
	⑩ 設備機器容量等	本工事及び別契約の関連工事において設備機器容量等が相違する場合は、関連する設備の施工及び機器製作前に監督職員と協議し、指示を受けること。
● 通信・情報	1 局　線	局線の新増設移転の手続きは、本工事とする。
	2 電界強度の測定	最上階フロアのコンクリート打設前に、受信電波の電界強度測定を 3 か所以上行うこと。 また、その報告書を監督職員まで提出すること。
	③ ケーブル	EM-UTPケーブルは、使用用途が判別できるようシース色等を変えること。 EM-CPEEケーブルは、EM-FCPEEケーブルを使用しても良い。
● 改修一般事項	1 施工調査	事前調査（　本工事　別途　） 調査項目（　既存資料調査　既存配線ﾙｰﾄ　） 調査範囲（　図示　工事範囲　） 調査方法（　図示　目視　）
	2 仮設備工事	仮電源　受変電設備　発電設備 仮設備期間　ヶ月　図示による
	3 養生	既存部分の養生は、改修標準仕様書第１編第１章による。 養生範囲（　）　養生方法（　）
	4 は　つ　り	はつり工事は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行うこと。 既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、図面に特記のない場合はダイヤモンドカッターによる。
	5 非破壊検査	非破壊検査による埋設物の調査（　要　不要　）とする。 なお、範囲は監督職員の指示によるものとし、費用は別途とする。
	6 既設との取り合い	本工事施工に伴う既設設備の軽微な加工改造は、本工事とする。

別表－１

機　材　名
蛍光灯器具
分電盤

月･日		月･日	
･		･	
･		･	
･		･	

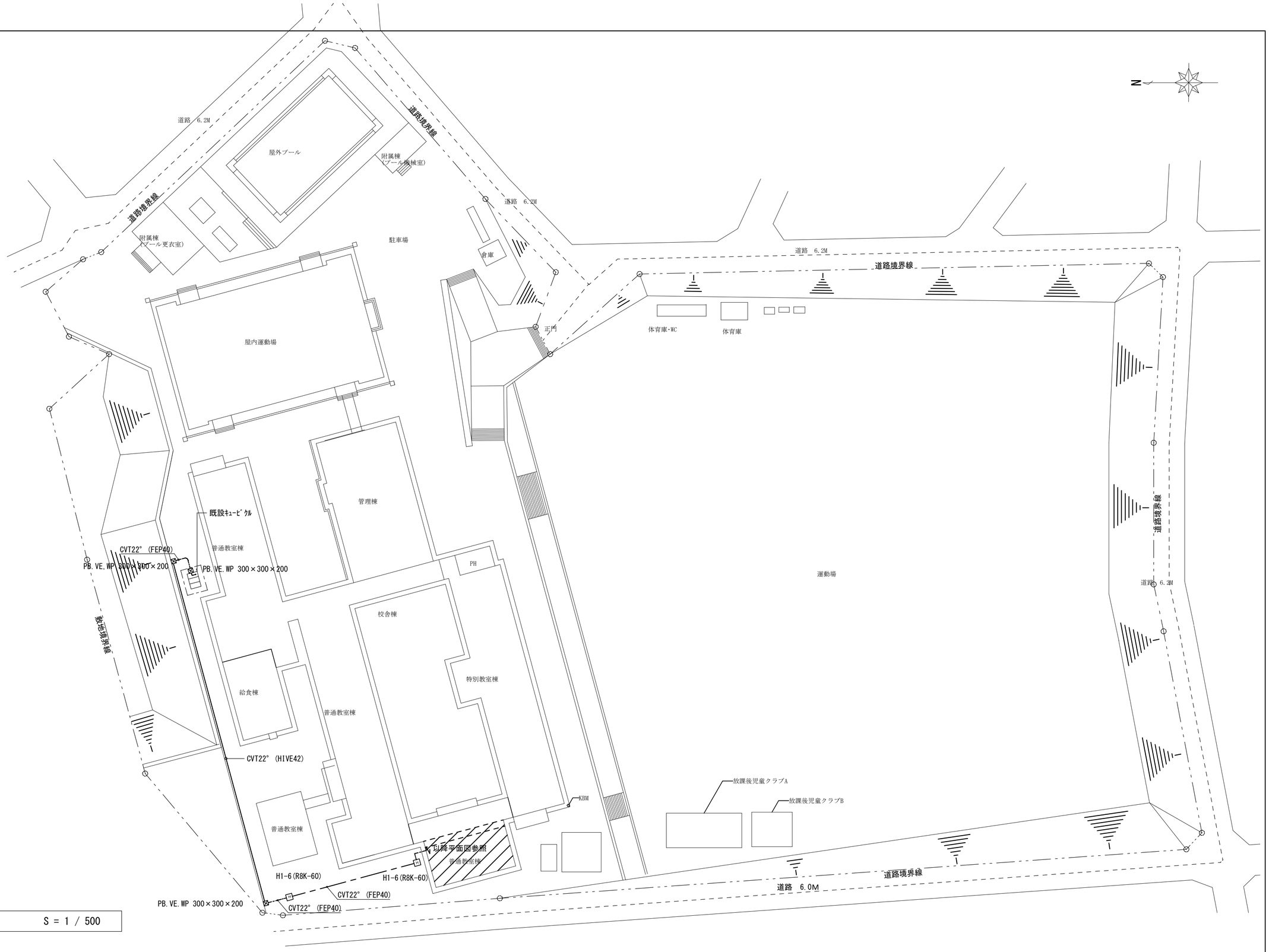
株式会社　市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第 93977号　市川　司

整理番号
年　月　日　H28.1.12
縮　尺　NS　原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事
電気設備工事　特記仕様書

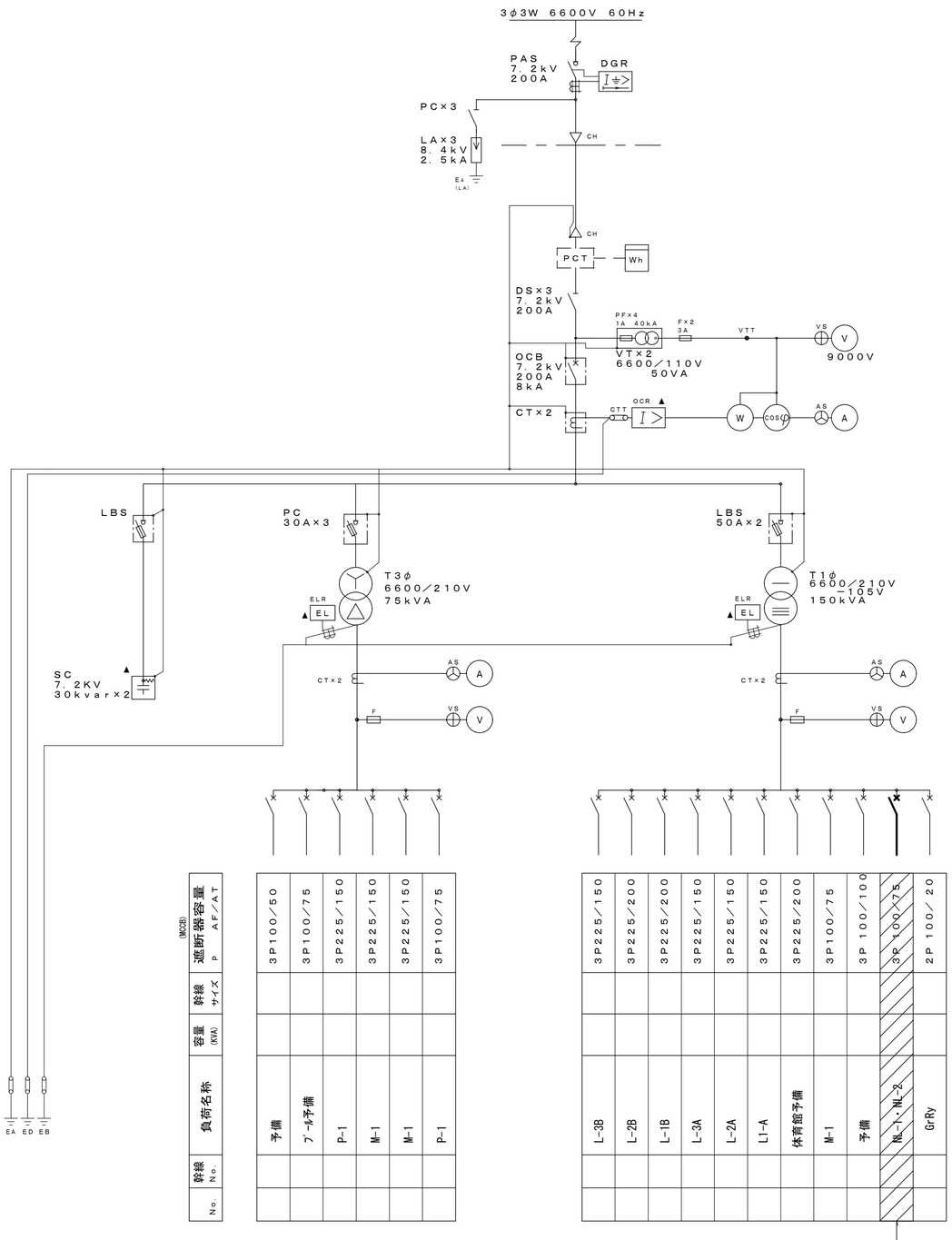
NO.　E — 01



配 置 図　　S = 1 / 500

月・日	月・日	株式会社 市川三千男総合設計	設 計	整理番号	縮 尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
・	・	三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659	一級建築士 第 93977号 市川 司	年 月 日	A2 1/500		E — 02
・	・	一級建築士 第 266489号 山口 裕之		H28.1.12	原図 A2	配置図	77
・	・						

受変電設備改修図



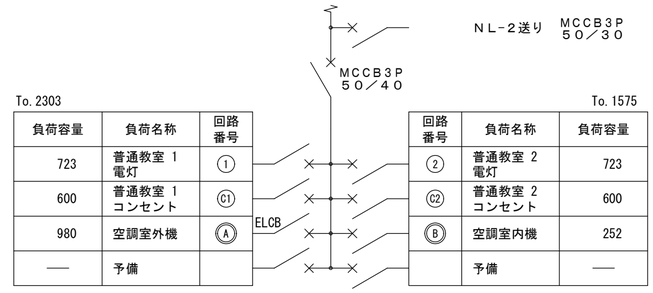
No.	幹線No.	負荷名称	容量(KVA)	幹線サイズ	遮断器容量(MCCB) P AF/AT
		予備			3P100/50
		プール予備			3P100/75
		P-1			3P225/150
		M-1			3P225/150
		M-1			3P225/150
		P-1			3P100/75
		L-3B			3P225/150
		L-2B			3P225/200
		L-1B			3P225/200
		L-3A			3P225/150
		L-2A			3P225/150
		L1-A			3P225/150
		体育館予備			3P225/200
		M-1			3P100/75
		予備			3P100/100
		NL-1、NL-2			3P100/75
		GrRy			2P100/20

既設MCB 3P100AF/100AT撤去し、MCCB 3P100AF/75ATに取替

分電盤結線図

NL-1　屋内壁掛型

AC 1φ3W 200/100V



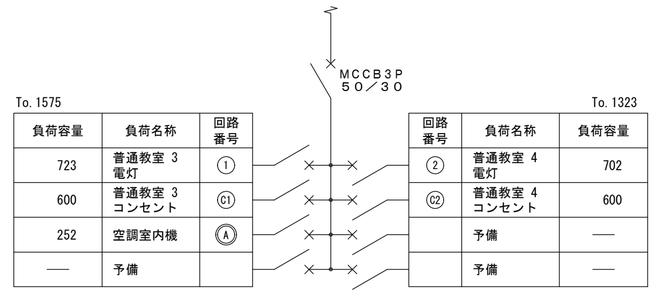
負荷容量	負荷名称	回路番号
723	普通教室 1 電灯	①
600	普通教室 1 コンセント	C1
980	空調室外機	A
—	予備	

回路番号	負荷名称	負荷容量
②	普通教室 2 電灯	723
C2	普通教室 2 コンセント	600
B	空調室内機	252
	予備	—

ELCB　2P50/20×1（200V）（協約形1Pサイズブレーカ）
MCCB　2P50/20×1（200V）（協約形1Pサイズブレーカ）
MCCB　2P50/20×6（100V）（協約形1Pサイズブレーカ）

NL-2　屋内壁掛型

AC 1φ3W 200/100V



負荷容量	負荷名称	回路番号
723	普通教室 3 電灯	①
600	普通教室 3 コンセント	C1
252	空調室内機	A
—	予備	

回路番号	負荷名称	負荷容量
②	普通教室 4 電灯	702
C2	普通教室 4 コンセント	600
	予備	—
	予備	—

MCCB　2P50/20×1（200V）（協約形1Pサイズブレーカ）
MCCB　2P50/20×7（100V）（協約形1Pサイズブレーカ）

照明器具姿図

形状及び寸法は参考とする

LEDベースライト　Hf32形×2相当	LED黒板灯　Hf32形×2相当
公共型番：LSS9-4900LM	公共型番：LSR12-4500LM

月・日	月・日
・	・
・	・
・	・

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計　一級建築士　第 93977号　市川　司

整理番号

年 月 日　H28.1.12

縮　尺　NS

原図 A2

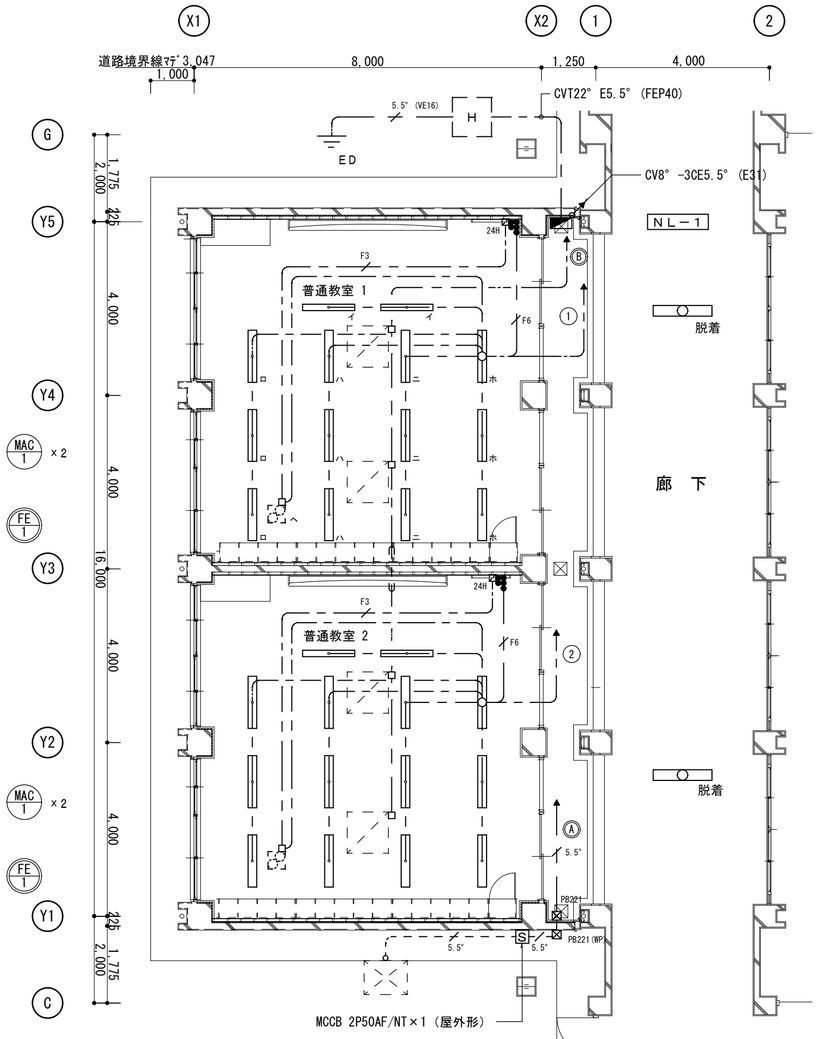
津市立西が丘小学校増築工事

受変電設備改修図・分電盤結線図・照明器具姿図

NO. E — 03

注記．1　図中記入なき配線配管サイズは下記とする。		
── ─ ──	VVF2.0-3c(1c：E)	(天井コロガシ)
── 2F4 ──	VVF2.0-2c×2(1c：E)	(天井コロガシ)
── F3 ──	VVF1.6-3c	(天井コロガシ)
── F6 ──	VVF1.6-3c×2	(天井コロガシ)
────────	VVF2.0-3c(1c：E)	(PF22)
── 2F4 ──	VVF2.0-2c×2(1c：E)	(PF22)
── F3 ──	VVF1.6-3c	(PF22)
── F6 ──	VVF1.6-2c×2	(PF22)
── 5.5° ──	CV5.5°-3c(1c：E)	(天井コロガシ)
- - 5.5° -	CV5.5°-3c(1c：E)	(G28)

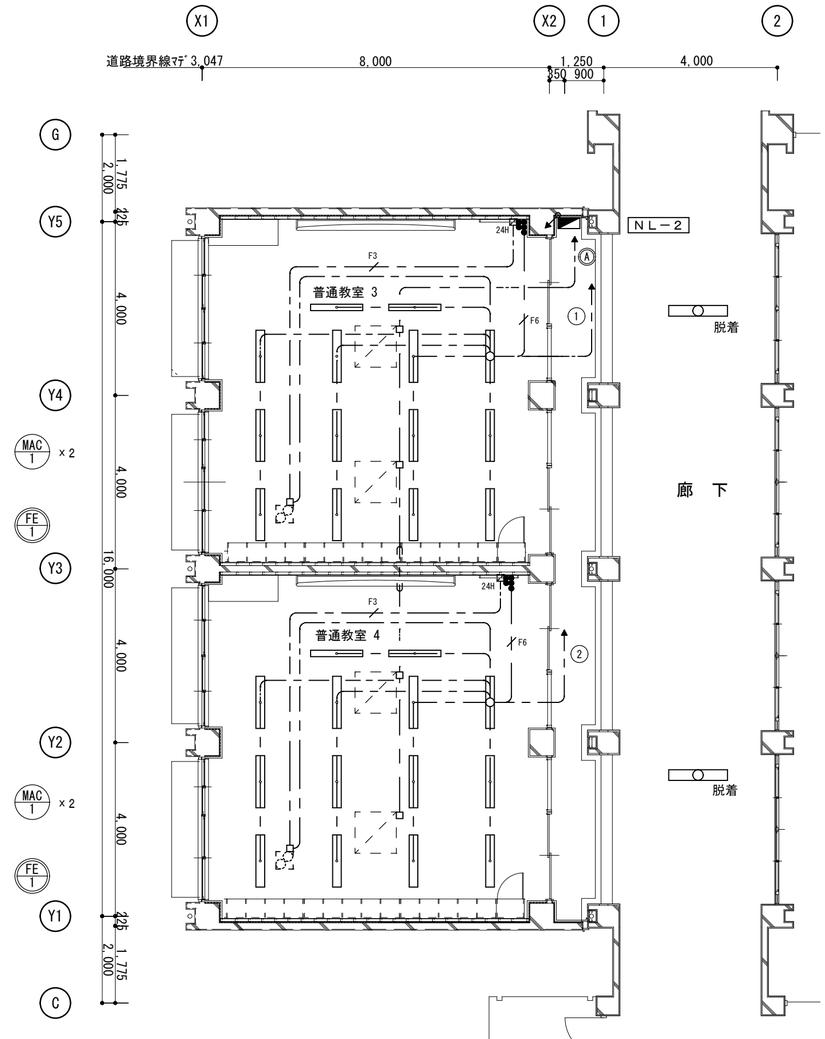
注記．2　凡　例	
	タンブラスイッチ　1P15A×5
24H	24時間換気スイッチ（支給品取付）
プルボックスの寸法は下記とする。	
PB221	SS200×200×100
PB221(WP)	SS200×200×100　WP-SUS
注記．3　建令114条の間仕切壁を貫通する部分は防火区画	
貫通処理とする。	



普通教室 1	
LSS9-4900LM	12
LSR12-4500LM	2

普通教室 2	
LSS9-4900LM	12
LSR12-4500LM	2

1階平面図（改修後）　S=1/100



普通教室 3	
LSS9-4900LM	12
LSR12-4500LM	2

普通教室 4	
LSS9-4900LM	12
LSR12-4500LM	2

2階平面図（改修後）　S=1/100

月・日	月・日
・	・
・	・
・	・

株式会社　市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

年　月　日
H28.1.12

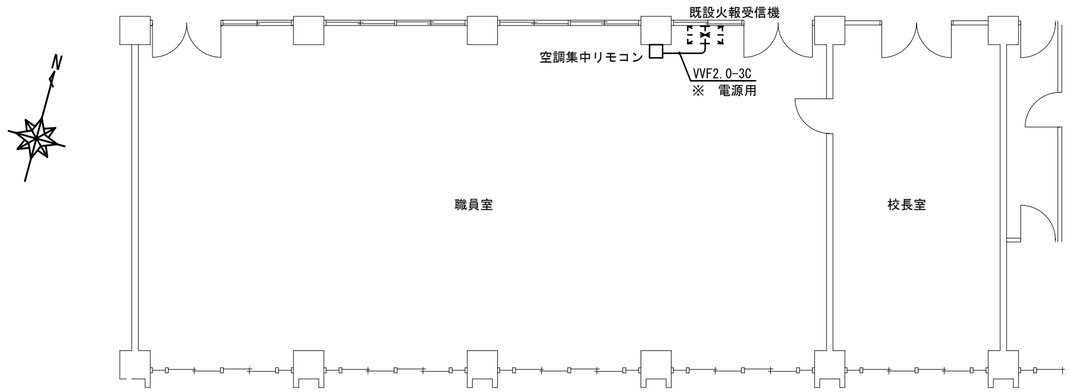
縮　尺
A2 1/100
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

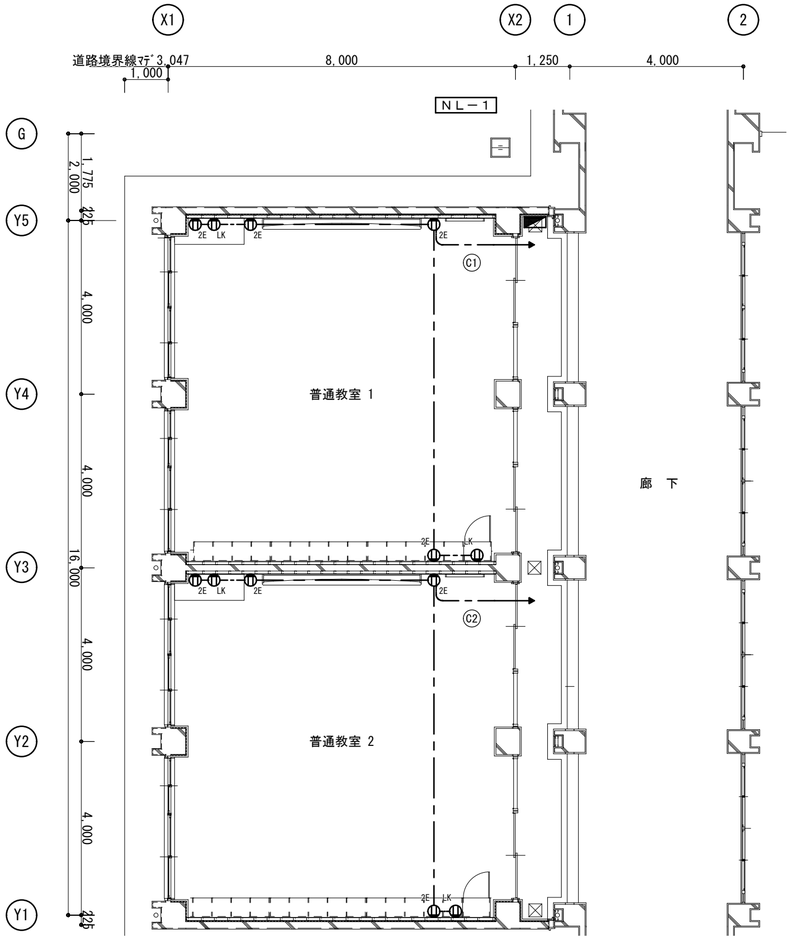
電灯設備　1・2階平面図（改修後）

NO.
E — 04
77

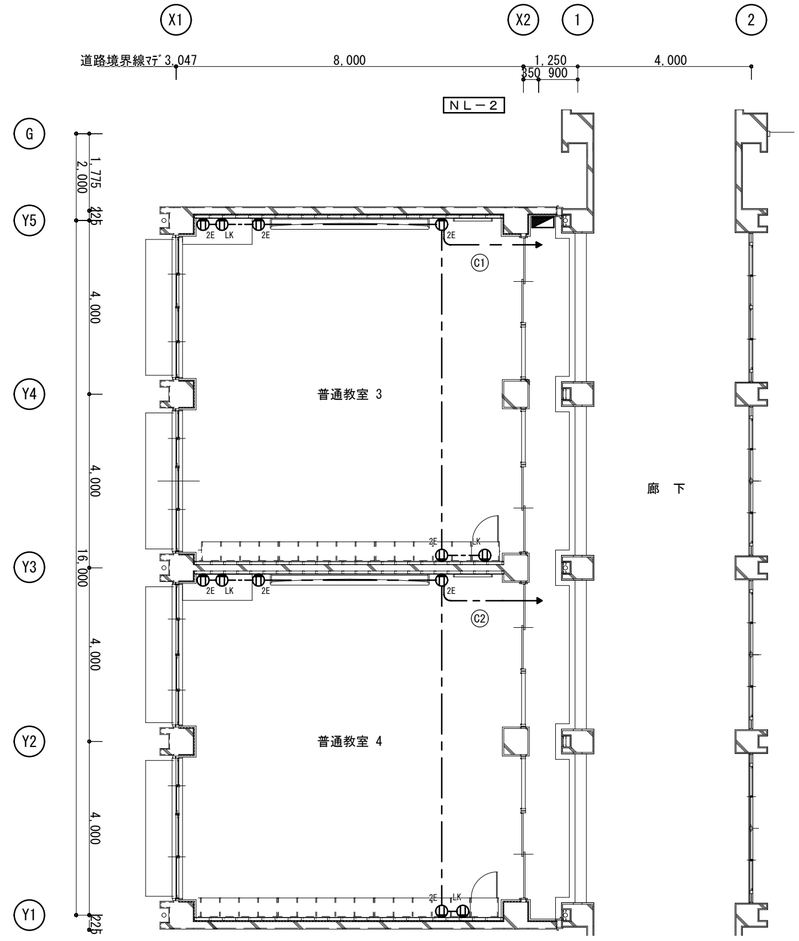
注記．1　図中記入なき配線配管サイズは下記とする。	注記．3　建令114条の間仕切壁を貫通する部分は防火区画
━ ━ ━　VVF2.0-3c(1c：E)　(天井コロガシ)	貫通処理とする。
━━━━　VVF2.0-3c(1c：E)　(PF22)	
注記．2　凡例	
⊖2E　：埋込コンセント2P15A・E極×2	
⊖LK　：埋込コンセント2P15A×1抜止め　扇風機用	



2階職員室平面図（改修後）　S=1/100



1階平面図（改修後）　S=1/100



2階平面図（改修後）　S=1/100

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社　市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号

年　月　日
H28.1.12

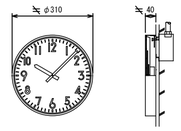
縮　尺
A2 1/100
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

コンセント設備　１・２階平面図（改修後）

NO.
E ― 05

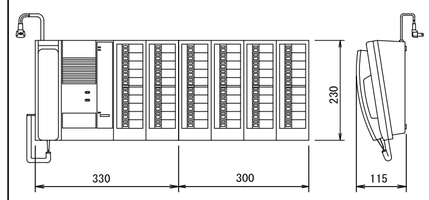
C1 丸型子時計　SWR30-GpB2　形状及び寸法は参考とする



ケース	鋼板製　クリーム色
文字板	アルミ　白色
文字	黒色印刷
指針	アルミ　黒色
ガラス	透明　２ｔ
機体	ＤＣ２４Ｖ　有極３０秒運針

同時通話インターホン親機（６０局用）

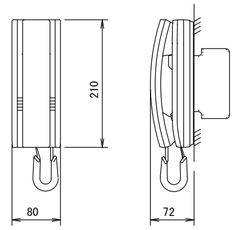
参考型番　TC-20M+TC-40G



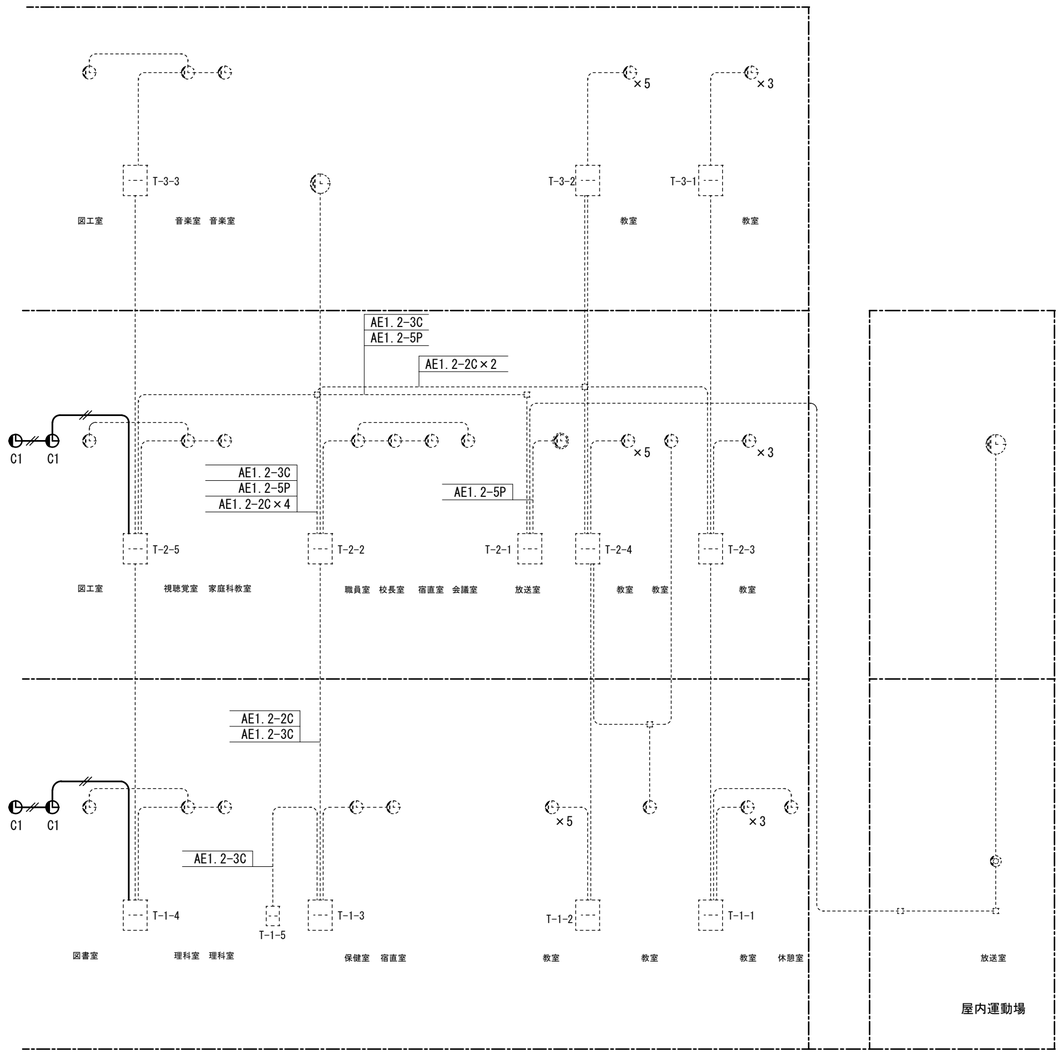
電源電圧	AC100V
形　状	卓上・壁取付（ＪＩＳ２個用スイッチボックス）両用
材　質	樹脂
局　数	６０局用

壁掛形子機

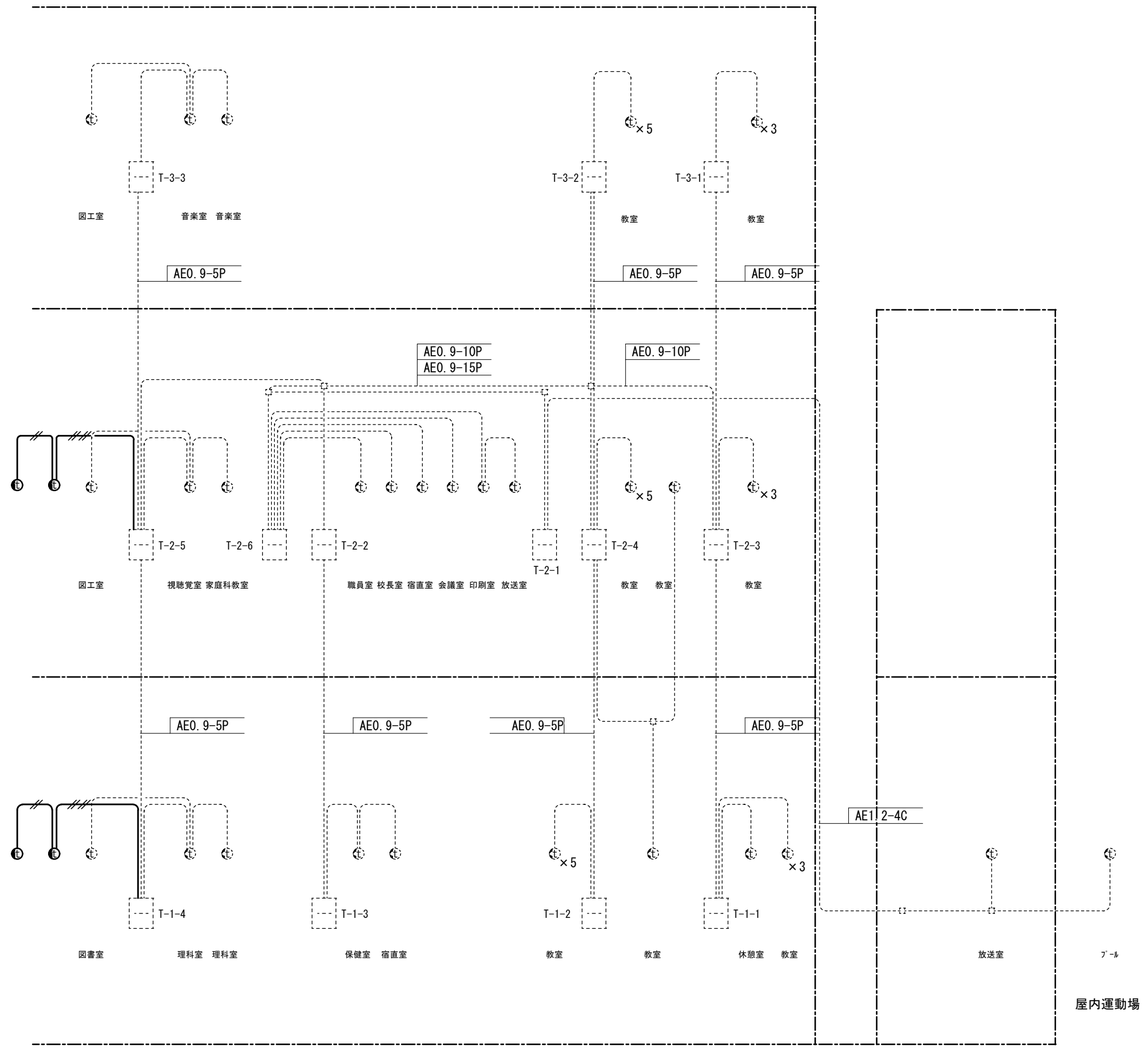
参考型番　TB-SE



形　状	壁掛形（ＪＩＳ１個用スイッチボックス）
材　質	樹脂



時計設備系統図



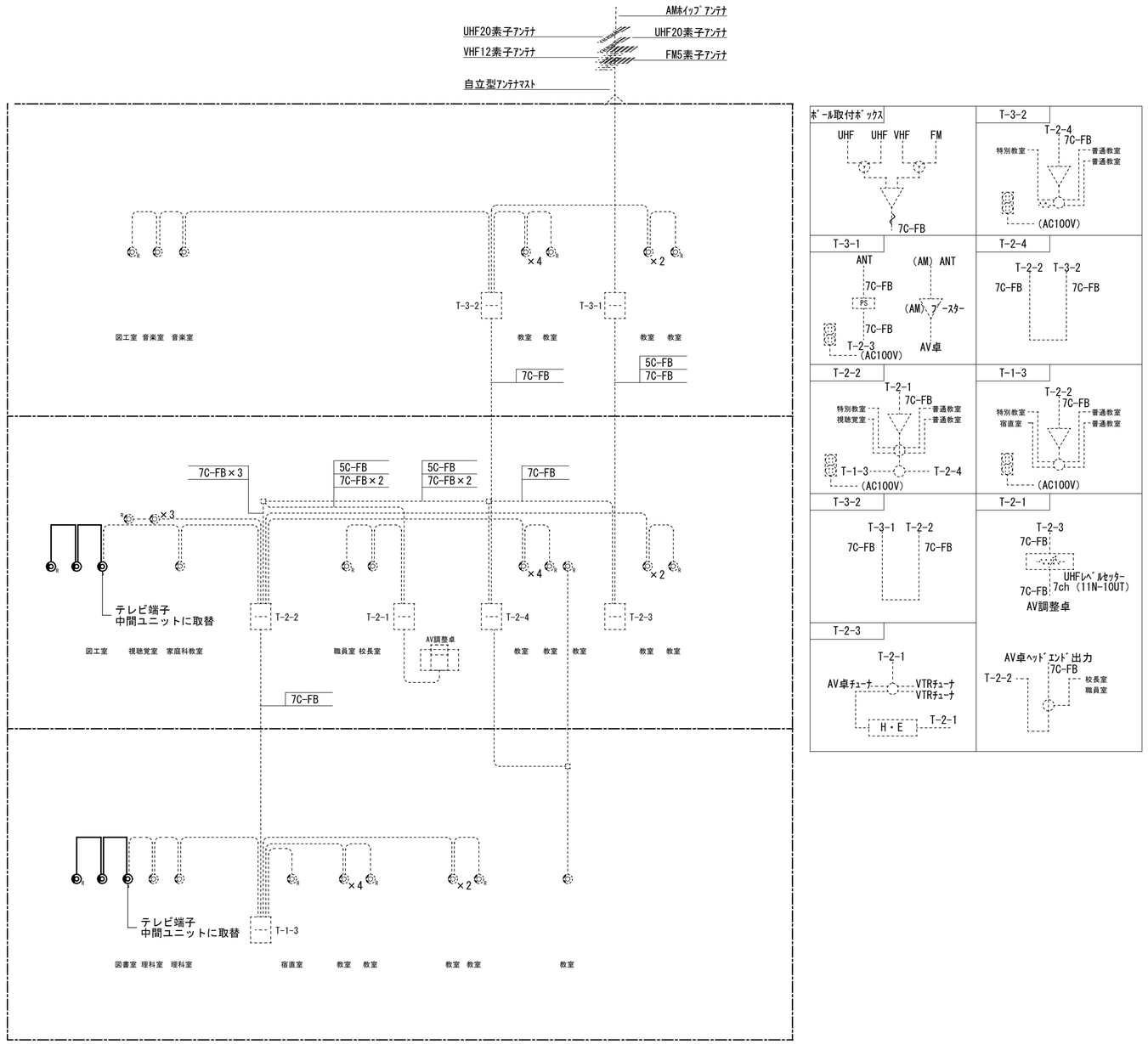
ｲﾝﾀｰﾎﾝ設備系統図

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

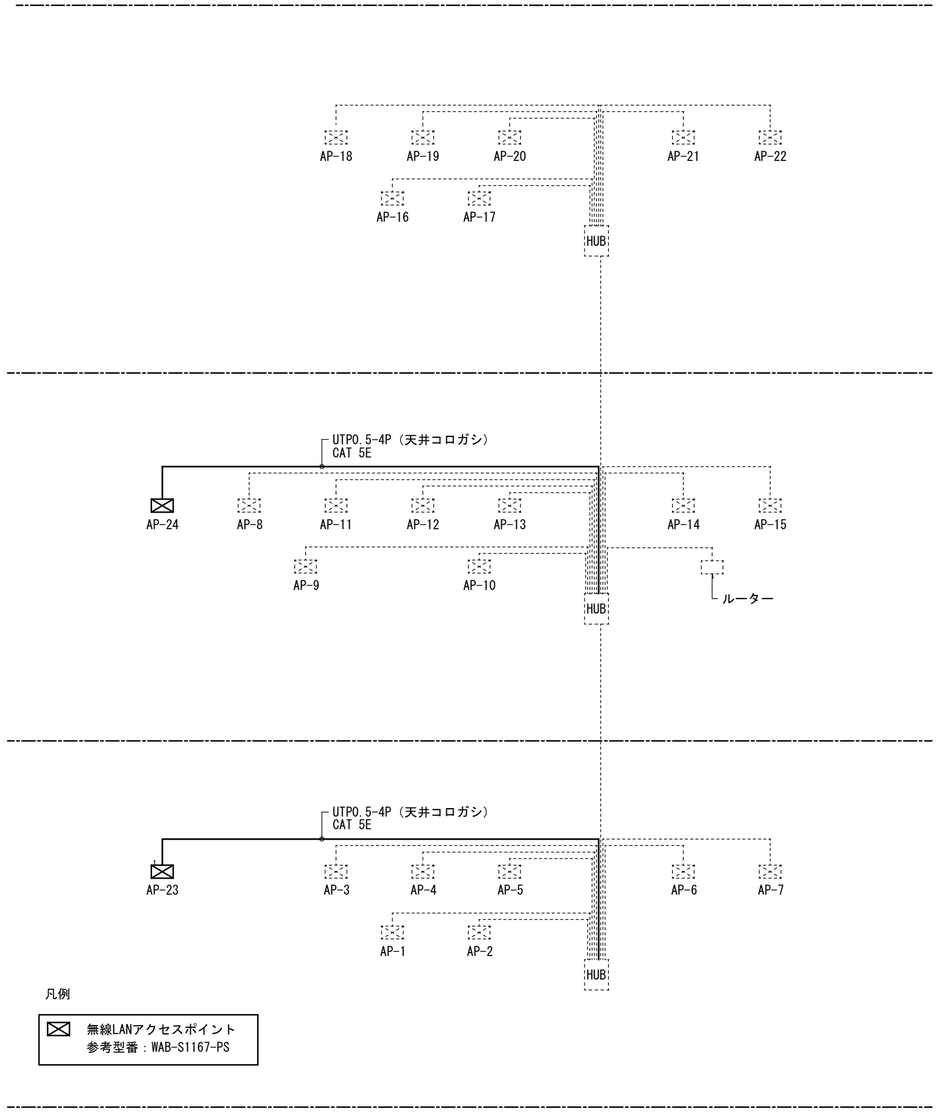
株式会社　市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計	整理番号	縮　尺	津市立西が丘小学校増築工事
一級建築士　第　93977号　市川　司	年　月　日 H28.1.12	NS / 原図 A2	時計・ｲﾝﾀｰﾎﾝ設備　系統図

NO. E — 06



テレビ共同受信設備系統図



構内情報通信網設備系統図

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設 計
一級建築士 第 93977号 市川 司

整理番号
年 月 日 H28.1.12

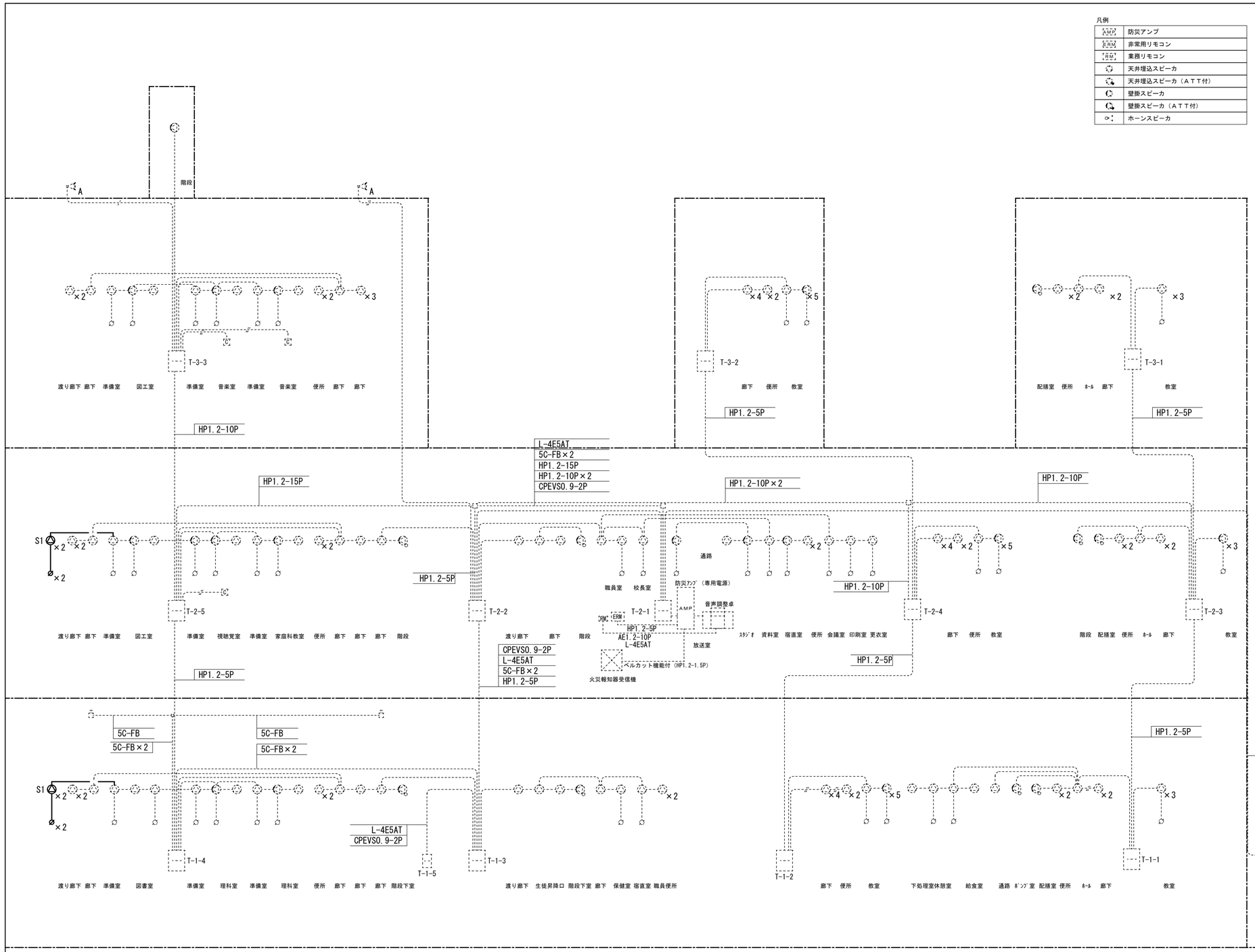
縮 尺 NS
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事
テレビ共同受信設備・構内情報通信網設備系統図

NO. E — 07
77

凡例

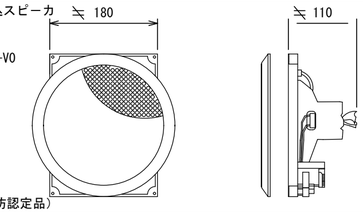
AMP	防災アンプ
ERM	非常用リモコン
BM	業務リモコン
	天井埋込スピーカ
	天井埋込スピーカ（ＡＴＴ付）
	壁掛スピーカ
	壁掛スピーカ（ＡＴＴ付）
	ホーンスピーカ



天井埋込スピーカ

S1

SC4Hi-1-V0



（消防認定品）

定格入力／種別	１Ｗ／Ｌ級
入力インピーダンス	１０ｋΩ
周波数特性	１００Ｈｚ～１５ｋＨｚ（偏差２０ｄＢ）
出力音圧レベル	９２ｄＢ（１ｍ／１Ｗ）
使用スピーカ	１６ｃｍコーンスピーカ
取付パネル	ネット：アルミパンチング、
	フレーム：ＡＢＳ樹脂

形状及び寸法は参考とする

スピーカー容量表

	S1 1W	3W	3W	3W	10W	A 20W
RF			1			2
3F		３０	8	1		
2F	2	３８	１５	4		
1F	2	４３	7	4		
外部						1
屋内運動場		3		１０	4	
合計	4	１１４	３１	１９	4	3

スピーカの合計W数は、

（4×1W＋114×3W＋31×3W＋19×3W＋4×10W＋3×20W）＝596W

596W ＜ 既設アンプ容量720W：OK

※ 既設ＡＭＰ 専用電源
※ 自動火災報知設備は連動なし
※ 自動火災報知設備はベルカット機能付き

月・ 日		月・ 日	
・		・	
・		・	
・		・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設 計
一級建築士 第 93977号 市川 司

整理番号

年 月 日 H28.1.12

縮 尺 NS

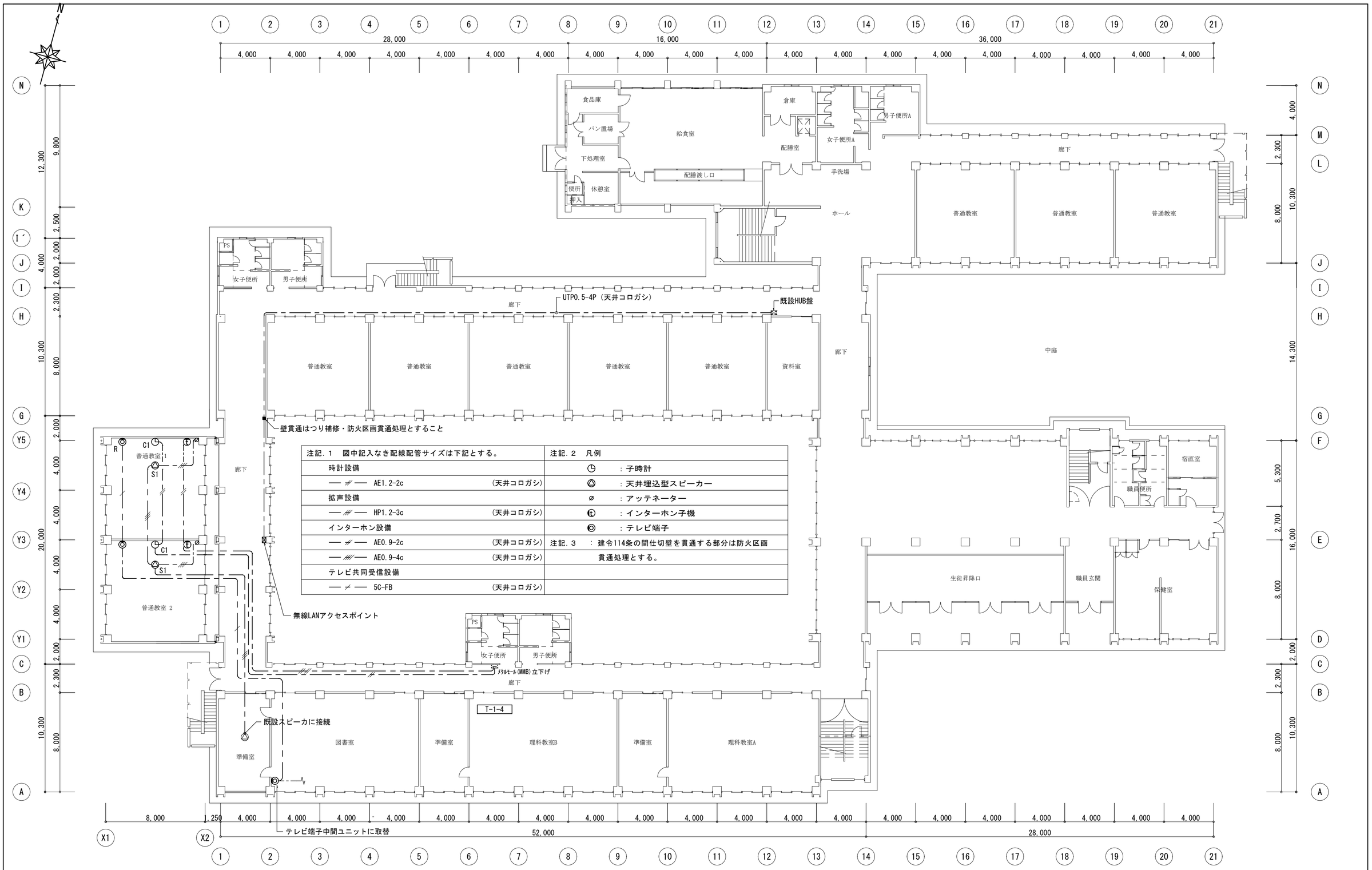
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

拡声設備 系統図

NO. E — 08

77



注記．1　図中記入なき配線配管サイズは下記とする。		注記．2　凡例
時計設備		：子時計
── // ── AE1.2-2c	(天井コロガシ)	：天井埋込型スピーカー
拡声設備		：アッテネーター
── // ── HP1.2-3c	(天井コロガシ)	：インターホン子機
インターホン設備		：テレビ端子
── // ── AE0.9-2c	(天井コロガシ)	注記．3　：建令114条の間仕切壁を貫通する部分は防火区画
── /// ── AE0.9-4c	(天井コロガシ)	貫通処理とする。
テレビ共同受信設備		
── ≠ ── 5C-FB	(天井コロガシ)	

1階平面図（改修後）　S=1/200

月・日	月・日
・	・
・	・
・	・

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

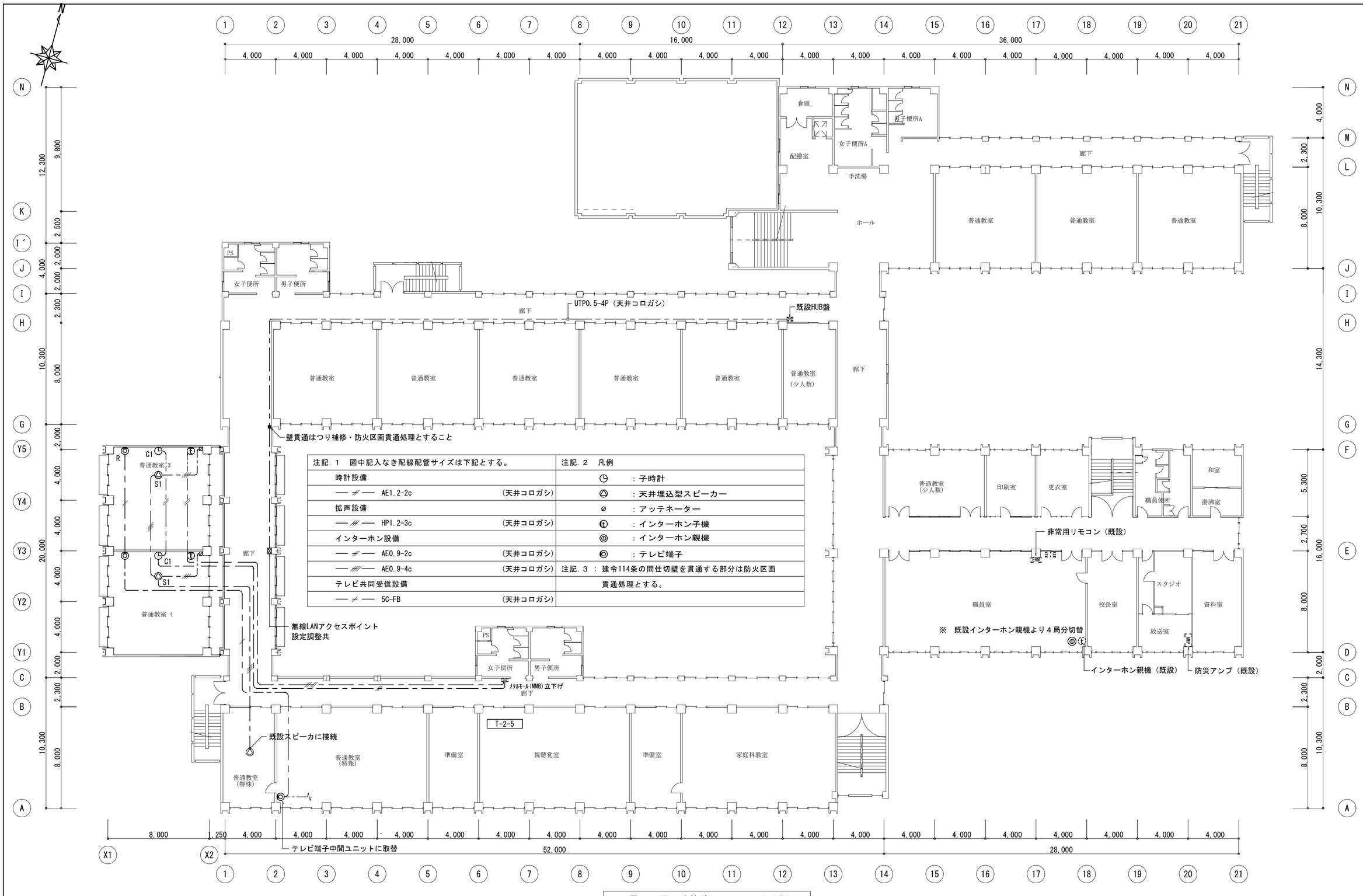
整理番号
年　月　日
H28.1.12

縮　尺
A2 1/200
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

弱電設備　1階平面図（改修後）

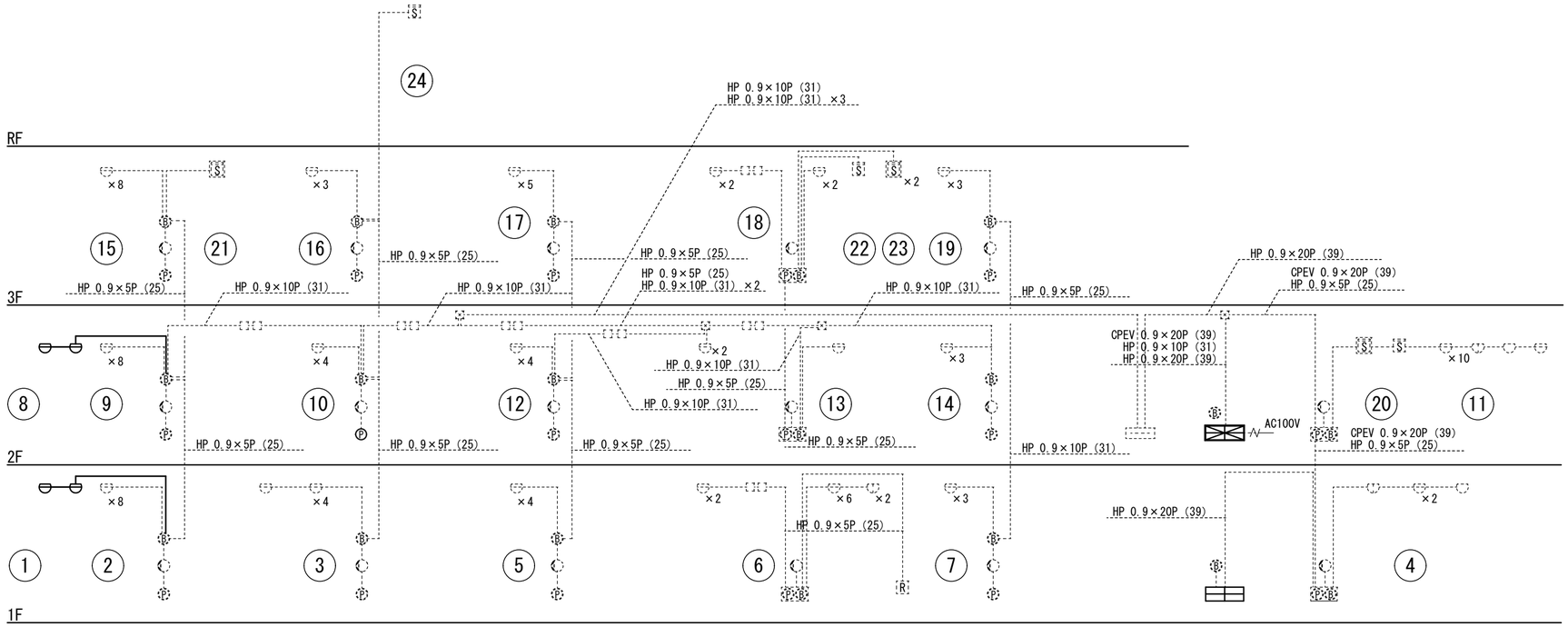
NO.
E ― 09



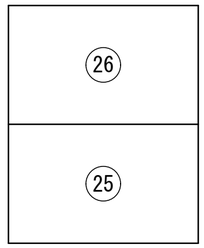
注記．1　図中記入なき配線配管サイズは下記とする。		注記．2　凡例
時計設備		：子時計
AE1.2-2c	（天井コロガシ）	：天井埋込型スピーカー
拡声設備		：アッテネーター
HP1.2-3c	（天井コロガシ）	：インターホン子機
インターホン設備		：インターホン親機
AE0.9-2c	（天井コロガシ）	：テレビ端子
AE0.9-4c	（天井コロガシ）	注記．3 ：建令114条の間仕切壁を貫通する部分は防火区画
テレビ共同受信設備		貫通処理とする。
5C-FB	（天井コロガシ）	

2階平面図（改修後）　S=1/200

月・日	月・日	株式会社 市川三千男総合設計	設計	整理番号	縮尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
・	・	三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659	一級建築士　第 93977号　市川 司	年 月 日	A2 1/200	弱電設備　２階平面図（改修後）	E — 10
・	・	一級建築士　第 266489号　山口 裕之		H28.1.12	原図 A2		77



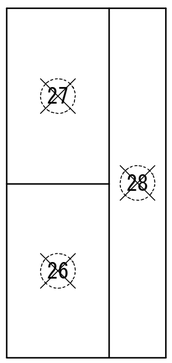
系 統 図（改修後）

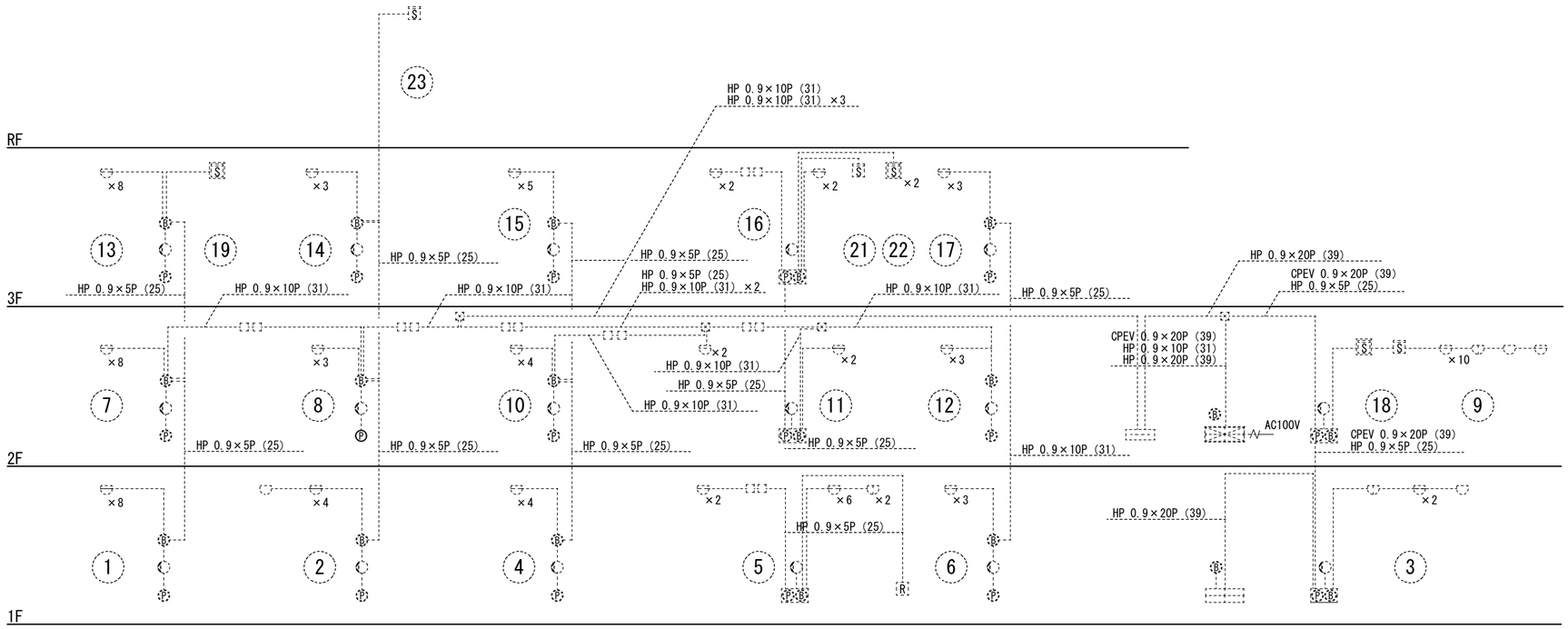


体育館

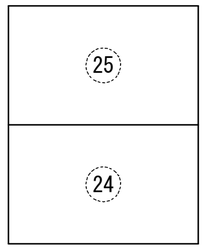
凡　例

記　号	名　　称	備　　考
	P型1級 30回線 受信機	壁掛型
	P型 30窓 副受信機	〃
Ⓟ	P型1級 発信器	
	表識灯	AC30V 2W
Ⓑ	150φm/ml ﾍﾞﾙ	DC24V
ⓅⒷ	総合盤	消火栓箱組込
	定温式ｽﾎﾟｯﾄ型 感知器	1種
	〃	〃 防水型
	差動式ｽﾎﾟｯﾄ型感知器	2種
Ⓢ	ｲｵﾝ化式煙感知器	〃
Ⓢ	〃	〃 点検口
Ⓡ	消火栓ﾎﾞﾝﾌﾞ起動ﾘﾚｰ	
	配線（配管）	
	立上り引下げ	
	警戒区域線	
NO	警戒区域番号	





系 統 図（改修前）



体育館

月・日		月・日	
・		・	
・		・	
・	・	・	

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2 TEL(059)222-0092 FAX(059)222-0659
一級建築士 第 266489号 山口 裕之

設　計
一級建築士 第 93977号 市川 司

整理番号

年 月 日 H28.1.12

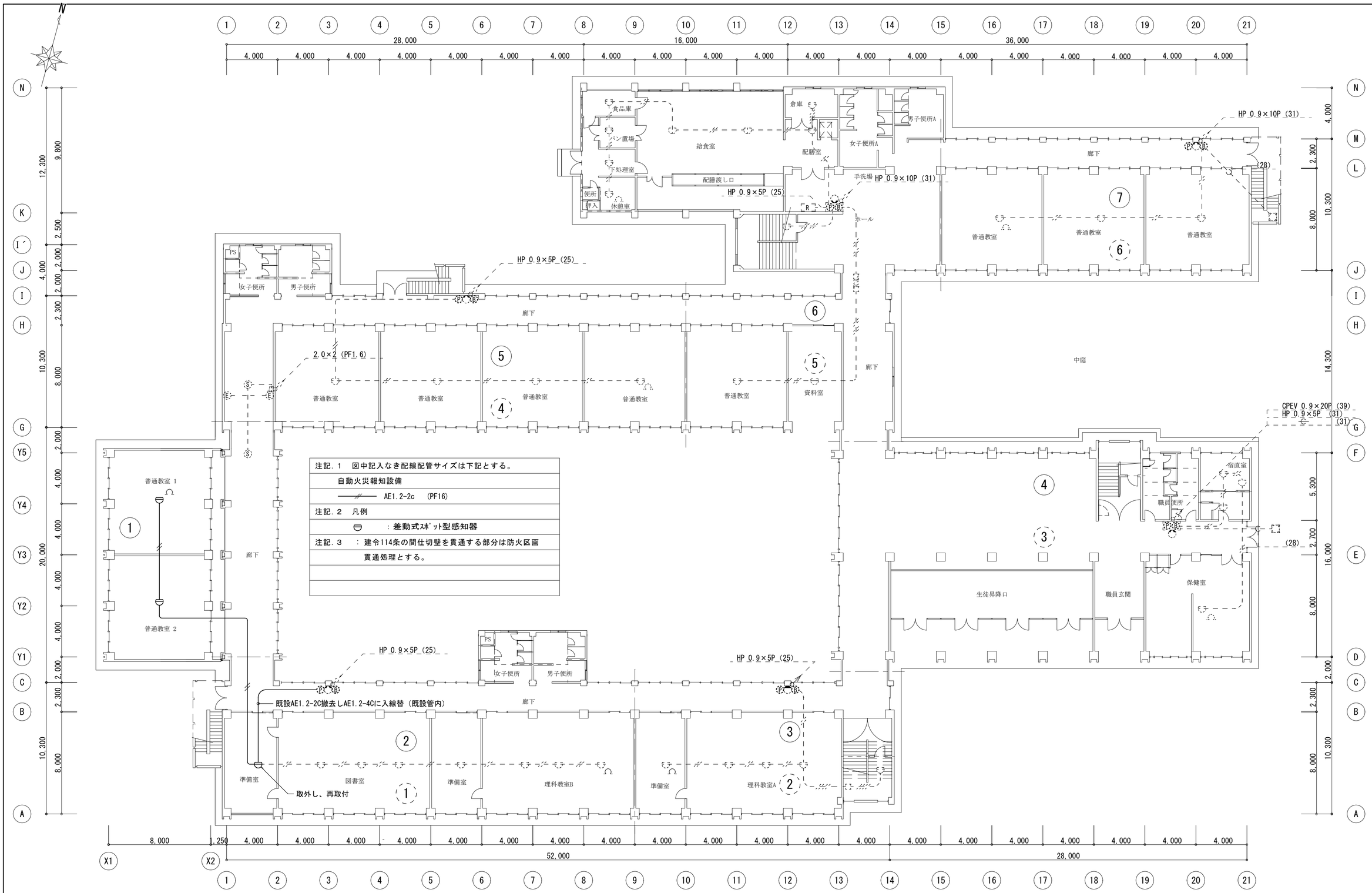
縮 尺 NS

原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

自動火災報知設備　系統図

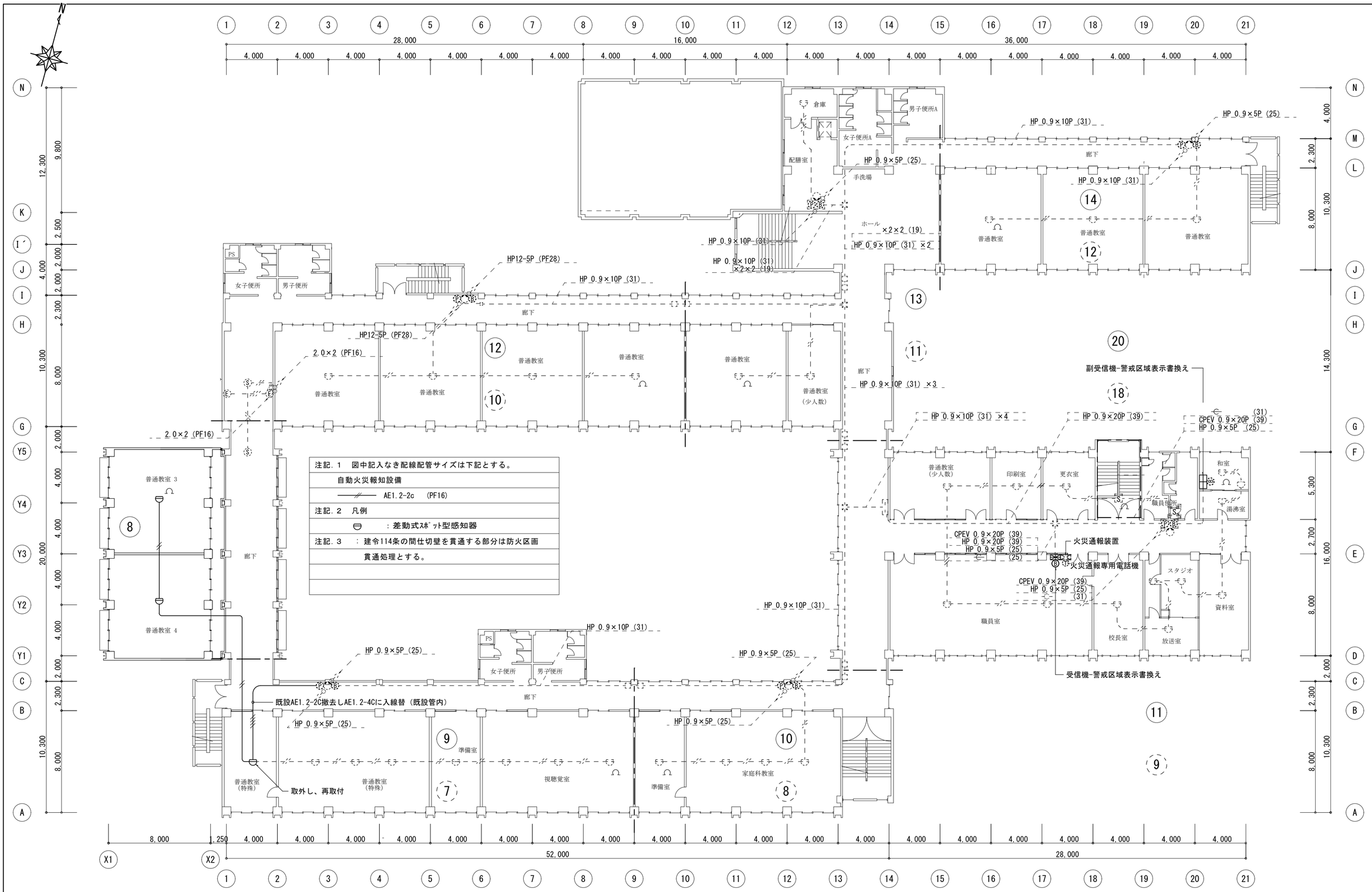
NO. E — 11



注記. 1　図中記入なき配線配管サイズは下記とする。
自動火災報知設備
——//—— AE1.2-2c　(PF16)
注記. 2　凡例
⊖　：差動式ｽﾎﾟｯﾄ型感知器
注記. 3　：建令114条の間仕切壁を貫通する部分は防火区画
貫通処理とする。

1階平面図（改修後）　S=1/200

月・日	月・日	株式会社 市川三千男総合設計	設計	整理番号	縮尺	津市立西が丘小学校増築工事	NO.
・	・	三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659	一級建築士　第 93977号　市川 司	年 月 日	A2 1/200	自動火災報知設備　1階平面図（改修後）	E — 12
・	・	一級建築士　第 266489号　山口 裕之		H28.1.12	原図 A2		77



注記．1　図中記入なき配線配管サイズは下記とする。
自動火災報知設備
AE1.2-2c　(PF16)
注記．2　凡例
：差動式ｽﾎﾟｯﾄ型感知器
注記．3　：建令114条の間仕切壁を貫通する部分は防火区画
貫通処理とする。

2階平面図（改修後）　S=1/200

月・日	月・日
・	・
・	・
・	・

株式会社 市川三千男総合設計
三重県津市阿漕町津興1358-2　TEL(059)222-0092　FAX(059)222-0659
一級建築士　第 266489号　山口　裕之

設　計
一級建築士　第　93977号　市川　司

整理番号
年　月　日
H28.1.12

縮　尺
A2 1/200
原図 A2

津市立西が丘小学校増築工事

自動火災報知設備　２階平面図（改修後）

NO.
E — 13
77